

平成17年度

学習状況調査報告書

平成17年7月実施

小学校4年 国語 算数 理科

小学校5年 国語 算数 理科

小学校6年 国語 社会 算数 理科

中学校1年 国語 社会 数学 理科

中学校2年 国語 社会 数学 理科 英語

中学校3年 国語 社会 数学 理科 英語

秋田県教育委員会

目 次

	ページ
1 調査の概要	1
2 本県の調査の特徴・用語	2
3 調査結果の概要	3
(1) ペーパーテスト結果	3
① 設定通過率との比較	3
② 県の類似問題との比較	4
③ 国の類似問題との比較	4
④ 各教科の観点または領域別の比較	5
⑤ 各教科ごとの小問通過率と設定通過率との比較	6
(2) 学習への意欲等に関する質問紙調査結果	11
① 学習全般についての結果概要	11
② 教科の好き嫌いについての結果概要	11
③ 学習全般について	12
④ 家庭学習について	18
⑤ 教科の好き嫌いについて	19
4 各学年の状況	29
(1) 国語	31
① 小学校 第4学年	31
② 小学校 第5学年	37
③ 小学校 第6学年	43
④ 中学校 第1学年	49
⑤ 中学校 第2学年	55
⑥ 中学校 第3学年	61
(2) 社会	67
① 小学校 第6学年	67
② 中学校 第1学年	73
③ 中学校 第2学年	79
④ 中学校 第3学年	85
(3) 算数・数学	91
① 小学校 第4学年	91
② 小学校 第5学年	97
③ 小学校 第6学年	103
④ 中学校 第1学年	109
⑤ 中学校 第2学年	115
⑥ 中学校 第3学年	121
(4) 理科	127
① 小学校 第4学年	127
② 小学校 第5学年	133
③ 小学校 第6学年	139
④ 中学校 第1学年	145
⑤ 中学校 第2学年	151
⑥ 中学校 第3学年	157
(5) 英語	163
① 中学校 第2学年	163
② 中学校 第3学年	169

5	調査問題及び解答類型	175
(1)	国語	177
①	小学校 第4学年	177
②	小学校 第5学年	183
③	小学校 第6学年	189
④	中学校 第1学年	197
⑤	中学校 第2学年	205
⑥	中学校 第3学年	215
(2)	社会	223
①	小学校 第6学年	223
②	中学校 第1学年	233
③	中学校 第2学年	243
④	中学校 第3学年	253
(3)	算数・数学	263
①	小学校 第4学年	263
②	小学校 第5学年	273
③	小学校 第6学年	283
④	中学校 第1学年	293
⑤	中学校 第2学年	303
⑥	中学校 第3学年	313
(4)	理科	323
①	小学校 第4学年	323
②	小学校 第5学年	333
③	小学校 第6学年	343
④	中学校 第1学年	353
⑤	中学校 第2学年	363
⑥	中学校 第3学年	373
(5)	英語	383
①	中学校 第2学年	383
②	中学校 第3学年	395
6	学習意欲等に関する質問紙	407
(1)	小学校 第4～6学年	409
(2)	中学校 第1～3学年	411

1 調査の概要

(1) 学習状況調査実施の趣旨

学習指導要領の内容等の定着度を把握し、本県が進める少人数学習の成果や課題をとらえ、本県児童生徒の学力向上施策の推進に資するとともに、各小・中学校において、自校の実態や課題をよりの確にとらえ、目標に準拠した評価の実践や授業の改善に生かすなど、学習指導の工夫改善を図ることを通して、児童生徒の基礎学力の向上に資する。

(2) 調査対象学年、教科、調査結果の抽出人数等

- ① ペーパーテスト調査
- ② 学習への意欲等に関する質問紙調査

学 年	実 施 教 科	実 施 人 数	抽出人数(抽出率)
小学校第4学年	国語、算数、理科	約 10,100人	約 9,500人 (94.1%)
小学校第5学年		約 10,900人	約 10,200人 (93.6%)
小学校第6学年	国語、社会、算数・数学 理科	約 10,500人	約 9,900人 (94.3%)
中学校第1学年		約 10,900人	約 8,700人 (79.8%)
中学校第2学年	国語、社会、数学、理科 英語	約 11,000人	約 8,900人 (80.9%)
中学校第3学年		約 11,100人	約 8,900人 (80.2%)

* 悉皆調査によるが、分析は抽出による。

(3) 出題内容

① 基本的な考え方

学習指導要領で求められている資質や能力がどの程度身に付いているか、指導上の問題点は何かを明らかにするとともに、学習指導の工夫改善に資することができるよう、ペーパーテストで調査を行うことが適当な内容・項目について出題する。

② 出題の範囲

調査対象学年の生徒が、前学年で履修した教科の内容とする。なお、内容に関連して、それ以前の学年で履修した内容が含まれる場合もある。

(4) 調査実施日

小学校 平成17年7月 6日(水)

中学校 平成17年7月13日(水)

2 本県調査の特徴・用語

(1) 特徴

- ① 評価規準の設定
 - ・観点別評価の実施
 - ・調査する基礎・基本の明確化
- ② 設定通過率の設定
 - ・県として「おおむね満足できる状況」と判断する基準の設定
- ③ ペーパーテストと学習への意欲等に関する質問紙による総合的な学習状況の把握
 - ・多面的な学力の把握
- ④ 過去に実施した国や県の調査問題の類似問題による経年比較
 - ・学力の推移の把握
- ⑤ 調査結果の活用の工夫
 - ・各校における結果分析に基づいた指導の改善
 - ・報告書の作成

(2) 今年度加えた調査項目

- ① 家庭学習時間（学校のある日の家庭学習、休業日の家庭学習）
- ② 総合的な学習の時間についての意識

(3) 用語

- ・通過率
 - …各問題ごとの正答した児童生徒の人数の割合
 - 各問題ごとに、各学校の通過率、全県の通過率を算出している。
 - （各学校の通過率の例：50人中30人が正答していれば60%）
- ・平均通過率
 - …全問題の通過率の平均
 - 100点満点に換算したときの平均点とみることができる。
 - 各教科ごとに、各学校の平均通過率、全県の平均通過率を算出している。
- ・設定通過率
 - …問題ごとにどの程度の通過率であればおおむねよしとするかを予め定めた値
 - （本県が独自に取り入れているもので研究段階である。参考までに示している。）
- ・小問別反応率
 - …小問ごとに、[正答] [誤答] [無答] [未履修] の割合を表したもの
- ・通過率累計
 - …100点満点に換算したときの累積度数を表したもの
 - 学校数の累計、児童生徒数の累計がある。
- ・平均通過率度数分布グラフ
 - …100点満点に換算したときの度数分布グラフ
 - 学校数の度数分布グラフと児童生徒数の度数分布グラフがある。
- ・小問別通過率度数分布表
 - …各小問ごと、通過率における学校数の度数分布を示した表

3 調査結果の概要

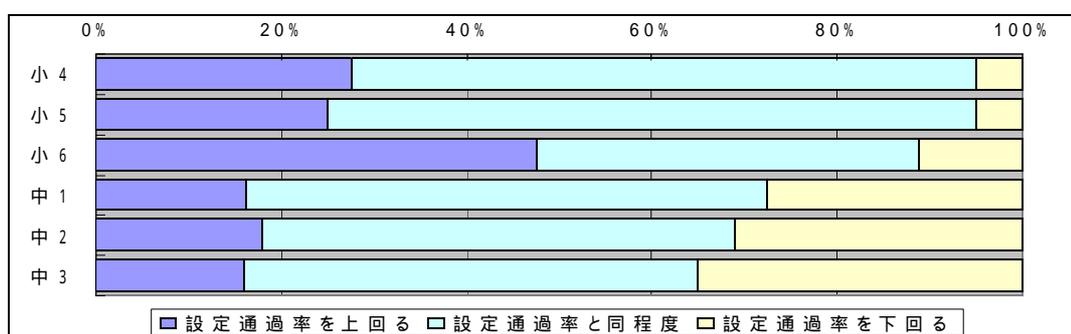
(1) ペーパーテスト結果

設定通過率との比較

学年別に、通過率が設定通過率を上回るか同程度である問題数の割合を比較すると、高い順に小5、小4、小6、中1、中3、中2となっており、小学校の方が総じて中学校よりも高くなっている（(ア)参照）。また、この割合を教科別にみると、小学校では全学年、全教科で70%を超えているのに対し、中学校では社会、数学、理科で70%を下回る学年がある。国語、英語はすべての学年で70%を超えた。

平均通過率と設定通過率の平均を比べてみると、小学校ではすべての学年、教科で平均通過率が上回っている。中学校では、平均通過率が設定通過率の平均を下回っている学年・教科が多い（(イ)参照）

(ア) 学年別の通過率と設定通過率との比較



(イ) 学年別の平均通過率と設定通過率の平均との比較

教科名	学年	平均通過率	設定通過率の平均	差	通過割合
国語	小4	77.0	71.0	6.0%	100%
	小5	77.0	75.0	2.0%	90.0%
	小6	78.7	70.5	8.2%	90.0%
社会	小6	78.7	70.0	8.7%	90.0%
	小4	81.2	75.0	6.2%	100%
	小5	82.2	74.0	8.2%	100%
算数	小6	76.8	71.5	5.3%	85.0%
	小4	73.6	73.0	0.6%	80.0%
	小5	80.2	74.1	6.1%	90.9%
理科	小6	78.5	69.8	8.8%	90.9%

教科名	学年	平均通過率	設定通過率の平均	差	通過割合
国語	中1	70.5	72.3	-1.8%	75.0%
	中2	77.0	72.3	4.8%	85.0%
	中3	68.8	70.0	-1.2%	75.0%
社会	中1	67.9	70.0	-2.1%	80.0%
	中2	63.2	69.5	-6.3%	70.0%
	中3	62.4	70.0	-7.7%	65.0%
数学	中1	63.2	69.0	-5.8%	65.0%
	中2	58.5	67.0	-8.5%	60.0%
	中3	62.8	70.0	-7.2%	65.0%
理科	中1	71.8	73.0	-1.2%	73.0%
	中2	59.9	70.0	-10.1%	45.0%
	中3	54.2	66.0	-11.8%	45.0%
英語	中2	71.1	70.6	0.5%	85.0%
	中3	72.4	71.0	1.4%	75.0%

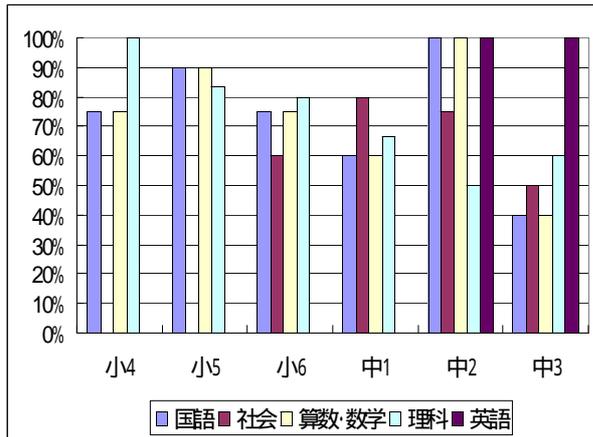
通過割合：全問題数に対して設定通過率を超えた問題数の割合

県の類似問題との比較

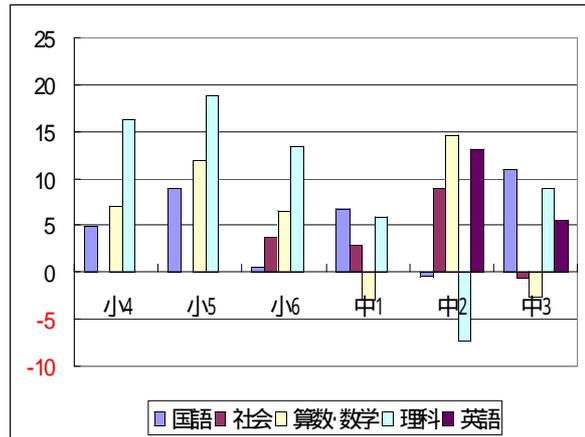
過去の通過率を上回った問題数の割合をみると、小学校では62問中50問（80.6%）、中学校では76問中56問（73.7%）で上回っている。なお、この数値は、小学校、中学校ともに、昨年度より高くなっている。

通過率の平均では、小学校ではすべての学年、教科で過去の状況を上回っている。中学校では、中1数学、中2理科などで過去の状況より下回っている。

過去の通過率(県)を上回った問題数の割合



県類似問題における通過率の平均の比較

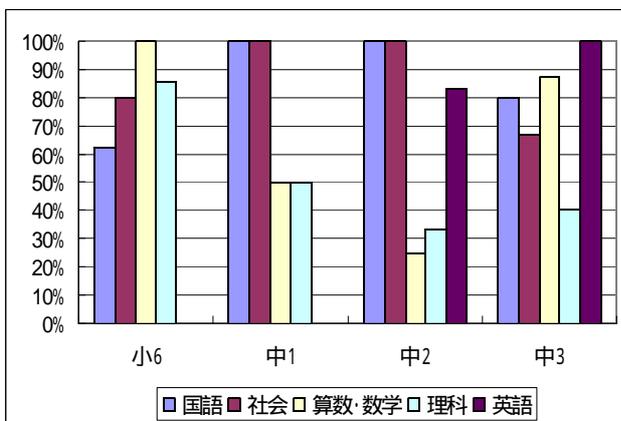


国の類似問題との比較

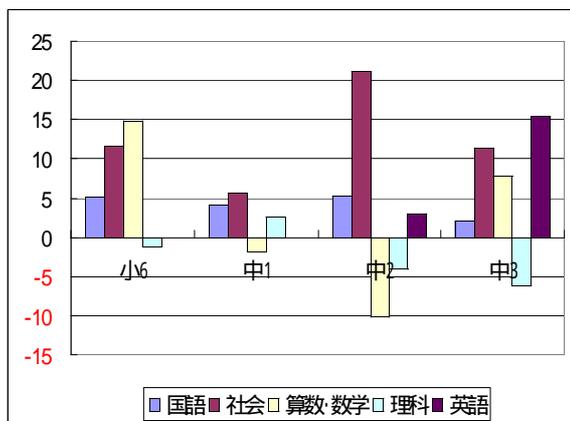
国の通過率を上回った問題数の割合は、小学校では26問中22問（84.6%）、中学校では69問中51問（73.9%）である。なお、昨年度は、小学校で100%、中学校で50.8%であった。

通過率の平均で比較すると、小6ではすべての教科で過去の状況を上回っている。中学校では、中1・2年の数学、中2・3年の理科で過去を下回っている。

過去の通過率(国)を上回った問題数の割合



国類似問題における通過率の平均の比較



各教科の観点別または領域別の比較

観点別または領域別に、通過率が設定通過率を上回るか同程度である問題の割合をみると、小学校では理科の「技能・表現」(66.7%)で多少低くなっているが、その他は80%を超えている。特に、国語の「書くこと」(100%)、「言語事項」(95.5%)、社会の「知識・理解」(100%)、数学の「考え方」(92.3%)、「表現・処理」(96.0%)、「知識・理解」(95.0%)、理科の「科学的な思考」(92.9%)、「知識・理解」(100%)で高い割合になっている。昨年度、課題であった社会の「技能・表現」、理科の「知識・理解」は、今年度の調査では良好である。

中学校では、設定通過率を上回るか同程度である割合は、小学校に比べて国語の「書くこと」(100%)以外は低くなる傾向にある。特に、理科の「技能・表現」、英語の「聞くこと」では設定通過率を下回った問題の割合が60%を超え課題がある。特に、理科の「技能・表現」は昨年度からの課題でもあり、この点に配慮した指導方法の改善が急務である。設定通過率を上回るか同程度である割合が80%を超えたのは、国語の「書くこと」、「言語事項」、社会の「技能・表現」、英語の「読むこと」、「書くこと」であった。特に、英語の「読むこと」は昨年度、設定通過率を下回った割合が64.3%であったが、今年の調査では改善されてきている。

< 小学校 >

教科名	観点または領域	問題数	上回った問題数	同程度の問題数	下回った問題数
国 語	書くこと	3	2 (66.7%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)
	読むこと	15	4 (26.7%)	9 (60.9%)	2 (13.3%)
	言語事項	22	7 (31.8%)	14 (63.6%)	1 (4.5%)
社 会	思考・判断	6	3 (50.0%)	2 (33.3%)	1 (16.7%)
	技能・表現	9	4 (44.4%)	4 (44.4%)	1 (11.1%)
	知識・理解	5	2 (40.0%)	3 (60.0%)	0 (0.0%)
算 数	考え方	13	9 (69.2%)	3 (23.1%)	1 (7.7%)
	表現・処理	25	9 (36.0%)	15 (60.0%)	1 (4.0%)
	知識・理解	22	6 (27.3%)	15 (68.2%)	1 (%)
理 科	科学的な思考	14	5 (35.7%)	8 (57.1%)	1 (7.1%)
	技能・表現	12	1 (8.3%)	7 (58.3%)	4 (33.3%)
	知識・理解	14	7 (50.0%)	7 (50.0%)	0 (0.0%)

< 中学校 >

教科名	観点または領域	問題数	上回った問題数	同程度の問題数	下回った問題数
国 語	書くこと	3	2 (66.7%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)
	読むこと	22	5 (22.7%)	9 (40.9%)	8 (36.4%)
	言語事項	35	12 (34.3%)	18 (51.4%)	5 (14.3%)
社 会	思考・判断	19	2 (10.5%)	11 (57.9%)	6 (31.6%)
	技能・表現	21	1 (4.8%)	16 (76.2%)	4 (19.0%)
	知識・理解	20	0 (0.0%)	13 (65.0%)	7 (35.0%)
数 学	見方・考え方	16	1 (6.3%)	8 (50.0%)	7 (43.8%)
	表現・処理	26	4 (15.4%)	14 (53.8%)	8 (30.8%)
	知識・理解	18	0 (0.0%)	11 (61.1%)	7 (38.9%)
理 科	科学的な思考	21	4 (19.0%)	10 (47.6%)	7 (33.3%)
	技能・表現	18	1 (5.6%)	6 (33.3%)	11 (61.1%)
	知識・理解	21	2 (9.5%)	9 (42.9%)	10 (47.6%)
英 語	聞くこと	14	6 (42.9%)	7 (50.0%)	1 (7.1%)
	読むこと	12	6 (50.0%)	5 (41.7%)	1 (8.3%)
	書くこと	14	1 (7.1%)	7 (50.0%)	6 (42.9%)

⑤ 各教科ごとの小問別通過率と設定通過率の比較

ア 国 語

教科名 国語 学年 小4

通し番号	通 過 率			設 定 通 過 率	
	本年度	県	国	本年度	国
1)	86.6	81.7		80	
2)	78.0			70	
3)	72.0	63.3		65	
4)	82.2	76.2		75	
5)	74.9	51.3		70	
6)	77.8			75	
7)	74.1	92.5		70	
8)	68.8			70	
9)	75.8			65	
10)	80.0			70	
11)					
12)					
13)					
14)					
15)					
16)					
17)					
18)					
19)					
20)					

教科名 国語 学年 小5

通し番号	通 過 率			設 定 通 過 率	
	本年度	県	国	本年度	国
1)	82.4	65.8		85	
2)	52.9			70	
3)	84.6	80.1		85	
4)	88.5	86.8		80	
5)	66.0	73.8		70	
6)	78.2			70	
7)	90.9			85	
8)	78.9	67.5		70	
9)	73.5	46.7		70	
10)	74.2			65	
11)					
12)					
13)					
14)					
15)					
16)					
17)					
18)					
19)					
20)					

教科名 国語 学年 小6

通し番号	通 過 率			設 定 通 過 率	
	本年度	県	国	本年度	国
1)	97.9	97.2		90	
2)	94.8			75	
3)	76.9			65	
4)	71.9	81.4		75	
5)	95.9			70	
6)	93.9	84.1		80	
7)	83.2	81.9		75	
8)	88.1		83.2	70	75
9)	84.4		71.0	70	75
10)	93.6		75.1	70	80
11)	65.1		90.3	70	90
12)	75.9		87.1	75	90
13)	84.2		88.0	70	85
14)	86.2		48.1	65	60
15)	81.2			65	
16)	46.6		40.9	65	65
17)	42.6			65	
18)	61.9			70	
19)	68.0			60	
20)	80.8			65	

平均通過率	77.0		71.0
県類似問題	78.0	73.0	
国類似問題			

平均通過率	77.0		75.0
県類似問題	79.0	70.1	
国類似問題			

平均通過率	78.6		70.5
県類似問題	86.7	86.2	
国類似問題	78.0	73.0	77.5

教科名 国語 学年 中1

通し番号	通 過 率			設 定 通 過 率	
	本年度	県	国	本年度	国
1)	91.9			85	
2)	90.0	81.7		80	
3)	83.3			80	
4)	84.1	76.6		75	
5)	95.0		90.5	80	80
6)	80.8			70	
7)	47.4	47.2		60	
8)	85.1			75	
9)	53.8	29.2		65	
10)	44.3	51.4		60	
11)	71.2			75	
12)	64.1		64.1	70	60
13)	69.3			75	
14)	77.3		71.8	70	85
15)	43.5			75	
16)	59.2			75	
17)	73.2		67.4	75	65
18)	71.3		66.3	70	70
19)	52.3			60	
20)	71.6			70	

教科名 国語 学年 中2

通し番号	通 過 率			設 定 通 過 率	
	本年度	県	国	本年度	国
1)	97.7			85	
2)	76.1	64.4		70	
3)	55.6	97.1		65	
4)	77.4			70	
5)	76.8			70	
6)	90.4			80	
7)	96.1	84.6		80	
8)	91.8			80	
9)	91.9			80	
10)	91.7	75.9		80	
11)	22.9			65	
12)	47.9	48		60	
13)	79.1			85	
14)	89.7			70	
15)	87.2		85.2	75	70
16)	78.7		75.3	70	70
17)	45.7		42.3	60	65
18)	74.4		71.3	70	65
19)	70.8		56.2	60	60
20)	84.0			70	

教科名 国語 学年 中3

通し番号	通 過 率			設 定 通 過 率	
	本年度	県	国	本年度	国
1)	84.9	74.6		75	
2)	81.7			75	
3)	82.8	56.4		70	
4)	63.5			65	
5)	67.4	52.8		65	
6)	59.0			65	
7)	76.1	77.9		75	
8)	97.3		95.3	85	70
9)	79.6	74.3		75	
10)	89.0		86.6	80	65
11)	24.9			65	
12)	87.6		80.2	75	75
13)	42.1		59	60	70
14)	52.2		37.1	60	65
15)	79.6			65	
16)	72.2			85	
17)	61.1			65	
18)	46.3			60	
19)	45.3			70	
20)	84.5			65	

平均通過率	70.4		72.3
県類似問題	63.9	57.2	
国類似問題	76.2		72.0

平均通過率	76.3		72.3
県類似問題	73.5	74.0	
国類似問題	71.4		66.1

平均通過率	68.9		70.0
県類似問題	78.2	67.2	
国類似問題	73.6		71.6

イ 社 会

教科名 社会 学 年 小6

通し番号	通 過 率			設 定 通 過 率	
	本年度	県	国	本年度	国
1)	95.4		81.6	85	70
2)	78.1			70	
3)	72.0		76.1	65	75
4)	57.0	72.5		70	
5)	56.7			65	
6)	83.0			65	
7)	93.4		76.7	75	70
8)	94.8			80	
9)	56.1			70	
10)	93.4			65	
11)	62.8			70	
12)	83.3			80	
13)	91.2	72.5		75	
14)	80.2	70.4		70	
15)	69.4			60	
16)	90.6		84.8	65	75
17)	66.2			60	
18)	77.5	70.2		70	
19)	90.0		64.3	65	75
20)	81.8	83.6		75	

平均通過率	78.6			70.0
県類似問題	77.5	73.8		
国類似問題	88.3		76.7	73.0

教科名 社会 学 年 中1

通し番号	通 過 率			設 定 通 過 率	
	本年度	県	国	本年度	国
1)	69.8			75	
2)	80.5			75	
3)	82.3			75	
4)	74.0	71.0		70	
5)	51.0			65	
6)	86.4	82.0		80	
7)	80.3	74.0		75	
8)	62.1		58.0	70	
9)	79.5		78.0	65	
10)	59.6		55.0	65	
11)	69.4			70	
12)	36.7			60	
13)	74.6		66.0	75	
14)	45.7		36.0	60	
15)	65.6	64.0		65	
16)	74.0	75.0		70	
17)	80.3			75	
18)	78.5			75	
19)	26.5			60	
20)	81.6			75	

平均通過率	67.9			70.0
県類似問題	76.1	73.2		
国類似問題	64.3		58.6	

教科名 社会 学 年 中2

通し番号	通 過 率			設 定 通 過 率	
	本年度	県	国	本年度	国
1)	83.2		71.4	80	60
2)	63.8	60.2		75	
3)	80.8			90	
4)	39.6			60	
5)	69.8	45.9		60	
6)	55.5			60	
7)	55.0			60	
8)	88.1	65.6		75	
9)	78.8	68.1		80	
10)	62.1	65.1		70	
11)	46.1		28.1	65	55
12)	45.8	58.1		65	
13)	29.8	19		60	
14)	74.0			65	
15)	81.0			80	
16)	76.6			75	
17)	48.0			65	
18)	60.8		27.1	65	45
19)	53.9	38.5		60	
20)	70.5			80	

平均通過率	63.2			69.5
県類似問題	61.5	52.6		
国類似問題	63.4		42.2	53.3

教科名 社会 学 年 中3

通し番号	通 過 率			設 定 通 過 率	
	本年度	県	国	本年度	国
1)	79.1	74.8		70	
2)	79.9	82.9		80	
3)	48.3	69.7		65	
4)	84.9			70	
5)	36.4			60	
6)	33.1	28.0		60	
7)	90.4		79.3	80	60
8)	52.1			60	
9)	45.0		53.7	75	70
10)	29.8		32.1	60	40
11)	82.1		66.4	75	60
12)	53.2	38.4		60	
13)	71.7	75.6		80	
14)	80.2		42.2	80	45
15)	81.0		66.6	75	65
16)	47.0			70	
17)	28.6			60	
18)	79.6			70	
19)	82.9			80	
20)	61.7			70	

平均通過率	62.4			70.0
県類似問題	60.9	61.6		
国類似問題	68.1		56.7	56.7

ウ 算数・数学

教科名 算数 学年 小4

通し番号	通 過 率			設 定 通 過 率	
	本年度	県	国	本年度	国
1)	85.5	82.8		80	
2)	93.5	87.9		80	
3)	68.6	60.3		70	
4)	90.8	93.1		80	
5)	95.9	85.7		90	
6)	87.3			70	
7)	78.9			80	
8)	70.3		67	70	
9)	88.1	91.1		90	
10)	68.8			70	
11)	78.1	46.4		60	
12)	78.4	57.4		60	
13)	77.4	71		70	
14)	74			80	
15)	76.5			80	
16)	87.6			70	
17)	83.7	90.6		70	
18)	71.3	67.5		70	
19)	79.7	73.1		70	
20)	90.6		90	90	

教科名 算数 学年 小5

通し番号	通 過 率			設 定 通 過 率	
	本年度	県	国	本年度	国
1)	95.2	93.5		90	
2)	86.7	84.1		80	
3)	76.8			80	
4)	80.8			70	
5)	81.9			80	
6)	92.7			90	
7)	84.7	81.8		80	
8)	78.4			70	
9)	85.6	49.7		80	
10)	77.6	62.2		70	
11)	74.9	64.8		70	
12)	72.6			70	
13)	69.5	72.8		70	
14)	88.4			80	
15)	93.2	89.8		80	
16)	72.3			60	
17)	88.0			70	
18)	75.1			60	
19)	92.2	75.7		70	
20)	77.2	43.7		60	

教科名 算数 学年 小6

通し番号	通 過 率			設 定 通 過 率	
	本年度	県	国	本年度	国
1)	91.6			80	
2)	89.7			80	
3)	97.3			90	
4)	69.6	83.5		80	
5)	52.8	39.1		60	
6)	52.2		40.4	70	
7)	80.7	73.4		70	
8)	73.5			60	
9)	83.5	64.4		70	
10)	91.5		85.5	90	
11)	85.9		60.5	70	
12)	75.6			70	
13)	52.1			70	
14)	65.6		56.9	70	
15)	72.8			60	
16)	83.7			60	
17)	80.7		51.5	70	
18)	83.4			70	
19)	61.1		53.2	60	
20)	91.9			80	

平均通過率	81.3		75.0	
県類似問題	82.6	75.6		
国類似問題			78.5	

平均通過率	82.2		74.0	
県類似問題	83.7	71.8		
国類似問題				

平均通過率	76.8		71.5	
県類似問題	71.7	65.1		
国類似問題	72.8		58.0	

教科名 数学 学年 中1

通し番号	通 過 率			設 定 通 過 率	
	本年度	県	国	本年度	国
1)	88.5			80	
2)	83.6			80	
3)	69.5			70	
4)	53.0			60	
5)	84.5		81	80	70
6)	41.3	35.2		60	
7)	84.1			60	
8)	46.9	68.8		70	
9)	55.7			70	
10)	12.0	11.1		60	
11)	55.8		62.9	60	60
12)	80.2	84.9		70	
13)	55.8			70	
14)	72.8		78	80	70
15)	55.6			60	
16)	81.9		80.1	80	75
17)	47.2	42.8		60	
18)	93.0			80	
19)	70.3			70	
20)	32.5			60	

教科名 数学 学年 中2

通し番号	通 過 率			設 定 通 過 率	
	本年度	県	国	本年度	国
1)	75.4			80	
2)	85.7			80	
3)	77.1			70	
4)	80.8			80	
5)	85.6			70	
6)	55.8	35.6		60	
7)	65.5			70	
8)	43.2			60	
9)	36.9			60	
10)	45.8		63.6	70	70
11)	26.7	18.9		60	
12)	17.0	13.8		60	
13)	40.2		65.7	60	60
14)	72.9		64.9	80	70
15)	69.9			60	
16)	49.8	27		70	
17)	79.5			60	
18)	63.8	44.3		70	
19)	54.0		59.6	60	55
20)	43.8			60	

教科名 数学 学年 中3

通し番号	通 過 率			設 定 通 過 率	
	本年度	県	国	本年度	国
1)	89.1			90	
2)	79.4		69.5	80	
3)	51.7	57.9		60	
4)	82.6		73.3	80	
5)	77.3	56.7	57.6	70	
6)	84.8		80	80	
7)	61.7			80	
8)	43.5	64.5		70	
9)	42.6	54.5		60	
10)	64.9		58.4	70	
11)	79.0		68	70	
12)	46.1			60	
13)	58.6	53.2		60	
14)	68.1		62.3	70	
15)	25.2			60	
16)	35.1			60	
17)	73.0			80	
18)	49.1		53.4	60	
19)	58.3			60	
20)	85.3			80	

平均通過率	63.2		69.0	
県類似問題	45.5	48.6		
国類似問題	73.8		75.5	

平均通過率	58.5		67.0	
県類似問題	42.6	27.9		
国類似問題	53.2		63.5	

平均通過率	62.8		70.0	
県類似問題	54.7	57.4		
国類似問題	73.2		65.3	

才 英 語

教科名 英語 学年 中2

通し番号	通 過 率			設 定 通 過 率	
	本年度	県	国	本年度	国
1)	97.0			90	
2)	99.6		99	90	80
3)	93.3		81.7	90	70
4)	95.4			80	
5)	96.4			80	
6)	61.0	46.4		60	
7)	66.7	42.3		60	
8)	90.3		85.5	80	70
9)	84.7	82.1		80	
10)	81.4	70.4		70	
11)	82.4			60	
12)	62.2		53.7	60	70
13)	70.6			70	
14)	20.5			60	
15)	11.8			60	
16)	50.9		64.6	60	60
17)	74.2			70	
18)	83.9			80	
19)	45.3		39.2	60	70
20)	55.2			60	

教科名 英語 学年 中3

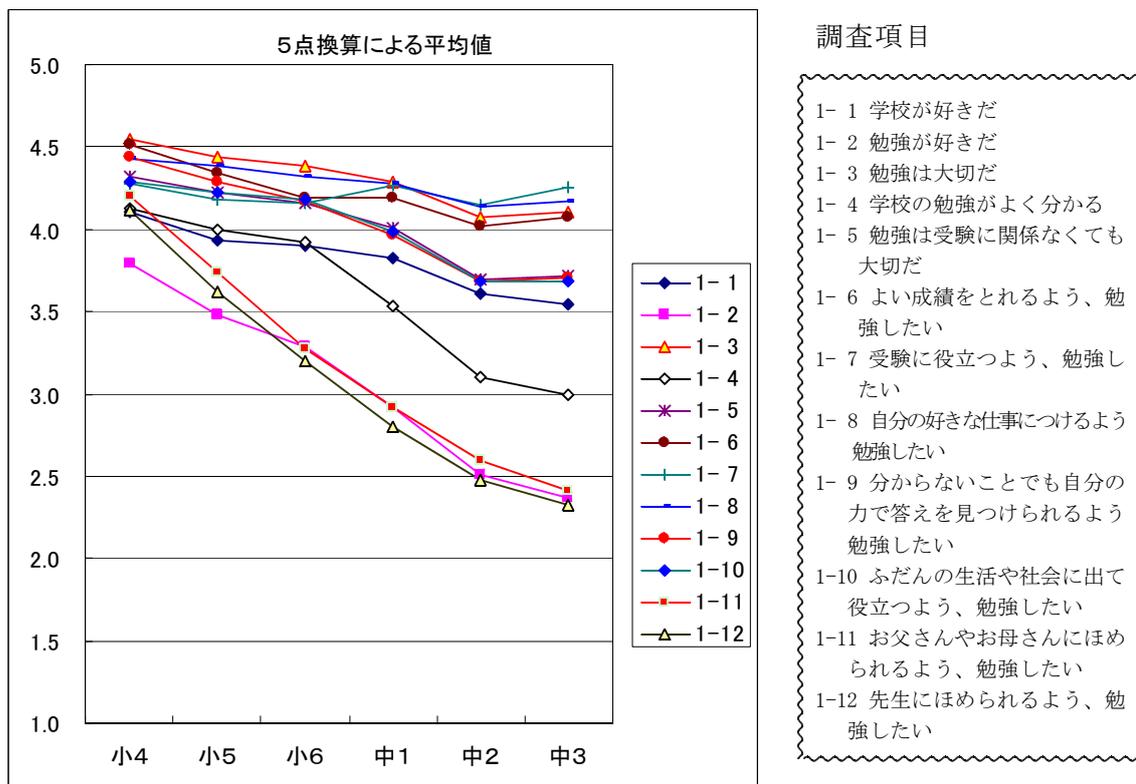
通し番号	通 過 率			設 定 通 過 率	
	本年度	県	国	本年度	国
1)	89.6	88.5		90	
2)	90.3		77.6	80	70
3)	92.4		83.1	80	70
4)	61.6			80	
5)	91.0			80	
6)	89.1			70	
7)	79.6	76.8		80	
8)	81.9		69.3	80	70
9)	81.7		67.1	70	60
10)	79.4	68.6		70	
11)	37.5			60	
12)	77.4			60	
13)	89.4		61.5	70	70
14)	36.3			60	
15)	41.3			60	
16)	37.4			60	
17)	53.4			60	
18)	78.4	73.5		70	
19)	78.0	69.4		70	
20)	82.3			70	

平均通過率	71.1		71.0
県類似問題	73.5	60.3	
国類似問題	73.6		70.6

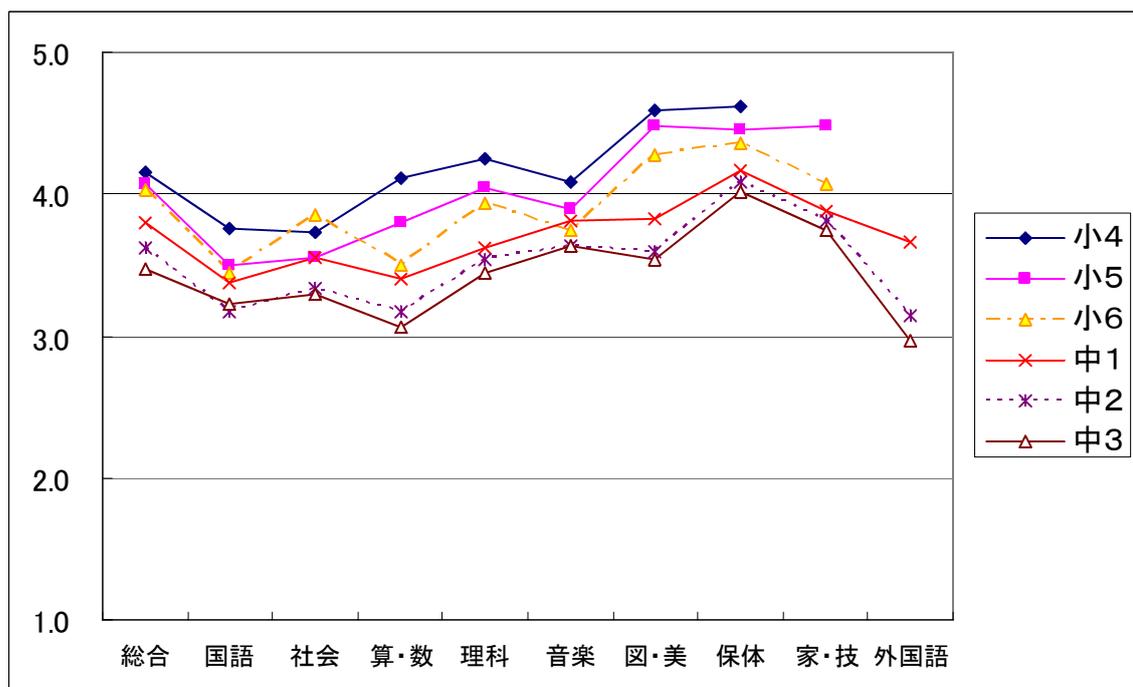
平均通過率	72.4		71.0
県類似問題	81.0	75.4	
国類似問題	87.1		71.7
			68.0

(2) 学習の意欲等に関する質問紙調査結果

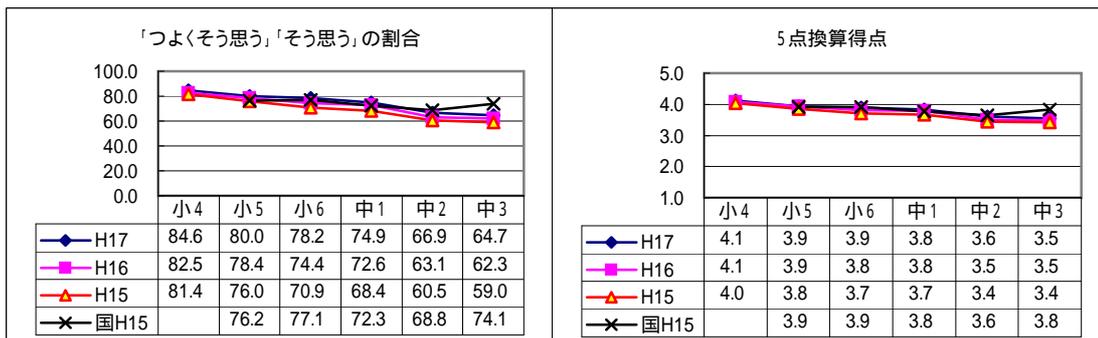
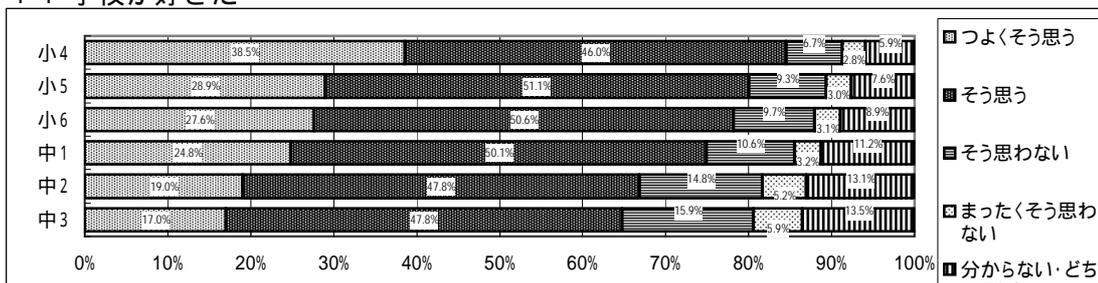
① 学習全般についての結果概要



② 教科の好き嫌いについての結果概要

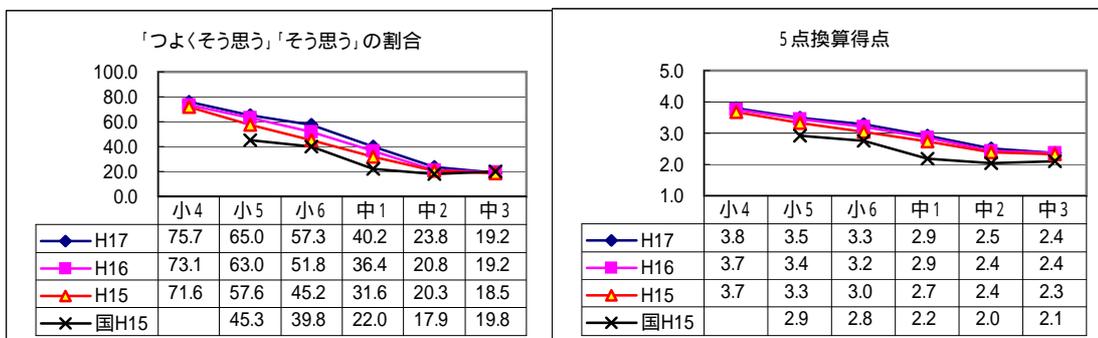
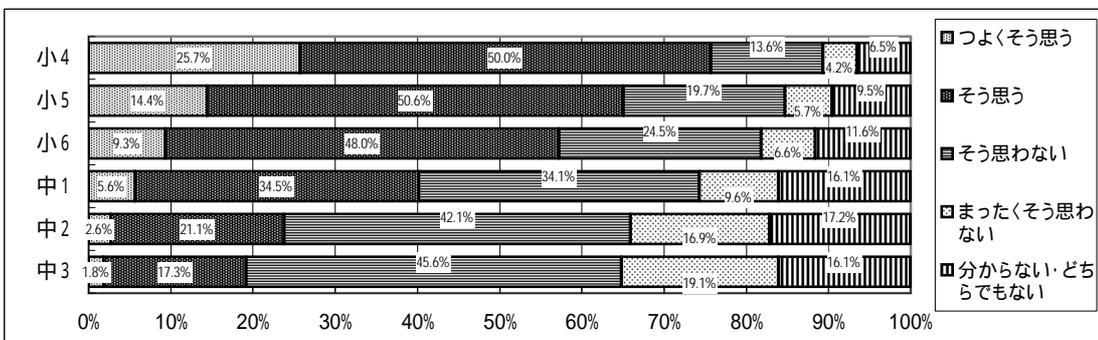


1-1 学校が好きだ



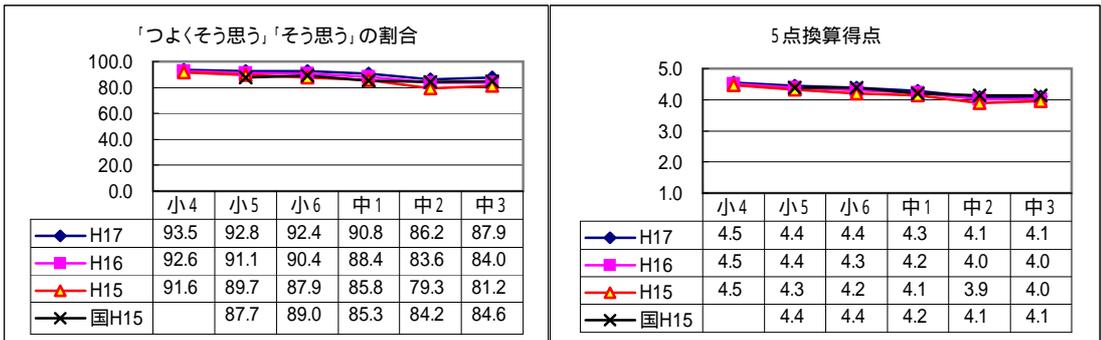
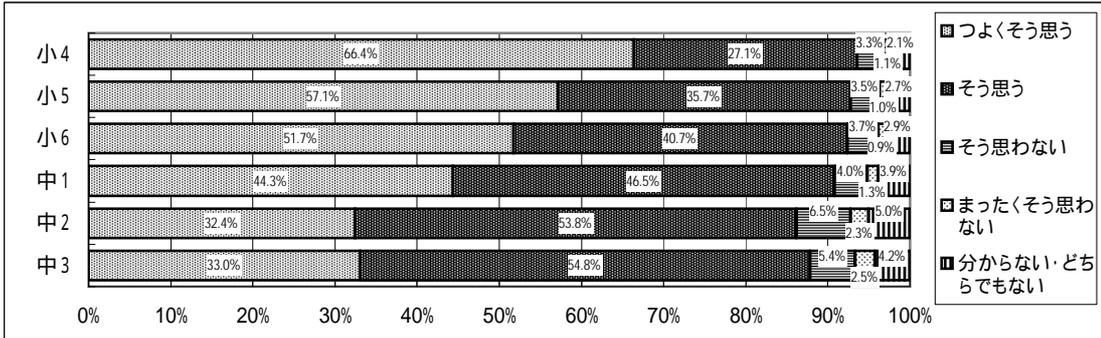
- ・「つよくそう思う」「そう思う」の割合が、小4から中3にかけて減少する傾向にあるが、その変動幅は他の質問項目に比べて小さい。経年比較では、平成15年度以降、各学年とも「学校が好きだ」と答える児童生徒の割合が年々、上昇してきている。

1-2 勉強が好きだ



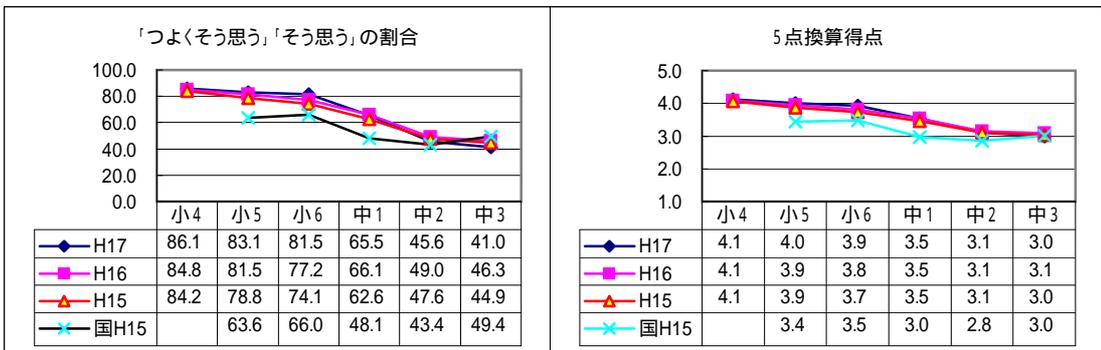
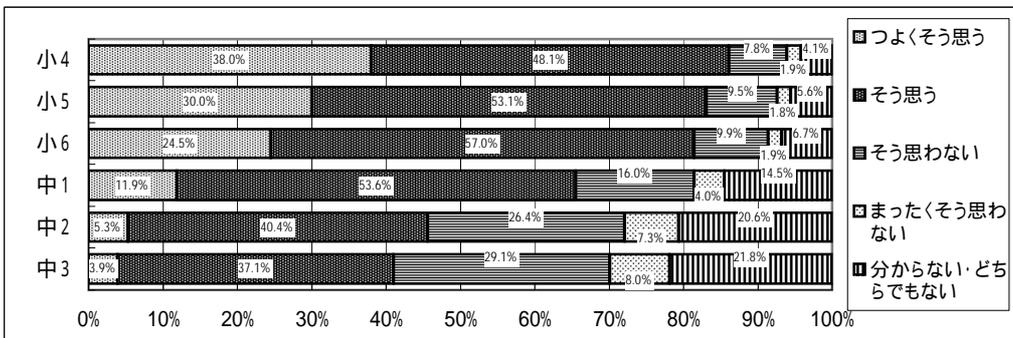
- ・経年変化をみると、小4～中2の各学年で、「勉強が好きだ」と答える児童生徒の割合が年々増加傾向にある。国の結果との比較でも各学年とも良好な状況である。しかし、「つよくそう思う」「そう思う」の割合が、小4の75%強から中3の20%弱へと50%以上低下する状況には依然として課題がある。

1-3 勉強は大切だ



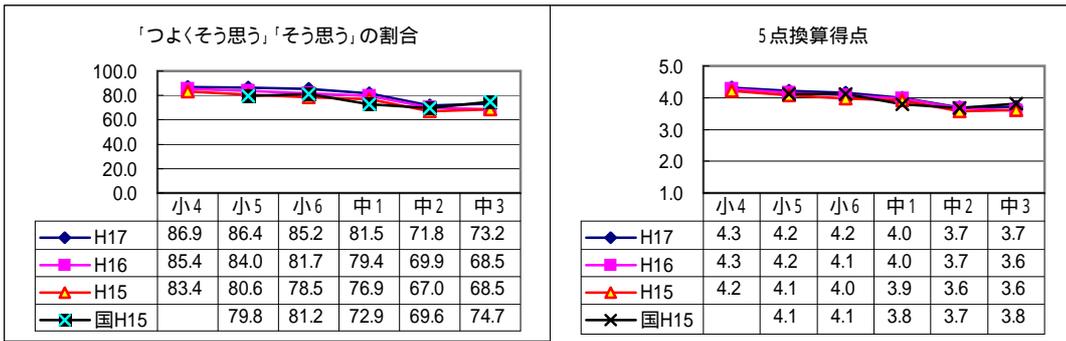
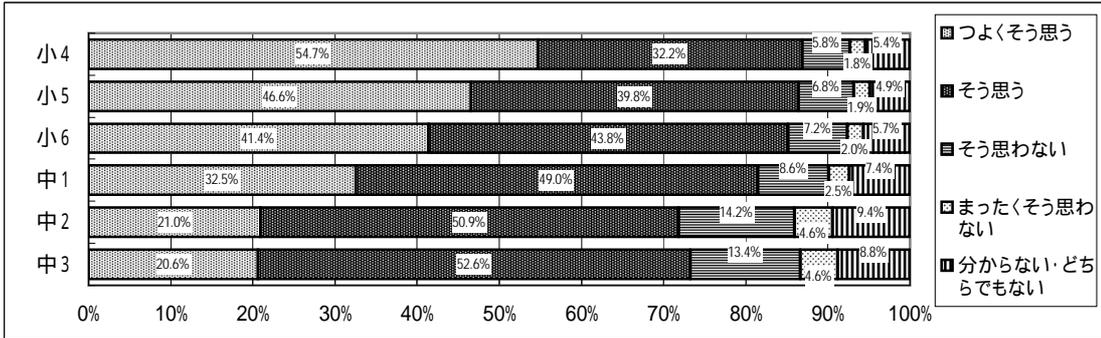
- すべての学年で、「勉強は大切だ」と答えている児童生徒の割合が9割程度であり、その割合は平成15年度以降、増加してきている。国の調査結果に比べても各学年とも上回っており、勉強の重要性を強く感じている状況がみられる。

1-4 学校の勉強がよくわかる



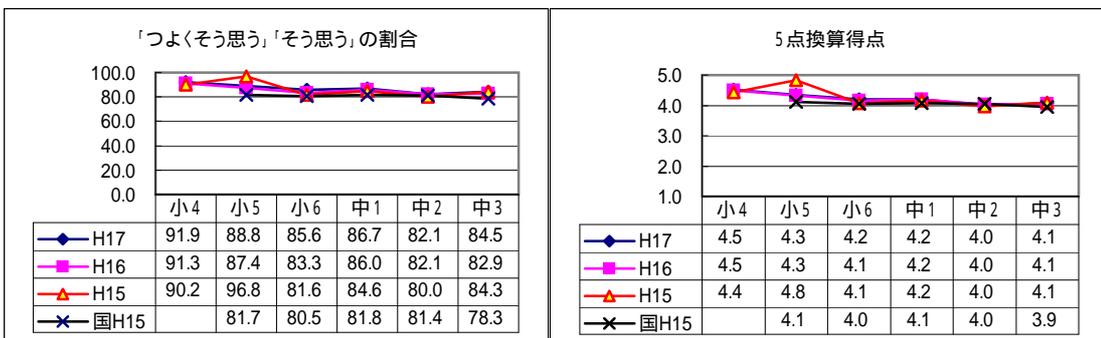
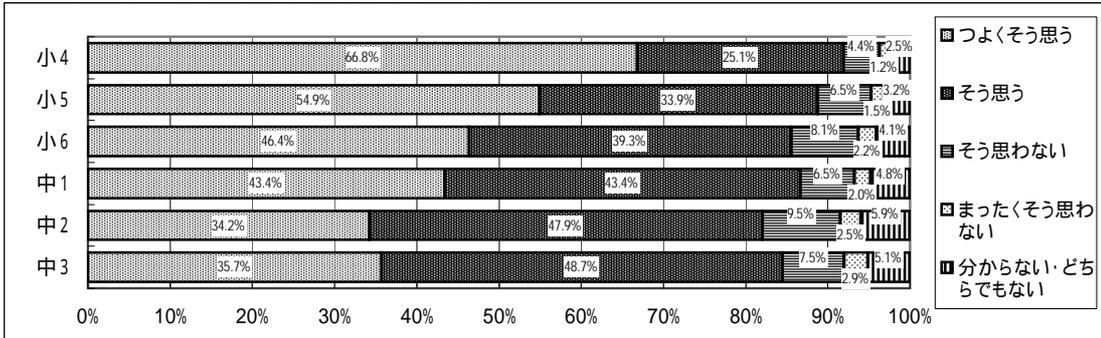
- 「勉強がよくわかる」と答える児童生徒の割合が、昨年度に比べ、小学校では増加傾向にあるが、中学校では下降気味である。国の調査結果に比べても中1までは、国を大きく上回っているが、中3では国を下回ってしまう。中学校において、「わかる授業」の実現のための指導方法の工夫改善を一層進める必要がある。

1-5 勉強は受験に関係なくても大切だ



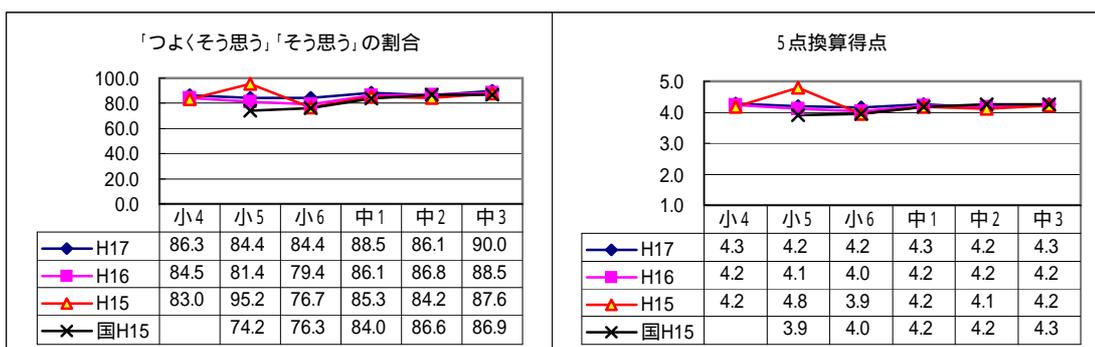
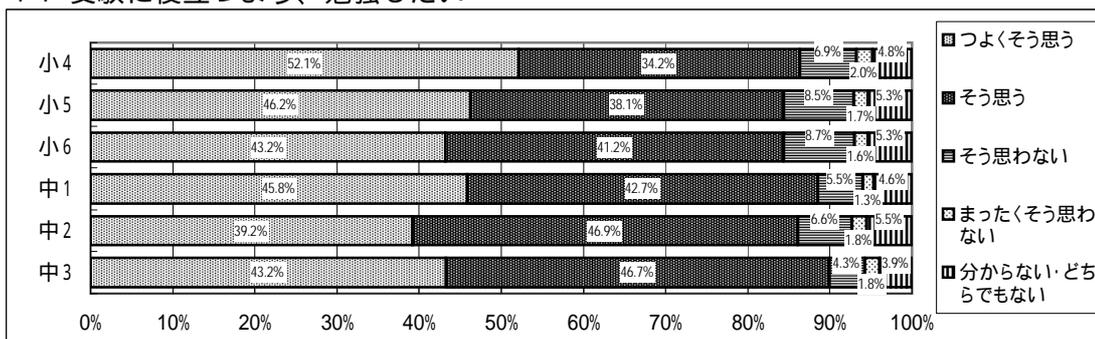
- 「勉強は受験に関係なくても大切だ」と答える児童生徒の割合が、年々、各学年で増加している。国との比較では、中1までは国の調査結果を幾分上回っており、受験だけを目的に勉強するのではないと考える傾向がある。中2～3年生になると、本県の生徒も全国の中学生と同様、受験を強く意識してくる傾向がみられる。

1-6 よい成績をとれるよう、勉強したい



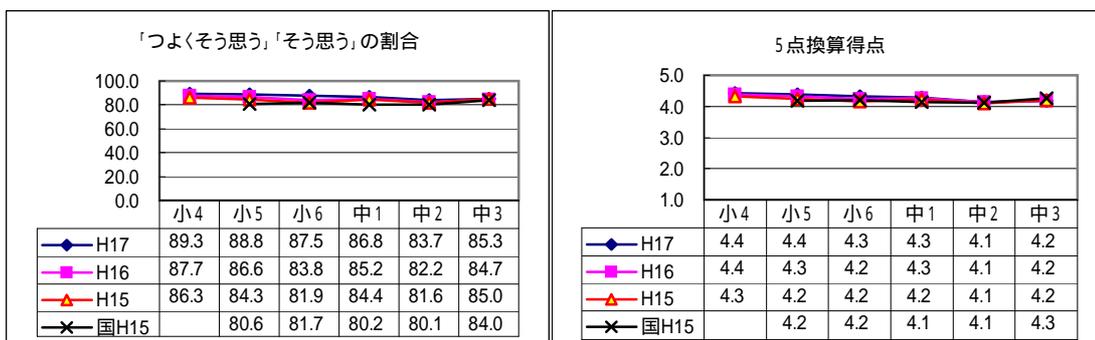
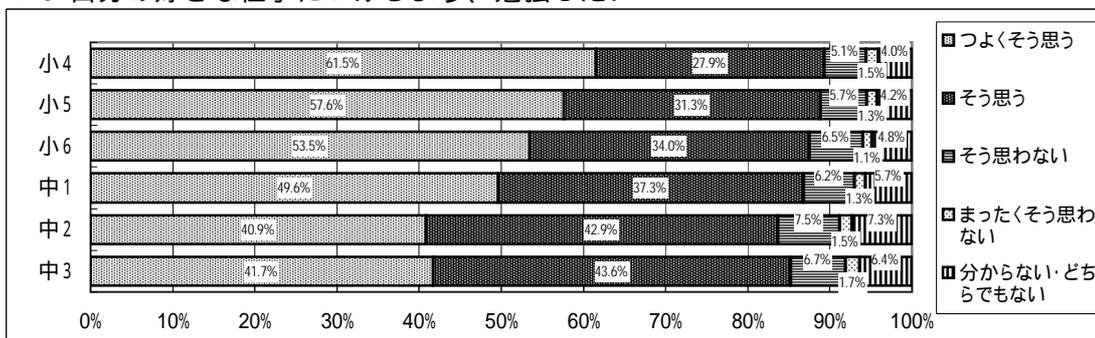
- 「よい成績をとれるように勉強したい」と答える児童生徒の割合が、各学年で8割を超えている。この質問項目については、年度ごとの数値の変化も小さい。国の調査に比べても全ての学年で上回っており、よい成績をとりたいと願う本県の児童生徒の傾向がみられる。

1-7 受験に役立つよう、勉強したい



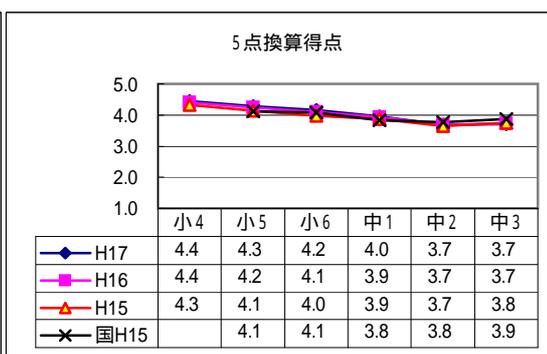
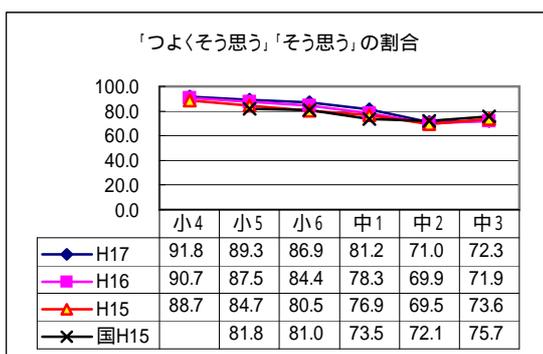
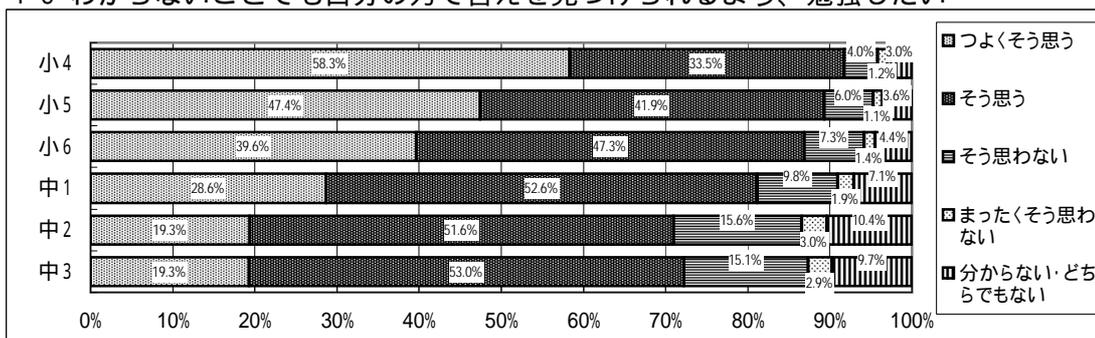
・「つよくそう思う」「そう思う」と答える児童生徒の割合が、学年を追うとともに増加している。小4～6でも85%程度となっており、国の結果を大きく上回っている。1-5で、「勉強は受験に関係なくても大切だ」と考えつつも、小学生段階からある程度、受験を意識していることがわかる。

1-8 自分の好きな仕事につけるよう、勉強したい



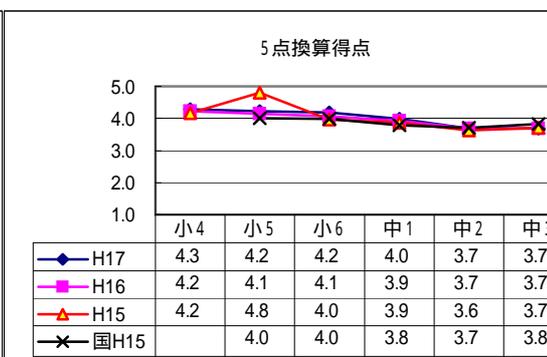
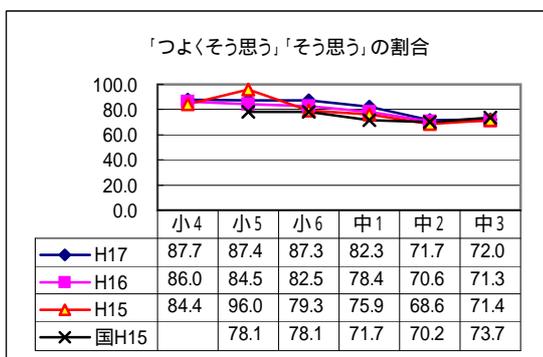
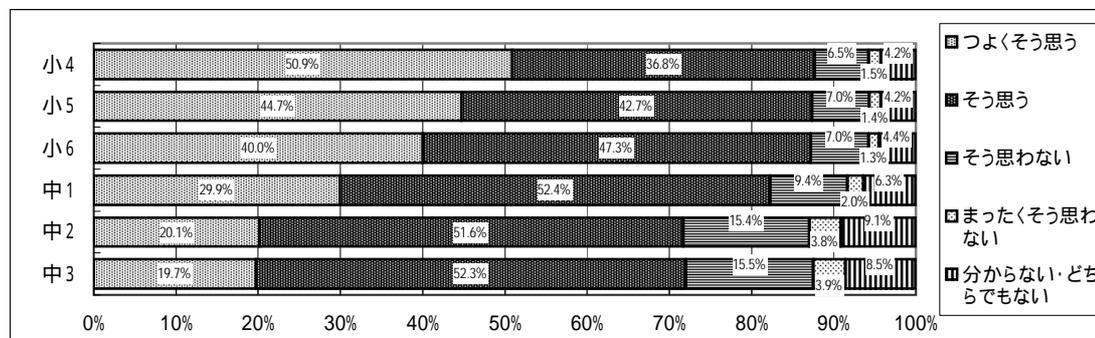
・「つよくそう思う」「そう思う」と答える児童生徒の割合が8割を超えており、小4から中3まで大きな差がない。経年変化では、各学年とも年々、少しずつ増加する傾向にある。大部分の児童生徒が、自分の進路を意識し、その実現のために勉強したいと考えている。

1-9 わからないことでも自分の力で答えを見つけられるよう、勉強したい



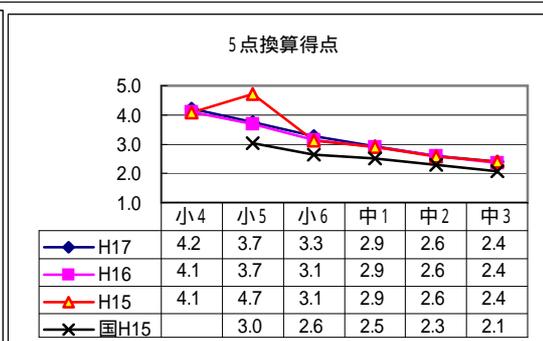
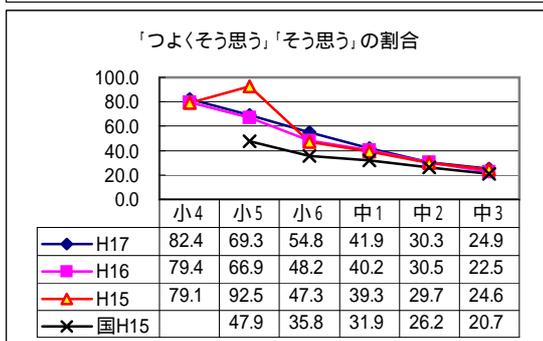
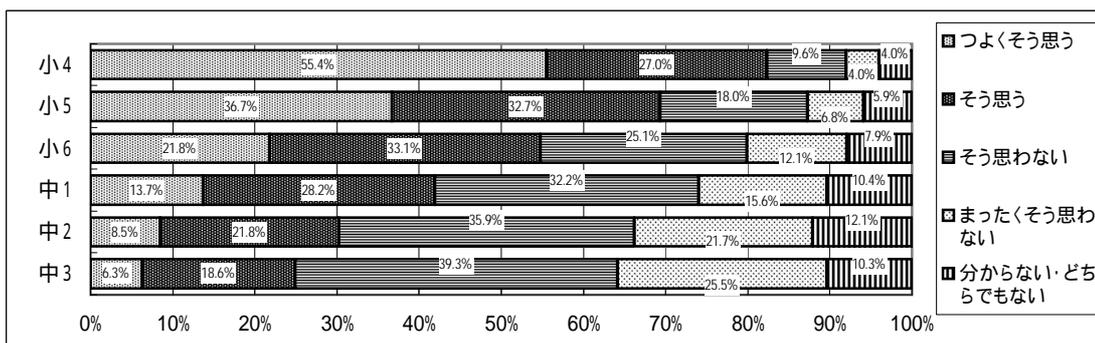
- ・小4から中1では、「わからないことでも自分の力で答えを見つけられるよう、勉強したい」と考える児童生徒の割合が、年々増加傾向にある。また、これらの学年では国の調査結果も上回っており、学習への積極性がみられる。中1から中2・3年にかけての数値の低下幅が大きく、自力解決の意欲が高まるよう指導方法の工夫が必要である。

1-10 ふだんの生活や社会に出て役立つよう、勉強したい



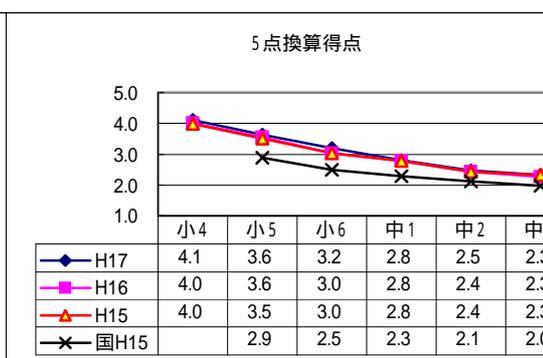
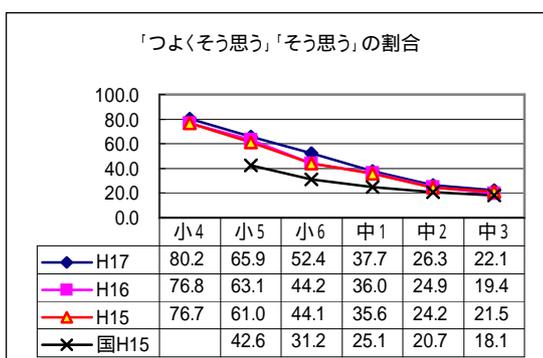
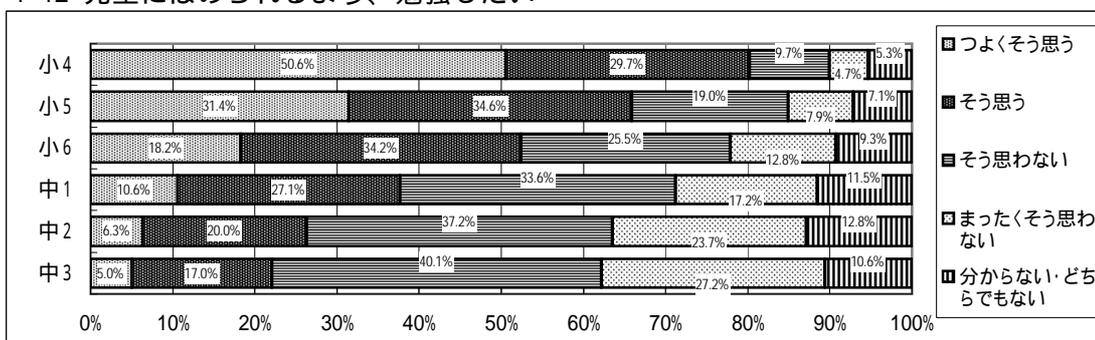
- ・「ふだんの生活や社会に出て役立つよう、勉強したい」と答える児童生徒の割合が、各学年で昨年を上回っている。特に小5～中1で国の状況を大きく上回る。しかし、中1から中2・3年にかけての数値の低下が大きく、特に中2・3年で生活や社会に役立つという実感を持ちながら学習を進めることができるよう指導方法の工夫が必要である。

1-11 お父さんやお母さんにほめられるよう、勉強したい



- ・「つよくそう思う」「そう思う」と答える児童生徒の割合は小4では80%を超えているが、学年を追って数値が低下し、中3で30%を下回る。国の調査結果との比較では、特に小学生段階で親にほめられるようにとする傾向が強い。

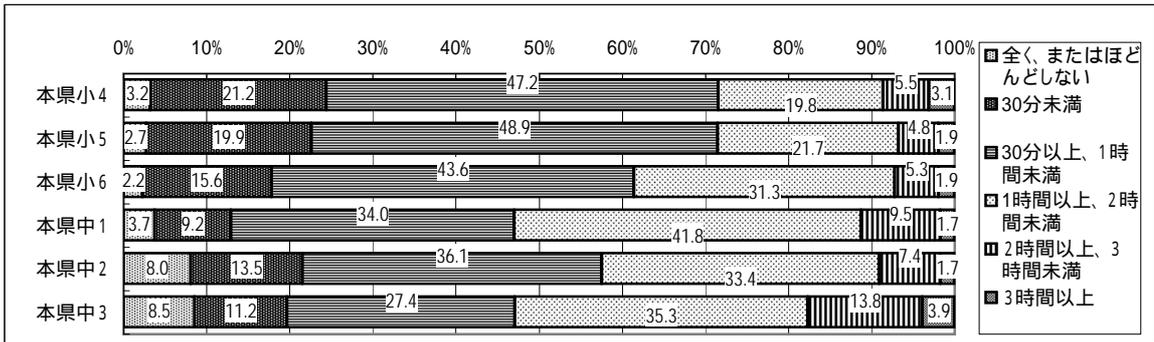
1-12 先生にほめられるよう、勉強したい



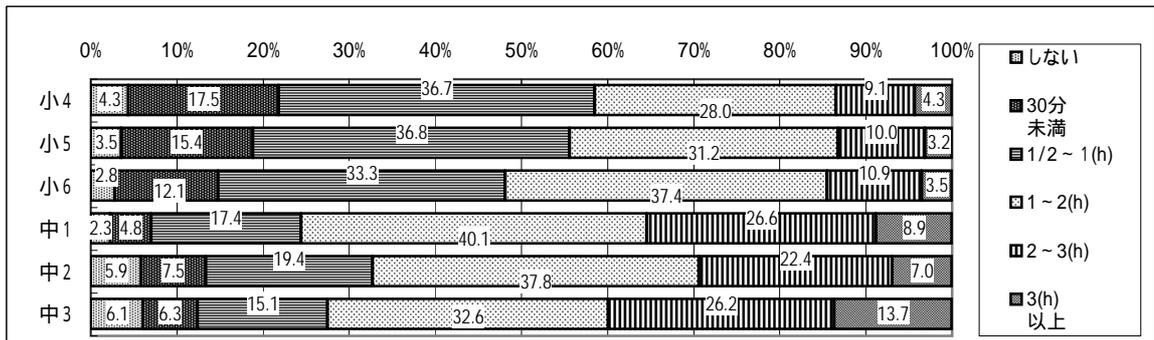
- ・「つよくそう思う」「そう思う」と答える児童生徒の割合は、小4では80%を超えているが、学年を追って数値が低下し中3で20%程度になる。経年比較では各学年で昨年よりも数値は高くなっているが、「親にほめられるため」よりも低い。1-11と合わせて、児童生徒の勉強する目的が学年進行に伴って変容していくことがわかる。

家庭学習について

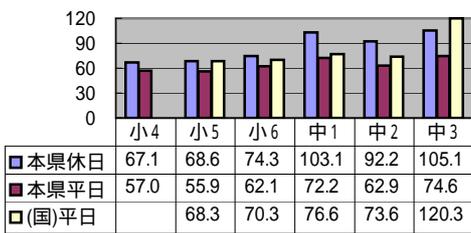
学校がある日の家庭学習



土曜日や日曜日の家庭学習



家庭学習の平均時間(分)



[注] 左のグラフには国のデータを付しているが調査時期が異なることに注意が必要である。
(県)平成17年7月
(国)平成16年2月(中3のみ1月)

< 家庭学習時間の平均 >

- 各学年の児童生徒とも、休日の家庭学習の方が平日よりも長い傾向にある。
- 学年が上がるにつれて家庭学習時間が増える傾向にある(平日は小5、中2例外、休日は中2例外)。
- 小5～中3で本県の児童生徒の家庭学習の平均は国の調査結果よりも短い。これは、調査時期の影響が考えられる。本県の調査時期が7月であるのに対し、国の調査時期は1・2月で部活動がオフシーズンであり、かつ中3は受験勉強に取り組んでいる時期である。

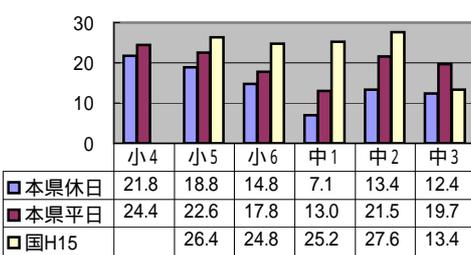
< 全くしない、または30分未満の割合 >

- この割合が最も少ないのは中1である。中学生に入学して学習意欲が高くなっている状況がうかがえる。
- 小5から中2で、国調査よりは良好な状況である。中3では国よりも多くなっているが、これは調査時期の要因によるものとみられる。

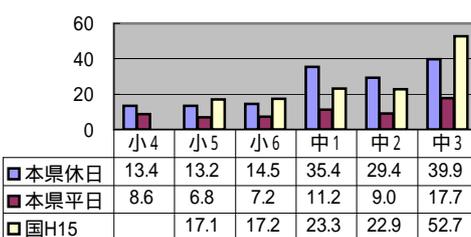
< 2時間以上の割合 >

- 中学生になると2時間以上学習するという割合が高くなっている。平日は部活動等で忙しいため、休日に2時間以上学習するという生徒が多い。
- 国との比較では、調査時期の関係もあり、2時間以上学習する児童生徒の割合は全ての学年で低くなっている。

全くしない、または30分未満の割合

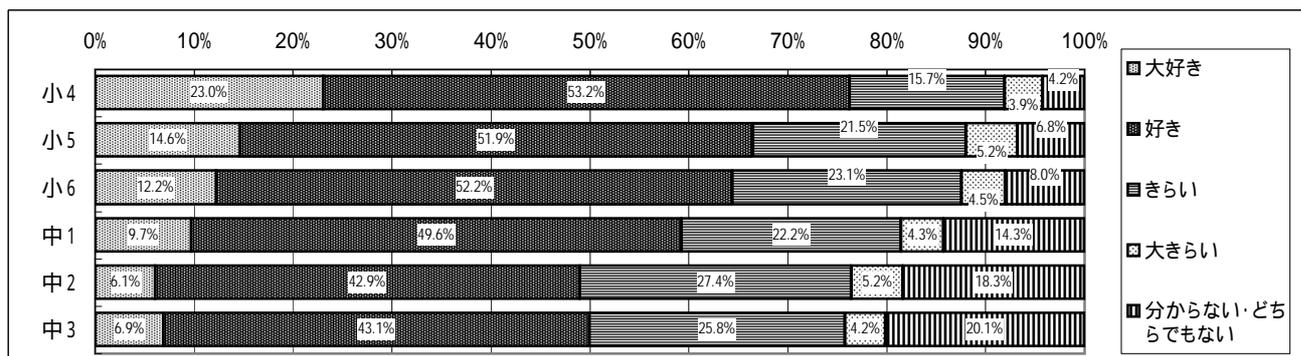


2時間以上の割合

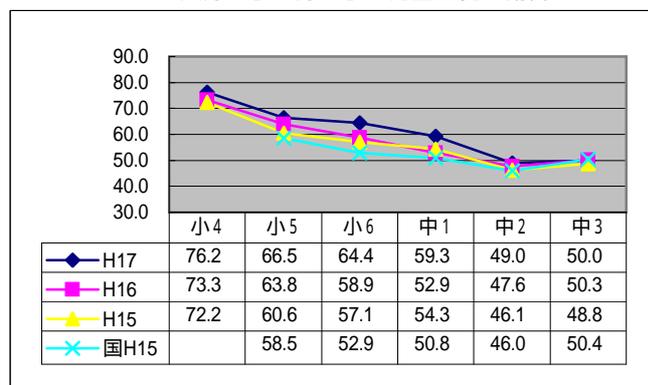


教科の好き嫌いについて

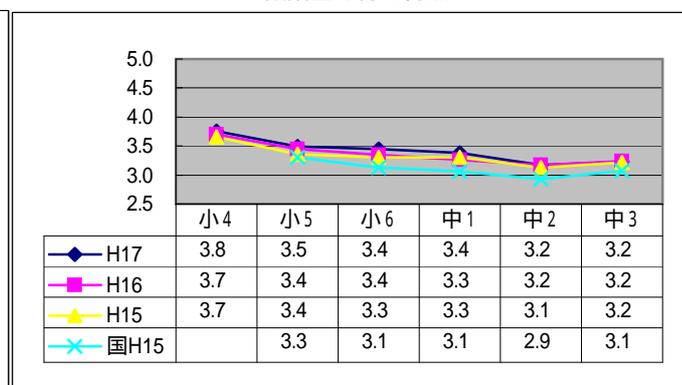
国語



「大好き」「好き」の児童生徒の割合



5段階重み付け得点

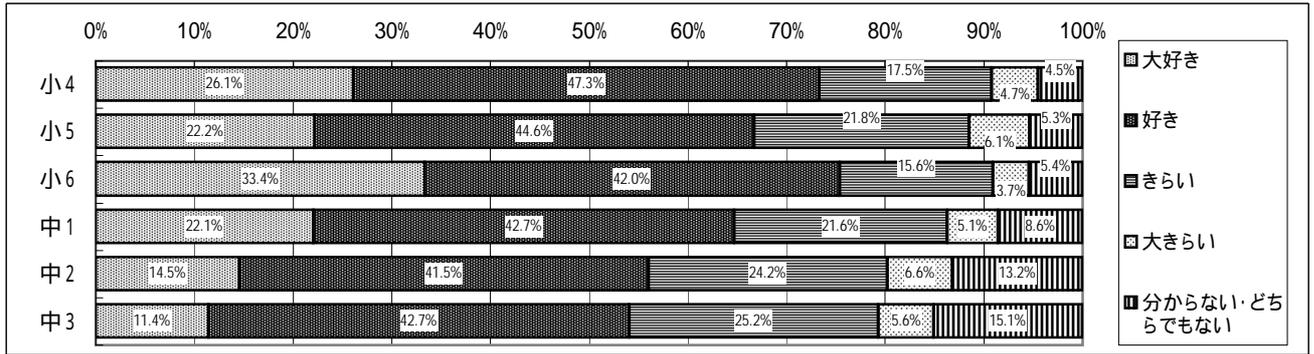


好きな理由・嫌いな理由

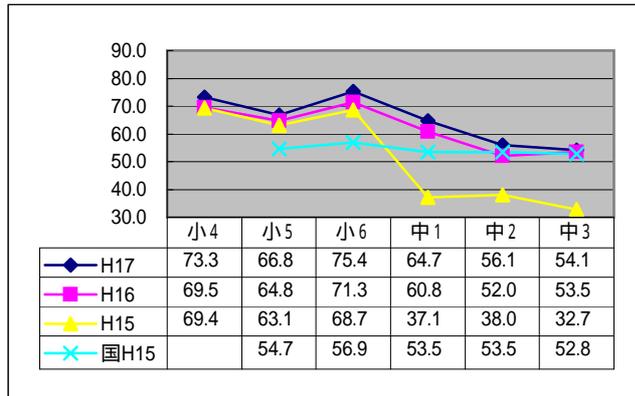
		小4	小5	小6	中1	中2	中3
好きな理由	楽しい	24.3%	17.8%	17.1%	20.5%	16.6%	19.3%
	わかりやすい	20.9%	16.5%	14.0%	12.9%	9.5%	9.6%
	将来のためになる	11.4%	13.0%	12.4%	10.4%	8.5%	7.4%
	生活の中で役立つ	8.2%	8.8%	11.3%	7.6%	8.6%	7.6%
	人とかかわりの中で役立つ				5.9%	6.2%	6.1%
	考えるのが好き	8.2%	8.2%	7.2%	5.0%	3.8%	4.2%
	得意	5.3%	5.5%	6.1%	5.3%	5.2%	7.1%
嫌いな理由	楽しくない	5.9%	7.9%	9.7%	9.2%	12.0%	9.7%
	わかりにくい	5.7%	7.3%	5.8%	5.5%	9.7%	10.2%
	将来のためにならない	0.1%	0.2%	0.2%	0.2%	0.3%	0.4%
	生活の中で役立つ	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%	0.3%	0.5%
	人とかかわりの中で役立つ				0.1%	0.1%	0.2%
	考えるのがめんどろ	1.9%	2.8%	3.2%	3.8%	4.7%	3.7%
	不得意	5.4%	9.0%	9.8%	10.4%	10.2%	10.8%
その他	2.7%	2.9%	3.2%	3.1%	4.3%	3.3%	

- ・ 昨年度との比較では、各学年で、「大好き」「好き」と答えた児童生徒の割合が高くなり、「大嫌い」「嫌い」と答えた割合が低くなった。しかし、「大好き」という児童生徒の割合は他教科に比べると低い。
- ・ 国の調査結果と比べると、「大好き」「好き」と答える児童生徒が中1まで国を上回っているが、中2・3では同程度である。
- ・ 好きな理由は、小・中ともに「楽しい」「わかりやすい」「将来のためになる」が多い。嫌いな理由は、「楽しくない」「不得意」「わかりにくい」が多い。

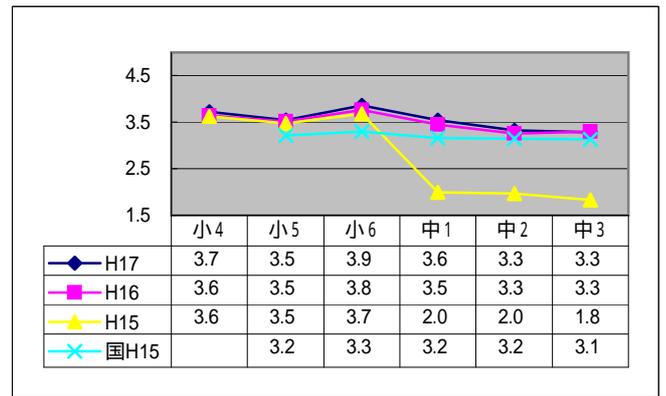
社会



「大好き」「好き」の児童生徒の割合



5段階重み付け得点

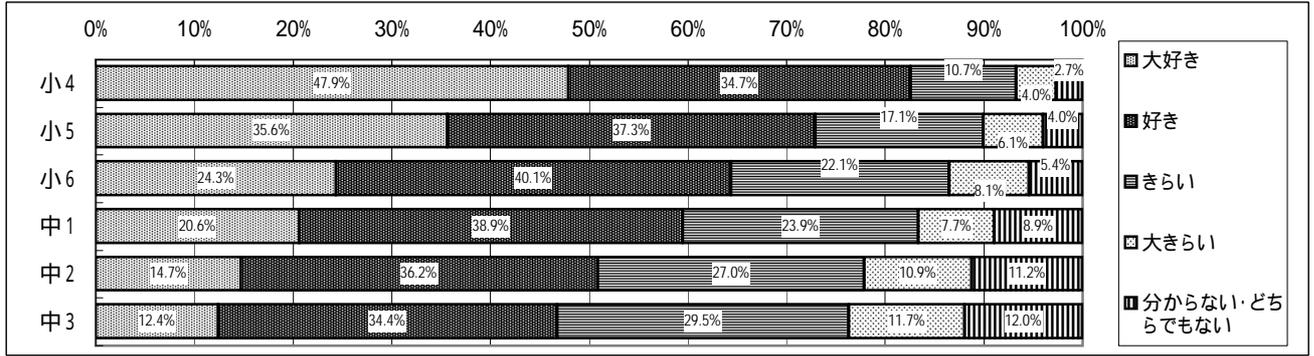


好きな理由・嫌いな理由

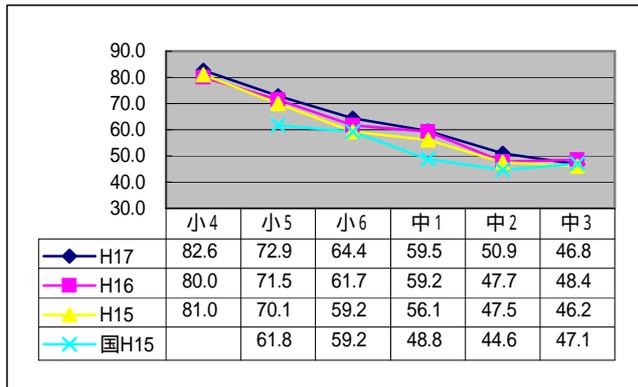
		小4	小5	小6	中1	中2	中3
好きな理由	楽しい	19.3%	17.3%	34.6%	32.3%	28.8%	22.7%
	わかりやすい	13.5%	12.1%	11.5%	11.9%	12.2%	12.2%
	将来のためになる	19.3%	20.7%	14.3%	8.6%	5.5%	8.9%
	生活の中で役立つ	16.4%	10.5%	4.5%	3.1%	2.4%	4.6%
	人とかかわりの中で役立つ				1.3%	1.0%	1.1%
	考えるのが好き	4.4%	5.4%	7.3%	5.1%	4.9%	4.2%
	得意	3.0%	3.9%	6.0%	6.8%	7.8%	7.9%
嫌いな理由	楽しくない	5.9%	7.1%	3.7%	4.0%	5.8%	6.7%
	わかりにくい	8.2%	9.5%	8.0%	10.1%	11.0%	9.8%
	将来のためにならない	0.3%	0.2%	0.4%	0.9%	2.3%	1.8%
	生活の中で役立たない	0.1%	0.3%	0.4%	0.6%	1.6%	1.5%
	人とかかわりの中で役立たない				0.2%	0.5%	0.3%
	考えるのがめんどろ	1.9%	2.6%	1.4%	1.5%	1.5%	1.4%
	不得意	5.4%	8.4%	5.5%	10.8%	11.0%	13.1%
その他	2.1%	2.1%	2.4%	2.9%	3.6%	3.9%	

- ・ 昨年度との比較では、各学年で、「大好き」「好き」と答えた児童生徒の割合が高くなり、「大嫌い」「嫌い」と答えた割合が低くなった。
- ・ 「大好き」「好き」と答えた児童生徒の割合が小6で最も高い(75.4%)。また、「大きらい」「きらい」は、この学年で最も少なくなっている(9.2%)。小6の学習内容と関連していると考えられる。
- ・ 国の調査結果と比べると、「大好き」「好き」と答えた児童生徒の割合が小5から中1まで国を大きく上回っている。「大きらい」「きらい」という児童生徒の割合は、各学年とも国の結果よりも10~30ポイント低い。
- ・ 好きな理由は、小・中ともに「楽しい」「わかりやすい」が多い。小学校では、「将来のためになる」が理由として多くあげられているが、中学校ではそれほど多くはない。嫌いな理由は、「わかりにくい」「不得意」が多い。特に、「不得意」を理由としてあげる傾向が、小4から中3と学年が進むにつれて高くなっている。

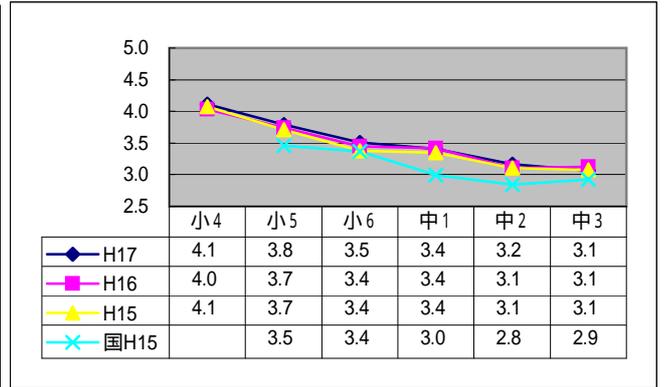
算数・数学



「大好き」「好き」の児童生徒の割合



5段階重み付け得点

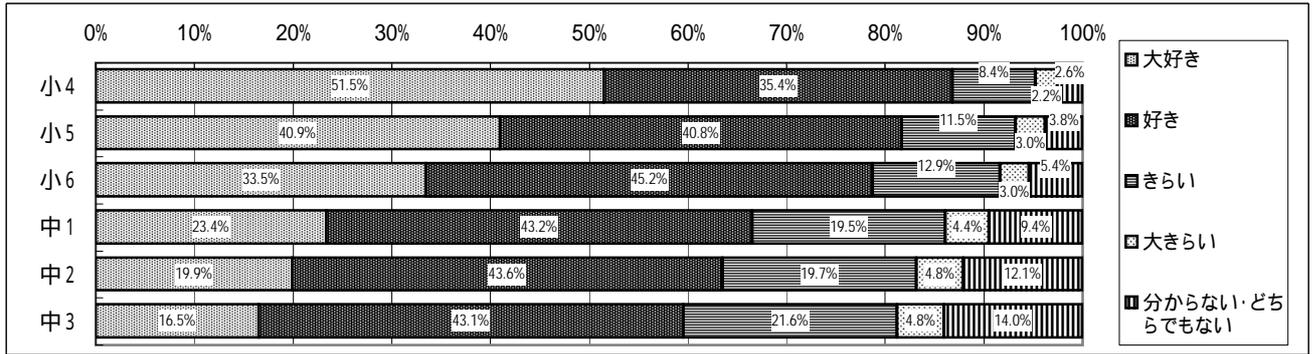


好きな理由・嫌いな理由

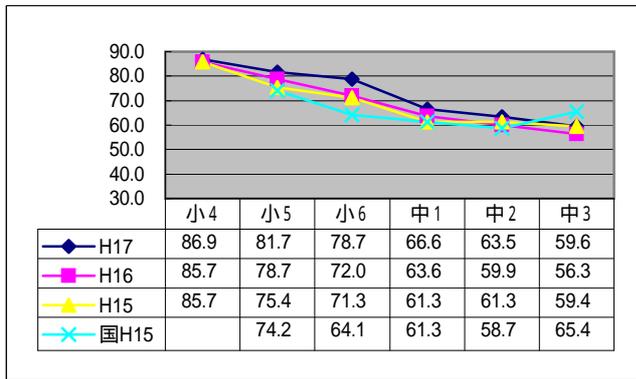
		小4	小5	小6	中1	中2	中3
好きな理由	楽しい	22.1%	16.7%	11.2%	11.9%	11.8%	11.5%
	わかりやすい	16.2%	13.7%	9.9%	12.0%	10.2%	9.0%
	将来のためになる	10.3%	10.4%	12.2%	9.8%	6.5%	5.4%
	生活の中で役立つ	8.9%	8.6%	10.8%	8.3%	5.4%	3.5%
	人とかかわりの中で役立つ				0.2%	0.2%	0.2%
	考えるのが好き	12.6%	12.9%	13.3%	12.6%	12.8%	14.4%
嫌いな理由	得意	14.1%	13.1%	9.9%	9.8%	9.2%	8.3%
	楽しくない	3.0%	4.7%	5.5%	5.0%	5.6%	5.3%
	わかりにくい	5.0%	6.5%	9.0%	9.8%	11.7%	12.0%
	将来のためにならない	0.1%	0.1%	0.2%	0.3%	0.9%	1.0%
	生活の中で役立たない	0.1%	0.1%	0.1%	0.2%	0.9%	1.7%
	人とかかわりの中で役立たない				0.3%	0.5%	0.7%
	考えるのがめんどろ	2.3%	4.2%	6.8%	5.9%	6.9%	6.7%
不得意	3.6%	7.2%	9.2%	11.9%	14.6%	17.9%	
その他	1.6%	1.8%	1.9%	1.9%	2.7%	2.3%	

- ・ 「大好き」「好き」と答えた児童生徒が小4では8割を超えているが、中3で5割を下回り、学年が進むにつれて数学好きが減る傾向にある。
- ・ 昨年度と比較すると、「大好き」「好き」と答えた児童生徒の割合が小4から中2で高くなっている。「大嫌い」「嫌い」と答えた割合は各学年とも低くなった。
- ・ 国の調査結果と比べると、「大好き」「好き」の割合が中2まで国を大きく上回っている。また、「大きらい」「きらい」の割合は、各学年とも国の結果よりも10～30ポイント低い。
- ・ 好きな理由は、小・中ともに「楽しい」「わかりやすい」「得意」が多い。「将来のためになる」「生活の中で役にたつ」は中学校にかけて減少傾向にある。嫌いな理由は、「わかりにくい」「不得意」が多い。特に、「不得意」を理由としてあげる傾向が、小4から中3へと高まっている。

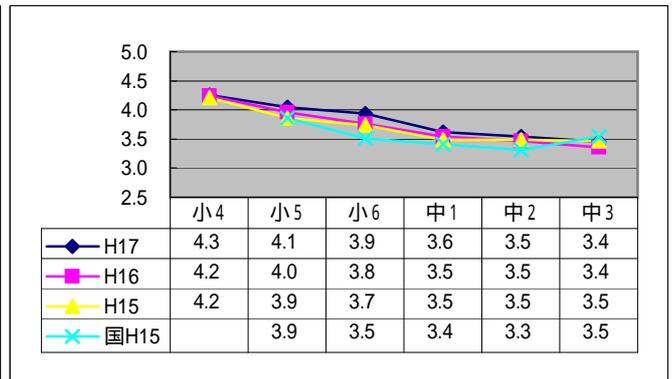
理科



「大好き」「好き」の児童生徒の割合



5段階重み付け得点

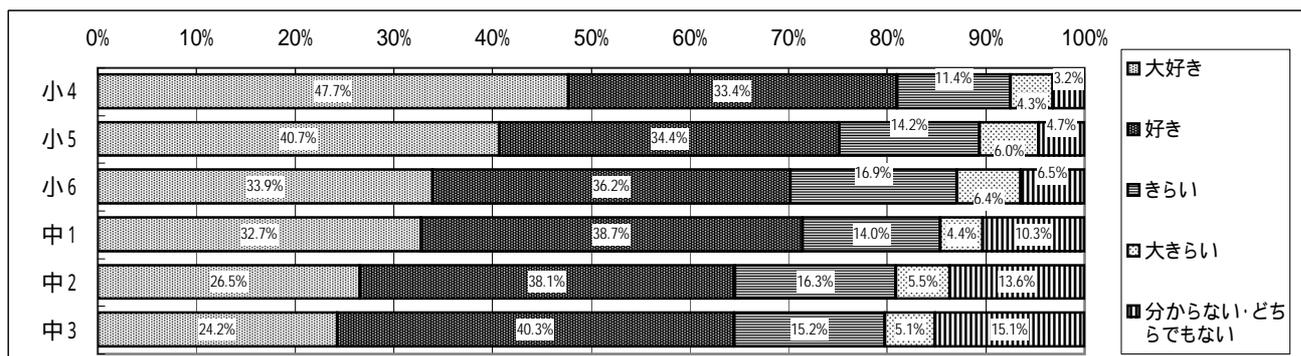


好きな理由・嫌いな理由

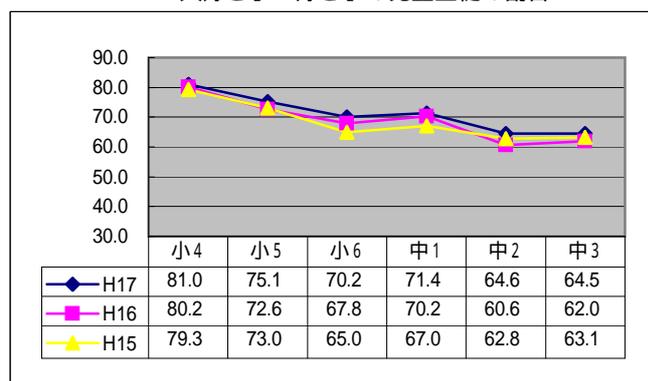
		小4	小5	小6	中1	中2	中3
好きな理由	楽しい	43.0%	40.4%	41.7%	35.7%	36.6%	31.9%
	わかりやすい	13.9%	13.2%	13.6%	12.7%	11.2%	12.3%
	将来のためになる	6.2%	5.2%	4.6%	3.7%	3.1%	2.4%
	生活の中で役立つ	7.4%	6.5%	5.5%	4.3%	3.9%	3.8%
	人とかかわりの中で役立つ				0.6%	0.3%	0.3%
	考えるのが好き	9.8%	10.7%	9.7%	8.0%	6.7%	7.1%
	得意	7.8%	7.4%	6.4%	6.8%	8.8%	10.2%
嫌いな理由	楽しくない	2.3%	3.9%	4.1%	4.3%	4.8%	4.7%
	わかりにくい	3.7%	4.1%	4.1%	7.9%	8.2%	9.1%
	将来のためにならない	0.3%	0.4%	0.8%	1.5%	2.1%	2.0%
	生活の中で役立つ	0.2%	0.3%	0.4%	0.8%	1.5%	1.7%
	人とかかわりの中で役立つ				0.4%	0.8%	0.6%
	考えるのがめんどろ	1.1%	1.2%	1.7%	1.8%	2.0%	2.3%
	不得意	2.8%	4.5%	4.9%	8.5%	7.0%	8.4%
その他	1.6%	2.2%	2.5%	3.0%	3.1%	3.3%	

- ・ 昨年度と比較すると、各学年で、「大好き」「好き」と答えた児童生徒の割合が高くなり、「大嫌い」「嫌い」の割合が低くなった。
- ・ 小4では5割以上の児童が「大好き」と答えるなど、5教科の中では好きと答える児童生徒の多い教科である。「大好き」「好き」と答える割合が、小6から中1にかけて大きく減少しており課題である。
- ・ 国の調査結果と比べると、「大好き」「好き」と答える児童生徒が中2まで国を大きく上回っているが、中3では反対に国を下回る。また、「大きらい」「きれい」の割合は、各学年とも国の結果よりも10～25ポイント低い。
- ・ 好きな理由は、小・中を通して「楽しい」が圧倒的に多い。「将来のためになる」「生活の中で役に立つ」はそれほど多くない。嫌いな理由として、「わかりにくい」「不得意」が小4から中3にかけて増加している。

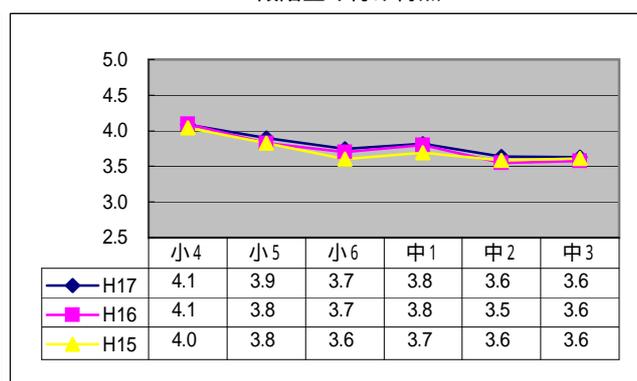
音楽



「大好き」「好き」の児童生徒の割合



5段階重み付け得点

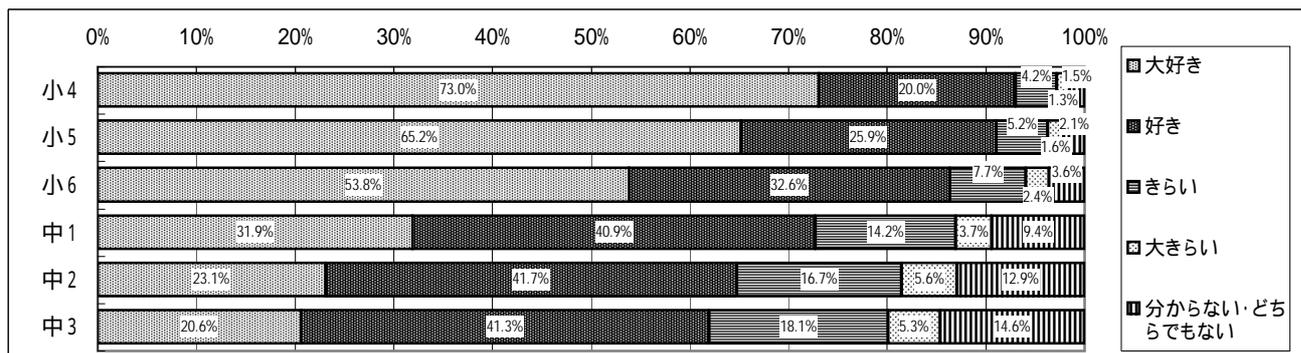


好きな理由・嫌いな理由

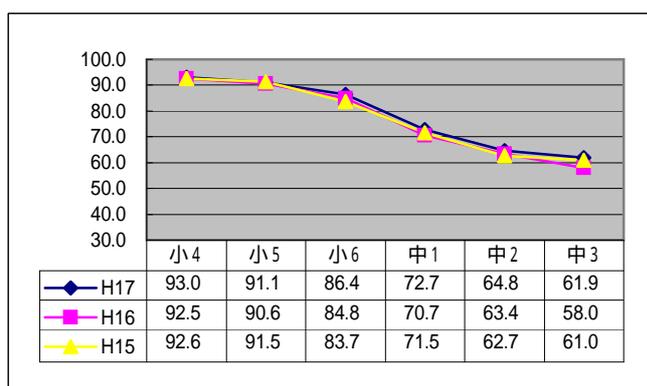
		小4	小5	小6	中1	中2	中3
好きな理由	楽しい	52.9%	51.4%	52.3%	59.8%	58.5%	61.1%
	わかりやすい	10.2%	7.9%	6.1%	4.0%	2.7%	2.1%
	将来のためになる	3.2%	2.4%	1.8%	1.5%	1.4%	1.3%
	生活の中で役立つ	1.8%	1.4%	1.0%	0.7%	0.8%	1.3%
	人とかかわりの中で役立つ				1.3%	1.2%	1.2%
	考えるのが好き	2.4%	1.3%	0.8%	0.5%	0.6%	0.5%
	得意	12.2%	13.0%	11.4%	9.9%	7.6%	6.2%
嫌いな理由	楽しくない	3.8%	4.2%	5.2%	4.7%	7.1%	7.4%
	わかりにくい	3.6%	3.6%	2.9%	1.5%	1.2%	0.8%
	将来のためにならない	0.8%	2.1%	2.6%	3.2%	4.4%	4.3%
	生活の中で役立たない	0.6%	1.1%	1.4%	1.8%	2.5%	1.9%
	人とかかわりの中で役立たない				0.3%	0.5%	0.3%
	考えるのがめんどろ	0.3%	0.4%	0.4%	0.2%	0.3%	0.3%
	不得意	5.9%	8.4%	10.8%	7.3%	7.0%	6.8%
その他	2.2%	2.8%	3.2%	3.1%	4.1%	4.5%	

- ・ 昨年度と比較すると、各学年で、「大好き」「好き」と答えた児童生徒の割合が高くなり、「大嫌い」「嫌い」の割合が低くなった。
- ・ 「大好き」「好き」と答える児童生徒の変化が小4から中3にかけて小さいのが特徴である。
- ・ 好きな理由は、小・中ともに「楽しい」が突出している。中3では「得意」が約6%であるのに対し、「楽しい」は60%超である。嫌いな理由としては、「楽しくない」「不得意」が多い。音楽嫌いを減らすためには、楽しい授業を行うとともに児童生徒に自信をもたせることが大切であるといえよう。

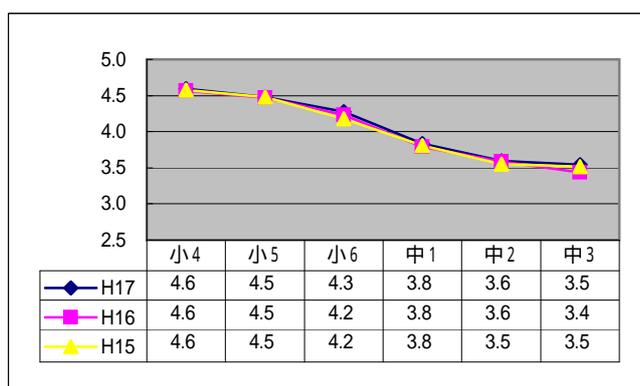
図画工作、美術



「大好き」「好き」の児童生徒の割合



5段階重み付け得点

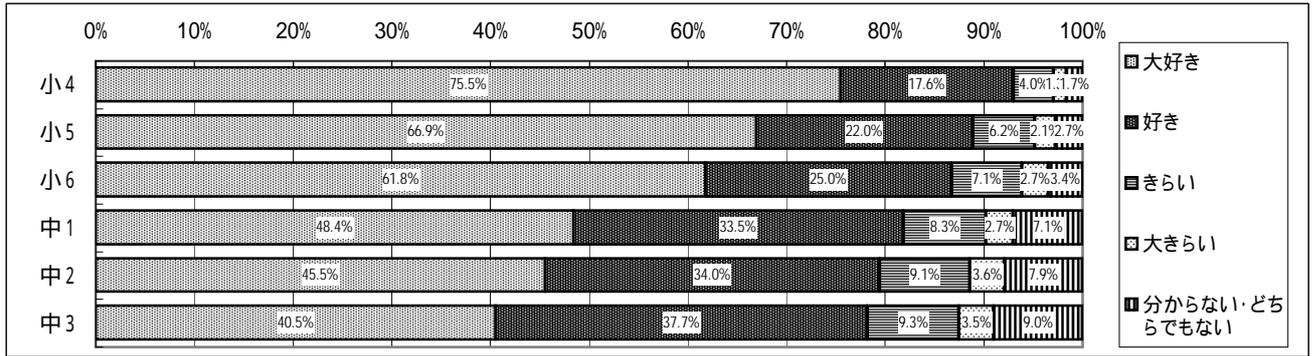


好きな理由・嫌いな理由

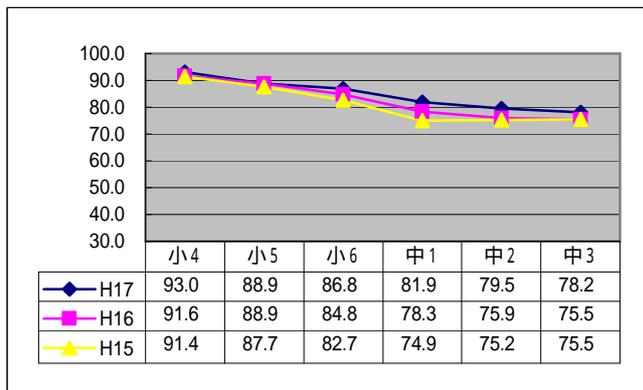
		小4	小5	小6	中1	中2	中3
好きな理由	楽しい	63.8%	65.8%	66.0%	57.9%	56.0%	55.7%
	わかりやすい	3.9%	3.0%	2.4%	4.2%	2.5%	2.2%
	将来のためになる	2.8%	2.3%	1.9%	2.1%	1.7%	1.6%
	生活の中で役立つ	3.1%	3.1%	2.8%	2.4%	1.4%	1.2%
	人とかかわりの中で役立つ				0.5%	0.6%	0.4%
	考えるのが好き	6.8%	5.7%	5.1%	3.7%	3.1%	3.1%
	得意	13.1%	12.2%	10.0%	7.7%	6.9%	6.2%
嫌いな理由	楽しくない	1.2%	1.2%	2.2%	4.8%	6.0%	6.5%
	わかりにくい	0.5%	0.4%	0.3%	0.7%	0.7%	0.7%
	将来のためにならない	0.3%	0.5%	1.0%	2.1%	3.9%	4.3%
	生活の中で役立たない	0.2%	0.3%	0.5%	1.5%	2.2%	2.1%
	人とかかわりの中で役立たない				0.2%	0.6%	0.7%
	考えるのがめんどろ	0.6%	0.7%	0.8%	0.6%	1.3%	1.8%
	不得意	2.4%	3.4%	4.8%	8.4%	9.0%	9.7%
その他	1.2%	1.3%	2.1%	3.2%	4.1%	3.6%	

- ・ 経年比較では、「大好き」「好き」の割合は、各学年とも昨年度とほぼ同じである。「大きらい」「きれい」と答えた児童生徒の割合は、各学年とも昨年度より低くなっている。
- ・ 「大好き」「好き」と答える児童生徒が小4・5の段階では9割を超えているが、その後は学年を追って大きく減少する。特に、中学生になってからの減少傾向が著しい。
- ・ 好きな理由は、小・中ともに「楽しい」が圧倒的に多い。特に、中3では「得意」が6%であるのに対し、「楽しい」という理由が55.7%である。嫌いな理由は、「不得意」が多い。

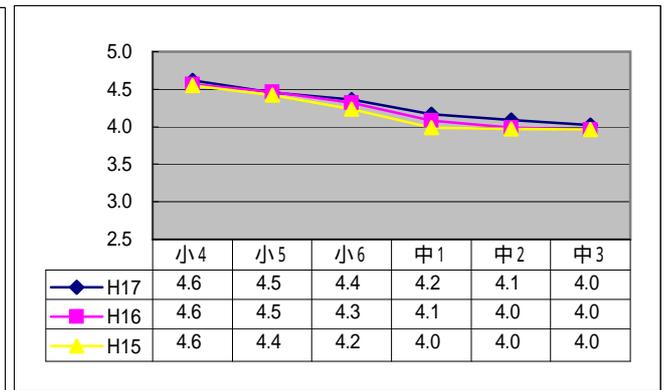
体育、保健体育



「大好き」「好き」の児童生徒の割合



5段階重み付け得点

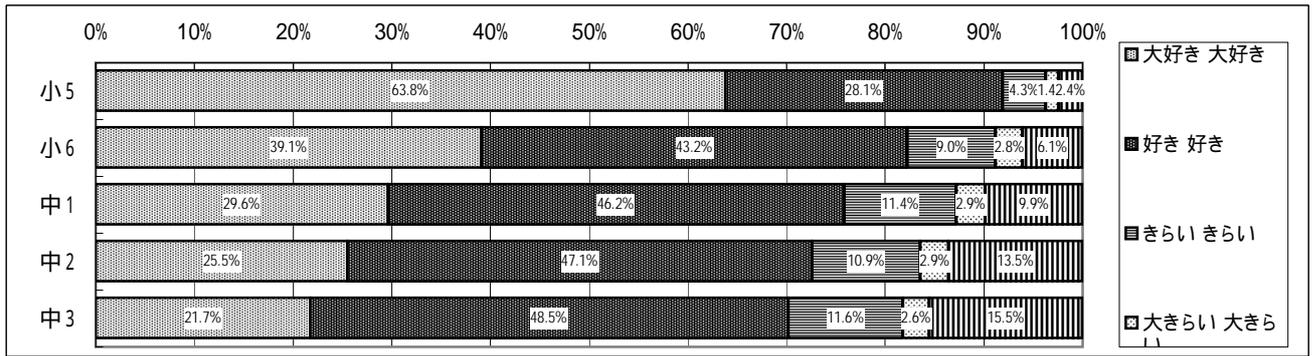


好きな理由・嫌いな理由

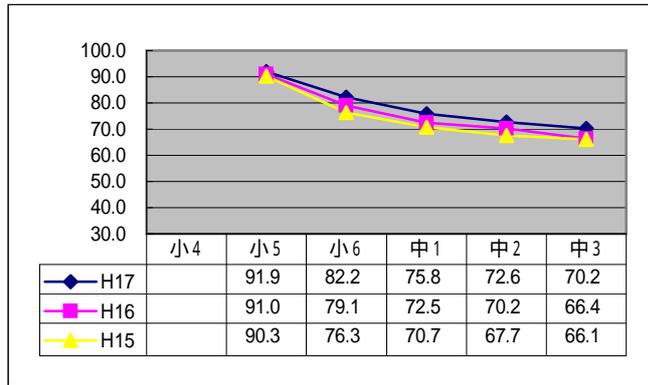
		小4	小5	小6	中1	中2	中3
好きな理由	楽しい	59.3%	57.0%	60.8%	60.3%	63.9%	67.9%
	わかりやすい	3.6%	2.2%	1.3%	1.4%	1.2%	0.9%
	将来のためになる	5.9%	5.9%	4.1%	3.9%	2.6%	2.2%
	生活の中で役立つ	3.8%	2.9%	2.0%	3.2%	2.6%	2.7%
	人とのかかわりの中で役立つ				1.1%	1.2%	0.9%
嫌いな理由	考えのが好き	0.8%	0.4%	0.2%	0.2%	0.1%	0.0%
	得意	20.3%	21.6%	20.1%	16.2%	13.1%	9.9%
	楽しくない	1.2%	1.4%	1.6%	2.2%	2.7%	3.5%
	わかりにくい	0.2%	0.2%	0.1%	0.4%	0.2%	0.2%
	将来のためにならない	0.1%	0.2%	0.4%	0.5%	0.8%	0.8%
その他	生活の中で役立たない	0.1%	0.2%	0.1%	0.3%	0.3%	0.4%
	人とのかかわりの中で役立たない				0.2%	0.2%	0.3%
	考えのがめんどう	0.0%	0.1%	0.1%	0.2%	0.1%	0.3%
	不得意	3.2%	6.0%	6.9%	7.1%	8.2%	7.3%
	その他	1.4%	1.8%	2.1%	2.7%	2.8%	2.8%

- ・ 昨年度と比較すると、「大好き」「好き」と答える児童生徒の割合が各学年で増加し、「大嫌い」「嫌い」と答える割合が低下している。
- ・ 「大好き」「好き」と答える児童生徒が小4で9割、中3でも約8割であり、学年が進行してもこの数値が下がらないのが特徴である。
- ・ 好きな理由は、小・中ともに「楽しい」が多く、中3では7割近くをしめる。小学校では「得意」であるからという理由が高い（約2割）が、中学校になるにつれてその数値は低下してくる。
- ・ 嫌いな理由としては、中学生になると「不得意」が多い。体育嫌いをつくらないためには、体育への自信をもたせてあげることが大切である。

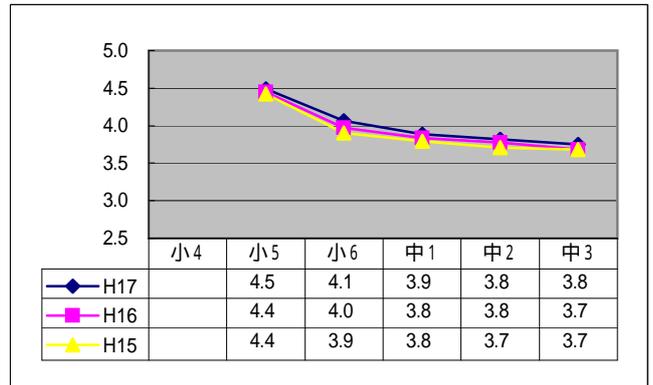
家庭、技術・家庭



「大好き」「好き」の児童生徒の割合



5段階重み付け得点

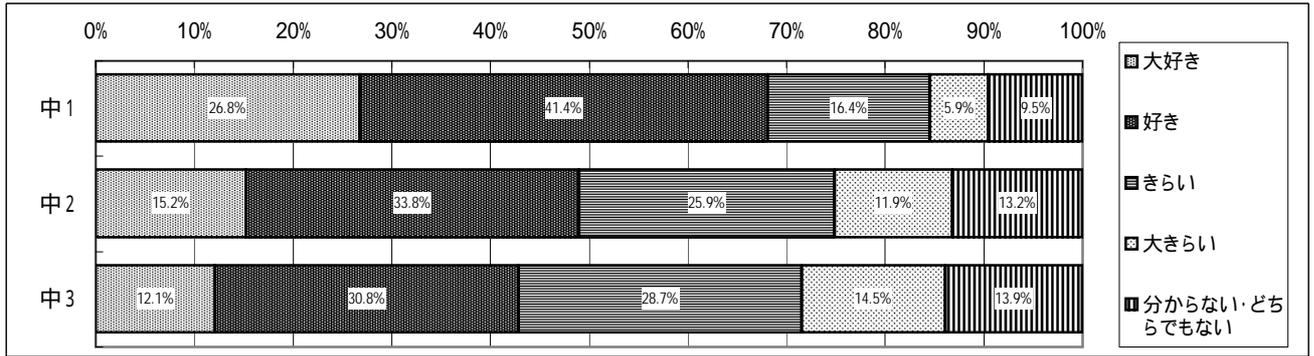


好きな理由・嫌いな理由

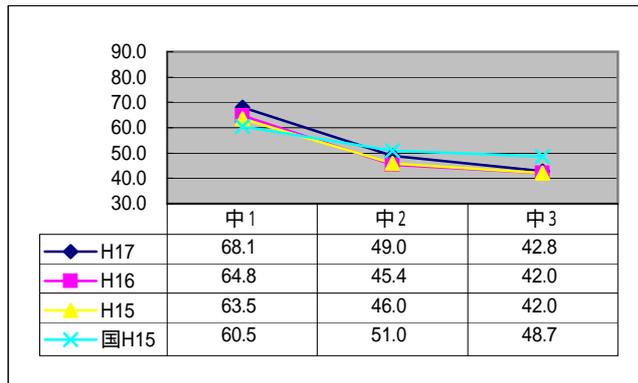
		小4	小5	小6	中1	中2	中3
好きな理由	楽しい		34.4%	23.6%	31.8%	37.5%	39.1%
	わかりやすい		4.3%	3.8%	4.6%	3.2%	2.6%
	将来のためになる		17.7%	20.8%	15.8%	14.5%	14.8%
	生活の中で役立つ		28.8%	32.6%	23.7%	21.0%	19.3%
	人とかかわりの中で役立つ				0.8%	0.7%	1.2%
嫌いな理由	考えのが好き		1.0%	0.7%	1.3%	0.8%	0.9%
	得意		7.3%	5.3%	4.8%	4.8%	4.1%
	楽しくない		1.4%	3.6%	4.8%	5.5%	6.4%
	わかりにくい		1.1%	1.7%	2.9%	1.9%	1.9%
	将来のためにならない		0.2%	0.3%	0.5%	0.7%	0.6%
その他	生活の中で役立つ		0.1%	0.2%	0.3%	0.4%	0.5%
	人とかかわりの中で役立つ				0.3%	0.4%	0.3%
	考えのがめんどろ		0.3%	0.6%	1.0%	1.0%	1.1%
	不得意		2.4%	4.8%	4.9%	4.6%	4.1%
	その他		1.0%	2.0%	2.6%	2.9%	3.2%

- ・ 昨年度と比較すると、各学年で「大好き」「好き」と答える児童生徒の割合が大きく増加し、「大嫌い」「嫌い」と答える割合が低下している。特に、中1～3にかけては昨年度に比べ、大いに改善されてきており、中3では「大好き」「好き」と答える生徒の割合が7割を超えてきた。
- ・ 「大好き」「好き」と答える児童生徒が小4で9割、中3でも約7割であり、学年が進行してもこの数値が下がらないのが特徴である。
- ・ 好きな理由は、小・中ともに「楽しい」が最も多く、「生活の中で役立つ」「将来のためになる」がこれに続く。嫌いな理由は、「楽しくない」が学年を追って増加するが、中3においてもわずか6.4%であり、特定の理由を見いだすことはできない。

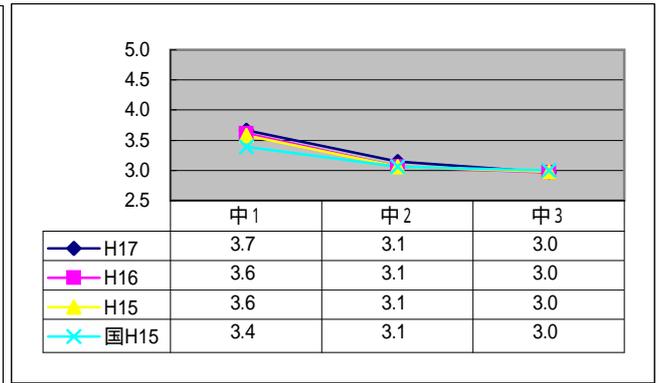
外国語



「大好き」「好き」の児童生徒の割合



5段階重み付け得点

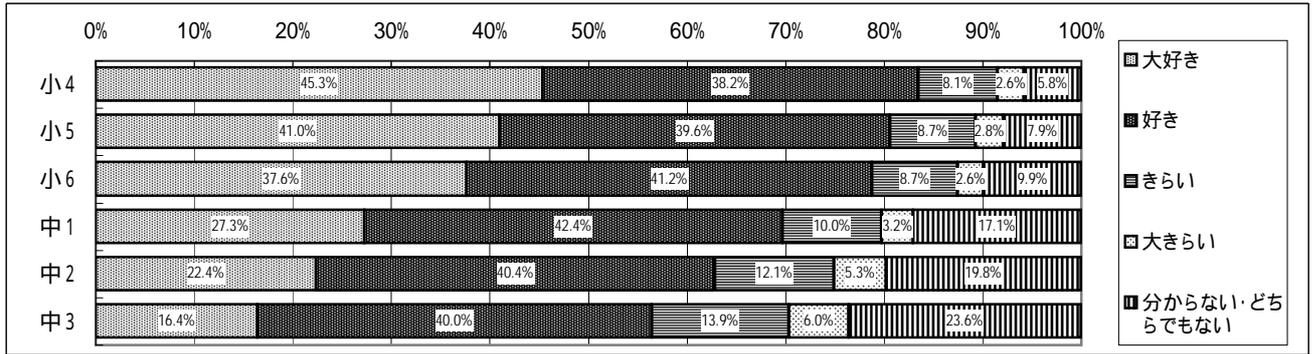


好きな理由・嫌いな理由

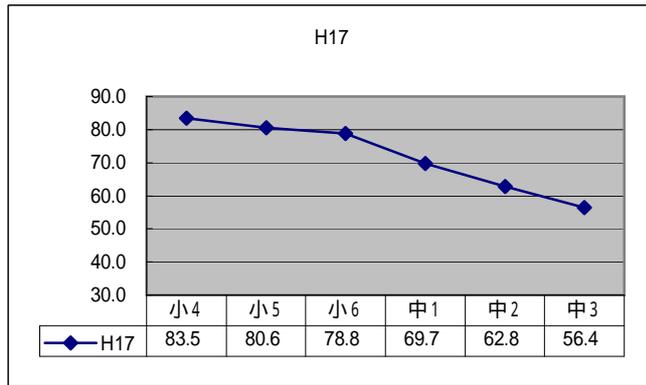
		小4	小5	小6	中1	中2	中3
好きな理由	楽しい				21.9%	13.0%	10.6%
	わかりやすい				6.6%	5.1%	4.0%
	将来のためになる				26.1%	21.4%	19.4%
	生活の中で役立つ				4.2%	2.8%	2.7%
	人とかかわりの中で役立つ				8.2%	6.0%	5.2%
嫌いな理由	考えるのが好き				1.5%	1.4%	1.5%
	得意				5.9%	5.8%	5.8%
	楽しくない				3.1%	5.8%	5.6%
	わかりにくい				8.8%	15.2%	15.2%
	将来のためにならない				0.7%	1.6%	1.8%
その他	生活の中で役立たない				0.9%	1.7%	1.9%
	人とかかわりの中で役立たない				0.2%	0.3%	0.3%
	考えるのがめんどろ				0.8%	2.1%	2.7%
	不得意				8.8%	14.6%	20.6%
	その他				2.3%	3.2%	2.9%

- ・ 昨年度と比較すると、各学年で「大好き」「好き」と答える児童生徒の割合が各学年で高くなり、反対に「大嫌い」「嫌い」と答える割合が低くなっている。中1で68.1%であるのに対し、中2では49.0%と落ち込みが大きく、中1から中2にかけての英語学習への意欲を持続させるための指導の工夫改善が必要である。
- ・ 国の調査結果と比べると、「大好き」「好き」と答える児童生徒が中1では国を上回るが、中2・3では下回る。「大嫌い」「嫌い」は各学年で国の数値を約20ポイント下回っており良好である。
- ・ 好きな理由は、「将来のためになる」「楽しい」の順に多い。しかし、「楽しい」を理由にあげる生徒は、中1から中2にかけて10ポイント減少しており、楽しいだけでは英語好きにならないことが読み取れる。嫌いな理由は、「不得意」「わかりにく」が多く、英語嫌いをつくらないためには、分かる授業の実現が大切である。

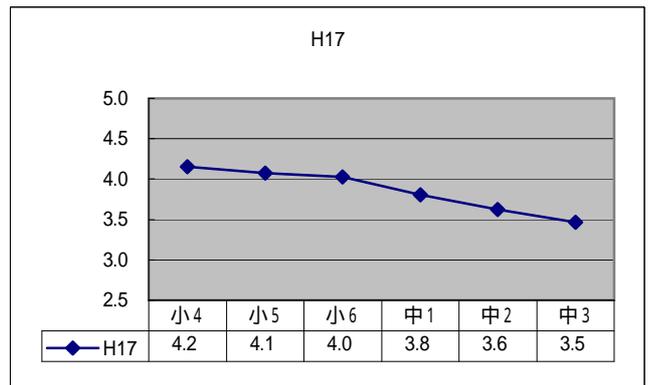
総合的な学習の時間



「大好き」「好き」の児童生徒の割合



5段階重み付け得点



好きな理由・嫌いな理由

		小4	小5	小6	中1	中2	中3
好きな理由	楽しい	36.4%	40.0%	44.2%	37.6%	37.2%	35.6%
	わかりやすい	12.7%	9.2%	6.4%	2.8%	2.1%	1.5%
	将来のためになる	12.4%	11.1%	13.4%	12.6%	14.8%	13.7%
	生活の中で役立つ	9.4%	9.5%	8.5%	7.1%	4.6%	4.7%
	人とかかわりの中で役立つ				14.5%	12.3%	11.7%
	考えるのが好き	10.5%	10.9%	8.7%	5.1%	3.6%	3.5%
嫌いな理由	得意	5.1%	4.1%	3.1%	1.4%	0.9%	0.8%
	楽しくない	3.3%	4.1%	4.2%	5.6%	7.5%	8.6%
	わかりにくい	2.5%	2.1%	1.3%	1.0%	0.9%	1.1%
	将来のためにならない	0.3%	0.4%	0.5%	0.9%	1.5%	1.9%
	生活の中で役立つ	0.2%	0.3%	0.5%	0.5%	1.1%	1.6%
	人とかかわりの中で役立つ				0.2%	0.4%	0.4%
その他	考えるのがめんどろ	1.6%	1.8%	2.4%	3.5%	5.4%	6.3%
	不得意	2.2%	2.5%	2.3%	2.1%	1.6%	1.9%
	その他	3.3%	3.9%	4.6%	5.0%	6.1%	6.6%

- ・ 「大好き」「好き」と答えた児童生徒の割合は、小4～6では8割程度いるが、中学校に進むと学年を追ってその数値が大きく低下する。その低下の状況を調べると、小4から中3にかけて、「好き」の数値に大きな差はないが、「大好き」が大幅に落ち込んでいることがわかる。
- ・ 好きな理由としては、小・中ともに「楽しい」が最も多く、「将来のためになる」が続く。小学校では、「わかりやすい」「生活の中で役に立つ」も多くあげられているが、中学校では少ない。
- ・ 嫌いな理由は、「楽しくない」「考えるのがめんどろ」が学年を追って増加する。中学校では、生徒自らが課題意識をもって、意欲的に取り組むことのできる総合的な学習の時間の実施が望まれる。

4 各学年の状況

- 1 各教科の評価規準
- 2 小問別通過率
- 3 小問別反応率
- 4 平均通過率累計
- 5 平均通過率度数分布
- 6 調査結果及び考察

小 学 校 第 4 学 年
国 語

1 小学校4年国語 評価規準と評価の観点

領域	指導事項	評価規準	通し番号	観点		
				書くこと	読むこと	言語事項
書くこと	ア	・学級でスピーチをするために、適切に文章を書いている。	10)	○		
	エ	・書こうとすることの中心を明確にして分かりやすく書いている。		○		
読むこと	ウ	・叙述を基に想像しながら文章を読み、情景をとらえている。	9)		○	
		・叙述を基に想像しながら文章を読み、内容をとらえている。	6)		○	
			8)		○	
	オ	・細部に注意しながら文章を読み、物語の展開上、大切なところをとらえている。	7)		○	
言語事項	(1)イ(ア)	・第3学年までに配当されている漢字を文や文章の中で正しく読んでいる。	1)			○
		・第3学年までに配当されている漢字について、正しく読んでいる。	2)			○
		・第3学年までに配当されている漢字について、文や文章の中で正しく書いている。	3)			○
		4)			○	
	(1)エ(ア)	・主語になる語句と述語になる語句の関係を正しく理解している。	5)			○

通し番号	出題内容	通過率 (%)	設定通過率 (%)	0 % 100
(1)	読み (ととのった)	86.6%	80.0%	
(2)	読み (ぶつ、もつ) (選択肢)	78.0%	70.0%	
(3)	書き (着いた)	72.0%	65.0%	
(4)	書き (研究)	82.2%	75.0%	
(5)	主語・述語の関係 (選択肢)	74.9%	70.0%	
(6)	内容の理解 (選択肢)	77.8%	75.0%	
(7)	内容の理解 (抜き出し)	74.1%	70.0%	
(8)	内容の理解 (抜き出し)	68.8%	70.0%	
(9)	内容の理解 (選択肢)	75.8%	65.0%	
(10)	学級でスピーチをするための原稿を書くこと	80.0%	70.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

小学校4年 国語

3 小問別反応率

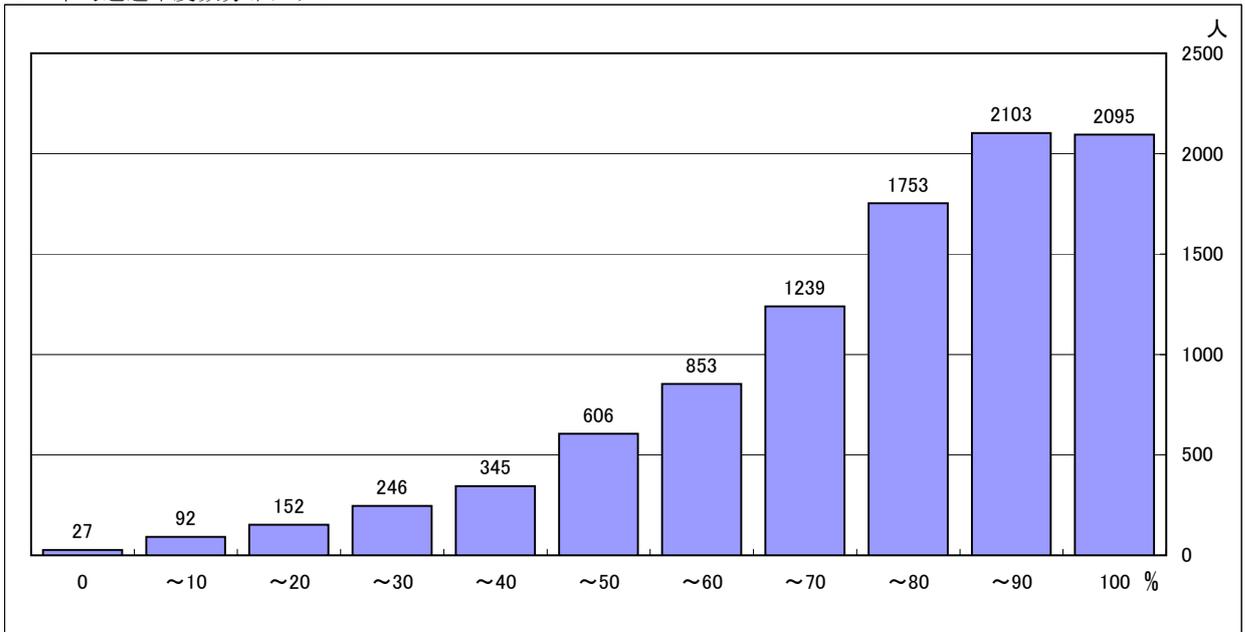
通し番号	1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
(1)	86.6%	11.2%	2.2%	0.0%
(2)	78.0%	21.6%	0.4%	0.0%
(3)	72.0%	24.7%	3.3%	0.0%
(4)	82.2%	15.1%	2.7%	0.0%
(5)	74.9%	24.8%	0.4%	0.0%
(6)	77.8%	21.9%	0.3%	0.0%
(7)	74.1%	22.0%	3.8%	0.0%
(8)	68.8%	29.3%	1.8%	0.0%
(9)	75.8%	23.7%	0.5%	0.0%
(10)	80.0%	19.3%	0.8%	0.0%

4 平均通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	2	2	2095	2095
~90	28	30	2103	4198
~80	99	129	1753	5951
~70	120	249	1239	7190
~60	33	282	853	8043
~50	7	289	606	8649
~40	3	292	345	8994
~30	1	293	246	9240
~20	0	293	152	9392
~10	0	293	92	9484
0	0	293	27	9511

※4 (未履修) を除いた解答類型1～3の合計を分母として通過率を算出

5 平均通過率度数分布グラフ



6 小学校4年 国語科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

① 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別		
		書くこと	読むこと	言語事項
問題数	10	1	4	5
+10%以上	2	1	1	0
±10%内	8	0	3	5
-10%以下	0	0	0	0

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度であるものの合計は、10問中10問である。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「書くこと」の1問は上回っている。「読むこと」は4問すべてが上回っているか同程度である。「言語事項」は、5問すべてが同程度である。
- ・未記入率が他の小問と比べ比較的高かった問題は、「言語事項」の3)と「読むこと」の7)である。
- ・過去に実施した本県学習状況調査と類似する問題の通過率の比較では、5問中4問が上回っている。下回った1問も、設定通過率よりは上回っている。

② 小問別通過率度数分布

以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	平均通過率
100%	16	1	4	9	9	0	3	1	2	9	0
95~100%	27	7	9	11	9	1	4	3	2	19	0
90~95%	36	15	23	30	16	12	14	12	7	22	6
85~90%	31	25	10	35	19	19	13	16	15	21	17
80~85%	19	29	17	29	17	31	15	14	27	24	36
75~80%	18	30	19	16	21	45	32	17	43	19	54
70~75%	6	24	15	15	21	23	31	19	23	21	29
65~70%	5	20	21	9	16	22	21	16	23	10	12
60~65%	3	6	12	6	11	9	19	20	13	9	8
55~60%	1	4	9	0	7	2	7	18	5	5	2
50~55%	0	1	8	2	7	0	4	15	4	4	0
45~50%	0	2	4	0	1	0	1	10	0	1	0
40~45%	1	0	2	1	5	0	0	2	0	0	0
35~40%	0	0	4	1	2	0	0	1	0	0	0
30~35%	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
25~30%	1	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0
20~25%	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
15~20%	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
10~15%	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
5~10%	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
0~5%	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	164	164	164	164	164	164	164	164	164	164	164

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、9) 10) の2問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、該当するものがなかった。
- ・各校における通過率の開きが大きい問題は、1) 3) 4) 5) 8) の5問である。

③ 教科の好き嫌い(学習への意欲等に関する質問紙調査項目)の傾向

- ・「大好き」「好き」の割合は、76.2%、「きらい」「大きらい」は19.6%であった。昨年度の4年生(「大好き」「好き」73.3%、「きらい」「大きらい」20.3%)と比較して、「大好き」「好き」が、2.9%の増加、「きらい」「大きらい」が0.7%の減少となっている。
- ・好きな理由は「楽しい」(24.3%)が最も多く、「わかりやすい」(20.9%)「将来のためになる」(11.4%)がそれに続いている。きらいな理由は「楽しくない」(5.9%)「わかりにくい」(5.7%)「不得意」(5.4%)が多いがいずれも5%台にとどまっている。

(2) 考察

① 全体について

ア 小学校4年生の学習の実現状況はおおむね良好といえる。

- ・10問中10問が、設定通過率を上回っているか同程度である。昨年度大きく下回った「言語事項」の主語と述語の関係を判断する問題においても、74.9%の通過率であり、改善が見られる。

② 成果

ア 「読むこと」において、叙述に即して想像しながら読み、情景をとらえることについては良好である。

- ・時系列にそった正確な読みが必要となる9)においては、設定通過率を10.8ポイント上回っており、指導の成果がうかがえる。

イ 「書くこと」については、目的意識や相手意識を明確にして書くことが良好である。

- ・10)は設定通過率を10.0ポイント上回り、スピーチ原稿など発達段階に即した学習活動を取り入れている成果ではないかと考えられる。

ウ 「言語事項」においては、漢字の読み、書きともに定着が見られる。

- ・各設問とも設定通過率を上回っている。
- ・2)は、新傾向の問題であったが、通過率78.0%と良好であり、複数の読みをもつ漢字の指導は今後も充実を期したい。

③ 課題

ア 「読むこと」については、読み取ったことを場面や目的に応じて表現する力を育てるよう指導の改善を図る必要がある。

- ・8)の通過率は、68.8%で、設定通過率を1.2%下回っている。読み取ったことを文意に応じて書く設問であり、抜き出しだけではない力が必要とされる。

イ 言葉に着目しながら細やかに文章を読み取るなど、確かな読みの力を育てる指導に力を入れる必要がある。

- ・7)は、文章中の言葉に注意して読むことが必要とされる設問で、未記入率が高い。

ウ 「言語事項」の漢字の「書き」に関する指導については、文章の中で正しく書く指導に力を入れる必要がある。

- ・3)「着いた」は、昨年度と同様の漢字であるが、昨年度の「広場に着く」から、今年度の「席に着く」と使用場面が変わっただけで、未記入率が高くなっている。

(3) 今後の指導

- ・「読むこと」の指導については、「何のために読むのか」という目的意識を高めるとともに、多様な言語活動を取り入れ、読み取ったことを、場面や目的に応じて工夫して表現する学習活動を取り入れることが大切である。読みの過程においては、中心人物の内面やその変化、状況などが表れている言葉に注目して読む、書くことで立ち止まって考える、複数の友達の発表を聞き、自分の読みと比較してその違いをとらえる、といった活動を設定し、確かな読みの力を育てたい。

- ・「書くこと」については、相手意識、目的意識を明確にした指導の一層の充実を目指したい。特に、中学年の指導として、学習指導要領の言語活動例等を参考に、多様な文体に触れる機会を設けるなどして、目的に応じた文体を意識できるようにし、年間を通じて計画的に指導するようにしたい。

- ・「言語事項」の漢字や語句の指導については、反復練習などのドリル的な学習に終始するだけでなく、実際の文章の中で使い慣れるような次のような点に配慮することが大切である。

○日常の学習の中で意図的に漢字や語句を書く活動を取り入れていく。(例えば、新聞を書く時でも、相手意識をもたせることで、漢字を使おうとする意識を高める。)

○楽しく豊かに漢字や語句を覚える学習を工夫する。(例えば、帯单元的に季節の言葉を集め、文章を書く際に活用する。)

○国語科全体を見直して、漢字や語句の指導に割く時間を確保する。(例えば辞書を用いて発展的な学習を行うなど学習展開を工夫する。)

小 学 校 第 5 学 年
国 語

1 小学校5年国語 評価規準と評価の観点

領域	指導事項	評価規準	通し番号	観 点		
				書くこと	読むこと	言語事項
書くこと	ア	・相手や目的を意識して文章を書いている。	10)	○		
	イ	・書く必要のある事柄を収集したり選択したりして書いている。		○		
読むこと	イ	・文と文との意味のつながりを考えながら読み、中心となる語や文をとらえている。	7)		○	
		・段落相互の関係を正しくとらえている。	8)		○	
	オ	・目的に応じて中心をおさえながら読み、内容を大きくまとめている。	9)		○	
言語事項	(1)イ(ア)	・第4学年までに配当されている漢字について正しく読んでいる。	1)			○
		・第4学年までに配当されている漢字について、文脈に即して正しく書いている。	2)			○
		・第4学年までに配当されている漢字について、文脈に即して正しく書いている。	3)			○
		・第4学年までに配当されている漢字について、文脈に即して正しく使っている。	6)			○
	(1)エ(イ)	・国語辞典を利用して調べる方法を理解している。	4)			○
	(1)オ(ウ)	・接続語の使われ方をもとに、文と文との意味のつながりを適切にとらえている。	5)			○

通し 番号	出題内容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0	100
(1)	読み（ぎょう、こう）（選択肢）	82.4%	85.0%		
(2)	書き（晴天）	52.9%	70.0%		
(3)	書き（相談）	84.6%	85.0%		
(4)	国語辞典の活用	88.5%	80.0%		
(5)	接続語	66.0%	70.0%		
(6)	書き（始める）（記述）	78.2%	70.0%		
(7)	内容の理解（抜き出し）	90.9%	85.0%		
(8)	段落構成の理解（選択肢）	78.9%	70.0%		
(9)	内容の理解（抜き出し）	73.5%	70.0%		
(10)	読書週間に向けて、学年新聞に掲載する 図書紹介の文章を書くこと	74.2%	65.0%		

※  は設定通過率±10%を示している。

小学校5年 国語

3 小問別反応率

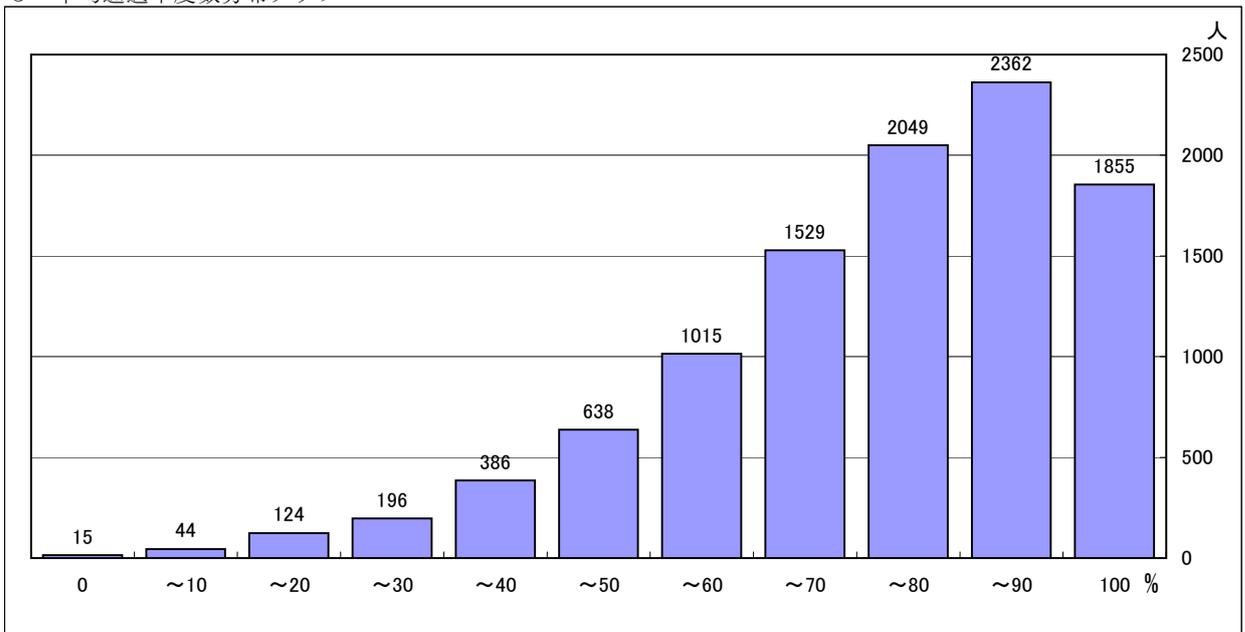
通し番号	1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
(1)	82.4%	17.3%	0.3%	0.0%
(2)	52.9%	38.8%	8.4%	0.0%
(3)	84.6%	14.1%	1.3%	0.0%
(4)	88.5%	10.8%	0.7%	0.0%
(5)	66.0%	31.6%	2.5%	0.0%
(6)	78.2%	20.0%	1.7%	0.0%
(7)	90.9%	8.3%	0.8%	0.0%
(8)	78.9%	20.9%	0.2%	0.0%
(9)	73.5%	25.2%	1.3%	0.0%
(10)	74.2%	23.2%	2.6%	0.0%

4 平均通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	1	1	1855	1855
~90	21	22	2362	4217
~80	86	108	2049	6266
~70	148	256	1529	7795
~60	34	290	1015	8810
~50	1	291	638	9448
~40	0	291	386	9834
~30	0	291	196	10030
~20	0	291	124	10154
~10	0	291	44	10198
0	0	291	15	10213

※4 (未履修) を除いた解答類型1～3の合計を分母として通過率を算出

5 平均通過率度数分布グラフ



6 小学校5年 国語科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

① 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別		
		書くこと	読むこと	言語事項
問題数	10	1	4	5
+10%以上	0	0	0	0
±10%内	9	1	4	4
-10%以下	0	0	0	1

- ・設定通過率と同程度であるものが、10問中9問、下回っているものが1問である。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「書くこと」の1問は同程度である。「読むこと」の4問は、すべて同程度である。「言語事項」は、5問中4問が同程度で、下回っているのは1問という結果であった。
- ・未記入率が高かった問題は、「言語事項」の2)と「読むこと」の5)、「書くこと」10)である。
- ・過去に実施した本県学習状況調査（及び国の教育課程実施状況調査）と類似する問題の通過率の比較では、6問中6問が上回っているか同程度である。

② 小問別通過率度数分布

以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	平均通過率
100%	2	1	17	9	1	2	13	0	0	6	0
95~100%	5	1	26	21	1	1	45	1	3	6	0
90~95%	22	4	32	50	8	12	59	10	7	22	3
85~90%	34	4	24	47	8	21	33	24	12	19	13
80~85%	42	5	20	31	13	42	14	46	18	19	39
75~80%	39	7	23	13	25	36	7	39	35	19	49
70~75%	16	4	12	2	21	31	3	29	43	17	48
65~70%	8	10	9	3	21	17	1	20	24	21	22
60~65%	5	20	6	0	15	7	0	3	17	18	1
55~60%	2	14	2	0	20	5	0	3	12	7	1
50~55%	0	29	2	0	15	1	1	3	11	0	0
45~50%	1	15	1	0	10	0	0	0	1	2	0
40~45%	0	24	1	0	8	0	0	0	1	3	0
35~40%	0	15	0	0	2	1	0	0	0	4	0
30~35%	0	8	0	0	2	0	0	0	0	1	0
25~30%	0	10	1	0	4	0	0	0	0	0	0
20~25%	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0
15~20%	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
10~15%	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0~5%	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	176	176	176	176	176	176	176	176	176	176	176

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題はない。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、2)の1問である。
- ・各校における通過率の開きが大きい問題は、2)5)の2問である。
- ・特に通過率が低いのは、2)の52.9%である。

③ 教科の好き嫌い（学習への意欲等に関する質問紙調査項目）の傾向

- ・「大好き」「好き」の割合は66.5%である。昨年度の4年生のときには73.3%であった割合が6.8ポイント減少している。「嫌い」「大嫌い」の割合は26.7%である。昨年度の4年生のときには20.3%であった割合が6.4ポイント増加している。4年生から5年生にかけての変化の状況は前年度とほぼ同じである。
- ・4年生から5年生にかけて、好きな理由として「生活の中で役立つ」「得意」が若干増加し、嫌いな理由は「不得意」が4ポイントの増加、ついで「楽しくない」「考えるのがめんどろ」「わかりにくい」が若干の増加となっている。

(2) 考察

① 全体について

ア 小学校5年生の全般的な学習の実現状況はおおむね良好といえる。

・「言語事項」の1問以外の9問は設定通過率と同程度である。

イ 「言語事項」については、既習の漢字を日常的に使用したり、漢字の意味を踏まえて適切に理解したり使用したりする力が良好であるとはいえない。

・日常耳にする漢字の書き取りが、設定通過率を17.1%下回っている。

② 成果

ア 「読むこと」においては、段落相互の関係を意識して読むことが良好である。

・8)は昨年度との類似問題として同形式で出題したが、2年連続で設定通過率を上回っている。

イ 「書くこと」については、相手意識や目的意識を明確にもって、自分の伝えたいことを分かりやすく伝えることが良好である。

・10)は設定通過率を9.2ポイント上回っているが、各学校における読書活動の充実により、書くための材料を明確にして取り組めたと推察される。

③ 課題

ア 「言語事項」において、既習の漢字や語句の意味を理解して日常生活に生かす力の育成が必要である。

・2)は通過率が52.9%と低く、学校により通過率の差が大きい。「教科書に出てきた形が変わると対応できない」ということは、昨年度から指摘されている課題である。

イ 接続語の働きを知るとともに、日常の様々な状況を踏まえて接続語等を適切に使い分ける力の育成が必要である。

・5)は昨年度と同形式で、しかも文末の条件指定を除いたが、昨年度の通過率及び本年度の設定通過率共に下回っている。また、2)同様、学校により通過率の差が大きい。

(3) 今後の指導

・「読むこと」の指導に当たっては、要約や要旨のまとめ、場面ごとの心情や情景の理解などの基礎的な力を育成するために、書かれている内容に対する自分なりの考えを発信したり、必要に応じて様々な図書を進んで読んだりする学習を計画的に設定することが大切である。また、読む活動が単なる情報の抜き出しに終わることなく、例えば児童なりの言葉や与えられた条件に従って適切にまとめるなど、児童の内面的に理解されるよう、指導方法の工夫を図りたい。

・「書くこと」の指導に当たっては、相手意識、目的意識を明確にして、多様な場面を設定することにより、言語活動例の確実な定着を図ることが求められる。練習作文的な積み重ねも大切にしながら、より実践的で緊張感のある書く活動を体験させ、成就感と伝え合う喜びを実感できるよう多様な指導に努めたい。

・「言語事項」の漢字や熟語の指導に当たっては、教科書にある語句から発展して、語彙として認知できる読書活動や文章を書く場面との関連を図るとともに、児童が既習の漢字を進んで活用する場を意図的に設定することが大切である。また、国語力育成の観点からも、国語科で学習した事項が他の教科等の学習で活用され、児童が既習事項を生かせるという実感を味わえるよう配慮したい。

小 学 校 第 6 学 年
国 語

1 小学校6年国語 評価規準と評価の観点

領域	指導事項	評価規準	通し番号	観 点		
				書くこと	読むこと	言語事項
書くこと	ア	・目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書いている。	20)	○		
	イ	・全体を見通して、書く必要のある事柄を整理している。		○		
	ウ	・自分の考えを明確に表現するため、文章全体の組立ての効果を考えている。		○		
読むこと	ウ	・登場人物の心情や場面についての描写など優れた叙述を味わって読んでいる。	13)		○	
			14)		○	
			15)		○	
		・情景描写などの表現に着目して読み味わっている。	16)		○	
			17)		○	
			18)		○	
言語事項	(1)ア(ア)	・第5学年までに配当されている漢字を文や文章の中で正しく読んでいる。	1)			○
			2)			○
			5)			○
	(1)ア(ア)	・第5学年までに配当されている漢字を文や文章の中で正しく書いている。	3)			○
			4)			○
			6)			○
	(1)イ(ア)	・送り仮名に注意して漢字を正しく書いている。	7)			○
			8)			○
			9)			○
	(1)オ(ア)	・文の中での語句の照応の仕方を理解している。	10)			○
	(1)ウ(ア)	・語句の構成について理解している。	11)			○
			12)			○

通し番号	出題内容	通過率 (%)	設定通過率 (%)	
(1)	読み (かさね)	97.9%	90.0%	
(2)	読み (ねっとう)	94.9%	75.0%	
(3)	書き (電池)	76.9%	65.0%	
(4)	書き (借りる)	71.9%	75.0%	
(5)	訓読み (採用-採る-取る) (選択肢)	95.9%	70.0%	
(6)	書き (住所-住民) (選択肢)	93.9%	80.0%	
(7)	送りがな (確かめて) (選択肢)	83.2%	75.0%	
(8)	書き (適当) (選択肢)	88.1%	70.0%	
(9)	書き (測定) (選択肢)	84.4%	70.0%	
(10)	語句の照応 (まるで~のようだ) (選択肢)	93.6%	70.0%	
(11)	対義語 (原因-結果) (選択肢)	65.1%	70.0%	
(12)	対義語 (集合-解散) (選択肢)	75.9%	75.0%	
(13)	描写・叙述の理解, 心情の理解 (選択肢)	84.2%	70.0%	
(14)	描写・叙述の理解, 心情の理解 (選択肢)	86.2%	65.0%	
(15)	描写・叙述の理解, 心情の理解 (選択肢)	81.2%	65.0%	
(16)	表現のよさ, 効果の理解 (特色) (選択肢)	46.6%	65.0%	
(17)	表現のよさ, 効果の理解 (多義語) (選択肢)	42.6%	65.0%	
(18)	表現のよさ, 効果の理解 (比喩) (選択肢)	61.9%	70.0%	
(19)	多面的な人物像のとらえ (記述)	68.0%	60.0%	
(20)	よりよい学校生活への提案文	80.8%	65.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

小学校6年 国語

3 小問別反応率

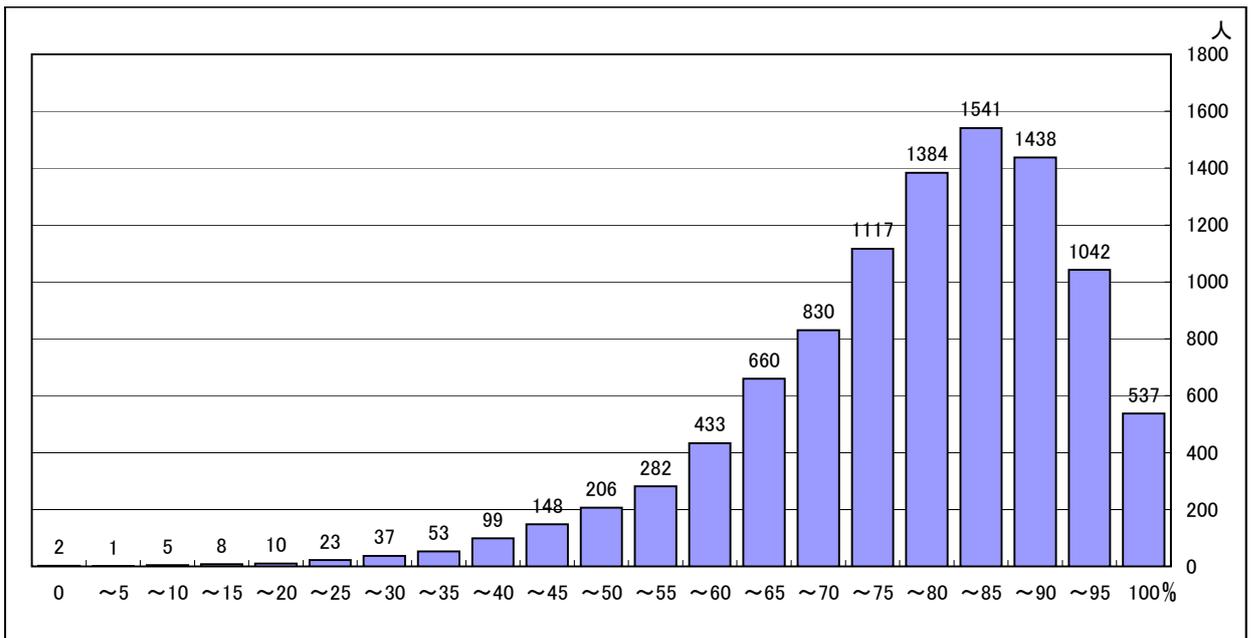
通し番号	1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
(1)	97.9%	1.5%	0.6%	0.0%
(2)	94.9%	4.4%	0.8%	0.0%
(3)	76.9%	22.6%	0.5%	0.0%
(4)	71.9%	26.2%	1.9%	0.0%
(5)	95.9%	4.1%	0.1%	0.0%
(6)	93.9%	6.1%	0.1%	0.0%
(7)	83.2%	16.8%	0.0%	0.0%
(8)	88.1%	11.8%	0.0%	0.0%
(9)	84.4%	15.6%	0.0%	0.0%
(10)	93.6%	6.4%	0.0%	0.0%
(11)	65.1%	34.2%	0.7%	0.0%
(12)	75.9%	23.7%	0.4%	0.0%
(13)	84.2%	15.7%	0.1%	0.0%
(14)	86.2%	13.6%	0.2%	0.0%
(15)	81.2%	18.6%	0.2%	0.0%
(16)	46.6%	53.1%	0.2%	0.0%
(17)	42.6%	57.1%	0.3%	0.0%
(18)	61.9%	38.0%	0.2%	0.0%
(19)	68.0%	27.5%	4.5%	0.0%
(20)	80.8%	17.2%	2.0%	0.0%

4 平均通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	1	1	537	537
~95	3	4	1042	1579
~90	10	14	1438	3017
~85	35	49	1541	4558
~80	86	135	1384	5942
~75	98	233	1117	7059
~70	49	282	830	7889
~65	8	290	660	8549
~60	1	291	433	8982
~55	0	291	282	9264
~50	1	292	206	9470
~45	0	292	148	9618
~40	0	292	99	9717
~35	0	292	53	9770
~30	0	292	37	9807
~25	0	292	23	9830
~20	0	292	10	9840
~15	0	292	8	9848
~10	0	292	5	9853
~5	0	292	1	9854
0	0	292	2	9856

※4 (未履修) を除いた解答類型1～3の合計を分母として通過率を算出

5 平均通過率度数分布グラフ



6 小学校6年 国語科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

① 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別		
		書くこと	読むこと	言語事項
問題数	20	1	7	12
+10%以上	11	1	3	7
±10%内	7	0	2	5
-10%以下	2	0	2	0

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度であるものの合計は、20問中18問である。
- ・観点別に通過率と設定通過率を比較した場合、「書くこと」の1問は上回っており、「読むこと」は、7問中3問が上回っており、2問が同程度、2問が下回っている。「言語事項」は、12問中7問が上回っており、5問が同程度である。
- ・未記入率が高かった問題は、「言語事項」の4)、「読むこと」の19)、「書くこと」の20)である。
- ・過去に実施した本県の学習状況調査と類似する問題の通過率との比較では、4問中1問が上回っており、2問が同程度、下回っているものは4)の1問で、9.5ポイント下回っている。
- ・過去に実施した国の学習状況調査に類似する問題の通過率との比較では、8問中5問が上回っている。下回ったのは、11) 12) 13) の3問である。

② 小問別通過率度数分布

以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率
100%	81	31	6	5	38	24	12	4	2	18	0	2	0	4	3	0	0	0	3	6	0
95~100%	79	67	6	11	78	63	13	16	16	59	8	4	11	11	7	1	0	1	6	16	1
90~95%	15	66	17	15	47	58	23	46	24	67	7	14	28	40	11	1	0	1	12	30	1
85~90%	2	10	21	11	12	16	34	62	42	26	6	22	44	50	29	0	1	1	13	30	13
80~85%	1	2	22	24	3	10	35	27	45	6	20	26	43	40	51	1	0	2	14	32	50
75~80%	0	2	24	8	0	4	22	15	24	1	12	29	40	22	46	2	0	7	24	17	71
70~75%	0	0	25	20	0	2	16	6	13	1	16	33	5	3	19	7	3	18	23	20	33
65~70%	0	0	17	18	0	1	9	1	9	0	18	15	5	5	8	3	4	30	18	9	8
60~65%	0	0	18	23	0	0	4	1	2	0	25	13	1	2	1	13	6	37	13	4	1
55~60%	0	0	8	16	0	0	6	0	1	0	21	11	1	1	3	7	6	29	14	3	0
50~55%	0	0	4	14	0	0	2	0	0	0	20	4	0	0	0	27	21	32	11	3	0
45~50%	0	0	5	7	0	0	1	0	0	0	5	2	0	0	0	29	27	5	11	4	0
40~45%	0	0	4	4	0	0	1	0	0	0	9	1	0	0	0	28	41	9	7	2	0
35~40%	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	19	21	4	6	0	0
30~35%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	0	22	20	1	2	1	0
25~30%	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	9	18	0	0	0	0
20~25%	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	6	4	1	0	1	0
15~20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	0	1	0	0
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、2) 3) 5) 6) 8) 9) 10) 13) 14) 15) 20) の11問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、16) 17) の2問である。
- ・各校における通過率の開きが大きい問題は、3) 4) 11) 12) 16) 17) 19) 20) の8問である。

③ 教科の好き嫌い（学習への意欲等に関する質問紙調査項目）の傾向

- ・国語の好き嫌いの傾向については、昨年度の5年生の時と比べて、「大好き」「好き」の割合が、0.6ポイント高くなり、「大嫌い」「嫌い」の割合が、0.5ポイント低くなっており、若干ではあるが「好き」の傾向への移行がうかがえる。
- ・「好きな理由」については、「楽しい」「わかりやすい」「将来のためになる」「生活の中で役立つ」がほぼ同じような割合になっており、「嫌いな理由」は、「楽しくない」「不得意」がどちらも10ポイント弱である。
- ・5年生の時と比較してみると、「好きな理由」「嫌いな理由」とともに、大きな変化は見られないが、6年生の総合的な学習の時間の好きな理由の「楽しい」の44.2ポイントという結果と比較すると、国語科の授業改善が望まれる。

(2) 考察

① 全体について

ア 小学校6年生の学習の実現状況はおおむね良好といえる。

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題が、11問、同程度が7問、10ポイント以上下回った問題が2問という調査結果である。

② 成果

ア 「読むこと」において、文学的文章の心情の読み取りが良好である。

- ・心情理解の3問は、設定通過率をすべて10ポイント以上上回っている。

イ 「書くこと」において、自分の考えを表現することが良好である。

- ・20)の通過率は、設定通過率よりも15.8ポイントも上回っている。

ウ 「言語事項」において、課題であった漢字の音読み・訓読み、語句の照応などの指導状況は良好といえる。

- ・言語事項については、12問中設定通過率を10ポイント以上上回ったものが7問、同程度のものが、5問である。
- ・5)は25.9ポイント、10)は23.6ポイント、設定通過率を上回っている。

エ 過去の学習状況調査の問題を活用して授業改善が図られている。

- ・県の過去の類似問題では、4問中3問が上回るか同程度であり、国の過去の類似問題との比較でも8問中5問が上回っている。

③ 課題

ア 「読むこと」において、文学的文章の表現のよさや表現の効果などを感じ取って味わう力を育成する必要がある。

- ・16) 17) 18)の通過率は、設定通過率よりもそれぞれ18.4ポイント、22.4ポイント、8.1ポイント下回っている。また、「ふさわしいもの」「ふさわしくないもの」を選択して答えるなど、問題文の要求に応じる力も育成したい。

イ 求めに応じて文章記述する力については、各校の指導に差が見られる。

- ・読み取ったことをもとに「自分の考えをまとめて表現する」19)については、未記入の割合が4.5ポイントと、小問中最も高い。
- ・「書くこと」20)についても、未記入の割合が2.0ポイントと高い。
- ・通過率の開きの度数分布も、20%～100%までと大きい。

ウ 「言語事項」の漢字の読み書き、語句、文法の指導は、生活言語として活用することによって意味理解を深める必要がある。

- ・4) 11)は設定通過率を下回っており、12)は設定通過率とは同程度であるが、国の類似問題との比較では、11.2ポイント下回っている。

(3) 今後の指導

- ・5、6年生の文学的文章を読む指導では、登場人物の心情や性格、考え方などをより多面的にとらえられるように、物語の内容を理解するだけでなく、構成及び表現のよさや効果などにも着目して、より確かで豊かな読み取りの学習を展開したい。
- ・指導要領の改訂の方針にある「文学的文章の詳細な読解に偏りがちであった指導の在り方を改め」ることは言うまでもないが、読解指導する場合に、「テキストを理解・評価しながら読む力」「テキストにもとづいて自分の考えを書く力」などを計画的に指導するために、「様々な文章や資料を読む機会や、自分の意見を述べたり書いたりする機会」も配慮する必要がある。その際、「読解力向上に関する指導資料(案)」－文部科学省－の指導例45例などを活用されたい。
- ・漢字や語句の指導は、日常的に辞書を活用することや、文章の特定の部分を詳しく読んだり、優れた表現を視写したりして、文脈の中で言葉の意味の理解を深めること、さらに日常生活で役立つ実感をもたせるような指導が望まれる。

中 学 校 第 1 学 年
国 語

1 中学校1年 国語 評価規準と評価の観点

領域	指導事項	評価規準	通し番号	観 点		
				書く こと	読む こと	言語 事項
書く こと	ア	・ 目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書いている。	20)	○		
	エ	・ 作品に対する感想や考えを目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりしている。		○		
読む こと	イ	・ 目的や意図などに応じて、文章の内容を的確に押さえながら要旨をとらえている。	14)		○	
			15)		○	
			19)		○	
	エ	・ 中心語句に着目して、文章構成を押さえ、内容をとらえている。	16)		○	
オ	・ 書かれている内容について、事象と感想、意見の関係を押しさえている。	17)		○		
			18)		○	
言語 事項	(1)ア(ア)	・ 第6学年までに配当されている漢字について、文脈に即して正しく読んでいる。	1)			○
			2)			○
			3)			○
	(1)イ(ア)	・ 第5学年までに配当されている漢字を書き、文の中で使うとともに、第6学年に配当されている漢字を漸次書いている。	4)			○
				5)		○
				6)		○
	(1)ウ(ア)	・ 文脈に沿って表意文字としての漢字を適切に使っている。	7)			○
				8)		○
				11)		○
	(1)ウ(イ)	・ 仮名遣いについて正しく理解している。	10)			○
				9)		○
	(1)ウ(エ)	・ 送り仮名について正しく理解している。	12)			○
				13)		○
(1)ウ(エ)	・ 語句に関する類別（助詞を使った表現）を理解している。	9)			○	
			12)		○	
(1)ウ(エ)	・ 二字の熟語の構成（組み立て）を理解している。	12)			○	
			13)		○	
(1)ウ(エ)	・ ことわざのもつ意味を理解している。	12)			○	
			13)		○	
(1)ウ(エ)	・ 四字熟語の意味を理解し、文脈に即して適切に使っている。	13)			○	
			13)		○	

通し番号	出題内容	通過率 (%)	設定通過率 (%)	
(1)	読み (かいぜん)	91.9%	85.0%	
(2)	読み (きょうぞん・きょうそん)	90.0%	80.0%	
(3)	読み (さぎょう) (選択肢)	83.3%	80.0%	
(4)	書き (混)	84.1%	75.0%	
(5)	書き (夢)	95.0%	80.0%	
(6)	書き (限界) (選択肢)	80.8%	70.0%	
(7)	同訓異字の語 (選択肢)	47.6%	60.0%	
(8)	仮名遣い (選択肢)	85.1%	75.0%	
(9)	熟語の成り立ち (選択肢)	53.8%	65.0%	
(10)	助詞 (選択肢)	44.8%	60.0%	
(11)	送り仮名 (選択肢)	71.2%	75.0%	
(12)	ことわざの理解 (選択肢)	64.1%	70.0%	
(13)	四字熟語の理解 (選択肢)	69.3%	75.0%	
(14)	内容の理解 (選択肢)	77.3%	70.0%	
(15)	内容の理解 (抜き出し)	43.5%	75.0%	
(16)	段落構成 (選択肢)	59.2%	75.0%	
(17)	事象・意見の区別・情報の読み取り (選択肢)	73.2%	75.0%	
(18)	情報の読み取り (選択肢)	71.3%	70.0%	
(19)	内容の理解 (記述)	52.3%	60.0%	
(20)	俳句の紹介文を書くこと	71.6%	70.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

中学校 1 年 国語

3 小問別反応率

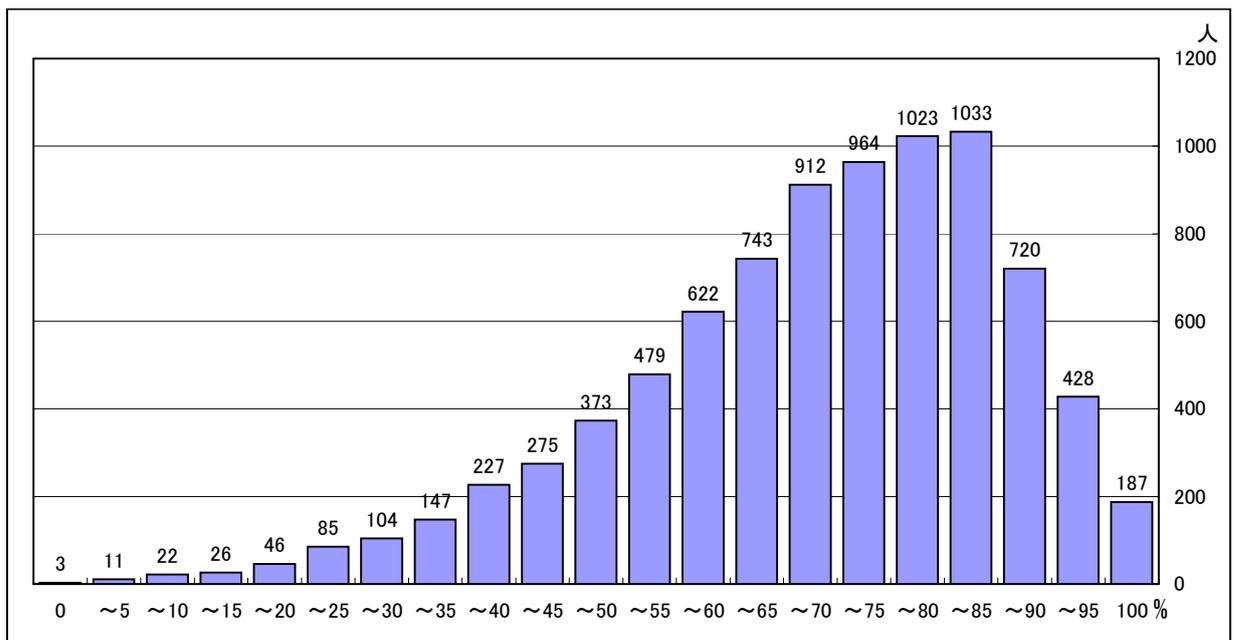
通し番号	1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
(1)	91.9%	6.4%	1.7%	0.0%
(2)	90.0%	8.8%	1.1%	0.0%
(3)	83.3%	16.5%	0.3%	0.0%
(4)	84.1%	7.9%	8.0%	0.0%
(5)	95.0%	3.5%	1.5%	0.0%
(6)	80.8%	18.7%	0.5%	0.0%
(7)	47.6%	52.1%	0.3%	0.4%
(8)	85.1%	14.7%	0.2%	0.0%
(9)	53.8%	45.9%	0.3%	1.9%
(10)	44.8%	54.9%	0.4%	1.1%
(11)	71.2%	28.7%	0.2%	0.0%
(12)	64.1%	35.8%	0.1%	0.0%
(13)	69.3%	30.4%	0.3%	0.0%
(14)	77.3%	22.4%	0.2%	0.0%
(15)	43.5%	47.4%	9.1%	0.0%
(16)	59.2%	40.2%	0.6%	0.0%
(17)	73.2%	26.4%	0.4%	0.0%
(18)	71.3%	28.2%	0.4%	0.0%
(19)	52.3%	38.3%	9.5%	0.0%
(20)	71.6%	24.4%	4.0%	0.0%

4 平均通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	187	187
~95	0	0	428	615
~90	0	0	720	1335
~85	0	0	1033	2368
~80	7	7	1023	3391
~75	17	24	964	4355
~70	46	70	912	5267
~65	50	120	743	6010
~60	12	132	622	6632
~55	2	134	479	7111
~50	0	134	373	7484
~45	0	134	275	7759
~40	0	134	227	7986
~35	0	134	147	8133
~30	0	134	104	8237
~25	0	134	85	8322
~20	0	134	46	8368
~15	0	134	26	8394
~10	0	134	22	8416
~5	0	134	11	8427
0	0	134	3	8430

※4 (未履修) を除いた解答類型 1～3 の合計を分母として通過率を算出

5 平均通過率度数分布グラフ



6 中学校1年 国語科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

① 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 (領 域) 別		
		書くこと	読むこと	言語事項
問題数	20	1	6	13
+10%以上	4	0	0	4
±10%内	11	1	4	6
-10%以下	5	0	2	3

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度のものの合計が、20問中15問であった。
- ・観点別で通過率と設定通過率とを比較した場合、「書くこと」の1問は同程度である。「読むこと」は6問中、4問が同程度で、2問が下回っている。「言語事項」は13問中、10問が上回っているか同程度で、3問が下回っているという結果であった。
- ・過去に実施した本県学習状況調査及び国の教育課程実施状況調査と類似する問題の通過率の比較については、10問中、7問が上回っている、または同程度であり、3問が下回っていた。3問とも15ポイント前後の下回りであった。

② 小問別通過率度数分布

以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率
100%	4	3	1	3	20	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0
95~100%	29	19	4	9	44	2	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
90~95%	50	45	11	29	42	5	1	17	0	0	0	0	0	3	0	0	0	2	3	11	0
85~90%	29	31	28	25	16	20	3	38	0	0	1	2	3	9	0	0	3	1	6	11	0
80~85%	9	19	39	22	0	39	4	37	3	0	13	2	7	28	0	3	15	10	2	15	4
75~80%	1	4	23	12	0	29	3	14	4	0	25	7	17	36	1	1	33	24	2	19	14
70~75%	0	1	9	9	0	17	10	8	7	0	21	17	29	24	0	7	32	26	9	17	47
65~70%	0	0	5	4	0	8	4	2	11	0	36	22	28	15	0	19	21	35	14	10	46
60~65%	0	0	2	7	0	2	9	0	9	4	18	31	19	4	4	15	7	15	11	11	9
55~60%	0	0	0	1	0	0	5	0	19	12	4	17	10	2	8	29	7	8	5	8	2
50~55%	0	0	0	0	0	0	12	0	20	24	3	19	7	0	16	33	4	1	13	8	0
45~50%	0	0	0	0	0	0	8	0	17	18	1	5	1	0	18	10	0	0	11	5	0
40~45%	0	0	0	1	0	0	20	0	18	29	0	0	1	0	27	3	0	0	17	1	0
35~40%	0	0	0	0	0	0	11	0	8	18	0	0	0	0	26	1	0	0	10	0	0
30~35%	0	0	0	0	0	0	15	0	0	12	0	0	0	0	17	0	0	0	9	0	0
25~30%	0	0	0	0	0	0	10	0	2	3	0	0	0	0	4	1	0	0	5	1	0
20~25%	0	0	0	0	0	0	5	0	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0
15~20%	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
0~5%	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122

- ・通過率を10ポイント以上上回った問題は2) 5) 6) 8) の4問である。
- ・通過率を10ポイント以上下回った問題は7) 9) 10) 15) 16) の5問である。
- ・各校における通過率の開きが大きかった問題は7) 9) 19) 20) の4問である。
- ・特に通過率の低いのは7) 47.4%、10) 44.3%、15) 43.5%の3問である。

③ 教科の好き嫌い（学習への意欲等に関する質問紙調査項目）の傾向

- ・「大好き」「好き」の割合は59.3%、「きらい」「大きらい」の割合は26.5%であった。昨年度の1年生（「大好き」「好き」52.9%、「きらい」「大きらい」29.9%）に比べ、好ましい状況に向かっている傾向にある。
- ・好きな理由は「楽しい」（20.5%）が最も多く、「わかりやすい」（12.9%）将来のためになる」（10.4%）がそれに続いている。嫌いな理由としては「不得意」（10.4%）「楽しくない」（9.2%）「わかりにく」（5.5%）が目につく。

(2) 考察

① 全体について

- ア 中学校 1 年生の「読むこと」に関する実現状況は良好であるとはいえない。
 - ・ 6 問中 2 問が設定通過率を下回り、うち 1 問は 30 ポイント以上下回っている。
- イ 「書くこと」「言語事項」に関する実現状況はおおむね良好といえる。
 - ・ 「書くこと」は設定通過率と同程度の通過率であり、「言語事項」は 13 問中 10 問が上回っているか、同程度である。

② 成果

- ア 「読むこと」の国の類似問題の通過率は国の調査結果を上回っている。
 - ・ 6 問中、3 問が国の教育課程実施状況調査と類似する問題であるが、3 問すべて過去の通過率を 5 ポイント以上上回っている。
- イ 「言語事項」における漢字の読み、書きは良好である。
 - ・ 6 問すべてが設定通過率を上回っているか、同程度の結果である。また、本県の過去の学習状況調査の類似問題が 2 問あるが、ともに 10 ポイント程度、過去の通過率を上回っている。

③ 課題

- ア 「読むこと」で叙述を注意深く読んだり、言葉の役割を意識して読んだりする力が十分に身に付いているとはいえない。
 - ・ 15) は 30 ポイント以上、16) は 15 ポイント以上設定通過率を下回っている。15) はキーワード周辺の叙述に注目することで、16) は接続詞の役割を考えることで正答を導き出すことのできる設問である。
- イ 「読むこと」で中心語句に着目して内容をとらえ、文章で表現する力の向上は見られるが十分とはいえない。
 - ・ 19) は、昨年課題となった「読み取ったことを中心語句に着目して自分の言葉でまとめる問題」であり、設定通過率と同程度（8 ポイント下回っている）ではあるが、各校における通過率の開きが大きい。
- ウ 「言語事項」で経年的な課題の解消が図られていない。
 - ・ 「言語事項」で設定通過率を下回った問題 3 問は、すべて本県の過去の学習状況調査の類似問題である。9) は改善が見られているが、7) は昨年同様の通過率、10) は昨年を 5 ポイント以上下回っている。

(3) 今後の指導

- ・ 「読むこと」の学習で、「何が書かれているか」を確認したり、自分の考えのよりどころとして叙述に注目したりする学習は積み重ねられているようである。しかし、助詞による意味の違いを考えたり、接続詞の役割をヒントに段落の構成を考えたりする問題の結果に課題があり、書かれている言葉や表現の役割や効果等に注目して文章を読み進め、そこで考えたことを言葉の力として定着させる学習を工夫する必要がある。
- ・ 読み取ったことについて、中心語句を手がかりに自分の言葉で相手に十分に伝える力の育成は今後も課題となる。まとめたことや意見、感想などをただ伝えるのではなく、伝え方の効果や適否等について考え、言語感覚を育成する場を意図的に設定することが望まれる。
- ・ 「言語事項」の語句の構成や同訓異字の問題は、ともに小学校で学習済みの内容であるにもかかわらず、「未履修」と判断し、調査していない学校があった。中学校教師が小学校の学習内容を理解していないために、毎年のように見られる重大な課題である。児童生徒に 9 か年かけて確実に国語の力を定着させるためには、小学校学習指導要領に盛り込まれている学習内容を十分に踏まえて、系統性のある指導計画で授業を進めることが大切である。

中 学 校 第 2 学 年
国 語

1 中学校2年国語 評価規準と評価の観点

領域	指導事項	評価規準	通し番号	観 点				
				書くこと	読むこと	言語事項		
書くこと	ア	・身近な生活や学習の中から課題を見付け、材料を集め自分の考えや思いをまとめて書いている。	20)	○				
	ウ	・自分の考えや思いを的確に表すために、グラフから適切な材料を選択して書いている。		○				
読むこと	ア	・文語体の文章の特徴を理解し、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して正しく読んでいる。	13)		○			
		・文脈の中における語句の意味を正確にとらえている。	15)		○			
	イ	・文章の展開に即して内容をとらえている。	14)		○			
			16)		○			
			17)		○			
	エ	・文章の展開を確かめながら、主題を考えている。	19)		○			
オ	・文章に表れているものの見方や考え方を理解している。	18)		○				
言語事項	(1)イ	・語句の辞書的な意味を理解し、文脈に応じて適切に使っている。	7)			○		
			8)			○		
	(1)ウ	・事象や行為などを表す多様な語句について理解している。	9)			○		
	(1)エ	・文と文の接続の関係や接続語の働きを理解している。	10)			○		
	(1)オ	・単語の類別について理解している。	11)			○		
			・文の成分における文節と文節の関係を理解している。	12)			○	
	(2)ア	・学年別配当表に示されている漢字について文脈に即して正しく読んでいる。	1)			○		
			2)			○		
			3)			○		
			(2)イ	・学年別配当表に示されている漢字のうち900字程度について、文脈の中でその意味を考えて正しく書いている。	4)			○
					5)			○
					6)			○

通し番号	出題内容	通過率 (%)	設定通過率 (%)	
(1)	読み (しょうこ)	97.7%	85.0%	
(2)	読み (けんぶん)	76.1%	70.0%	
(3)	読み (驚) (選択肢)	55.6%	65.0%	
(4)	書き (招く)	77.4%	70.0%	
(5)	書き (回復)	76.8%	70.0%	
(6)	書き (栄養)	90.4%	80.0%	
(7)	同音異義語 (事態) (選択肢)	96.1%	80.0%	
(8)	語句の意味 (おそれ) (選択肢)	91.8%	80.0%	
(9)	接頭語 (非～) (選択肢)	91.9%	80.0%	
(10)	接続語の働き (並立・累加) (選択肢)	91.7%	80.0%	
(11)	単語の類別 (名詞) (選択肢)	22.9%	65.0%	
(12)	文節と文節の関係 (補助の関係) (選択肢)	47.9%	60.0%	
(13)	歴史的仮名遣い (問ふ)	79.1%	85.0%	
(14)	古文の内容理解 (選択肢)	89.7%	70.0%	
(15)	文脈中の語句の意味 (選択肢)	87.2%	75.0%	
(16)	内容理解 (抜き出し)	78.7%	70.0%	
(17)	内容理解 (選択肢)	45.7%	60.0%	
(18)	ものの見方や考え方 (選択肢)	74.4%	70.0%	
(19)	主題を考える (記述)	70.8%	60.0%	
(20)	意見文を書く	84.0%	70.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

中学校2年 国語

3 小問別反応率

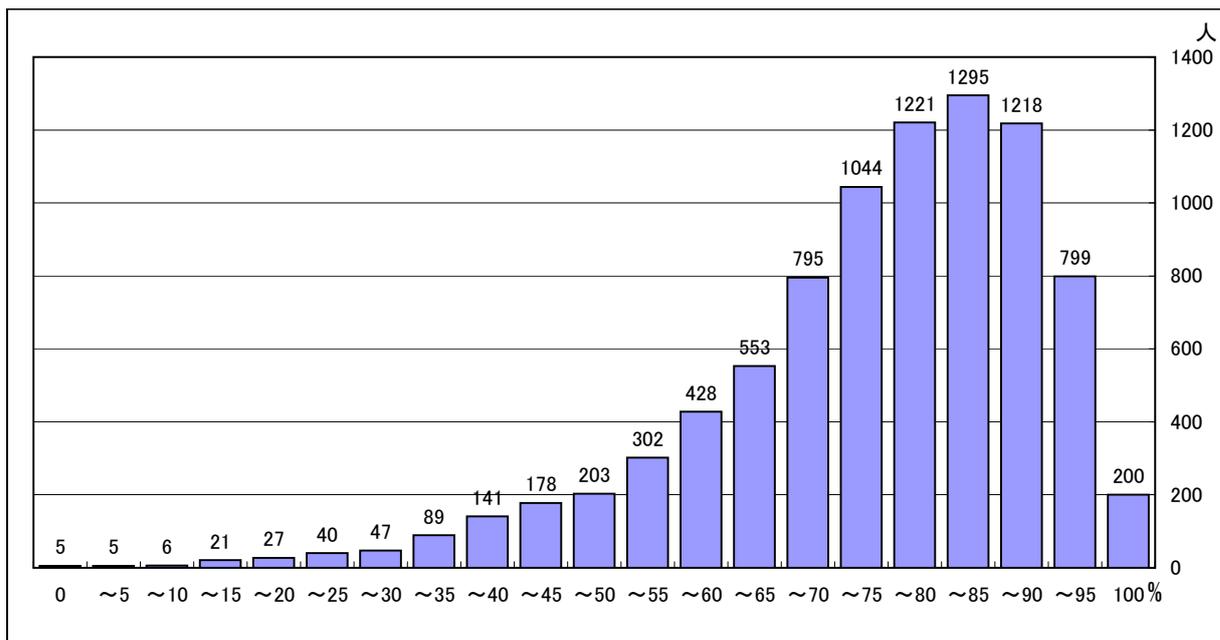
通し番号	1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
(1)	97.7%	1.6%	0.7%	0.0%
(2)	76.1%	19.2%	4.7%	0.0%
(3)	55.6%	43.0%	1.5%	0.0%
(4)	77.4%	9.1%	13.5%	0.0%
(5)	76.8%	16.9%	6.4%	0.0%
(6)	90.4%	5.5%	4.1%	0.0%
(7)	96.1%	3.8%	0.1%	0.0%
(8)	91.8%	8.2%	0.1%	0.0%
(9)	91.9%	8.0%	0.1%	0.0%
(10)	91.7%	8.2%	0.1%	0.0%
(11)	22.9%	76.5%	0.6%	25.2%
(12)	47.9%	51.7%	0.5%	0.0%
(13)	79.1%	19.3%	1.6%	0.0%
(14)	89.7%	10.1%	0.2%	0.0%
(15)	87.2%	12.6%	0.2%	0.0%
(16)	78.7%	18.6%	2.7%	0.0%
(17)	45.7%	54.0%	0.3%	0.0%
(18)	74.4%	25.1%	0.6%	0.0%
(19)	70.8%	15.5%	13.7%	0.0%
(20)	84.0%	12.2%	3.8%	0.0%

4 平均通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	200	200
~95	0	0	799	999
~90	0	0	1218	2217
~85	4	4	1295	3512
~80	14	18	1221	4733
~75	65	83	1044	5777
~70	42	125	795	6572
~65	7	132	553	7125
~60	0	132	428	7553
~55	2	134	302	7855
~50	0	134	203	8058
~45	0	134	178	8236
~40	0	134	141	8377
~35	0	134	89	8466
~30	0	134	47	8513
~25	0	134	40	8553
~20	0	134	27	8580
~15	0	134	21	8601
~10	0	134	6	8607
~5	0	134	5	8612
0	0	134	5	8617

※4 (未履修) を除いた解答類型1～3の合計を分母として通過率を算出

5 平均通過率度数分布グラフ



6 中学校2年 国語科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

① 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 (領 域) 別		
		書くこと	読むこと	言語事項
問題数	20	1	7	12
+10%以上	10	1	3	6
±10%内	7	0	3	4
-10%以下	3	0	1	2

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度のものの合計が、20問中17問である。
- ・観点（領域）別で通過率と設定通過率を比較した場合、「書くこと」では1問中1問が設定通過率を上回っている。「読むこと」では、7問中6問が上回っているか同程度である。「言語事項」では、12問中10問が上回っているか同程度である。
- ・未記入率の割合が高かった問題は、言語事項4)と読むこと19)の2問であった。
- ・過去に実施した本県学習状況調査の同一問題の通過率の比較では、1問中1問が11.7ポイント上回っている。
- ・過去に実施した本県学習状況調査の類似問題の通過率の比較では、4問中3問が上回っているか同程度である。

② 小問別通過率度数分布

中学校2年生国語 小問別通過率度数分布表(校)												※1学年20人以上データを提出した学校									
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率
100%	34	3	0	0	0	4	23	4	4	5	2	0	2	3	0	0	0	0	1	4	0
95~100%	79	14	0	2	1	19	62	23	30	29	0	0	2	11	8	3	1	0	5	15	0
90~95%	16	14	1	11	4	51	40	64	62	62	0	0	11	52	31	16	0	3	3	31	0
85~90%	0	15	0	17	12	40	4	30	27	21	0	1	20	39	47	23	0	7	6	23	5
80~85%	0	16	1	25	31	11	0	7	4	8	0	1	27	20	34	36	1	22	14	17	20
75~80%	0	17	1	30	34	3	0	1	1	2	0	3	22	3	6	20	0	32	19	15	62
70~75%	0	10	6	17	20	1	0	0	1	1	0	3	21	1	3	8	1	38	24	8	38
65~70%	0	10	8	14	17	0	0	0	0	0	2	6	16	0	0	6	0	15	22	9	4
60~65%	0	4	20	7	6	0	0	0	0	0	0	9	5	0	0	1	4	8	18	3	0
55~60%	0	8	31	5	2	0	0	0	0	0	0	14	1	0	0	6	10	3	10	4	0
50~55%	0	10	31	1	2	0	0	0	0	0	0	17	2	0	0	7	18	1	7	0	0
45~50%	0	4	15	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	1	18	0	0	0	0
40~45%	0	2	9	0	0	0	0	0	0	0	4	22	0	0	0	1	45	0	0	0	0
35~40%	0	2	5	0	0	0	0	0	0	0	5	15	0	0	0	0	16	0	0	0	0
30~35%	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	5	11	0	0	0	1	12	0	0	0	0
25~30%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	6	0	0	0	0	2	0	0	0	0
20~25%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0
15~20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	23	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129	129

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、1) 6) 7) 8) 9) 10) 14) 15) 19) 20) の10問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、11) 12) 17) の3問である。また、これらの問題は、11) 22.9%、12) 47.9%、17) 45.7%と通過率も特に低い。
- ・各校における通過率の差が50%以上あった問題は、2) 3) 10) 11) 12) 16) 17) の7問である。

③ 教科の好き嫌い（学習への意欲等に関する質問紙調査項目）の傾向

- ・「大好き」「好き」の割合は47%である。昨年度の1年生は52.9%であったので、3.9ポイント減少している。また、「嫌い」「大嫌い」の割合は32.6%で、昨年度よりも2.7ポイント増えている。
- ・好きな理由としては、「楽しい」が16.6%で一番多く、続いて「わかりやすい」が9.5%、「生活の中で役に立つ」8.6%、「将来役に立つ」8.5%であった。また、嫌いな理由としては、「楽しくない」12.0%、「不得意」10.2%、「わかりにくい」9.7%の順序であり、昨年度の1年生より「楽しくない」が1.4ポイント、「わかりにくい」が3.2ポイントそれぞれ増えた。

(2) 考察

① 全体について

ア 中学校2年生の学習の実現状況はおおむね良好といえる。

- ・設定通過率72.3%に対して通過率が77%である。
- ・「書くこと」は14ポイント、「読むこと」は5.1ポイント、「言語事項」は2.6ポイントそれぞれ設定通過率より通過率が高い。

イ 学習の意欲等に関して、中学校2年生の国語への関心は他学年と比べて低い。

- ・「大好き」「好き」の割合が、全学年の中で最も低く、「きらい」「大きらい」の割合が高い。

② 成果

ア 「読むこと」では、文脈中の語句の意味や主題を考えることが良好である。

- ・設定通過率と比べて10ポイント以上上回ったのは14) 15) 19) であった。15) は「見た」「盗み見た」を比較して意味の違いをとらえる問題であり、19) は主人公の心情の変化を読み取って話の展開を予想する問題であったが、適切に読み取っている。

イ 「書くこと」では、グラフと生活とを関連させて、自分の考えや思いをまとめることが良好である。

- ・問題12) はグラフの各項目と自分の生活とを結び付けて意見文を書く内容であった。短時間でグラフの項目と生活を関連させる力及び自分の考えや思いを簡潔にまとめる力が要求されている。設定通過率よりも通過率が14ポイントも上回っており、図表等から読み取ったことをもとに感想や意見を書く学習が、授業の中でも行われていることがうかがえる。

ウ 「言語事項」では、漢字の読み・書き、同音異義語、接頭語、接続語の理解は良好である。

- ・10問中6問が設定通過率を10ポイント以上上回った。ほとんどの学校で適切な指導が行われていると考えられる。

③ 課題

ア 「読むこと」では細部にわたって内容を読み取る力がやや弱い。

- ・17) は「目が笑っていた」という表現が登場人物のどんな心情を表現しているのかを読み取るものであった。しかし、通過率が45.7%と悪かった。慣用句表現と人物の心情を関連させて内容理解を図る力を付けなければならない。

イ 「言語事項」では、文の成分における単語の類別と文節と文節の関係の理解が著しく低い。

- ・11) は名詞を選択する内容であったが、通過率22.9%と著しく低かった。名詞については小学校高学年で「語句に関する類別」、中学校1年では「単語の類別」として、指導事項の一つとなっている。また、12) は文節同士が補助の関係にあることを理解する内容であったが、通過率47.9%であった。昨年度は並立の関係を問題として出題したが、通過率は48%と今年度と同程度であった。

(3) 今後の指導

- ・「読むこと」では、情報の取り出しと解釈を確実にし、表現や論理の展開の特徴を読み取る必要がある。実際の授業においては、読み取ったことを多様な方法で伝え合い、考え合いながら、自分の言葉として理解できるようにしたい。
- ・「書くこと」では、情報を活用して意見を述べる力は付いている。今後も多様な図表を用いて自分の意見を論理的にまとめる指導を継続する必要がある。
- ・「言語事項」では、形式的な文法指導ではなく、実際の生活と結び付くような必要感のある授業を心がけたい。生徒の実態の応じて、生徒の抵抗感をなくし、学びがいのある系統的な文法学習の指導法を確立する必要がある。
- ・学習指導要領の指導事項を今一度確認したい。「単語の類別」は中学校1年生の指導事項であるとともに、出題内容は小学校高学年の「語句に関する類別」程度であったにもかかわらず、「未履修」と判断した学校が少なからずあった。中学校教師は、小学校の学習指導要領も踏まえて、計画的に指導に当たりたい。

中 学 校 第 3 学 年
国 語

1 中学校3年国語 評価規準と評価の観点

領域	指導事項	評価規準	通し番号	観 点		
				書くこと	読むこと	言語事項
書くこと	イ	・課題に対して、自分の考えや伝えたい事柄や根拠となる事実を明確にしている。	20)	○		
	エ	・自分の考えが相手に効果的に伝わるように論理の展開を工夫している。		○		
読むこと	イ	・筆者の論理の展開を的確にとらえて、内容を読み取っている。	11)		○	
			12)		○	
			13)		○	
			14)		○	
	ウ	・歴史的仮名遣いや助詞の用法、言葉の省略など文語文の特徴に注意して読み、内容を理解している。	16)		○	
			17)		○	
			18)		○	
			19)		○	
エ	・文章を読んで要旨をとらえ、それに対して自分の考えをもっている。	15)		○		
言語事項	(1)イ	・文脈に即して同音異義語の意味の違いについて理解している。	7)			○
	(1)イ	・文脈に即して慣用句の使い方について理解している。	8)			○
	(1)イ	・文脈に即して類義語の意味の違いを踏まえて使い分けている。	9)			○
	(1)単語	・単語の類別について理解し、その働きに注意して使っている。	6)			○
	(1)キ	・相手や場面に応じて敬語を適切に使い分けている。	10)			○
	(2)ア	・学年別配当表に示されている漢字および第2学年までに学習した常用漢字について、文脈に即して正しく読んでいる。	1)			○
			2)			○
	(2)ア	・熟語の意味を踏まえて、漢字の音訓を正しく理解している。	5)			○
(2)イ	・学年別配当表に示されている漢字のうち950字程度について、文脈の中でその意味を考えて正しく書いている。	3)			○	
		4)			○	

通し番号	出題内容	通過率 (%)	設定通過率 (%)	0	100
(1)	読み (へて)	84.9%	75.0%		
(2)	読み (そくばく)	81.7%	75.0%		
(3)	書き (慣れ)	82.8%	70.0%		
(4)	書き (成績)	63.5%	65.0%		
(5)	熟語の音訓 (選択肢)	67.4%	65.0%		
(6)	単語の類別 (形容詞) (抜き出し)	59.0%	65.0%		
(7)	同音異義語 (選択肢)	76.1%	75.0%		
(8)	慣用句 (選択肢)	97.3%	85.0%		
(9)	類義語 (選択肢)	79.6%	75.0%		
(10)	敬語 (選択肢)	89.0%	80.0%		
(11)	内容の理解 (選択肢)	24.9%	65.0%		
(12)	内容の理解 (選択肢)	87.6%	75.0%		
(13)	内容の理解 (抜き出し)	42.1%	60.0%		
(14)	内容の理解 (選択肢)	52.2%	60.0%		
(15)	内容に対する自分の考え (記述)	79.6%	65.0%		
(16)	歴史的仮名遣い	72.2%	85.0%		
(17)	助詞の働き (選択肢)	61.1%	65.0%		
(18)	語句の省略 (抜き出し)	46.3%	60.0%		
(19)	内容の理解 (選択肢)	45.3%	70.0%		
(20)	日常的な課題について意見を書くこと	84.5%	65.0%		

※  は設定通過率±10%を示している。

中学校3年 国語

3 小問別反応率

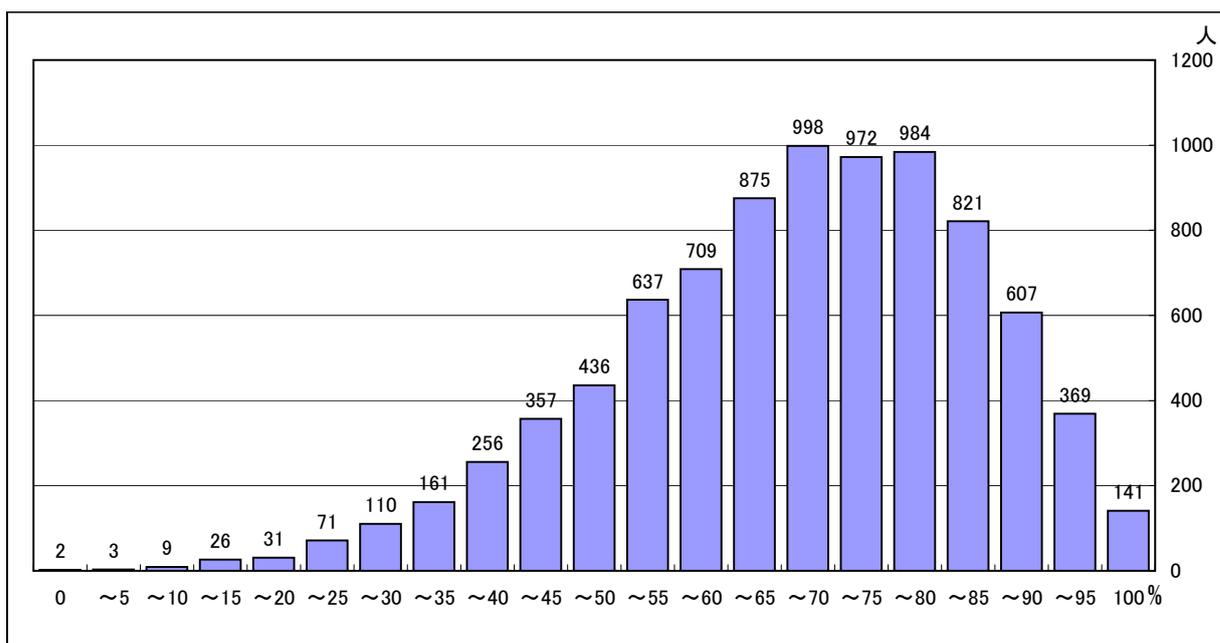
通し番号	1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
(1)	84.9%	14.0%	1.0%	0.0%
(2)	81.7%	13.1%	5.1%	0.0%
(3)	82.8%	6.0%	11.2%	0.0%
(4)	63.5%	33.0%	3.5%	0.0%
(5)	67.4%	32.4%	0.2%	0.0%
(6)	59.0%	35.4%	5.6%	0.0%
(7)	76.1%	23.8%	0.1%	0.0%
(8)	97.3%	2.6%	0.0%	0.0%
(9)	79.6%	20.4%	0.0%	0.0%
(10)	89.0%	11.0%	0.0%	0.6%
(11)	24.9%	74.5%	0.5%	0.0%
(12)	87.6%	12.3%	0.1%	0.0%
(13)	42.1%	54.4%	3.5%	0.0%
(14)	52.2%	47.3%	0.5%	0.0%
(15)	79.6%	10.7%	9.7%	0.0%
(16)	72.2%	22.6%	5.1%	0.0%
(17)	61.1%	38.5%	0.4%	0.0%
(18)	46.3%	43.0%	10.7%	0.0%
(19)	45.3%	54.3%	0.4%	0.0%
(20)	84.5%	11.0%	4.5%	0.0%

4 平均通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	141	141
~95	0	0	369	510
~90	1	1	607	1117
~85	1	2	821	1938
~80	1	3	984	2922
~75	6	9	972	3894
~70	43	52	998	4892
~65	59	111	875	5767
~60	20	131	709	6476
~55	2	133	637	7113
~50	0	133	436	7549
~45	0	133	357	7906
~40	0	133	256	8162
~35	0	133	161	8323
~30	0	133	110	8433
~25	0	133	71	8504
~20	0	133	31	8535
~15	0	133	26	8561
~10	0	133	9	8570
~5	0	133	3	8573
0	0	133	2	8575

※4 (未履修) を除いた解答類型1～3の合計を分母として通過率を算出

5 平均通過率度数分布グラフ



6 中学校3年 国語科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

① 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 (領 域) 別		
		書くこと	読むこと	言語事項
問題数	20	1	9	10
+10%以上	5	1	2	2
±10%内	10	0	2	8
-10%以下	5	0	5	0

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度のものの合計が、20問中15問である。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「書くこと」は設定通過率を上回っている。「読むこと」では、9問中4問が上回っているか同程度で、5問が下回っている。
- ・未記入率が高かったの問題は、言語事項（漢字の書き）3）と読むこと（古文）18）の2問であった。
- ・言語事項は、10問すべてが設定通過率を上回っているか同程度であった。
- ・過去に実施した本県学習状況調査及び国の教育課程実施状況調査と類似する問題の通過率の比較においては、10問中9問が上回っているか同程度であった。

② 小問別通過率度数分布

中学校3年生国語	小問別通過率度数分布表(校)																				※1学年20人以上データを提出した学校
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率
100%	3	0	2	1	0	0	0	28	2	1	0	3	0	0	0	1	0	0	0	1	0
95~100%	11	3	8	1	2	1	0	81	12	11	0	7	0	0	6	1	0	0	0	21	0
90~95%	27	9	18	4	2	2	4	15	8	47	0	43	0	1	18	17	0	0	0	27	0
85~90%	33	32	24	7	5	0	11	1	19	45	0	36	0	0	29	12	0	0	0	28	1
80~85%	18	34	29	6	9	3	24	0	23	14	0	24	0	0	35	11	4	0	1	24	1
75~80%	15	26	16	11	14	4	28	0	25	4	1	9	1	0	14	23	3	0	0	8	4
70~75%	9	15	15	9	14	12	27	0	12	1	0	2	1	5	6	11	13	0	0	4	42
65~70%	4	4	5	11	26	17	19	0	17	1	0	0	1	4	3	13	22	1	3	2	57
60~65%	4	2	5	17	27	26	9	0	5	0	0	0	4	9	4	12	25	9	3	4	17
55~60%	1	0	2	22	11	21	2	0	2	0	0	0	7	22	0	9	22	7	9	2	3
50~55%	0	0	1	18	7	13	1	0	0	0	0	0	12	38	2	5	24	25	20	0	0
45~50%	0	0	0	10	6	8	0	0	0	0	1	0	22	29	1	2	6	30	23	2	0
40~45%	0	0	0	6	0	11	0	0	0	0	2	0	24	8	1	6	4	27	33	1	0
35~40%	0	0	0	2	1	3	0	0	0	0	6	0	16	6	2	0	2	16	23	0	0
30~35%	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	17	0	16	1	3	1	0	7	7	1	0
25~30%	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	31	0	15	0	0	0	0	2	3	0	0
20~25%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	1	3	2	1	1	0	1	0	0	0
15~20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、3）8）12）15）20）の5問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、11）13）16）18）19）の5問である。
- ・各校における通過率の差が50%以上あった問題は、4）5）6）10）11）12）13）14）15）16）19）20）の12問である。

③ 教科の好き嫌い（学習への意欲等に関する質問紙調査項目）の傾向

- ・「大好き」「好き」の割合は50%である。昨年度の2年生は、47.6%であったので、2.4ポイント増えている。また、「嫌い」「大嫌い」の割合は、30%で、1.8ポイント減っている。
- ・好き嫌いの理由を2年生のときと比較すると、好きな理由で最も多い「楽しい」の割合が、18.3%から19.3%と増えている。嫌いな理由で最も多い「楽しくない」の割合は10.3%から9.7%と若干減少した。「わかりにくい」が10.2%「不得意」が10.8%と高い割合になっている。

(2) 考察

① 全体について

ア 中学校3年生の「読むこと」については良好とはいえない。

- ・「読むこと」については、設定通過率を10ポイント以上下回っている問題が9問中5問もあり、特に古典の通過率が低い。

イ 「書くこと」「言語事項」についての学習の実現状況は、おおむね良好である。

- ・「書くこと」は19.5ポイント、「言語事項」は5.1ポイントそれぞれ設定通過率より通過率が高い。

② 成果

ア 「読むこと」では、読み取ったことに対して自分の考えをもつことが良好である。

- ・15)では、要旨をとらえてそれに対する意見をもつ力が試されているが、設定通過率を14.6ポイント上回った。「情報の熟考」を意識した指導が浸透し始めたことがうかがえる。

イ 「書くこと」では、課題に対して事実を踏まえて自分の考えを書くことが良好である。

- ・20)では、新聞記事に対して、事実や体験をもとに自分の考えを書く力が試されているが、84.5%という高い通過率であった。これは、事実と意見を分けて書く活動などが日頃行われている成果と思われる。

③ 課題

ア 「読むこと」では、論理の展開を的確にとらえて、内容を読み取る力が不足している。

- ・11) 12) 13) 14) は、説明的文章を読んで内容を読み取る力を試す問題だが、4問中2問が設定通過率を下回っている。設問の条件に応じて書き手の論理の展開の仕方をとらえる力が身に付いていない。

イ 古文の表現の仕方に注意して読む力が不足している。

- ・16) 17) 18) 19) は、古文の特徴に注意して読んで答える問題だが、4問中3問が設定通過率を下回った。歴史的仮名遣い、助詞の用法、言葉の省略など古文の特徴をとらえて読む力が身に付いていない。

ウ 単語の類別についての理解が不十分である。

- ・6) は、単語の類別を問う問題だが、設定通過率を6ポイント下回った。文中の単語の類別をする力が十分には身に付いていない。

(3) 今後の指導

- ・「読むこと」では、説明的文章を読んで、目的、条件に応じて書き手の論理の展開をとらえる指導を見直さなければならない。また、多様な問い方に対応する力も育成したい。中学校3年生では、抽象的な語句の多い長文を、根気強く一段落ずつの要旨や前後の関係を押さえ、それを自分の言葉で理解して読み進める力を育成したい。
- ・15) や20) の予想を上回る通過率から、要旨をとらえてそれに対する自分の考えをもつ力が育ちつつあることが分かるが、今後も大切に指導しなければならない。授業の中に、「情報の熟考」をする場を意図的に設定する工夫が一層期待される。
- ・古典の学習は、教科書の単元だけでなく短い文章による小さな単元を何度も繰り返して指導するなどの方法により、古文に触れる機会を増やす工夫が必要である。歴史的仮名遣いを確かめた16) の通過率が設定通過率を12.6ポイントも下回ったことなどから、音読等古文の基本的な指導が不十分であることがうかがわれる。助詞の用法、語句の省略など古文の特徴に注意しながら読む指導の工夫が必要である。
- ・文法の指導は、機械的ではなく必要感のある場面設定を心がけたい。「文章中から探す」という条件に対応できるように指導する必要がある。

小 学 校 第 6 学 年
社 会

1 小学校6年 社会 評価規準と評価の観点

内 容	評 価 規 準	通し番号	観 点		
			思考 ・ 判断	技能 ・ 表現	知識 ・ 理解
目 標 (3)	・地図を効果的に活用して、具体的に調べている。 ・調べた結果を目的に応じた方法で表現している。	(1 (2)		○ ○	
(1) ア	・稲作は自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを、米づくりのさかんな地域の自然条件と関連付けて考えている。	(5	○		
(1) ア	・食料の中には外国から輸入しているものがあることを、地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を活用して具体的に調べ、表現している。	(7		○	
(1) イ	・我が国の主な食料生産物の分布や土地利用の特色を、地図や統計などの基礎的資料を活用して具体的に調べている。	(4		○	
(1) ウ	・稲作の農作業にかかる時間が、従事している人々の工夫や努力によって変化してきたことを、グラフなどの基礎的資料を活用して具体的に調べている。	(3		○	
(1) ウ	・食料生産に従事している人々の工夫や努力が分かっている。	(6			○
(2) ア	・自動車工場の見学などを通して、工業製品の生産にかかわる人々の姿を実際に見たり写真資料や各種統計資料などを活用したりして具体的に調べている。	(8		○	
(2) イ	・我が国の工業について、工場の規模から地図や統計などの各種の基礎的資料を活用して具体的に調べている。	(11		○	
(2) イ	・我が国の工業地帯や工業地域は、太平洋側の海沿いを中心に帯のように広がっていることが分かっている。	(12			○
(2) ウ	・調べたり見学したりしたことをもとに、自動車工場働く人々の工夫や努力について考え、理解を深めている。	(9 (10)	○ ○		
(3) ア	・放送、新聞、電信電話などの産業と国民生活とのかかわりが分かっている。	(13			○
(3) ア	・聞き取り調査などをもとに、天気予報などの情報が日常生活や産業活動の中で積極的に活用されていることを考え、適切に判断している。	(16	○		
(3) イ	・放送、新聞、電信電話などにかかわる仕事に従事している人々の工夫や努力が分かっている。	(14			○
(3) イ	・豊かな情報社会へと発展させていくために、情報を有効に活用することが大切であることに気付き、考えを深めている。	(15	○		
(3) イ	・調べた過程や結果を目的に応じた方法で表現している。	(17		○	
(4) ア	・国土の位置、地形や気候の概要が分かっている。	(18			○
(4) ア	・気候条件から見て特色ある地域の人々の生活を、地図や雨温図、その他の基礎的資料を活用して具体的に調べている。	(19		○	
(4) ウ	・調べたことをもとに、国土の環境を守り健康な生活を維持・発展させていくために、森林の保護育成に努めていることなどを考え、適切に判断している。	(20	○		

通し 番号	出題内容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0	100
(1)	地図帳のさくいんの活用	95.4%	85.0%		
(2)	二つの県にまたがる富士山	78.1%	70.0%		
(3)	農作業時間の移り変わり	72.0%	65.0%		
(4)	土地利用の特色	57.0%	70.0%		
(5)	米づくりに適した条件	56.7%	65.0%		
(6)	米づくり農家の工夫と努力	83.0%	65.0%		
(7)	自給率の低い小麦の輸入	93.4%	75.0%		
(8)	自動車組み立て工場の様子	94.8%	80.0%		
(9)	関連工場との協力	56.1%	70.0%		
(10)	これからの自動車づくり	93.4%	65.0%		
(11)	中小工場と大工場の特徴	62.8%	70.0%		
(12)	我が国の工業地帯	83.3%	80.0%		
(13)	情報と国民生活	91.2%	75.0%		
(14)	情報に従事する人々の工夫	80.2%	70.0%		
(15)	情報の有効な活用	69.4%	60.0%		
(16)	天気情報の活用	90.6%	65.0%		
(17)	情報の普及	66.2%	60.0%		
(18)	我が国の国土の特色	77.5%	70.0%		
(19)	我が国の機構の特色	90.0%	65.0%		
(20)	森林資源のはたらき	81.8%	75.0%		

※ は設定通過率±10%を示している。

小学校6年 社会

3 小問別反応率

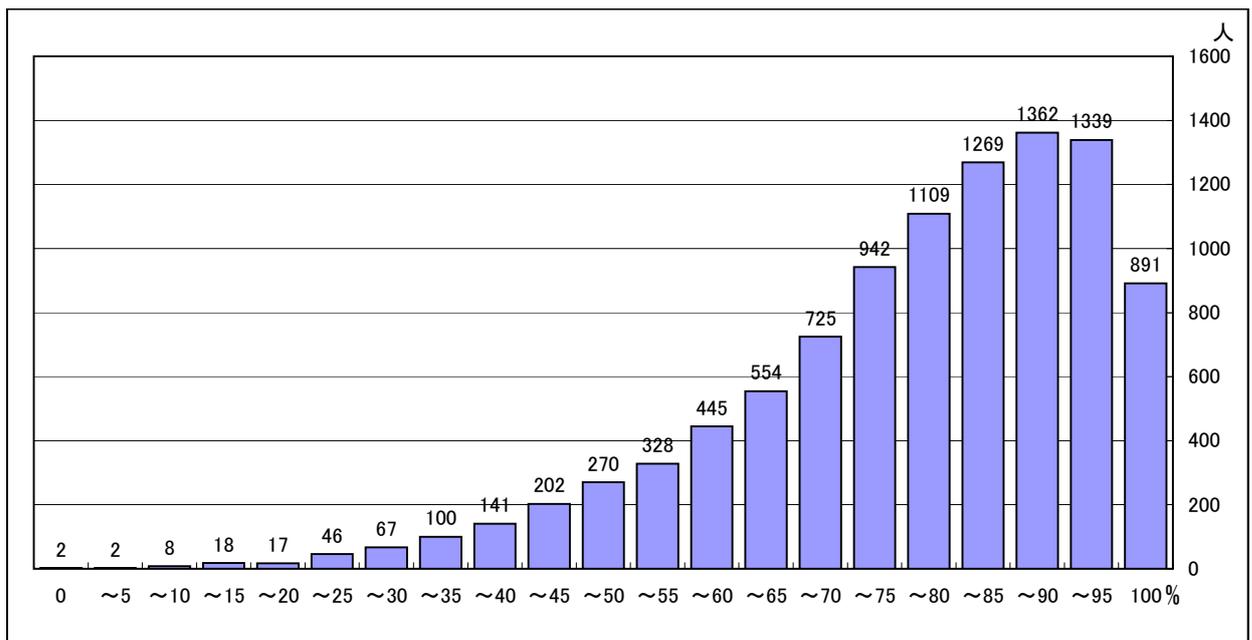
通し番号	1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
(1)	95.4%	3.2%	1.4%	0.1%
(2)	78.1%	19.2%	2.7%	0.1%
(3)	72.0%	27.8%	0.2%	0.1%
(4)	57.0%	42.4%	0.5%	0.1%
(5)	56.7%	42.9%	0.4%	0.1%
(6)	83.0%	16.5%	0.5%	0.1%
(7)	93.4%	3.8%	2.7%	0.1%
(8)	94.8%	5.0%	0.3%	0.1%
(9)	56.1%	43.4%	0.4%	0.1%
(10)	93.4%	6.2%	0.3%	0.1%
(11)	62.8%	36.7%	0.6%	0.1%
(12)	83.3%	11.6%	5.1%	0.2%
(13)	91.2%	7.1%	1.7%	0.1%
(14)	80.2%	19.0%	0.8%	0.1%
(15)	69.4%	25.1%	5.5%	0.1%
(16)	90.6%	8.8%	0.6%	0.1%
(17)	66.2%	33.1%	0.7%	0.1%
(18)	77.5%	22.1%	0.4%	0.1%
(19)	90.0%	9.7%	0.3%	0.1%
(20)	81.8%	16.1%	2.1%	0.1%

4 平均通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	1	1	891	891
~95	6	7	1339	2230
~90	17	24	1362	3592
~85	42	66	1269	4861
~80	87	153	1109	5970
~75	76	229	942	6912
~70	44	273	725	7637
~65	9	282	554	8191
~60	7	289	445	8636
~55	0	289	328	8964
~50	0	289	270	9234
~45	0	289	202	9436
~40	0	289	141	9577
~35	0	289	100	9677
~30	0	289	67	9744
~25	0	289	46	9790
~20	0	289	17	9807
~15	0	289	18	9825
~10	0	289	8	9833
~5	0	289	2	9835
0	0	289	2	9837

※4 (未履修) を除いた解答類型1～3の合計を分母として通過率を算出

5 平均通過率度数分布グラフ



6 小学校6年 社会科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

① 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			内 容 別				
		思考・判断	技能・表現	知識・理解	地図の活用	農業や水産業	工業生産	通信などの産業	国土の自然
問題数	20	6	9	5	2	5	5	5	3
+10%以上	9	3	4	2	1	1	2	4	1
±10%内	9	2	4	3	1	3	2	1	2
-10%以下	2	1	1	0	0	1	1	0	0

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度のものの合計が、20問中18問である。
- ・観点別に見ると、「思考・判断」では6問中5問が上回っているか同程度、「技能・表現」では9問中8問が上回っているか同程度、「知識・理解」では5問中すべてが上回っているか同程度であった。
- ・内容別に見ると、「地図の活用」では2問中すべて、「農業」では5問中4問、「工業」では5問中4問、「通信」では5問中すべて、「国土」では3問中すべてが上回っているか同程度であり、10ポイント以上下回ったのは合計で2問のみであった。
- ・未記入率の割合の高い問題は、12)の「工業地帯」と15)「情報を送る側の留意点」に関する記述であった。
- ・過去の県及び国の類似問題との通過率の比較では、10問中9問が上回っているか同程度であり、4)の「土地利用の特色」に関する問題のみ下回る結果となった。

② 小問別通過率度数分布

小学校6年生社会	小問別通過率度数分布表(校)																				※1学年20人以上データを提出した学校
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率
100%	51	6	4	0	0	5	36	31	0	18	0	8	20	1	3	20	0	3	18	4	0
95~100%	75	9	4	0	1	12	50	62	0	55	1	23	40	5	2	18	0	12	43	6	0
90~95%	39	15	2	1	1	18	53	69	1	68	2	33	58	17	14	75	0	12	46	25	5
85~90%	10	22	8	1	1	33	28	14	4	26	3	32	31	26	27	41	1	21	30	31	15
80~85%	2	30	26	5	4	52	8	2	2	9	8	24	21	44	22	21	12	28	21	44	54
75~80%	0	39	26	2	7	33	3	0	14	1	18	25	5	40	16	1	21	39	11	30	58
70~75%	0	22	27	14	15	11	0	0	7	1	19	8	0	24	17	2	31	24	5	20	35
65~70%	0	16	33	19	16	9	0	0	18	0	31	6	1	13	22	0	38	18	1	12	8
60~65%	0	8	21	26	19	3	0	0	14	0	20	9	1	4	13	0	31	10	1	4	3
55~60%	0	6	14	35	26	1	0	0	22	0	26	2	1	3	12	0	23	7	1	1	0
50~55%	0	2	10	27	32	1	0	0	31	0	23	6	0	1	7	0	10	2	1	1	0
45~50%	0	1	2	24	26	0	0	0	21	0	16	0	0	0	4	0	6	2	0	0	0
40~45%	0	1	1	14	17	0	0	0	22	0	8	1	0	0	4	0	4	0	0	0	0
35~40%	0	0	0	6	8	0	0	0	5	0	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0
30~35%	0	1	0	2	3	0	0	0	11	0	2	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0
25~30%	1	0	0	2	2	0	0	0	3	0	1	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0
20~25%	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
15~20%	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、1) 6) 7) 8) 10) 13) 14) 16) 19)の9問であり、昨年度の3問を大幅に上回った。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、4) 9)の2問のみである。
- ・各校における通過率の開きが50ポイント以上あった問題は、2) 3) 4) 5) 9) 11) 12) 15)の8問で、特に開きが大きかったのは、15)の記述式の問題である。

③ 教科の好き嫌い(学習への意欲等に関する質問紙調査項目)の傾向

- ・「大好き」「好き」の割合は75.4%であり、小4から小6の中で最も高い。また、「嫌い」「大嫌い」の割合は19.3%と約2割を示すが、年々減少の傾向にある。
- ・好きな理由は「楽しい」が34.6%と昨年より多くなっている。また、嫌いな理由は「わかりにくい」「不得意」「楽しくない」などで、合わせると約17%を占めている。

(2) 考察

① 全体について

ア 全体の9割の問題が設定通過率を上回っているか同程度であり、おおむね良好の状況にあるといえる。

・昨年度の平均通過率70.5%と比べると、今回は78.7%と昨年度を上回り、県類似問題及び国類似問題ともほとんどが上回っている。

イ 観点別にみると、「思考・判断」「技能・表現」の問題で定着が不十分なところがある。問題文の読解、地図やグラフ資料の読み取りがまだ弱い。

② 成果

ア 各校とも、各領域における指導状況はおおむね良好であることが分かる。

・設定通過率を10ポイント以上上回った問題が9問ある。また、度数分布表において80～100%の範囲に半分以上の学校が入っている問題が、1) 6) 7) 8) 10) 12) 13) 14) 16) 19) 20)の11問もある。作業的体験的な学習を取り入れた日常の実践において基礎・基本の確実な定着が図られている。

イ 昨年度の課題を踏まえ、「中小工場と大工場」「工業地帯」「情報に従事する人々の工夫」「我が国の気候の特色」などの問題において工夫改善が見られる。

・昨年度最も設定通過率との差が大きかった19)「我が国の気候の特色」に関する問題は、通過率が90.0%と昨年27.9%を大きく上回った。同様に、11)「中小工場と大工場」に関する問題も、通過率が62.8%と昨年の50.4%を上回った。

③ 課題

ア 複数の資料を比較・関連付けながら社会的事象の意味を考える観察・資料活用の「技能・表現」の学習がまだ十分とはいえない。

・誤答の割合が30%以上だったのが、4)「土地利用の特色」、5)「米作りに適した条件」、9)「自動車関連工場との協力」、11)「中小工場と大工場」、17)「情報の普及」の5問である。参考とする資料のない問題文や選択肢の読解力の不足、さまざまな資料を選択し比較・関連させた読み取りが依然として弱い。

イ いろいろな形式で問われることに抵抗を感じたり、問題の内容をよく理解しないまま解答したりしている児童が多い。

・9)は自動車工場の部品の流れを図から判断する問題だが、設定通過率を10ポイント以上上回った。資料を熟読しなければ正解が得られない新傾向の問題に戸惑ったようだ。11)のグラフを読み取る問題は、昨年度からの継続課題である。

ウ テーマに沿って文章等で表現する作業的な学習の指導がまだ定着していない。

・未記入の割合が高かった問題が、15)「情報の有効な活用」の記述の5.5%である。昨年の記述問題よりは通過率も若干伸びており指導の成果も表れているが、度数分布の開きも5～100%と大きく、学校間における指導の差が見られる。

(3) 今後の指導

- ・学習指導要領の内容をよく理解するとともに、児童の実態や地域の特色に応じた学習計画を立案し、具体的な児童像をイメージしながら指導することが必要である。
- ・食料生産や工業生産については、地図や地球儀、統計グラフなど、さまざまな資料を比較・関連させながら調べるとともに、生産地域の分布や土地利用の様子、自然条件とのかかわりや外国とのつながりなどに触れながら、多面的に考えたり、表現したりする活動を通して、基本的な知識や技能を身に付けさせることが大切である。
- ・通信などの産業については、見学や体験的な学習を効果的に取り入れ、児童の関心・意欲を持続させながら、人々の工夫や努力について調べるとともに、分かったことの共有化を図り、自分の言葉でノートや学習シートにまとめる力を育てることが必要である。

中 学 校 第 1 学 年
社 会

1 中学校1年 社会 評価規準と評価の観点

内容	評 価 規 準	通し番号	観 点		
			思考 判断	技能 表現	知識 理解
(1) ア	・調べたことをもとに、古墳が我が国の国家、社会の発展に果たした意味を考え、適切に判断している。	(1)	○		
(1) イ	・貴族の生活について、文章資料や絵画資料など基礎的資料を活用し調べている。	(3)		○	
(1) イ	・天皇を中心とした政治が、仏教とつながりながら確立されたことを理解している。	(2)			○
(1) ウ	・源頼朝が我が国の国家、社会の発展に果たした役割を考え、適切に判断している。	(5)	○		
(1) ウ	・京都の室町に幕府が置かれたころの代表的な建造物や絵画について、写真など基礎的資料を活用し調べている。	(6)		○	
(1) ウ	・武士による政治が始まったことを、鎌倉幕府の成立と結び付けて理解している。	(4)			○
(1) エ	・織田・豊臣の天下統一について、文章資料などの基礎的資料を活用し調べている。	(7)		○	
(1) オ	・大名行列、鎖国にかかわる徳川家光などの人物の働きが我が国の国家、社会の発展に果たした役割を考え、適切に判断している。	(8) (9)	○		
(1) オ	・武士による政治が安定したことを、鎖国の様子と結び付けて理解している。	(10)			○
(1) カ	・調べたことをもとに、明治維新にかかわる大久保利通、明治天皇などの人物の働きが我が国の国家、社会の発展に果たした役割を考え、適切に判断している。	(12)	○		
(1) カ	・明治維新について、絵画資料などの基礎的資料を活用し調べている。	(11)		○	
(1) キ	・我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを伊藤博文と結び付けて理解している。	(13)			○
(1) キ	・調べたことをもとに、大日本帝国憲法の発布にかかわる伊藤博文などの人物の働きが我が国の国家、社会の発展に果たした役割を考え、適切に判断している。	(14)	○		
(1) ク	・調べたことをもとに、日華事変、我が国にかかわる第二次世界大戦などにかかわる人々の働きが我が国の国家、社会の発展に果たした役割を考え、適切に判断している。	(15)	○		
(1) ク	・我が国にかかわる第二次世界大戦について、地域の高齢者に話を聞いたりして調べている。	(16)		○	
(2) ア	・国民生活と地方公共団体や国の政治とのかかわりを調査したり、各種の基礎的資料を活用したりして具体的に調べている。	(18)		○	
(2) ア	・国民生活には地方公共団体や国の政治の働きが、税金を通して反映していることを理解している。	(17)			○
(3) イ	・我が国の国際交流や国際協力の様子をグラフなどの基礎的資料を活用し調べている。	(19)		○	
(3) イ	・国際連合が平和な国際社会の実現にどのように努力しているかを理解している。	(20)			○

通し番号	出題内容	通過率 (%)	設定通過率 (%)	
(1)	古墳から分かる社会の様子	68.9%	75.0%	
(2)	聖徳太子や聖武天皇と仏教とのかかわり	80.5%	75.0%	
(3)	平安時代の貴族の生活	82.3%	75.0%	
(4)	鎌倉幕府成立の意義	74.0%	70.0%	
(5)	将軍と御家人の関係	51.0%	65.0%	
(6)	室町文化の特色	86.4%	80.0%	
(7)	豊臣秀吉と刀狩令	80.3%	75.0%	
(8)	参勤交代の目的	62.1%	70.0%	
(9)	鎖国の目的	79.5%	65.0%	
(10)	鎖国下の貿易	59.6%	65.0%	
(11)	明治維新前後に見られる服装の変化	69.4%	70.0%	
(12)	明治維新と学校制度	36.7%	60.0%	
(13)	伊藤博文の働き	74.6%	75.0%	
(14)	大日本帝国憲法成立の意義	45.7%	60.0%	
(15)	太平洋戦争の始まり	65.6%	65.0%	
(16)	戦中、戦後の人々の生活の様子	74.0%	70.0%	
(17)	税金の役割	80.3%	75.0%	
(18)	身近な公共施設の建設について調べる方法	78.5%	75.0%	
(19)	青年海外協力隊派遣数の変化	26.3%	60.0%	
(20)	ユニセフの働き	81.6%	75.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

中学校1年 社会

3 小問別反応率

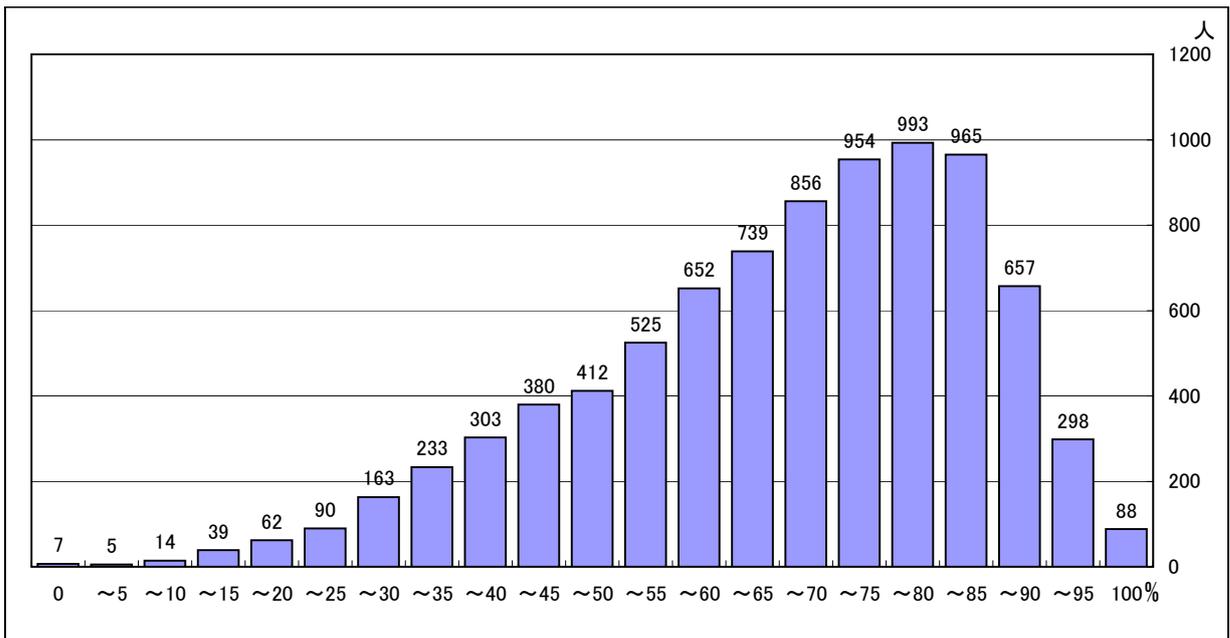
通し番号	1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
(1)	68.9%	31.0%	0.1%	0.0%
(2)	80.5%	15.3%	4.2%	0.0%
(3)	82.3%	17.4%	0.4%	0.0%
(4)	74.0%	25.5%	0.5%	0.0%
(5)	51.0%	48.7%	0.3%	0.0%
(6)	86.4%	13.4%	0.2%	0.0%
(7)	80.3%	19.6%	0.2%	0.0%
(8)	62.1%	37.4%	0.4%	0.0%
(9)	79.5%	20.2%	0.2%	0.0%
(10)	59.6%	36.9%	3.4%	0.0%
(11)	69.4%	27.6%	3.0%	0.0%
(12)	36.7%	62.8%	0.5%	0.0%
(13)	74.6%	25.1%	0.2%	0.0%
(14)	45.7%	53.9%	0.4%	0.0%
(15)	65.6%	34.2%	0.2%	0.0%
(16)	74.0%	25.7%	0.3%	0.0%
(17)	80.3%	14.8%	4.9%	0.0%
(18)	78.5%	21.0%	0.5%	0.0%
(19)	26.3%	58.0%	15.7%	0.0%
(20)	81.6%	17.3%	1.1%	0.0%

4 平均通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	88	88
~95	0	0	298	386
~90	0	0	657	1043
~85	0	0	965	2008
~80	3	3	993	3001
~75	11	14	954	3955
~70	30	44	856	4811
~65	51	95	739	5550
~60	36	131	652	6202
~55	3	134	525	6727
~50	0	134	412	7139
~45	0	134	380	7519
~40	0	134	303	7822
~35	0	134	233	8055
~30	0	134	163	8218
~25	0	134	90	8308
~20	0	134	62	8370
~15	0	134	39	8409
~10	0	134	14	8423
~5	0	134	5	8428
0	0	134	7	8435

※4 (未履修) を除いた解答類型1～3の合計を分母として通過率を算出

5 平均通過率度数分布グラフ



6 中学校1年 社会科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

① 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			内 容 別		
		思考・判断	技能・表現	知識・理解	歴史	政治	国際社会
問題数	20	7	7	6	16	2	2
+10%以上	1	1	0	0	1	0	0
±10%内	15	3	6	6	12	2	1
-10%以下	4	3	1	0	3	0	1

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度であるものの合計が、20問中16問である。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「思考・判断」では、7問中4問が上回っているか同程度、「技能・表現」では、7問中6問が同程度、「知識・理解」では、6問すべてが同程度という結果であった。
- ・未記入率については、文章記述式の1問が15.7%であったが、その他未記入率が5%以上の問題はなかった。
- ・過去に実施した本県学習状況調査の類似問題の通過率との比較では、5問中4問が上回っている。

② 小問別通過率度数分布

中学校1年生社会 小問別通過率度数分布表(校)																					※1学年20人以上データを提出した学校	
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率	
100%	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	
95~100%	0	6	3	1	0	10	0	0	1	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	
90~95%	1	9	12	4	0	29	14	2	16	1	5	0	8	0	2	8	11	7	1	17	0	
85~90%	6	16	30	10	0	34	21	0	17	2	7	0	13	0	5	8	18	16	0	19	0	
80~85%	5	32	36	20	1	32	30	4	27	4	15	0	19	0	9	14	41	31	0	36	2	
75~80%	24	32	20	24	3	14	26	11	31	7	16	0	24	0	11	23	23	38	1	25	9	
70~75%	23	10	11	26	1	1	20	8	16	10	19	0	20	1	13	25	20	17	0	20	28	
65~70%	21	15	7	21	7	1	5	18	6	20	25	0	20	0	21	24	3	9	0	3	47	
60~65%	23	0	2	9	10	0	3	22	5	16	10	1	10	6	26	12	4	2	1	1	36	
55~60%	10	1	0	5	19	0	1	28	3	17	9	6	6	7	14	4	0	0	1	0	0	
50~55%	6	0	0	2	23	0	1	17	0	19	8	10	0	20	13	3	1	0	3	1	0	
45~50%	2	0	0	0	22	0	0	7	0	11	2	10	2	32	1	0	0	0	4	0	0	
40~45%	1	0	0	0	19	0	0	2	0	7	2	21	0	26	3	0	0	1	4	0	0	
35~40%	0	0	0	0	12	0	0	1	0	6	1	23	0	18	3	0	0	0	6	0	0	
30~35%	0	0	0	0	2	0	0	2	0	1	0	16	0	8	0	0	0	0	15	0	0	
25~30%	0	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	22	0	3	0	0	0	0	23	0	0	
20~25%	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	10	0	1	0	0	0	0	26	0	0	
15~20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	13	0	0	
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	
	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、9)の1問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、5) 12) 14) 19)の4問である。
- ・各校における通過率の開きが大きい問題は、5) 8) 10) 11) 19)の5問でありそのなかには、文章で記述する問題の2問が含まれている。

③ 教科の好き嫌い(学習への意欲等に関する質問紙調査項目)の傾向

- ・「大好き」「好き」の合計は64.7%であり、小6との比較においては10.7%少ない。とくに「大好き」が11.3%少ない。一方「嫌い」「大嫌い」の合計は26.7%であり、小6との比較においては7.5%多い。
- ・「大好き」「好き」の理由では「楽しい」が32.3%を占めている。「将来のためになる」が8.6%と小と比較すると5.7%少ない。
- ・「嫌い」「大嫌い」の理由では「不得意」が10.8%、「わかりにくい」が10.1%であり、「楽しくない」は4.0%と少ない。

(2) 考察

① 全体について

- ア 全体では5分の4の問題が設定通過率を上回るか同程度であり、おおむね良好な状況にあるといえる。
- イ 観点別では「知識・理解」と「技能・表現」についてはおおむね良好な状況であるが、「思考・判断」については課題が見られる。

② 成果

- ア 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に資料などを活用して調べ、それらへの理解と関心を深める学習は、おおむね良好な状況であるといえる。
 - ・ 2) 3) 6) 7) 13) など人物の働きや文化遺産にかかわる内容を直接的に問う問題の通過率は、設定通過率を上回るか、同程度である。
 - ・ 小6では社会科が好きな理由において「楽しい」が34.6%であり、これは歴史学習では、人物を中心にすえながら子どもの活動を重視した授業がなされているためと思われる。
- イ 我が国の政治の働きや世界の中の日本の役割についての学習も、おおむね良好な状況であるといえる。
 - ・ 17) 20) の「知識・理解」に関する問題の通過率は80%を超えており、各校で知識の定着を意識した指導がなされていると思われる。

③ 課題

- ア 調べたことをもとにして、社会的事象の意味をより広い視野から考える力が不十分である。とくに、歴史に関する内容において、先人の業績等が我が国の国家・社会の発展に果たした役割を考える力を育てることについては、学校間における指導のばらつきが大きいと思われる。
 - ・ 12) 14) は設定通過率を大きく下回った。また、8) は、学校間における通過率のばらつきが大きかった。これらは、それぞれ明治維新、大日本帝国憲法、参勤交代に関する問題であったが、これらの事象を調べ、調べたことから事象の意味を考える学習がまだ不十分であると思われる。
- イ 社会的事象に見られる関係を図に表す力や複数の資料を関連付けたり、一つの資料を部分と全体に分けて読みとったりなど資料を活用して思考を深める力が不足している。
 - ・ 5) は設定通過率を14%下回った。「幕府」「御家人」といった組織や身分を表す用語と「御恩」「奉公」といった役割を表す用語の質的違いを明確にしなが、その関係を図で表す学習が不足していると思われる。
 - ・ 11) では、明治維新前後の2枚の資料から服装の変化を読みとり「～から…に変わった」という2枚から読みとれることを関連付けた解答を求めたが、「Aでは～でBでは…だ」という事実を読みとっただけの解答が目立った。
 - ・ 19) では、資料の読みとりの視点を、青年海外協力隊派遣人数における男女の人数という部分から総人数がどう変化しているかという全体に移すことを求めているが、単純に読みとれることを記述したものが多くあった。

(3) 今後の指導

- ・ 調べたことをもとに考える力を育てるためには、指導者自身が、社会的事象の意味を学習指導要領解説に即しながら子どもたちの目線で理解し、社会的事象の意味を獲得していくときの子どもの姿を具体的にイメージすることが必要である。そのためには、学習指導要領解説の読み込みと子どもの実態把握が重要である。
- ・ 子どもたちの課題意識を高める工夫が必要である。単元の導入段階での工夫、とくに社会的事象との出会いで驚きが生まれるような工夫が大切である。
- ・ 調べる過程に、基礎的資料を意図的に位置付けるとともに、複数の資料を関連付けたり、一つの資料を多角的に読みとったりするなどの学習を繰り返し行うことが必要である。
- ・ 学習過程に、調べたことをもとに考える学習の場を意図的に位置付けることが必要である。考える学習においては、考えの根拠について調べたことをもとに具体的に示すように指導するとともに、その内容について集団で吟味することが大切である。
- ・ 学習過程に、自分の考えや学習のまとめを書きながら深めていく活動を位置付けることが必要である。また、単元テスト等に社会的事象の意味を自分の言葉で説明させるような問題を取り入れることも大切である。

中 学 校 第 2 学 年
社 会

1 中学校2年 社会 評価規準と評価の観点

内 容	評 価 規 準	通し番号	観 点		
			思考 ・ 判断	技能 ・ 表現	知識 ・ 理解
(1) ア	地	・主な国々の名称と位置，世界の地域区分を理解し，その知識を身に付けている。	(3 4)		○ ○
(1) イ		・日本の国土の領域の特色を理解し，その知識を身に付けている。	(1)		○
(1) イ	理	・都道府県の位置と名称を理解し，その知識を身に付けている。	(2)		○
(2) ア		・身近な地域の特色をとらえるために，縮尺の大きな地図を読み取ることができる。	(5 6)		○ ○
(2) ア	的	・身近な地域の地理的事象を基にして設定した課題を，地域の環境条件と人間の営みとのかかわりに着目して多面的・多角的に考察している。	(7)	○	
(2) イ		・都道府県の地域的特色をとらえるために，地図の読み取り，統計のグラフ化などを通して，学習に役立つ情報を適切に選択して活用している。	(8)		○
(2) イ	野	・都道府県規模の地域的特色をとらえる課題を追究するための視点や方法を考察し，適切に選択している。	(9)	○	
(2) イ		・都道府県の地理的事象を基にして設定した課題を，地域の環境条件と人間の営みとのかかわりに着目して多面的・多角的に考察している。	(10)	○	
(1) ア	歴	・時代の大きな移り変わりを考察している。	(11)	○	
(1) ア		・関心ある主題に関する年表や歴史地図などの資料を収集し，適切に選択して活用している。	(12)		○
(1) ア	史	・時代の大きな移り変わりに気付いている。	(13)		○
(2) ウ		・国家の仕組みが整えられ，その後，天皇の政治が展開されたことに関する文献資料を収集し，適切に選択して活用している。	(14)		○
(2) ウ	的	・国家の仕組みが整えられたことを，東アジアの歴史を背景に理解し，その知識を身に付けている。	(15)		○
(3) ア		・武家政権が成立した後の武家社会の展開に関する様々な資料を収集し，適切に選択して活用している。	(16)		○
(3) ア	分	・応仁の乱後の社会的な変動を通して，時代の特色を多面的・多角的に考察している。	(17)	○	
(4) イ		・15世紀ころの対外関係のあらましに関する文献などの様々な資料を収集し，適切に選択して活用している。	(18)		○
(4) ウ	野	・鎖国までの流れと，鎖国下の対外関係に気付き，その知識を身に付けている。	(19)		○
(4) ウ		・江戸幕府の大名統制を通して，幕府政治の特色を多面的・多角的に考察している。	(20)	○	

通し番号	出題内容	通過率 (%)	設定通過率 (%)	
(1)	我が国の位置と領域	83.9%	80.0%	
(2)	都道府県の位置と名称	63.8%	75.0%	
(3)	世界の地域区分と主な国の位置	80.8%	90.0%	
(4)	主な国の位置	39.6%	60.0%	
(5)	地形図の読み取り (距離)	69.8%	60.0%	
(6)	地形図の読み取り (地形)	55.5%	60.0%	
(7)	地形図の読み取り (予想)	55.0%	60.0%	
(8)	折れ線グラフの作成	88.1%	75.0%	
(9)	暮らしやすさの資料の読み取り	78.8%	80.0%	
(10)	暮らしやすさを見る資料の選択	62.1%	70.0%	
(11)	世紀の表し方	46.1%	65.0%	
(12)	幕府の位置	45.8%	65.0%	
(13)	時代区分と世紀の表し方	29.8%	60.0%	
(14)	古代国家の仕組み	74.0%	65.0%	
(15)	古代の国家の税	81.0%	80.0%	
(16)	応仁の乱の様子	76.6%	75.0%	
(17)	分国法制定の理由	48.0%	65.0%	
(18)	琉球王国の国際的な役割	60.8%	65.0%	
(19)	鎖国までの流れ	53.9%	60.0%	
(20)	外様大名の領地	70.5%	80.0%	

※  は設定通過率±10%を示している。

中学校2年 社会

3 小問別反応率

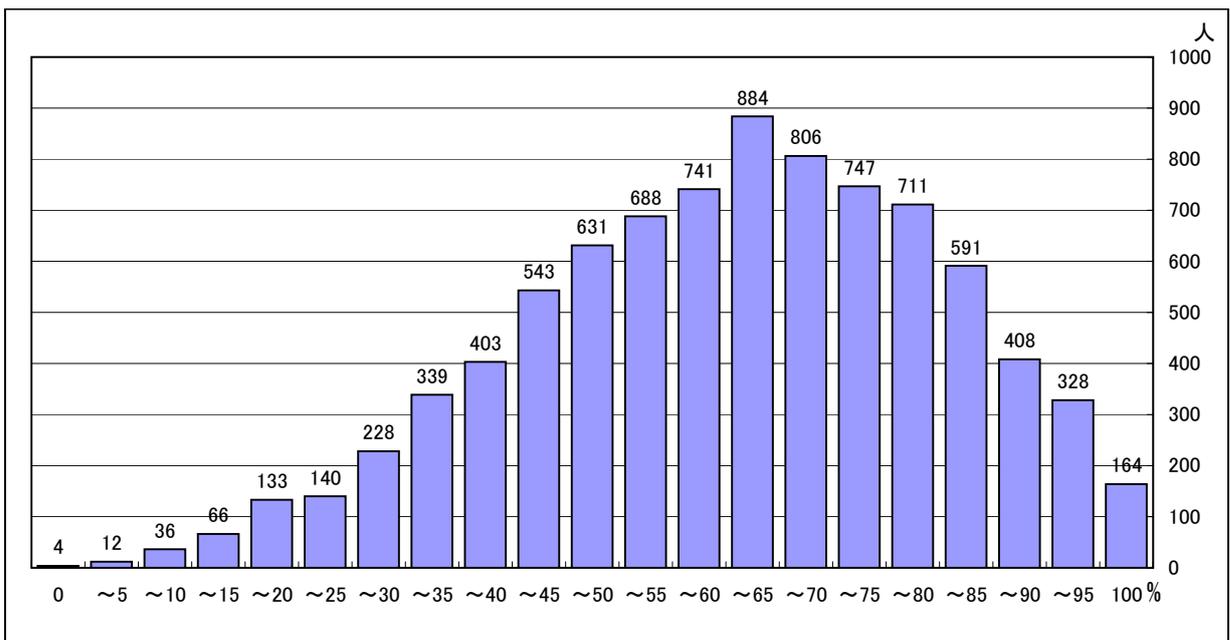
通し番号	1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
(1)	83.9%	9.7%	6.4%	0.0%
(2)	63.8%	27.9%	8.3%	0.0%
(3)	80.8%	18.9%	0.3%	0.0%
(4)	39.6%	60.2%	0.3%	0.0%
(5)	69.8%	29.7%	0.5%	0.0%
(6)	55.5%	43.3%	1.1%	0.0%
(7)	55.0%	31.2%	13.8%	0.0%
(8)	88.1%	9.0%	2.9%	0.0%
(9)	78.8%	17.5%	3.7%	0.0%
(10)	62.1%	37.2%	0.8%	0.0%
(11)	46.1%	53.5%	0.4%	0.0%
(12)	45.8%	53.6%	0.7%	0.0%
(13)	29.8%	65.0%	5.3%	0.0%
(14)	74.0%	25.7%	0.3%	0.0%
(15)	81.0%	18.6%	0.4%	0.0%
(16)	76.6%	22.7%	0.6%	0.0%
(17)	48.0%	51.5%	0.5%	0.3%
(18)	60.8%	38.4%	0.8%	0.0%
(19)	53.9%	40.2%	5.9%	0.3%
(20)	70.5%	28.9%	0.6%	0.3%

4 平均通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	164	164
~95	0	0	328	492
~90	0	0	408	900
~85	0	0	591	1491
~80	2	2	711	2202
~75	7	9	747	2949
~70	17	26	806	3755
~65	29	55	884	4639
~60	41	96	741	5380
~55	28	124	688	6068
~50	7	131	631	6699
~45	2	133	543	7242
~40	1	134	403	7645
~35	0	134	339	7984
~30	0	134	228	8212
~25	0	134	140	8352
~20	0	134	133	8485
~15	0	134	66	8551
~10	0	134	36	8587
~5	0	134	12	8599
0	0	134	4	8603

※4 (未履修) を除いた解答類型1～3の合計を分母として通過率を算出

5 平均通過率度数分布グラフ



6 中学校2年 社会科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

① 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			分野別	
		思考・判断	技能・表現	知識・理解	地理的分野	歴史的分野
問題数	20	6	7	7	10	10
+10%以上	1	0	1	0	1	0
±10%内	13	4	5	4	7	6
-10%以下	6	2	1	3	2	4

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度であるものの合計が、20問中14問である。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「思考・判断」では6問中4問が同程度である。「技能・表現」では7問中6問が上回っているか同程度である。「知識・理解」では、7問中4問が同程度である。
- ・分野別で同様の比較をした場合、「地理的分野」では10問中8問が上回っているか同程度、「歴史的分野」では10問中6問が同程度である。
- ・未記入率が高かった問題は1) 2) 7) であり、それぞれ6.4%、8.3%、13.8%である。
- ・過去の類似問題との通過率の比較では、11問中9問が上回っている。

② 小問別通過率度数分布

以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率		
100%	5	0	0	0	1	0	0	5	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
95~100%	13	0	9	0	2	0	0	15	8	1	0	0	0	2	3	1	0	0	0	0	0	0	
90~95%	30	1	16	0	5	0	3	46	19	2	0	0	0	4	17	8	0	0	1	2	0	0	
85~90%	33	1	24	0	8	2	3	39	19	2	0	0	0	8	25	14	0	2	2	10	0	0	
80~85%	20	9	28	0	9	4	3	15	25	3	0	0	0	14	32	22	0	4	8	16	2	2	
75~80%	11	20	20	2	23	4	7	4	20	10	0	2	1	37	28	33	1	10	7	15	6	6	
70~75%	2	19	19	1	18	6	11	1	11	20	2	4	1	27	14	25	1	8	7	28	15	15	
65~70%	7	21	7	6	24	12	11	2	12	18	7	7	1	23	8	19	2	24	8	18	29	29	
60~65%	3	20	2	8	21	22	13	1	4	20	5	8	1	8	1	4	9	26	22	14	41	41	
55~60%	1	11	2	7	10	18	18	0	3	12	11	12	3	4	0	2	13	20	13	13	29	29	
50~55%	1	11	0	12	7	29	12	0	5	28	22	22	10	1	0	0	19	18	12	5	6	6	
45~50%	1	6	1	9	0	16	10	0	0	8	17	15	1	0	0	0	34	10	8	4	0	0	
40~45%	1	8	0	12	0	7	14	0	0	2	36	18	8	0	0	0	22	3	15	1	0	0	
35~40%	0	1	0	20	0	3	11	0	0	1	16	17	12	0	0	0	17	0	10	0	0	0	
30~35%	0	0	0	22	0	3	5	0	0	1	7	16	17	0	0	0	5	2	7	0	0	0	
25~30%	0	0	0	11	0	0	4	0	0	0	2	5	31	0	0	0	4	1	5	0	0	0	
20~25%	0	0	0	13	0	2	2	0	0	0	1	1	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15~20%	0	0	0	5	0	0	1	0	0	0	1	1	15	0	0	0	0	0	2	0	0	0	
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1	1	
	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、8)の1問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、2) 4) 11) 12) 13) 17) の6問である。
- ・各校における通過率の開きが大きかった問題は、7) 11) 17) 19) 20) の5問である。
- ・特に、13)は通過率が29.8%と低い。

③ 教科の好き嫌い(学習への意欲等に関する質問紙調査項目)の傾向

- ・「大好き」「好き」の割合は56.0%である。昨年度、1年生のときには60.8%であった割合が減少している。
- ・好き嫌いの理由を1年生のときと比較した場合、「わかりやすい」と「楽しくない」「わかりにくい」「将来のためにならない」「生活の中で役立たない」の割合が増えている。

(2) 考察

① 全体について

- ア 中学校2年生の学習の実現状況は、改善すべき点があると考えられる。
- ・20問中、6問が設定通過率を10%以上下回っている。特に歴史的分野において4問が設定通過率を10%以上下回っている。
- イ 小問ごとの通過率の差が大きく、特に知識・理解の通過率が低くなっている。
- ・知識・理解の問題は、7問中3問が設定通過率を10%以上下回っている。

② 成果

- ア さまざまな資料を活用した学習が進められていることがうかがわれる。
- ・設定通過率を10ポイント以上上回った8)や、10ポイント近く上回った5)14)は、いずれも観点別では「技能・表現」の問題である。地図やグラフ、史料などを中心に、資料の読み取りを丁寧に扱った学習の成果が表れたものと考えられる。

③ 課題

- ア 地理的分野では、具体的な地理的事象を通して、「分かる」授業づくりに努めることが課題である。
- ・2)は、都道府県の位置を問う問題であるが、統計資料との組み合わせで解答を導くものである。4)は、例年出題している問題の問い方を変えたものである。どちらの問題も、普段の学習における地図活用の重要性を示唆している。また、地形図の扱いはおおむね丁寧になってきたことがうかがわれるが、地形図のきまりにしたがって、地形の特色を丁寧に読み取る時間の確保が必要である。
- イ 歴史的分野では、内容(1)ア、(3)アの定着のため、歴史的事象を関連付けて指導するために、指導過程を一層工夫することが課題である。
- ・1)2)3)は、いずれも内容(1)アの問題で、通過率はいずれも設定通過率を10ポイント以上下回っている。

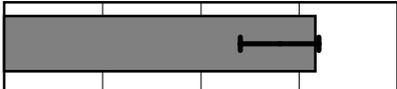
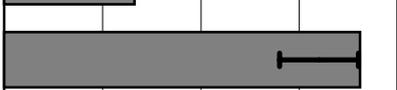
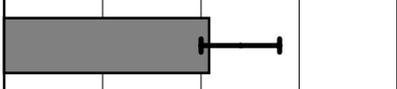
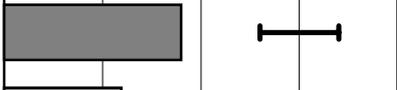
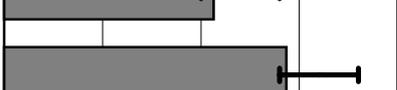
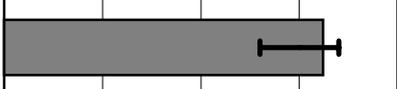
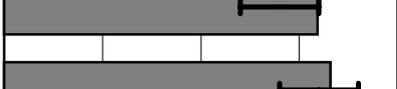
(3) 今後の指導

- ・学習指導要領に基づき目標及びねらいを明確にして、単元構成や本時の指導過程を考えることが授業づくりの基本である。また、学習意欲を喚起、持続できる授業の構築や、学び方・調べ方が獲得できる学習過程の工夫などが強く求められる。知識を使い、理解が深まる学習が大事である。
- ・地理的分野では、さまざまな資料を有効に結び付けたり、作業学習を取り入れたりするなどして、「地理的事象の意味がわかる」授業づくりの工夫が必要である。例えば、大まかに世界地図や日本地図を描く作業を大事にしたり、世界地図のなかで各国の位置を確認したりする、丁寧な指導を繰り返し行うことが必要である。内容(1)、(2)の学習は、内容(3)の土台である。地理的認識の座標軸や地域的特色の調べ方などは、一人一人に確実に身に付けさせる必要がある。年間指導計画に基づき、計画的に指導するとともに、学んだことが他の単元でも応用できるような学習展開を期待したい。
- ・歴史的分野では、内容(1)アの丁寧な指導が必要である。特に、年代の表し方や時代区分については、作業的な学習との関連において指導を工夫する必要がある。中学校における歴史学習の導入としての位置付けを確認するとともに、ここで学んだ内容は、その後の学習で繰り返し活用することにも留意したい。また、小学校での学習内容を把握しておくことも大事である。学習指導要領でその内容を確認するとともに、小学校との連携を図り、一層充実した学習が展開されることを期待したい。

中 学 校 第 3 学 年
社 会

1 中学校3年 社会 評価規準と評価の観点

内 容	評 価 規 準	通し番号	観 点		
			思考 ・ 判断	技能 ・ 表現	知識 ・ 理解
(2) ウ	・世界の国々の諸事象を位置や空間的広がりとの かかわりでとらえ、地理的事象として見出し ている。	(1)	○		
(2) ウ	地 理	(2)		○	
(4)			○		
(5)			○		
(2) ウ	・国家規模の地域的特色をとらえる課題を追究す るための視点や方法を考察し、適切に選択して いる。	(3)	○		
(3) ア	分 野	(6)		○	
(3) ア		(8)			○
(3) イ		(7)	○		
(3) イ	・自然環境の観点から世界と比較し関連付けてと らえた日本の地域的特色を理解し、その知識を 身に付けている。	(9)			○
(5) ア	歴 史 的 分 野	(10)			○
(5) ウ		(11)		○	
(5) ウ		(12)		○	
(5) ウ		(13)			○
(5) オ		(14)	○		
(5) カ		(15)	○		
(5) キ		(16)			○
(5) ク		(17)			○
(1) イ	・昭和初期から第二次世界大戦終結までの我が国 の歴史のあらましを世界の動きと関連させて理 解し、その知識を身に付けている。	(18)	○		
(1) イ	・身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域 の歴史に関するさまざまな資料を収集し、適切 に活用している。	(19)		○	
(1) イ	・身近な地域の具体的な事柄とかかわらせ、我が 国の歴史を理解している。	(20)			○

通し番号	出題内容	通過率 (%)	設定通過率 (%)	
(1)	工業地域の立地条件	79.1%	70.0%	
(2)	加工貿易の特徴	79.9%	80.0%	
(3)	貿易黒字の特徴	48.3%	65.0%	
(4)	食料供給量に関する統計資料の読み取り	84.9%	70.0%	
(5)	統計資料の読み取り	36.4%	60.0%	
(6)	雨温図の読み取り (南半球)	33.1%	60.0%	
(7)	我が国の年齢別人口構成の推移	90.4%	80.0%	
(8)	世界の人口の特色	52.1%	60.0%	
(9)	世界の地形	45.0%	75.0%	
(10)	我が国の地形の特色	29.8%	60.0%	
(11)	日米修好通商条約と社会の変化	82.1%	75.0%	
(12)	自由民権運動の動き	53.2%	60.0%	
(13)	内閣制度の成立	71.7%	80.0%	
(14)	日清戦争当時の大陸をめぐる国際情勢	80.2%	80.0%	
(15)	第一次世界大戦後の国際協調の動き	81.0%	75.0%	
(16)	軍部の台頭から戦争までの経過	47.0%	70.0%	
(17)	第二次世界大戦後の我が国の国際社会への復帰	28.6%	60.0%	
(18)	高度経済成長期の我が国の社会の変化	79.6%	70.0%	
(19)	県内資料に基づいた地租改正の様子の読み取り	82.9%	80.0%	
(20)	地租改正の目的	61.7%	70.0%	

※  は設定通過率±10%を示している。

中学校3年 社会

3 小問別反応率

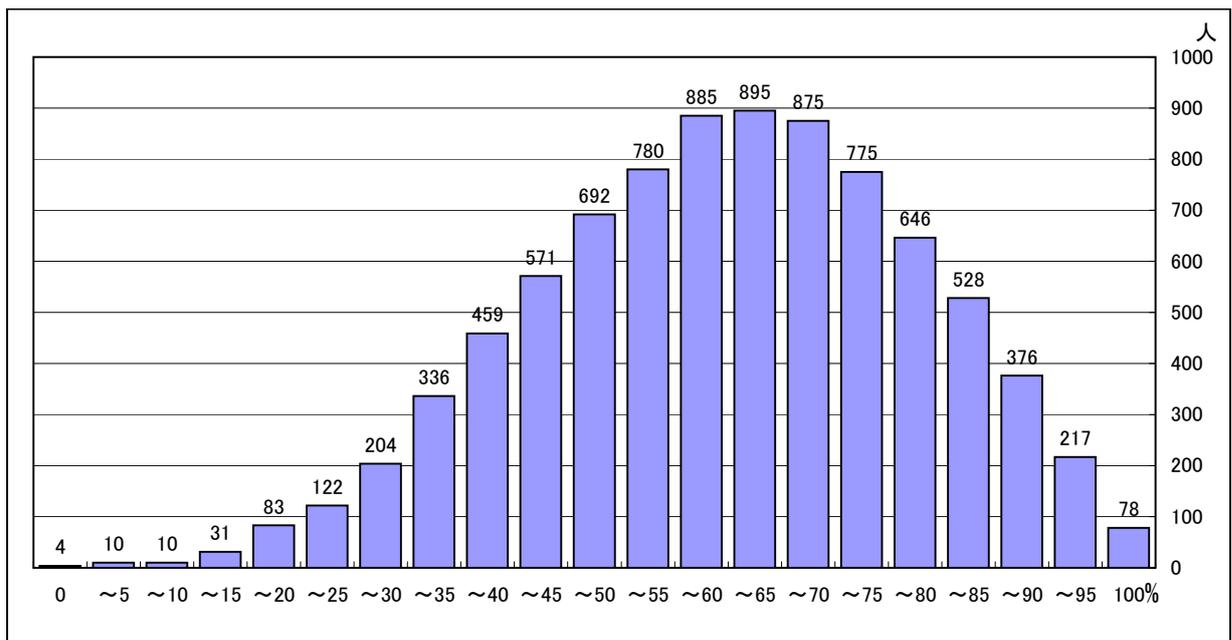
通し番号	1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
(1)	79.1%	20.8%	0.1%	0.0%
(2)	79.9%	20.0%	0.1%	0.0%
(3)	48.3%	51.1%	0.5%	0.0%
(4)	84.9%	15.0%	0.1%	0.0%
(5)	36.4%	63.4%	0.2%	0.0%
(6)	33.1%	66.8%	0.2%	0.0%
(7)	90.4%	9.5%	0.1%	0.0%
(8)	52.1%	47.4%	0.5%	0.0%
(9)	45.0%	54.8%	0.2%	0.0%
(10)	29.8%	69.9%	0.3%	0.0%
(11)	82.1%	16.6%	1.3%	0.0%
(12)	53.2%	46.5%	0.2%	0.0%
(13)	71.7%	28.1%	0.2%	0.0%
(14)	80.2%	19.7%	0.1%	0.0%
(15)	81.0%	18.8%	0.2%	0.0%
(16)	47.0%	52.8%	0.2%	0.0%
(17)	28.6%	71.1%	0.3%	1.0%
(18)	79.6%	16.6%	3.8%	0.0%
(19)	82.9%	16.8%	0.2%	0.0%
(20)	61.7%	38.0%	0.3%	0.0%

4 平均通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	78	78
~95	0	0	217	295
~90	0	0	376	671
~85	1	1	528	1199
~80	0	1	646	1845
~75	2	3	775	2620
~70	16	19	875	3495
~65	20	39	895	4390
~60	49	88	885	5275
~55	39	127	780	6055
~50	5	132	692	6747
~45	1	133	571	7318
~40	0	133	459	7777
~35	0	133	336	8113
~30	0	133	204	8317
~25	0	133	122	8439
~20	0	133	83	8522
~15	0	133	31	8553
~10	0	133	10	8563
~5	0	133	10	8573
0	0	133	4	8577

※4 (未履修) を除いた解答類型1～3の合計を分母として通過率を算出

5 平均通過率度数分布グラフ



6 中学校3年 社会科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

① 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			分 野 別	
		思考・判断	技能・表現	知識・理解	地理的分野	歴史的分野
問 題 数	20	6	7	7	10	10
+10%以上	1	1	0	0	1	0
±10%内	12	4	5	3	4	8
-10%以下	7	1	2	4	5	2

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度であるものの合計が、20問中13問である。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「思考・判断」では6問中5問が上回っているか同程度である。「技能・表現」では7問中5問が同程度である。「知識・理解」では、7問中3問が同程度である。
- ・分野別で同様の比較をした場合、「地理的分野」では10問中5問が上回っているか同程度、「歴史的分野」では10問中8問が同程度である。
- ・未記入率が高かった問題は、11) 18) であり、それぞれ1.3%、3.8%である。
- ・過去の類似問題との通過率の比較では、12問中8問が上回っている。

② 小問別通過率度数分布

中学校3年生社会 小問別通過率度数分布表(校)																					※1学年20人以上データを提出した学校	
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率	
100%	2	0	0	0	0	0	6	0	0	0	1	0	2	2	2	0	0	3	3	0	0	
95~100%	16	8	0	4	0	0	18	0	0	0	2	0	3	2	2	0	0	6	1	0	0	
90~95%	14	10	0	17	0	0	52	0	0	0	11	0	6	10	7	0	0	27	15	0	0	
85~90%	21	26	0	50	0	2	32	0	0	0	29	0	12	23	30	0	0	20	34	0	0	
80~85%	10	25	0	36	0	2	15	0	0	0	43	2	19	26	30	1	0	19	36	7	0	
75~80%	15	24	3	14	0	2	1	3	2	0	24	1	15	37	35	1	0	16	21	6	1	
70~75%	19	14	6	4	0	3	0	5	0	0	10	6	20	18	15	2	1	5	12	16	16	
65~70%	9	11	7	0	3	6	1	8	4	0	3	11	11	4	2	7	1	7	2	21	18	
60~65%	11	4	7	0	1	2	0	10	9	0	1	11	16	2	2	13	1	5	1	30	49	
55~60%	3	2	14	0	1	1	0	16	4	0	0	23	9	1	0	12	2	9	0	17	36	
50~55%	4	1	20	0	4	3	0	31	18	2	1	29	8	0	0	20	6	3	0	11	4	
45~50%	1	0	23	0	11	9	0	22	19	0	0	23	4	0	0	18	2	2	0	10	1	
40~45%	0	0	18	0	17	10	0	12	31	9	0	13	0	0	0	14	10	1	0	3	0	
35~40%	0	0	15	0	31	11	0	12	25	18	0	4	0	0	0	13	11	0	0	2	0	
30~35%	0	0	9	0	31	9	0	2	9	38	0	1	0	0	0	9	21	0	0	1	0	
25~30%	0	0	2	0	17	16	0	2	1	28	0	1	0	0	0	10	19	0	0	0	0	
20~25%	0	0	1	0	6	13	0	2	1	22	0	0	0	0	0	4	18	1	0	1	0	
15~20%	0	0	0	0	3	28	0	0	2	5	0	0	0	0	0	12	1	0	0	0	0	
10~15%	0	0	0	0	6	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	
5~10%	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7	0	0	0	0	
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	
	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、7) の1問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、3) 5) 6) 9) 10) 16) 17) の7問である。
- ・各校における通過率の開きが大きかった問題は、6) 16) 18) の3問である。
- ・特に、10) 17)は通過率がそれぞれ29.8%、28.6%と著しく低い。

③ 教科の好き嫌い（学習への意欲等に関する質問紙調査項目）の傾向

- ・「大好き」「好き」の割合は54.1%である。昨年度、2年生のときには52.0%であった割合が増加している。
- ・好き嫌いの理由を2年生のときと比較した場合、「わかりやすい」「将来のためになる」「生活の中で役立つ」と「楽しくない」「不得意」の割合が増えている。

(2) 考察

① 全体について

- ア 中学校3年生の学習の実現状況は、改善すべき点があると考えられる。
- ・20問中、7問が設定通過率を10ポイント以上下回っている。特に地理的分野において5問が設定通過率を10ポイント以上下回っている。
- イ 小問ごとの通過率の差が大きく、特に知識・理解の通過率が低くなっている。
- ・知識・理解の問題は、7問中4問が設定通過率を10ポイント以上下回っている。

② 成果

- ア 資料をもとに考える学習が進められていることがうかがわれる。
- ・設定通過率を10ポイント以上上回った7) や、10ポイント近く上回った1) 18) は、いずれも観点別では「思考・判断」の問題である。グラフなどを中心に、資料から読み取ったことを基に考える学習の成果が表れたものと考えられる。

③ 課題

- ア 地理的分野では、具体的な地理的事象を通して、「わかる」授業づくりに努めることが課題である。
- ・6) は、南半球にある温帯の都市の気温と降水量を示すグラフを問う問題で、10) は、地形の断面図を問う問題である。いずれも、問われていることに対して、イメージをもつことができるかどうかが大変なポイントである。
- イ 歴史的分野では、内容(5)カ、キの内容の定着のため、内容をわかりやすく整理した指導過程の工夫が課題である。
- ・16) 17) は、いずれも観点別では「知識・理解」の問題で、通過率はいずれも設定通過率を10ポイント以上下回っている。

(3) 今後の指導

- ・学習指導要領に基づき目標及びねらいを明確にして、単元構成や本時の指導過程を考えることが授業づくりの基本である。また、学習意欲を喚起、持続できる授業の構築や、学び方・調べ方が獲得できる学習過程の工夫などが強く求められる。知識を使い、理解が深まる学習が必要である。
- ・地理的分野では、地球儀や地図、写真やグラフなどを有効に結び付けて、「地理的事象の意味が分かる」授業づくりの工夫が必要である。例えば、気候の特色を明らかにする学習では、グラフの読み取りだけではなく、地図や映像を組み合わせて資料化したり、作業学習を取り入れたりするなどの具体的な工夫が大事である。内容(3)は、内容(1)、(2)での学習をもとに、国土の地理的認識を深めるとともに、地域的特色を追究する調べ方や学び方を身に付けさせることが主なねらいである。年間指導計画に基づき、日本の地域的特色をとらえるための五つの観点を大事にして、丁寧な指導のもと、国土の地理的認識を深め、調べ方や学び方を身に付ける学習が展開されることを期待したい。
- ・歴史的分野では、近現代史の学習の一層の充実が求められる。特に、内容(5)カ、キ、クは、網羅的に用語を扱うのではなく、年表や地図も活用した指導が必要である。例えば、年表上で歴史的事象の関連を把握させたり、国名や地名は地図帳や掛け図で必ず確認させたりするきめ細やかな指導が大事である。歴史的事象の多面性をとらえさせる板書の工夫も必要である。また、学習の質的向上には、小学校での近現代史の学習内容や学習方法を把握しておくことが不可欠である。学習指導要領で内容を確認するとともに、小学校との連携を図り、人物や資料の扱い方を工夫し、一層充実した学習が展開されることを期待したい。

小 学 校 第 4 学 年
算 数

1 小学校4年 算数 評価規準と評価の観点

領域	内容	評価規準	通し 番号	観 点		
				考 え 方	表 現 ・ 処 理	知 識 ・ 理 解
A 数と 計算	(1)アイウ 数の表し 方	・ 万の単位までの数の大きさをよんだり表したりすることができる。	(4)		○	
		・ 一つの数を10で割った大きさをつくることができる。	(5)		○	
	(2)アイウ 加法と減 法	・ 加法の暗算をする際の計算の仕方を考える。	(6)	○		
		・ 3位数の減法の計算が確実にできる。	(1)		○	
	(3)アイウ 乗法	・ 整数の乗法の意味について理解し、乗法の計算が、どのような場面で用いられるのかを理解している。	(8)			○
		・ 2位数に2位数をかける計算が確実にできる。	(3)		○	
		・ 整数の乗法に関して成り立つ性質について理解している。	(7)			○
	(4)アイウ 除法	・ 整数の除法の計算の仕方について、整数の乗法の計算の仕方を基にして考える。	(10)	○		
		・ 除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。	(2)		○	
		・ 整数の除法の意味について理解し、除法の計算が、どのような場面で用いられるのかを理解している。	(9)			○
B 量と 測定	(1)アイウ エ(2) 長さ、か さ、重さ の単位と 測定	・ かさの比較や測定の方法について、任意単位による比較を用いて考える。	(12)	○		
		・ 重さの単位を用いて測定することができる。	(11)		○	
	・ かさの大きさについて豊かな感覚をもっている。	(15)			○	
(3)アイ 時間	・ 必要な時刻や時間を求めることができる。	(13)		○		
C 図形	(1)アイ 基本的な 図形	・ 頂点、辺、面という構成要素に着目し、その個数や形について調べる活動を通して、箱の形の特徴を見付ける。	(16)	○		
		・ 箱の形をしたものの頂点の個数について理解している。	(17)			○
		・ 正方形の意味を理解している。	(18)			○
		・ 直角三角形の意味を理解している。	(14)			○
D 数量 関係	(1)アイ 資料の整 理、表と グラフ	・ 資料をよみとり、棒グラフに表すことができる。	(20)		○	
		・ 簡単な二次元の表の見方を理解している。	(19)			○

通し番号	出題内容	通過率 (%)	設定通過率 (%)	
(1)	3位数－3位数	85.5%	80.0%	
(2)	2位数÷1位数	93.5%	80.0%	
(3)	2位数×2位数の筆算	68.6%	70.0%	
(4)	十進位取り記数法	90.8%	80.0%	
(5)	数の相対的な大きさ	95.9%	90.0%	
(6)	36+48の暗算の仕方	87.3%	70.0%	
(7)	整数の乗法で成り立つ性質	78.9%	80.0%	
(8)	整数の乗法の意味	70.3%	70.0%	
(9)	整数の除法の意味	88.1%	90.0%	
(10)	整数の除法の計算の仕方	68.8%	70.0%	
(11)	はかり（重さ）のよみかた	78.1%	60.0%	
(12)	水のかさのくらべかた	78.4%	60.0%	
(13)	何分後の時間	77.4%	70.0%	
(14)	直角三角形の弁別	74.0%	80.0%	
(15)	かさの単位 (ml)	76.5%	80.0%	
(16)	箱の形の特徴	87.6%	70.0%	
(17)	箱の形の頂点の数	83.7%	70.0%	
(18)	正方形の意味	71.3%	70.0%	
(19)	二次元表の見方	79.7%	70.0%	
(20)	棒グラフのかきかた	90.6%	90.0%	

※  は設定通過率±10%を示している。

小学校4年 算数

3 小問別反応率

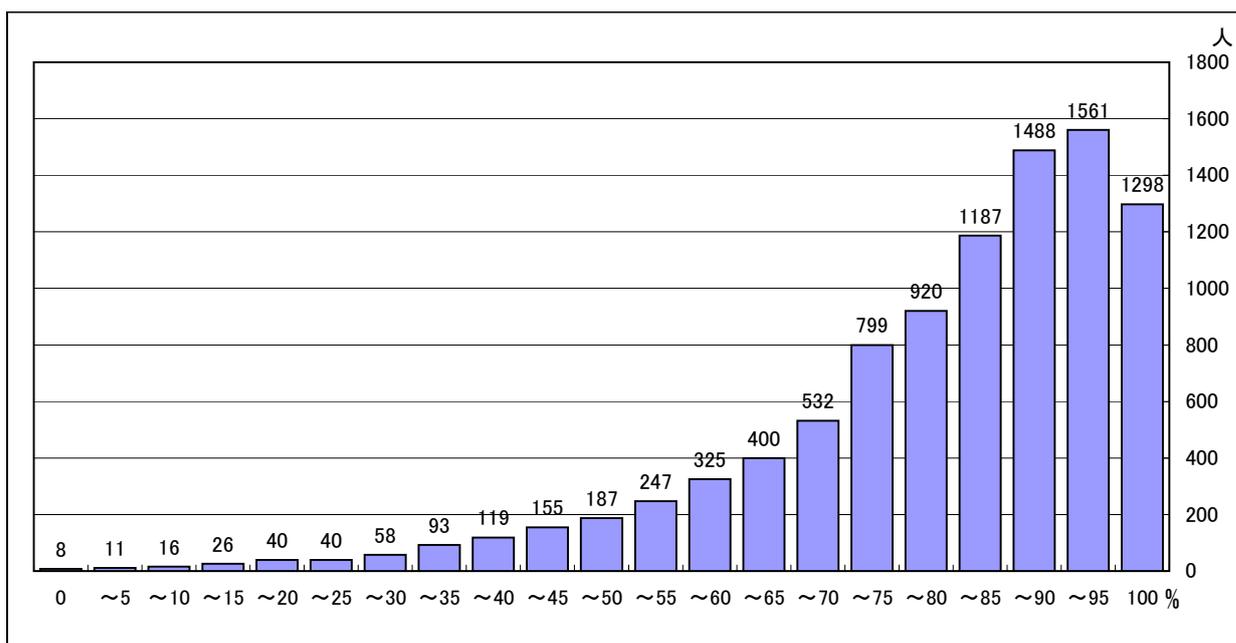
通し番号	1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
(1)	85.5%	14.3%	0.2%	0.0%
(2)	93.5%	6.3%	0.2%	0.0%
(3)	68.6%	30.3%	1.1%	0.0%
(4)	90.8%	9.1%	0.1%	0.0%
(5)	95.9%	3.9%	0.3%	0.0%
(6)	87.3%	12.2%	0.5%	0.0%
(7)	78.9%	19.5%	1.7%	0.0%
(8)	70.3%	28.9%	0.9%	0.0%
(9)	88.1%	11.4%	0.6%	0.0%
(10)	68.8%	29.2%	2.0%	0.0%
(11)	78.1%	21.5%	0.5%	0.0%
(12)	78.4%	17.4%	4.1%	0.0%
(13)	77.4%	22.0%	0.6%	0.0%
(14)	74.0%	25.4%	0.5%	0.0%
(15)	76.5%	21.8%	1.7%	0.0%
(16)	87.6%	9.4%	3.0%	0.0%
(17)	83.7%	15.0%	1.3%	0.0%
(18)	71.3%	26.9%	1.8%	0.0%
(19)	79.7%	17.1%	3.2%	0.0%
(20)	90.6%	8.4%	1.0%	0.0%

4 平均通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	2	2	1298	1298
~95	10	12	1561	2859
~90	32	44	1488	4347
~85	77	121	1187	5534
~80	76	197	920	6454
~75	60	257	799	7253
~70	24	281	532	7785
~65	6	287	400	8185
~60	2	289	325	8510
~55	2	291	247	8757
~50	0	291	187	8944
~45	1	292	155	9099
~40	0	292	119	9218
~35	1	293	93	9311
~30	0	293	58	9369
~25	0	293	40	9409
~20	0	293	40	9449
~15	0	293	26	9475
~10	0	293	16	9491
~5	0	293	11	9502
0	0	293	8	9510

※4 (未履修) を除いた解答類型1～3の合計を分母として通過率を算出

5 平均通過率度数分布グラフ



6 小学校4年 算数科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

① 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			領 域 別			
		考え方	表現・処理	知識・理解	数と計算	量と測定	図形	数量関係
問題数	20	4	8	8	10	4	4	2
+10%以上	7	3	3	1	3	2	2	0
±10%内	13	1	5	7	7	2	2	2
-10%以下	0	0	0	0	0	0	0	0

- ・20問すべてにおいて、設定通過率を上回るか同程度である。
- ・観点別に設定通過率と通過率を比較した場合、全観点ですべての問題が上回るか同程度である。特に「数学的な考え方」では4問中3問が上回っている。
- ・領域別に設定通過率と通過率を比較した場合、全領域ですべての問題が上回るか同程度である。
- ・未記入率の高かった問題は、9) 19) 16) の3問で、順に4.1%、3.2%、3.0%である。
- ・過去に実施した本県の学習状況調査の類似問題との通過率の比較では、12問すべてにおいて上回るか同程度である。

② 小問別通過率度数分布

小学校4年生算数 小問別通過率度数分布表(校)													※1学年20人以上データを提出した学校								
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率
100%	13	23	2	11	46	5	4	0	8	0	5	0	1	1	0	9	3	0	8	15	0
95~100%	13	52	2	28	69	15	6	1	16	1	9	7	6	4	3	18	10	2	12	35	2
90~95%	31	56	5	60	36	37	17	4	53	5	19	22	7	9	9	41	31	14	20	48	8
85~90%	43	22	12	43	9	54	18	8	46	4	25	26	21	15	27	49	29	9	27	41	32
80~85%	30	9	25	16	2	34	35	11	23	18	27	39	33	32	18	26	39	21	33	17	56
75~80%	9	1	16	4	0	11	37	23	13	19	27	17	31	24	34	12	29	20	19	6	48
70~75%	13	0	18	1	0	5	19	36	2	34	18	21	30	22	34	6	18	29	19	1	14
65~70%	7	0	27	0	0	2	12	29	2	29	13	13	19	22	15	2	3	21	5	0	3
60~65%	2	0	17	0	1	0	6	25	0	26	11	9	8	19	15	0	1	18	7	0	0
55~60%	0	0	16	0	0	0	5	19	0	13	5	5	5	9	6	0	0	16	2	0	0
50~55%	1	0	10	0	0	0	1	4	0	9	0	1	1	5	2	0	0	7	4	0	0
45~50%	1	0	6	0	0	0	0	3	0	4	1	1	1	0	0	0	0	3	3	0	0
40~45%	0	0	3	0	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	2	2	0	0
35~40%	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
30~35%	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
25~30%	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
20~25%	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15~20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163	163

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、2) 4) 6) 11) 12) 16) 17) の7問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題はない。
- ・各校における通過率の開きが特に大きかった問題は、3) 7) 11) 12) 18) 19) の6問である。

③ 教科の好き嫌い（学習への意欲等に関する質問紙調査項目）の傾向

- ・算数が「大好き」「好き」と答える割合が82.6%と高い。
- ・好きな理由の割合が、「楽しい」が43%、「わかりやすい」が13.9%であり、その他は広く分散している。
- ・嫌いな理由としては、「わかりにくい」が3.7%、「不得意」「楽しくない」ともに2%程度である。

(2) 考察

① 全体について

ア 学習の実現状況はおおむね良好といえる。

- ・設定通過率の平均が75.0%に対して、平均通過率が81.3%であり、すべての問題において設定通過率を上回るか同程度である。
- ・過去に実施した本県の学習状況調査の類似問題との通過率の比較では、12問中9問が上回っている。各校において本県の課題を受け止めた指導改善が進められている。
- ・国際調査(TIMSS2003)の類似問題の8) 20)については、いずれも数ポイント程度上回っているという状況であり、ほぼ国と同程度であるといえる。

② 成果

ア 基本的な計算問題については、確実な定着が図られている。

- ・1) 2) 3)は基本的な計算技能を問う問題であったが、どの問題も過去の本県の学習状況調査の類似問題の通過率を上回っている。基本的な計算技能については、確実に定着を図るように指導されていることが分かる。特に3)は、2位数どうしの乗法の筆算をする問題であるが、昨年度を8.3ポイント上回り、各校において指導の改善が図られている。

イ 量や図形に対する感覚を豊かにする学習の実現状況が良好になってきている。

- ・11)は、はかりの示す重さを問う問題であったが、設定通過率を18.1ポイント上回り、過去の本県学習状況調査の類似問題よりも31.7ポイント上回った。昨年度は表示のなかった「グラム単位」の表記を入れたこともその一因と考えられるが、日常生活と結び付いた指導がなされるようになってきたといえる。
- ・12)は、かさの任意単位による測定方法を問う問題であったが、設定通過率を18.4ポイント上回り、過去の本県の学習状況調査の類似問題よりも21.0ポイント上回った。水のかさを比べる算数的活動が、各校で意味理解の定着を伴いながら行われてきている成果と考えられる。
- ・16)は、箱の形の展開図になるものを選択する問題であったが、設定通過率を17.6ポイント上回った。基本的な展開図を直観的にイメージする感覚は身に付いてきている。

③ 課題

ア 量と測定領域における学校間での通過率の差が大きい。

- ・11) 12) 13)のように、全体としては通過率が高くなっている問題について、逆に低い通過率になっている学校が見られる。実際に水のかさを測ったりする算数的活動がしっかりと行われているかどうかの結果に反映していると思われる。

(3) 今後の指導

- ・豊かな感覚を育むことができるような算数的活動に取り組み、児童がその目的や意味をしっかりととらえることができるようにする必要がある。更に、やりっぱなしの活動ではなく、そこで学んだことを生かしながら別の課題を解決させるなど、身に付けたことを活用する場面を設定するなどに配慮したい。
- ・時計やはかりを用いて測定する場面は、日常生活の中に多く存在する。どれくらいになるかという予想を取り入れたり、実際に測って目盛りをよむ場面を学校生活の中で意図的に取り入れたりしながら指導していくことが大切である。
- ・計算についての表現・処理能力は、高いレベルで身に付いているといえる。これまで同様、計算方法の意味理解を大切にしながら、つまずきの早期発見と個に応じた指導の充実を図り、より一層伸ばしていきたいものである。

小 学 校 第 5 学 年
算 数

1 小学校5年 算数 評価規準と評価の観点

領域	内容	評価規準	通し番号	観 点		
				考 え 方	表 現 ・ 処 理	知 識 ・ 理 解
数 と 計 算	(1)ア 整数の表し方	・億や兆までの整数で、一つの数を10倍、100倍したりした数について考え、十進位取記数法についてまとめて考える。	(8)	○		
	(2)アイ 概数と四捨五 入	・数を概数(およその数)としてとらえる見方について考え、目的に応じてどの程度の概数にすればよいかを判断する。	(16)	○		
		・四捨五入を用いてある位までの概数にすることができる。	(7)		○	
	(3)アウ 整数の除法	・3位数を2位数で割る計算が確実にでき、必要な場面で活用できる。	(2)		○	
		・除法について、被除数、除数、商及び余りの関係について理解している。	(4)			○
	(4)イウ 小数の意味と その計算	・1/10の位までの小数の減法の計算ができる。	(1)		○	
	(5)ア 分数の意味と 表し方	・1より小さい大きさや等分した大きさを分数を用いて表すことができる。	(9)		○	
・分数は単位分数の幾つ分かで表せることを理解している。		(6)			○	
量 と 測 定	(1)アイウ 面積	・単位となる大きさを基にして、面積の大きさを表す方法を考える。	(12)	○		
		・正方形、長方形の面積を公式を用いて求めることができる	(11)		○	
		・身の回りにある具体物の面積の大きさをとらえるなど、面積の大きさについての豊かな感覚をもっている。	(10)			○
(2)ア 角の大きさ	・分度器を用いて角の大きさを測定することができる。	(14)		○		
図 形	(1)アウ 基本的な平面 図形	・コンパスや定規を使って、形も大きさも同じ正三角形を作図することができる。	(15)		○	
		・円について中心、直径、半径という用語を知り、円の意味を理解している。	(13)			○
数 量 関 係	(1)ア 伴って変わる 二つの数量	・二つの数量の関係について、対応する数量があることに着目し、その対応のきまりや変化の特徴を見だし、それらの関係を考える。	(20)	○		
		・伴って変わる二つの数量の関係の調べ方について理解している。	(19)			○
	(2)ア 数量の関係の 式	・数量の関係を式で簡潔に表したり、よんだりする方法を理解している。	(5)			○
		・四則の混合した式について正しく計算することができる。	(3)		○	
	(3)アウ 資料の分類整 理とグラフ	・目的に応じて資料を集め、二つの観点から分類整理する方法を理解している。	(17)			○
・折れ線グラフから資料の統計的な特徴や傾向を考える。		(18)	○			

通し番号	出題内容	通過率 (%)	設定通過率 (%)	
(1)	小数－小数 (小数第一位)	95.2%	90.0%	
(2)	3位数÷2位数 (あまりなし)	86.7%	80.0%	
(3)	加法・乗法の混じった計算	76.8%	80.0%	
(4)	被除数, 除数, 商及び余りの関係	80.8%	70.0%	
(5)	数量の関係と式	81.9%	80.0%	
(6)	分数の意味とその表し方	92.7%	90.0%	
(7)	一万の位までの概数	84.7%	80.0%	
(8)	5億の10倍, 100倍の数	78.4%	70.0%	
(9)	1 mの5/6の量	85.6%	80.0%	
(10)	面積の量感	77.6%	70.0%	
(11)	面積が等しい長方形の縦の長さ	74.9%	70.0%	
(12)	面積が14cm²になる図形	72.6%	70.0%	
(13)	円の直径と半径	69.5%	70.0%	
(14)	角の大きさの測定	88.4%	80.0%	
(15)	正三角形の作図	93.2%	80.0%	
(16)	目的に応じた概数	72.3%	60.0%	
(17)	2つの観点による資料の整理	88.0%	70.0%	
(18)	折れ線グラフの見方	75.1%	60.0%	
(19)	伴って変わる2つの数量①	92.2%	70.0%	
(20)	伴って変わる2つの数量②	77.2%	60.0%	

※  は設定通過率±10%を示している。

小学校5年 算数

3 小問別反応率

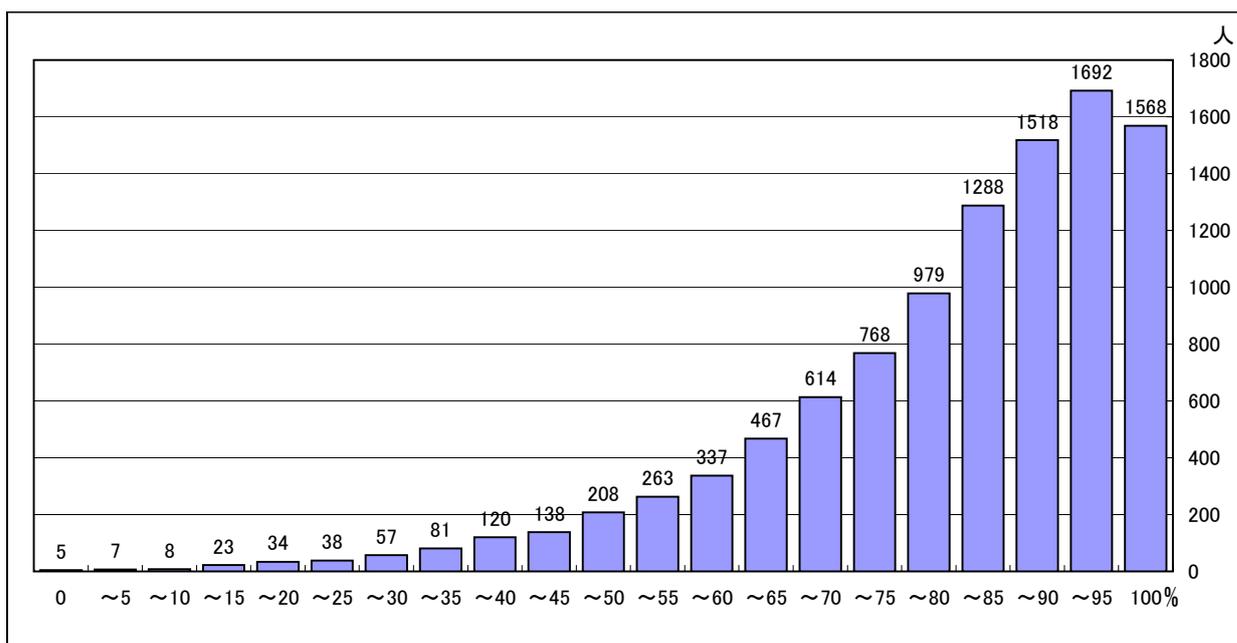
通し番号	1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
(1)	95.2%	4.6%	0.1%	0.0%
(2)	86.7%	11.7%	1.5%	0.0%
(3)	76.8%	22.7%	0.5%	0.0%
(4)	80.8%	13.2%	6.0%	0.0%
(5)	81.9%	17.8%	0.3%	0.0%
(6)	92.7%	6.7%	0.6%	0.0%
(7)	84.7%	14.5%	0.8%	0.0%
(8)	78.4%	19.0%	2.6%	0.0%
(9)	85.6%	12.8%	1.5%	0.0%
(10)	77.6%	22.0%	0.4%	0.0%
(11)	74.9%	23.8%	1.3%	0.0%
(12)	72.6%	24.5%	2.9%	0.0%
(13)	69.5%	29.5%	1.0%	0.0%
(14)	88.4%	11.1%	0.5%	0.0%
(15)	93.2%	6.0%	0.8%	0.0%
(16)	72.3%	25.1%	2.6%	0.0%
(17)	88.0%	10.4%	1.5%	0.0%
(18)	75.1%	21.5%	3.4%	0.0%
(19)	92.2%	6.7%	1.1%	0.0%
(20)	77.2%	20.6%	2.2%	0.0%

4 平均通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	2	2	1568	1568
~95	9	11	1692	3260
~90	35	46	1518	4778
~85	71	117	1288	6066
~80	91	208	979	7045
~75	57	265	768	7813
~70	16	281	614	8427
~65	6	287	467	8894
~60	1	288	337	9231
~55	2	290	263	9494
~50	1	291	208	9702
~45	0	291	138	9840
~40	0	291	120	9960
~35	0	291	81	10041
~30	0	291	57	10098
~25	0	291	38	10136
~20	0	291	34	10170
~15	0	291	23	10193
~10	0	291	8	10201
~5	0	291	7	10208
0	0	291	5	10213

※4 (未履修) を除いた解答類型1～3の合計を分母として通過率を算出

5 平均通過率度数分布グラフ



6 小学校5年 算数科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

① 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			領 域 別			
		考え方	表現・処理	知識・理解	数と計算	量と測定	図形	数量関係
問 題 数	20	5	8	7	8	4	2	6
+10%以上	7	3	1	3	2	0	1	4
±10%内	13	2	7	4	6	4	1	2
-10%以下	0	0	0	0	0	0	0	0

- ・20問すべてにおいて、設定通過率を上回るか同程度である。
- ・観点別に設定通過率と通過率を比較した場合、「数学的な考え方」「知識・理解」においては、設定通過率を上回る問題が多い。
- ・領域別に設定通過率と通過率を比較した場合、「数量関係」で設定通過率を上回る問題が多い。「数と計算」の領域は8問中7問で通過率が80%を越えている。
- ・記述式問題(18)や確実に知識を身に付けていないと正答できない問題(4)での未記入率が高かった。
- ・過去に実施した本県の学習状況調査の類似問題との通過率の比較では、10問中9問が上回るか同程度である。

② 小問別通過率度数分布

小学校5年生算数 小問別通過率度数分布表(校)																					※1学年20人以上データを提出した学校	
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率	
100%	40	5	8	3	1	20	4	0	8	13	3	0	0	4	32	0	1	3	12	0	0	
95~100%	69	22	10	8	7	51	16	3	22	22	8	2	0	28	56	0	16	5	46	4	0	
90~95%	49	48	23	25	19	60	44	15	31	29	13	2	3	50	54	6	46	11	67	10	14	
85~90%	17	39	25	23	39	26	35	21	41	16	25	19	6	47	22	19	55	19	35	18	37	
80~85%	1	34	24	47	50	9	35	37	33	21	23	29	16	33	4	21	40	29	13	34	70	
75~80%	0	16	20	30	25	7	25	45	14	15	19	31	20	9	5	23	13	24	3	40	39	
70~75%	0	8	14	16	19	2	7	23	15	10	27	26	39	4	2	38	4	28	0	31	13	
65~70%	0	4	13	11	10	1	5	14	6	10	19	25	38	0	1	31	1	25	0	21	2	
60~65%	0	0	10	6	5	0	2	11	3	9	13	22	22	0	0	16	0	14	0	9	1	
55~60%	0	0	10	4	0	0	2	5	3	6	11	12	20	0	0	8	0	8	0	5	0	
50~55%	0	0	11	0	1	0	0	1	0	8	10	5	9	0	0	11	0	1	0	0	0	
45~50%	0	0	3	3	0	0	1	1	0	4	3	1	1	1	0	1	0	4	0	1	0	
40~45%	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4	0	2	1	0	0	0	0	3	0	2	0	
35~40%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	0	0	2	0	2	0	0	0	
30~35%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
25~30%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
20~25%	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
15~20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	176	176	176	176	176	176	176	176	176	176	176	176	176	176	176	176	176	176	176	176	176	

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、4) 15) 16) 17) 18) 19) 20)の7問である。
- ・設定通過率を10ポイント以下回った問題はない。
- ・各校における通過率の差が大きかった問題は、3) 10) 16) 18)の4問である。特に10)は差が大きいの。
- ・平均通過率が最も低い問題は13)の69.5%であり、他の問題はすべて70%を上回る平均通過率になっている。

③ 教科の好き嫌い(学習への意欲等に関する質問紙調査項目)の傾向

- ・好き嫌いについては、「大好き」「好き」が72.9%(4年次80.0%)、「嫌い」「大嫌い」が23.2%(4年次16.2%)であり、好き嫌いについては4年次に比べて8ポイント程度の増減があり、「好き」が減る傾向にある。
- ・好きな理由については、高い順に「楽しい」(16.7%)「わかりやすい」(13.7%)「得意」(13.1%)「考えるのが好き」(12.9%)である。一方、嫌いな理由については、高い順に「不得意」(7.2%)「わかりにくい」(6.5%)である。

(2) 考察

① 全体について

ア 各領域の基礎的・基本的な学習内容の確実な定着が見られる。

- ・ 1) 2) 4) 5) 6) 7) 9) 14) 15) 17) 19)は80%を越える高い通過率であり、観点や領域によらず、よく身に付いている状況にある。
- ・ 設定通過率の平均が74.0%に対して、平均通過率は8.2ポイント上回っており、各校において確実な定着を目指した授業づくりが進められている。
- ・ 12)「面積の大きさ」は国際調査(TIMSS2003)の類似問題であるが、平均通過率は72.6%であり、国の通過率(68.0%)を上回っている。

イ 身に付けた知識を問題解決に適用したり、考察したりする力を伸ばす必要がある。

- ・ 3) 8) 13)では設定通過率を下回っている。意味理解を伴った知識の定着とともに活用や適用場面を取り入れた授業が求められる。

② 成果

ア 「分数の意味理解」や「数量関係」を重視した授業の改善が進んでいる。

- ・ 9)は、題材をリットルますからテープ図に変更したことにもよるが、昨年度に比べて36ポイント程度向上している。多様な事象や場面を取り入れた分数の意味理解にかかわる指導を今後とも継続したい。
- ・ 「数量関係」については、ほとんどの問題について大幅な向上が見られた。特に、19) 20)では、昨年度に比べて16.5ポイント、33.5ポイントと大幅に向上している。「規則性の考察」について各校での指導の工夫改善がうかがえる。

イ 「数学的な考え方」「知識・理解」の観点で指導状況が良好である。

- ・ 「数学的な考え方」「知識・理解」で設定通過率を10ポイント以上回っている問題がそれぞれ3問ある。ただし、「表現・処理」については予め設定通過率が高めであったことを考えると、観点別の定着の差は大きいものではないといえる。

③ 課題

ア 基礎・基本の適切に用いる力を伸ばしたい。

- ・ 3)の通過率(76.8%)が低い。単純な計算の通過率が90%前後であることから考えれば、加減乗除のきまりを適用する場面での工夫や技能の習熟を図る手だてを講じていく必要があるといえる。

イ 題意を的確に読み取る力を伸ばしたい。

- ・ 13)は昨年度の本県の学習状況調査の類似問題であるが、3.3ポイント下回っている。「分かっていること」と「求めること」を問題文からの確に読み取る力を身に付けさせるとともに、問題解決の過程においても円の意味理解を図ることができるよう、指導の工夫が求められる。

(3) 今後の指導

- ・ 調査結果から各校で基礎・基本の確実な定着を目指した指導は進められていることがうかがえる。さらに、それらを活用したり適用したりする場面をより一層大切にすることで、身に付けるよさを実感させることができるようにしていきたい。
- ・ 読解力を伸ばしていく必要がある。問題場面に潜む数学的な条件を整理したり、子どもの気付きや発見を生かすなど、主体的な課題把握を通じた問題解決的な学習が求められる。
- ・ 分数の意味理解や規則性の問題等の指導改善が進んでいる。図や数直線などを活用した算数的活動を充実させながら、基礎・基本の定着を図ったり、発展的に考察させたりするなど個の学びに応じた学習展開に一層心がけたい。

小 学 校 第 6 学 年
算 数

1 小学校6年 算数 評価規準と評価の観点

領域	内容	評価規準	通し番号	観 点		
				考 え 方	表 現 ・ 処 理	知 識 ・ 理 解
数 と 計 算	(1)ア 偶数と奇数	・整数は、偶数、奇数に類別できることを理解している。	(12)			○
	(3)アイウ 小数の乗 法、 除法	・1/10の位までの小数どうしの乗法の計算ができる。	(1)		○	
		・1/10の位までの小数どうしの除法の計算ができる。	(2)		○	
		・小数の積と乗数、商と除数の大きさの関係を理解している。	(6)			○
		・小数の除法がどのような場面でどのように用いられるか、判断できる。	(7)	○		
	(4)アイウエ 分数の加法 と減法	・分数の大きさについて、数直線や線分図に表して考える。	(4)	○		
		・表し方が違っていても大きさの等しい分数があることを理解している。	(10)			○
		・同分母の真分数と真分数との減法の計算ができる。	(3)		○	
		・分数の意味を理解している。	(5)			○
		・分数を小数に直して表すことができる。	(11)		○	
B 量 と 測 定	(1)アイ 平面図形の 面積	・三角形の面積の求め方を理解している。	(14)			○
		・円の面積を公式を用いて求めることができる。	(13)		○	
C 図 形	(1)アイウエ 基本的な平 面図形	・平行な直線の性質を基にして、角の大きさを求めることができる。	(16)		○	
		・ひし形の性質を理解している。	(15)			○
		・三角形など多角形の角の大きさの和について考える。	(17)	○		
		・円周率を用いて、円周から直径を求める式を導くことができる。	(9)		○	
D 数 量 関 係	(1)ア 四則に関し て成り立つ 性質	・計算の範囲を小数に広げて、交換法則、結合法則、分配法則等が成り立つことを理解している。	(18)			○
	(2)百分率	・全体と部分の関係を理解し、百分率に関する基本的な計算ができる。	(19)		○	
	(3)円グラフ、 帯グラフ	・帯グラフをかくことができる。	(20)		○	
	(4)数量関係 の見方	・表をかいて二つの数量の対応や変化の様子の特徴を考える。	(8)	○		

通し 番号	出題内容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0	100
(1)	小数×小数 (小数第1位)	91.6%	80.0%		
(2)	小数÷小数 (小数第1位)	89.7%	80.0%		
(3)	同分母分数の減法	97.3%	90.0%		
(4)	小数と分数の大きさの比較	69.6%	80.0%		
(5)	2mの1/7の大きさ	52.8%	60.0%		
(6)	小数の積と乗数, 商と除数の関係	52.2%	70.0%		
(7)	小数のわり算の文章題	80.7%	70.0%		
(8)	2つの数量の関係	73.5%	60.0%		
(9)	円周と直径の関係	83.4%	70.0%		
(10)	大きさの等しい分数	91.5%	90.0%		
(11)	分数の小数への変換	85.9%	70.0%		
(12)	偶数と奇数の弁別	75.6%	70.0%		
(13)	円の面積	52.1%	70.0%		
(14)	三角形の面積	65.6%	70.0%		
(15)	ひし形の性質	72.8%	60.0%		
(16)	平行線の性質と角	83.7%	60.0%		
(17)	多角形の角の和	80.7%	70.0%		
(18)	計算のきまり	83.4%	70.0%		
(19)	百分率	61.1%	60.0%		
(20)	帯グラフ	91.9%	80.0%		

※  は設定通過率±10%を示している。

小学校6年 算数

3 小問別反応率

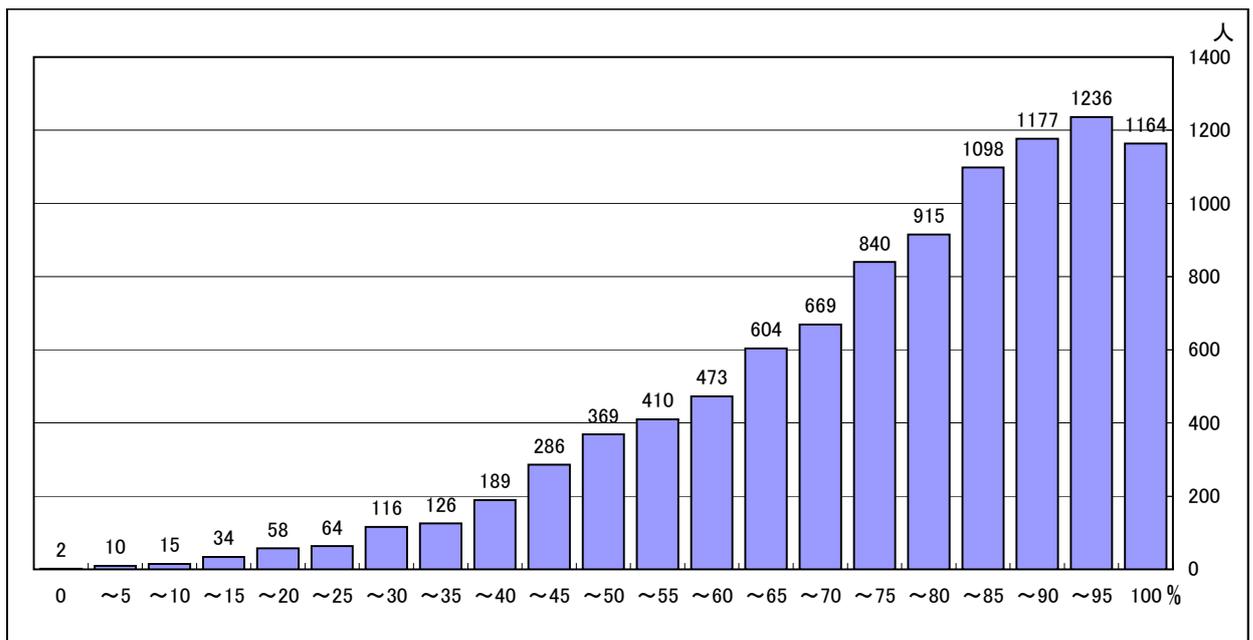
通し番号	1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
(1)	91.6%	8.3%	0.1%	0.0%
(2)	89.7%	9.1%	1.2%	0.0%
(3)	97.3%	2.5%	0.1%	0.0%
(4)	69.6%	29.6%	0.7%	0.0%
(5)	52.8%	45.5%	1.8%	0.0%
(6)	52.2%	46.0%	1.7%	0.0%
(7)	80.7%	17.7%	1.6%	0.0%
(8)	73.5%	23.3%	3.2%	0.0%
(9)	83.4%	14.9%	1.7%	0.0%
(10)	91.5%	7.6%	0.8%	0.0%
(11)	85.9%	13.1%	0.9%	0.0%
(12)	75.6%	23.1%	1.2%	0.0%
(13)	52.1%	45.3%	2.6%	0.0%
(14)	65.6%	30.7%	3.7%	0.0%
(15)	72.8%	26.2%	1.0%	0.0%
(16)	83.7%	15.0%	1.3%	0.0%
(17)	80.7%	18.1%	1.2%	0.0%
(18)	83.4%	13.5%	3.1%	0.0%
(19)	61.1%	35.1%	3.9%	0.0%
(20)	91.9%	6.2%	1.9%	0.0%

4 平均通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	1164	1164
~95	7	7	1236	2400
~90	15	22	1177	3577
~85	50	72	1098	4675
~80	65	137	915	5590
~75	72	209	840	6430
~70	42	251	669	7099
~65	22	273	604	7703
~60	12	285	473	8176
~55	6	291	410	8586
~50	0	291	369	8955
~45	0	291	286	9241
~40	1	292	189	9430
~35	0	292	126	9556
~30	0	292	116	9672
~25	0	292	64	9736
~20	0	292	58	9794
~15	0	292	34	9828
~10	0	292	15	9843
~5	0	292	10	9853
0	0	292	2	9855

※4 (未履修) を除いた解答類型1～3の合計を分母として通過率を算出

5 平均通過率度数分布グラフ



6 小学校6年 算数科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

① 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			領 域 別			
		考え方	表現・処理	知識・理解	数と計算	量と測定	図形	数量関係
問 題 数	20	4	9	7	10	2	4	4
+10%以上	10	3	5	2	3	0	4	3
±10%内	7	0	3	4	5	1	0	1
-10%以下	3	1	1	1	2	1	0	0

- ・設定通過率を上回るか同程度であるものが20問中17問である。
- ・観点別に設定通過率と通過率を比較した場合、「数学的な考え方」では4問中3問が上回っている。「表現・処理」は9問中8問、「知識・理解」は7問中6問が上回るか同程度である。その一方で、各観点とも1問が下回っている。
- ・領域別に設定通過率と通過率を比較した場合、「数と計算」では、10問中8問が上回るか同程度である。「量と測定」では2問中1問が同程度で、「図形」では、4問全問が上回った。また、「数量関係」では4問中3問が上回った。一方、「数と計算」で2問、「量と測定」で1問が下回っている。
- ・未記入率の高かった問題は、8) 14) 18) 19) の4問である。いずれも3%台で、昨年度より低くなっている。
- ・過去に実施した本県の学習状況調査及び国の教育課程実施状況調査の類似問題との通過率の比較では、10問中9問が上回るか同程度である。

② 小問別通過率度数分布

小学校6年生算数 小問別通過率度数分布表(校)																					※1学年20人以上データを提出した学校	
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率	
100%	19	15	66	1	4	0	5	0	4	25	8	2	0	0	1	3	4	4	0	16	0	
95~100%	34	36	87	2	5	0	13	1	17	41	17	6	2	2	2	13	16	11	2	40	0	
90~95%	62	56	19	2	5	0	27	4	29	61	33	17	1	4	7	29	20	27	2	69	7	
85~90%	45	36	5	8	8	0	30	15	37	26	55	17	0	10	16	44	22	41	8	33	15	
80~85%	12	17	1	23	11	4	32	35	33	16	32	28	7	8	22	34	45	34	6	16	44	
75~80%	6	8	0	30	12	5	30	25	23	4	16	33	9	22	35	24	24	26	10	3	52	
70~75%	0	7	0	26	17	12	15	32	21	3	8	23	12	26	30	15	20	15	23	1	30	
65~70%	0	2	0	29	11	14	10	25	9	1	5	21	11	36	24	13	11	13	29	0	15	
60~65%	0	0	0	23	13	18	9	23	2	1	3	12	13	13	19	2	7	4	30	0	11	
55~60%	0	0	0	6	7	25	4	9	1	0	0	10	21	14	15	1	4	2	17	0	4	
50~55%	0	1	0	16	11	30	1	7	1	0	0	6	26	19	5	0	2	1	12	0	0	
45~50%	0	0	0	4	15	12	0	1	1	0	0	1	17	6	1	0	2	0	12	0	0	
40~45%	0	0	0	5	7	23	0	1	0	0	0	0	13	14	1	0	1	0	9	0	0	
35~40%	0	0	0	3	6	18	2	0	0	0	0	2	18	2	0	0	0	0	9	0	0	
30~35%	0	0	0	0	6	11	0	0	0	0	0	0	17	1	0	0	0	0	6	0	0	
25~30%	0	0	0	0	7	5	0	0	0	0	1	0	6	1	0	0	0	0	2	0	0	
20~25%	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	
15~20%	0	0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
10~15%	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	
5~10%	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0~5%	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、1) 7) 8) 9) 11) 15) 16) 17) 18) 20) の10問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、4) 6) 13) の3問である。
- ・各校における通過率の差が大きかった問題は、5) 13) 14) 19) の4問である。

③ 教科の好き嫌い（学習への意欲等に関する質問紙調査項目）の傾向

- ・算数が「大好き」「好き」は64.4%、「嫌い」「大嫌い」は30.2%で、昨年度より「好き」の割合が数ポイント高くなった。
- ・好きな理由については、「考えるのが好き」「将来のためになる」「楽しい」「生活の中で役立つ」「わかりやすい」「得意」の順に、昨年度と同様でどの項目も10%~13%程度となっている。
- ・嫌いな理由については、「不得意」「わかりにくい」「考えるのがめんどろ」をあげている。

(2) 考察

① 全体について

ア 学習の実現状況はおおむね良好といえる。

- ・ 設定通過率の平均が71.5%に対して、通過率の平均が76.8%であり、通過率の平均が設定通過率の平均より5.3ポイント上回っている。
- ・ 20問中17問で設定通過率より上回るか同程度となっている。

② 成果

ア 各校の指導状況は、おおむね良好といえる。

- ・ 設定通過率を10ポイント以上上回った問題が10問と半数を占めており、そのうち県や国の過去の類似問題の通過率を10ポイント超えている問題が5問ある。また、国際調査（TIMSS2003）の類似問題11）（分数を等しい小数に変換する問題）は、国の通過率を25.4ポイントも上回った。

イ 図形領域の問題の通過率が高く、指導の改善が図られている。

- ・ 4問とも設定通過率を10ポイント以上上回っている。
- ・ 国の過去の類似問題である17)の7角形の内角の和を求める式を考える問題では、国の通過率を29.2ポイントも上回っている。
- ・ 9)の円周から直径を求める式を導く問題は、昨年度の県の類似問題の結果に比べ19.1ポイント通過率が上昇した。
- ・ 15)のひし形の性質の問題は、昨年度の記述式と違い、正しい答えを選択する形式で出題したこともあるが、通過率は昨年度の28%から72%に著しく伸びた。

③ 課題

ア 「量と測定」の領域の指導の改善が必要である。

- ・ 13)は半径10cmの半円の面積を求める問題である。昨年度の半径10cmの円の面積を求める問題の通過率73.1%に対し、この問題の通過率は52.1%である。円を半分にするだけで、20ポイントも通過率が下がった。単に公式に代入して求めるだけでなく、図形の見方と結び付けて立式することを大事にしたい。
- ・ 14)は高さが図形の外にある三角形の面積を求める式を考える問題である。通過率は設定通過率70.0%に対して65.6%とそれほど低くはないが、間違いの多くは高さにあたる長さを見つけないことができないことが原因と思われる。13)と同様、図形の豊かな見方を養い、常に図形と式を一体的に扱うことが必要である。

イ 分数と小数の正しい理解がまだ不十分である。

- ・ 5)は2mの $\frac{1}{7}$ の長さを求める問題である。昨年度（2リットルの $\frac{1}{3}$ の大きさ）の通過率39.1%に対し、52.8%と上昇し、徐々に改善の傾向が見られるようにはなってきた。しかし、この問題は各校における通過率の差が相変わらず一番大きい状況にある。常に「単位分数のいくつ分」という分数指導の根幹となる考え方を大事にして、スパイラルに分数指導にあたらなければならないと考える。また、量分数と割合分数の意味を確実に理解させる指導も大事にしたい。
- ・ 4)は小数や分数の大小関係を数直線で考える問題であるが、昨年度の通過率83.5%に対し、今回は69.6%と13.9ポイントも下回った。11)のTIMSSの類似問題（ $\frac{3}{5}$ を小数で表す問題）の通過率からすると、分数→小数、小数→分数の相互変換はできるが、数の大きさを数直線でとらえることができていないことになる。指導が相互変換の形式的な処理にとどまり、数直線などを使って数の大きさを豊かにとらえさせる指導が十分ではないことがうかがえる。

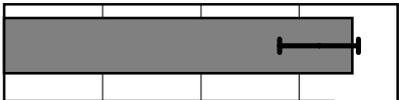
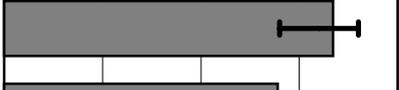
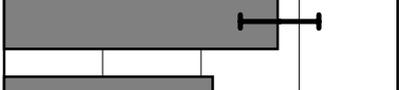
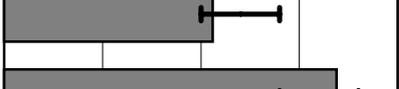
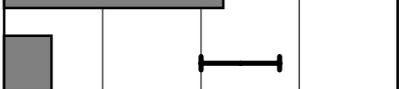
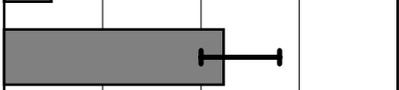
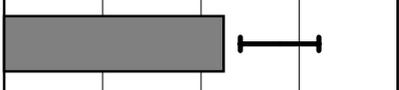
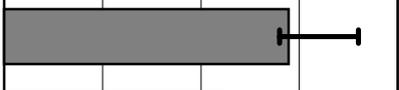
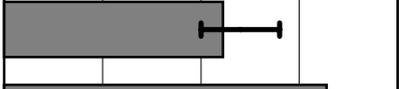
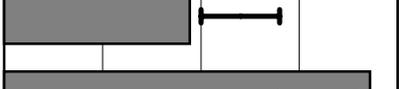
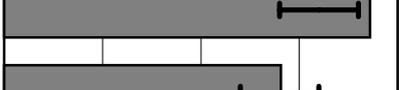
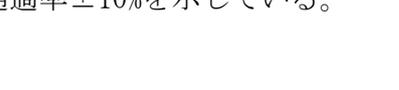
(3) 今後の指導

- ・ 数量や図形に関する豊かな感覚を養うため、算数的活動を重視した授業の構築が必要である。また、図や表等を活用して、子どもたちの見方や考え方を引き出すこと、計算による形式的な処理ばかりでなく、求積方法の理解とともにその方法を活用できる力を身に付けさせることが大事である。
- ・ 分数や小数についての理解は依然として全県的な課題である。前学年までの学習内容を踏まえ、学年を超えた見通しをもった指導に心掛けなければならないと考える。特に、分数の学習は常に「単位分数いくつ分」という根幹となる考えを大事にして指導にあたるようにしたい。

中 学 校 第 1 学 年
数 学

1 中学校1年 数学 評価規準と評価の観点

領域	内 容	評 価 規 準	通 し 番 号	観 点		
				考 え 方	表 現 ・ 処 理	知 識 ・ 理 解
数 と 計 算	(1)ア 約数, 倍数	・倍数を求めることができる。	(3)		○	
		・具体的な場面に即して, 整数を約数の観点から分類して公約数について考える。	(4)	○		
	(2)アイウ 異分母の分数の 加法, 減法	・同じ大きさの分数について理解している。	(5)			○
		・異分母の分数の加法(真分数と真分数との加法)の計算ができる。	(1)		○	
	(3)アイウ 分数の乗法, 除法	・帯分数を含まない分数の除法の計算ができる。	(2)		○	
		・分数の乗法及び除法の計算が, どのような場面でもどのように用いられるのかを理解している。	(6)			○
(4)ア 積, 商の見積もり	・積を概数で見積もるとき, 目的に応じて, どれくらい概数にすればよいかを考える。	(7)	○			
量 と 測 定	(1) 概形とおよその 面積	・実物を実測するなどして, 体積の大きさについての豊かな感覚をもっている。	(8)			○
	(2)アイウ と 体積	・単位となる大きさを基にして, 立方体の体積の求め方を考える。	(13)	○		
		・立方体, 直方体の体積を求めることができる。	(12)		○	
(3)アイ 異種の二つの割合	・速さの比べ方について理解している。	(14)			○	
図 形	(1)アイウ 基本的な立体図 形と空間	・直方体の辺と面の垂直の関係をとらえることができる。	(10)		○	
		・三角柱や, 四角柱の性質を理解している。	(9)			○
		・展開図をもとにして, 直方体について考える。	(11)	○		
数 量 関 係	(1) 簡単な比の意味	・二つの数量の関係を表す比の意味や表し方を理解している。	(16)			○
		・二つの数量の関係を比で表したり, 調べたりすることができる。	(17)		○	
	(2)ア 比例の表とグラフ	・比例の意味や性質, 関係を表すグラフについて理解している。	(19)			○
		・比例関係にある二つの数量の関係を, 表に表すことができる。	(18)		○	
		・伴って変わる二つの数量の関係について考える。	(20)	○		
(3) 平均の意味	・平均と個数から合計を求めたり, 合計と個数から平均を求めたりすることができる。	(15)		○		

通し番号	出題内容	通過率 (%)	設定通過率 (%)	
(1)	異分母分数の加法	88.5%	80.0%	
(2)	整数÷分数	83.6%	80.0%	
(3)	倍数の分類	69.5%	70.0%	
(4)	約数・公約数の文章題	53.0%	60.0%	
(5)	分数の相等	84.5%	80.0%	
(6)	分数の乗除の文章題	41.3%	60.0%	
(7)	計算の見積もり	84.1%	60.0%	
(8)	ℓの量感	46.9%	70.0%	
(9)	角柱の性質	55.7%	70.0%	
(10)	立方体の展開図と辺と面の関係	12.0%	60.0%	
(11)	直方体の展開図と辺の長さの関係	55.8%	60.0%	
(12)	直方体の体積	80.2%	70.0%	
(13)	立方体や直方体の体積	55.8%	70.0%	
(14)	速さの比べ方	72.3%	80.0%	
(15)	平均の求め方	55.6%	60.0%	
(16)	比の意味	81.9%	80.0%	
(17)	比と割合の文章題	47.2%	60.0%	
(18)	比例の表	93.0%	80.0%	
(19)	比例のグラフ	70.3%	70.0%	
(20)	比例関係にあるもの	32.5%	60.0%	

※  は設定通過率±10%を示している。

中学校1年 数学

3 小問別反応率

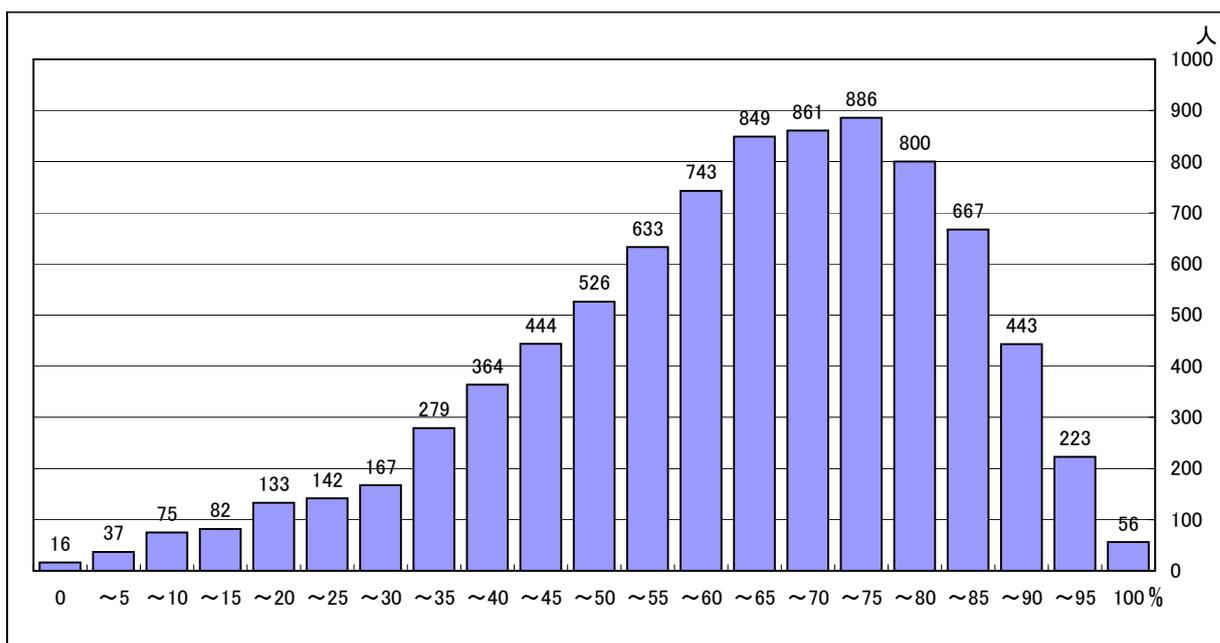
通し番号	1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
(1)	88.5%	11.1%	0.5%	0.0%
(2)	83.6%	15.1%	1.3%	0.0%
(3)	69.5%	30.3%	0.2%	0.0%
(4)	53.0%	39.5%	7.4%	0.0%
(5)	84.5%	14.0%	1.5%	0.0%
(6)	41.3%	52.6%	6.1%	0.0%
(7)	84.1%	13.6%	2.3%	0.0%
(8)	46.9%	52.7%	0.4%	0.0%
(9)	55.7%	44.0%	0.3%	0.0%
(10)	12.0%	86.5%	1.4%	0.0%
(11)	55.8%	41.1%	3.1%	0.0%
(12)	80.2%	19.1%	0.6%	0.0%
(13)	55.8%	40.5%	3.7%	0.0%
(14)	72.3%	18.4%	9.3%	0.0%
(15)	55.6%	38.1%	6.3%	0.0%
(16)	81.9%	16.7%	1.4%	0.0%
(17)	47.2%	45.2%	7.6%	0.0%
(18)	93.0%	5.7%	1.3%	0.0%
(19)	70.3%	26.4%	3.2%	0.0%
(20)	32.5%	66.2%	1.2%	0.0%

4 平均通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	56	56
~95	0	0	223	279
~90	0	0	443	722
~85	0	0	667	1389
~80	1	1	800	2189
~75	2	3	886	3075
~70	9	12	861	3936
~65	36	48	849	4785
~60	47	95	743	5528
~55	37	132	633	6161
~50	2	134	526	6687
~45	0	134	444	7131
~40	0	134	364	7495
~35	0	134	279	7774
~30	0	134	167	7941
~25	0	134	142	8083
~20	0	134	133	8216
~15	0	134	82	8298
~10	0	134	75	8373
~5	0	134	37	8410
0	0	134	16	8426

※4 (未履修) を除いた解答類型1～3の合計を分母として通過率を算出

5 平均通過率度数分布グラフ



6 中学校1年 数学科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

① 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			領 域 別			
		考え方	表現・処理	知識・理解	数と計算	量と測定	図形	数量関係
問 題 数	20	5	8	7	7	4	3	6
+10%以上	3	1	2	0	1	1	0	1
±10%内	10	2	4	4	5	1	1	3
-10%以下	7	2	2	3	1	2	2	2

- ・設定通過率を上回るか同程度であるものが20問中13問である。
- ・観点別に設定通過率と通過率を比較した場合、「数学的な考え方」では5問中3問、「表現・処理」では8問中6問が上回るか同程度であり、「知識・理解」では7問中4問が同程度である。
- ・領域別に設定通過率と通過率を比較した場合、「数と計算」では7問中6問、「数量関係」では6問中4問が上回るか同程度である。「図形」では上回る問題はない。「量と測定」と「図形」では下回る問題の割合が高くなっている。
- ・未記入率が5%を越えている問題は、高い順に14) 17) 4) 15) 6) である。
- ・過去に実施した本県の学習状況調査結果及び国の教育課程実施状況調査の類似問題との通過率の比較では、10問中8問が上回るか同程度である。

② 小問別通過率度数分布

以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率
100%	0	2	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0
95~100%	12	2	0	0	3	0	10	0	0	0	0	3	0	1	0	4	0	31	0	0	0
90~95%	41	15	2	0	16	0	30	0	0	0	0	6	0	6	1	17	0	63	1	0	0
85~90%	36	40	1	0	37	0	27	0	0	0	1	19	0	14	0	19	0	23	3	0	0
80~85%	27	35	9	0	40	1	13	0	2	0	0	36	0	28	0	35	0	3	11	0	1
75~80%	4	15	16	3	13	3	18	0	3	0	5	34	3	16	2	26	2	0	18	0	2
70~75%	1	9	26	2	10	2	12	0	3	0	7	16	3	17	3	16	2	0	28	0	6
65~70%	1	2	30	6	1	5	5	2	13	0	8	6	9	12	9	3	4	0	30	0	32
60~65%	0	1	19	13	2	3	1	6	18	0	17	1	18	8	21	2	2	0	21	0	45
55~60%	0	1	8	23	0	9	3	12	24	0	25	0	25	7	26	0	7	0	5	4	35
50~55%	0	0	6	30	0	7	0	14	34	0	26	0	32	2	29	0	23	0	3	4	1
45~50%	0	0	4	25	0	11	0	38	11	1	16	0	24	2	16	0	23	0	1	5	0
40~45%	0	0	1	13	0	15	0	32	10	1	13	0	7	1	11	0	25	0	1	11	0
35~40%	0	0	0	5	0	24	0	11	2	1	2	0	0	2	2	0	21	0	0	14	0
30~35%	0	0	0	0	0	20	0	4	2	1	0	0	0	2	1	0	8	0	0	26	0
25~30%	0	0	0	1	0	14	0	3	0	3	1	0	1	2	1	0	5	0	0	31	0
20~25%	0	0	0	1	0	4	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0
15~20%	0	0	0	0	0	3	0	0	0	27	0	0	0	1	0	0	0	0	0	7	0
10~15%	0	0	0	0	0	1	0	0	0	35	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、7) 12) 18) の3問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、6) 8) 9) 10) 13) 17) 29) の7問である。
- ・各校における通過率の差が大きかった問題は、6) 11) 14) 15) の4問である。特に14) は差が大きい。
- ・最頻値(モード)が設定通過率より高い位置にある問題は、1) 2) 5) 7) 12) 18) である。一方、最頻値が50%より低いところにある問題は、6) 8) 10) 17) 20) である。

③ 教科の好き嫌い(学習への意欲等に関する質問紙調査項目)の傾向

- ・好き嫌いについては、「大好き」「好き」が64.6%(6年次のとき61.8%)、「嫌い」「大嫌い」が35.3%(6年次のとき30.8%)であり、「好き」が多少増えている。
- ・好きな理由については、高い順に「考えるのが好き」(12.6%)「わかりやすい」(12.0%)「楽しい」(11.9%)である。一方、嫌いな理由については、高い順に「不得意」(11.9%)「わかりにくい」(9.8%)「考えるのが面倒」(5.9%)である。

(2) 考察

① 全体について

ア 各領域の基礎的・基本的な学習内容の確実な定着が見られる。

- ・ 1) 2) 5) 7) 12) 16) 18) は80%を越える高い通過率である。特に5)については、国際調査(TIMSS2003)の類似問題であるが、国の結果より5ポイントほど高くなっており、指導の成果が見られる。

イ 身に付けた知識を問題解決に適用したり、それを基に考察したりする力が十分に身に付いていない。

- ・ 「知識・理解」6) 8) 9)、「表現・処理」10) 17)、「数学的な考え方」13) 20)において、通過率が低い。

② 成果

ア 「数と計算」の領域については、実現状況はおおむね良好である。

- ・ 「数と計算」の領域の7問中6問が設定通過率と比較して、上回るか同程度である。特に、積の見積もり方の説明については通過率が高く、実生活と関連付けた指導の工夫改善が進んでいる。

イ 比例関係にある二つの数量関係については指導の改善が見られる。

- ・ 二つの数量関係を対応表に表す問題18)では、通過率が昨年同様90%以上と高い。さらに、グラフをよみとる問題19)では、通過率が70.3%で昨年度より14.1ポイント向上している。

ウ 過去に出題された問題にかかわる指導の改善が図られている。

- ・ 4) 5) 14) 19)で、通過率の大幅な向上が見られる。各校での実態の分析に基づいた指導の改善が進んでいる。

③ 課題

ア 具体的な場面に「分数の乗除」「比」「比例関係」を活用して、考察する力が十分とはいえない。

- ・ 分数の乗除の文章題である6)は通過率が昨年度より6.1ポイント上昇しているが、設定通過率を大きく下回っている。また、17) 20)はそれぞれ通過率が47.2%、32.5%であり、比や比例の意味の理解は深まってきたものの、数量関係を考察する力が十分に身に付いていない状況にあるといえる。

イ 立体図形において、図形の性質や展開図との対応関係をとらえる力が弱い。

- ・ 三角柱や四角柱の特徴を答える問題9)、立方体の展開図から辺と垂直な面を考察する10)はそれぞれ通過率が55.7%、12.0%である。様々な立体を観察したり分類したりする活動を行うとともに、平面図形との関連に配慮した活動によって、辺や面のつながりや位置関係を考える学習を十分に行う必要がある。

ウ 身の回りのものに対する量感や単位となる大きさを基にして体積を求める力が十分とはいえない。

- ・ 8)は通過率が46.9%で昨年度を下回り、また13)は通過率が55.8%で設定通過率を下回っている。量や図形に対する豊かな感覚の育成は、今後も大きな課題といえる。

(3) 今後の指導

- ・ 本時の基礎・基本は何かを明確にし、それにつながる算数的活動を充実させ、確かなまとめと定着を図る学習過程を確立する授業づくりが大切である。そのためにも、授業終了時に目指したい子どもの姿を具体的にイメージし、それに向けて個に応じた支援を考慮していきたい。
- ・ 立体図形の指導に当たっては、図形の構成・分解など作業的・体験的活動を十分に行いながら、構成要素に着目し、特徴をとらえたり関係をつかめたりできるようにしたい。
- ・ 立方体や直方体の体積の指導に当たっては、面積の学習との関連を図りながら公式を作り出すだけでなく、単位体積の立方体を隙間なく積み重ねたりして、身の回りにあるものの体積を実際に求める体験的な活動により、体積についての量感を育てることが重要である。

中 学 校 第 2 学 年
数 学

1 中学校2年 数学 評価規準と評価の観点

領域	内容	評価規準	通し番号	観 点		
				見方・考え方	表現・処理	知識・理解
数式	(1) アイ 正の数・負の数	・正の数・負の数の大小関係を理解している。	(1)			○
		・正の数・負の数の四則計算ができる。	(2)		○	
		・基準に対し反対の方向や性質を表す場面で、正の数・負の数を用いて考えることができる。	(3)	○		
	(2) アイウ 文字と式	・簡単な一次式の減法の計算ができる。	(4)		○	
		・事象の中にある数量やその関係を文字式を使って表現することができる。	(6)		○	
		・文字を使って表された式から、具体的な場面や関係をよみとることができる。	(8)		○	
		・事象の中にある数量やその関係・法則を文字を用いて表現し、一般的に考えることができる。	(9)	○		
	(3) アイウ 一元一次方程式	・簡単な一元一次方程式を解くことができる。	(5)		○	
		・一元一次方程式の解を求める方法について理解している。	(10)			○
		・具体的な事象の中の数量の関係をとらえ、一元一次方程式をつくることことができる。	(11)	○		
	図形	(1) アイ 平面図形	・「作図」の方法で垂線を作図することができる。	(16)		○
・線対称の意味及び対称な図形の性質を理解している。			(14)			○
(2) アイ 空間図形		・空間における平面の位置関係を分類することができる。	(13)			○
		・見取図を目的に応じて調べ、空間図形を平面図形に帰着させて考えることができる。	(15)	○		
(2) ウ 図形の計量		・円や扇形の弧の長さや面積、錐体の表面積を求めることができる。	(12)		○	
数量関係	(1) アイウエ 比例・反比例	・比例の意味や特徴を理解している。	(7)			○
		・比例の式 $y = ax$ とそのグラフの特徴を理解している。	(18)			○
		・比例・反比例の関係をもとに、対応する値を求めることができる。	(17)		○	
		・具体的な事象の中にある二つの数量の関係を、変化や対応の様子に着目して調べ、反比例の関係になるものがあることに気付く。	(19)	○		
		・比例のグラフを用いて具体的な事象について考察することができる。	(20)	○		

通し番号	出題内容	通過率 (%)	設定通過率 (%)	
(1)	正負の数の大小	75.4%	80.0%	
(2)	正負の数の加減乗除の計算	85.7%	80.0%	
(3)	正負の数の利用	77.1%	70.0%	
(4)	一次式の計算	80.8%	80.0%	
(5)	一次方程式の計算	85.6%	70.0%	
(6)	a mの $3/7$ の長さ	55.8%	60.0%	
(7)	比例の性質	65.5%	70.0%	
(8)	文字式で表された数量の意味	43.2%	60.0%	
(9)	文字を用いた立式	36.9%	60.0%	
(10)	一次方程式の解き方	45.8%	70.0%	
(11)	一次方程式の立式	26.7%	60.0%	
(12)	立体の求積	17.0%	60.0%	
(13)	空間図形の面と面の垂直	40.2%	60.0%	
(14)	平面図形の対称	72.9%	80.0%	
(15)	立体の展開図と対応する頂点	69.9%	60.0%	
(16)	垂線の作図	49.8%	70.0%	
(17)	反比例の表	79.5%	60.0%	
(18)	比例のグラフと式	63.8%	70.0%	
(19)	反比例の利用	54.0%	60.0%	
(20)	比例の利用	43.8%	60.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

中学校2年 数学

3 小問別反応率

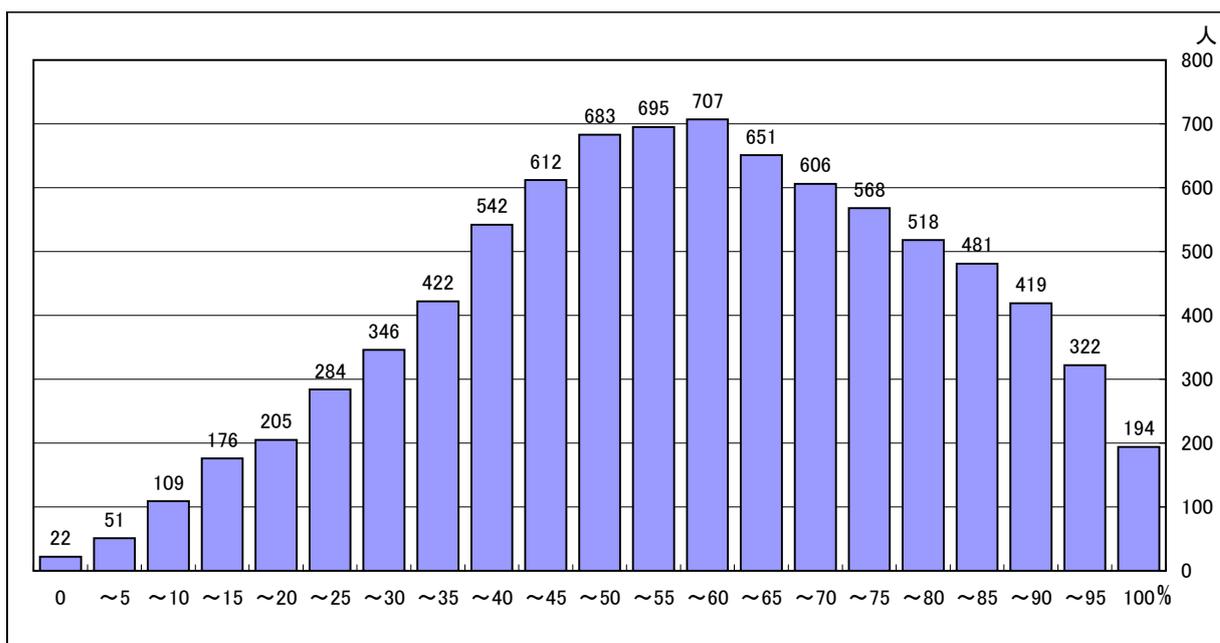
通し番号	1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
(1)	75.4%	24.4%	0.2%	0.0%
(2)	85.7%	13.8%	0.6%	0.0%
(3)	77.1%	21.2%	1.6%	0.0%
(4)	80.8%	18.2%	1.0%	0.0%
(5)	85.6%	12.5%	1.9%	0.0%
(6)	55.8%	41.0%	3.2%	0.0%
(7)	65.5%	22.6%	11.9%	0.0%
(8)	43.2%	55.6%	1.2%	0.0%
(9)	36.9%	50.4%	12.7%	0.0%
(10)	45.8%	48.4%	5.8%	0.0%
(11)	26.7%	39.9%	33.5%	0.0%
(12)	17.0%	66.7%	16.3%	0.0%
(13)	40.2%	58.4%	1.3%	0.0%
(14)	72.9%	25.9%	1.2%	0.0%
(15)	69.9%	21.0%	9.1%	0.0%
(16)	49.8%	31.7%	18.5%	0.0%
(17)	79.5%	11.9%	8.6%	0.0%
(18)	63.8%	34.1%	2.1%	0.0%
(19)	54.0%	44.2%	1.9%	0.0%
(20)	43.8%	42.0%	14.2%	0.0%

4 平均通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	194	194
~95	0	0	322	516
~90	0	0	419	935
~85	0	0	481	1416
~80	1	1	518	1934
~75	1	2	568	2502
~70	6	8	606	3108
~65	17	25	651	3759
~60	29	54	707	4466
~55	38	92	695	5161
~50	33	125	683	5844
~45	6	131	612	6456
~40	3	134	542	6998
~35	0	134	422	7420
~30	0	134	346	7766
~25	0	134	284	8050
~20	0	134	205	8255
~15	0	134	176	8431
~10	0	134	109	8540
~5	0	134	51	8591
0	0	134	22	8613

※4 (未履修) を除いた解答類型1～3の合計を分母として通過率を算出

5 平均通過率度数分布グラフ



6 中学校2年 数学科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

① 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			領 域 別		
		見方・考え方	表現・処理	知識・理解	数と式	図形	数量関係
問題数	20	6	8	6	10	5	5
+10%以上	2	0	2	0	1	0	1
±10%内	10	3	3	4	5	2	3
-10%以下	8	3	3	2	4	3	1

- ・設定通過率を上回るか同程度であるものが20問中12問である。
- ・観点別に設定通過率と通過率を比較した場合、「表現・処理」では8問中5問が上回るか同程度である。また、「数学的な見方や考え方」では6問中3問、「知識・理解」では6問中4問が同程度である。
- ・領域別に設定通過率と通過率を比較した場合、「数と式」では10問中6問、「数量関係」では5問中4問が上回るか同程度である。「図形」では5問中2問が同程度である。
- ・未記入率の高かった問題は、11) 33.5%、16) 18.5%、12) 16.3%、20) 14.2%、9) 12.7%、7) 11.9%である。
- ・過去に実施した本県の学習状況調査の類似問題との通過率の比較では、5問中5問で上回っているが、過去に実施した国の教育課程実施状況調査の類似問題との比較では4問中1問だけしか上回っていない。

② 小問別通過率度数分布

中学校2年生数学	小問別通過率度数分布表(校)																				※1学年20人以上データを提出した学校
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率
100%	1	2	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
95~100%	4	12	2	4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	4	0	0	0	0
90~95%	4	29	6	16	31	4	1	0	0	0	0	0	0	4	1	1	9	1	1	0	0
85~90%	6	34	7	26	36	4	3	0	0	0	0	0	0	9	4	2	17	4	0	0	0
80~85%	19	23	31	32	33	12	2	1	0	1	0	0	0	22	9	3	34	9	1	1	1
75~80%	30	17	38	16	15	7	11	0	0	2	0	0	0	24	21	4	37	8	5	0	1
70~75%	36	8	25	22	4	9	22	2	3	3	1	0	1	19	31	9	16	13	5	1	5
65~70%	19	1	13	8	0	10	24	1	1	2	1	0	1	22	30	9	7	19	10	3	16
60~65%	2	2	2	1	0	8	35	3	6	6	1	0	2	18	23	8	4	33	19	6	29
55~60%	6	0	3	1	1	10	19	7	9	13	1	0	6	1	6	13	0	17	13	10	41
50~55%	0	0	1	1	0	13	8	18	13	20	0	1	11	3	3	17	0	17	27	13	28
45~50%	1	0	0	1	0	6	1	20	5	21	2	3	22	2	0	14	0	2	22	18	4
40~45%	0	0	0	0	0	10	1	33	11	26	10	0	21	1	0	11	0	4	15	31	3
35~40%	0	0	0	0	0	15	1	19	15	19	15	5	28	1	0	10	0	1	8	27	0
30~35%	0	0	0	0	0	10	0	15	25	6	18	7	19	0	0	12	0	0	1	9	0
25~30%	0	0	0	0	0	3	0	8	14	6	22	10	14	0	0	12	0	0	0	8	0
20~25%	0	0	0	0	0	5	0	0	13	1	25	19	3	0	0	1	0	0	1	0	0
15~20%	0	0	0	0	0	1	0	1	9	2	17	26	0	0	0	0	0	0	0	1	0
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	14	24	0	0	0	1	0	0	0	0	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、5) 17) の2問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、8) 9) 10) 11) 12) 13) 16) 20) の8問である。
- ・各校における通過率の差が大きかった問題は、6) 8) 9) 10) 11) 14) 16) 19) 20) の9問である。

③ 教科の好き嫌い（学習への意欲等に関する質問紙調査項目）の傾向

- ・数学が「大好き」「好き」は51.5%、「嫌い」「大嫌い」は37.9%である。
- ・好きな理由について、「考えるのが好き」(12.6%)、「わかりやすい」(12.0%)、「楽しい」(11.9%)、「将来のためになる」(9.8%)、「得意」(9.8%)、「生活の中で役立つ」(8.3%)の順にあげている。
- ・嫌いな理由について、「不得意」(11.9%)、「わかりにくい」(9.8%)をあげている。

(2) 考察

① 全体について

ア 全般的な学習の実現状況はおおむね昨年度並みである。

- ・設定通過率を上回るか同程度であるものが昨年度の11問に対して今年度は12問である。また、昨年度、設定通過率より通過率が上回った問題が5問であるのに対して、今年度は6問となっている。ほぼ昨年度と同様の実現状況と考えられる。

② 成果

ア 過去に出題された問題にかかわる指導の改善が図られている。

- ・「 a mの $\frac{3}{7}$ の長さ」の問題は昨年度45.9%、今年度55.8%、「一次方程式の立式」の問題は昨年度18.9%、今年度26.7%、「平面図形の求積」の問題は昨年度13.8%、今年度17.0%、「垂線の作図」の問題は昨年度27.0%、今年度49.8%、「比例のグラフと式」の問題は昨年度44.3%、今年度63.8%であり、昨年度の本県の学習状況調査の類似問題との比較においては5問中5問で通過率がよくなっており、指導の成果は見られる。ただし、5問ともまだ通過率が設定通過率より低い状況にあり、今後も一層の指導の改善が必要である。

イ 「数量関係」の領域の実現状況は改善されてきている。

- ・昨年度は設定通過率と比べて-10%以下の問題が4問あったが、今年度は1問に減った。特に、18)の問題は、昨年度の通過率より19.5ポイントも上回った。表、式、グラフの関連を十分に図って指導に当たった成果が出ている。
- ・他学年との系統性を踏まえて作成した17)の問題は、設定通過率60%に対して通過率が79.5%と19.5ポイント上回った。比例・反比例の関係を基に、対応する値を求めることができている。

③ 課題

ア 事象の中にある数量やその関係を文字を用いて表現したり、文字式から場面や関係をよみとる力が不足している。

- ・8)の問題は設定通過率より16.8ポイント、9)の問題は設定通過率より23.1ポイント下回った。文字式の学習が不十分であることはこれまでも課題であったが、引き続き今後も大きな課題としてあげられる。

イ 数量の関係をとらえて一元一次方程式をつくったり、一元一次方程式の解を求めたりする方法について十分理解しているとはいえない。

- ・10)の問題は設定通過率より24.2ポイント、11)の問題は設定通過率より33.3ポイント下回った。

ウ 作図する能力、空間における平面の位置関係の理解、表面積の求め方の理解が十分とはいえない。

- ・12)の問題は設定通過率より43.0ポイントも大幅に下回り、13) 16)の問題も設定通過率より20ポイント程度下回った。

(3) 今後の指導

- ・授業者が基礎・基本をしっかり認識した上で、生徒に確実に身に付けさせるために学習内容を吟味し、学習過程を工夫することが大切である。また、問題解決的な学習や体験的な学習を適切に取り入れ、生徒が主体的に活動できる授業を展開したいものである。
- ・生徒の実態を十分把握した上で、個に応じた指導の充実に努めることが大切である。生徒一人一人を的確に見取り、つまずきのある生徒には補充的な学習を單元の中で適宜位置付けて回復指導に努めることが必要である。
- ・「図形」に関する学習について、観察、操作や実験を通して理解を深めるとともに、論理的な考察を大事にした授業を構築したい。
- ・「数と式」の学習では、数学的活動を工夫して数学的な見方や考え方を高めるとともに、習熟を図るための学習を充実させたい。

中 学 校 第 3 学 年
数 学

1 中学校3年 数学 評価規準と評価の観点

領域	内容	評価規準	通し番号	観 点		
				見方・考え方	表現・処理	知識・理解
数と式	(1)アイウ式の計算	・簡単な整式の減法の計算ができる。	(1)		○	
		・単項式の除法の計算ができる。	(2)		○	
		・文字式を用いる意義を理解している。	(12)			○
		・式をきまりに従って変形することができる。	(13)		○	
	(2)アイ連立方程式	・二元一次方程式とその解の意味を理解している。	(3)			○
		・加減法や代入法を用いて、連立二元一次方程式を解くことができる。	(4)		○	
・具体的な事象の中の数量の関係をとらえ、連立二元一次方程式に表すことができる。		(14)	○			
図形	(1)アイ平行線と多角形	・基本的な図形の性質を用いて、角の大きさを求めることができる。	(6)		○	
		・同位角の意味を理解している。	(5)			○
		・多角形の内角の和を既知のことに帰着して論理的に考察することができる。	(18)	○		
	(2)アイウ合同と図形の性質	・命題が例外なく成り立つことを明らかにするために、正しいと認められている事柄を根拠にして、結論を導く過程を考察することができる。	(15)	○		
		・三角形の合同条件について理解している。	(7)			○
		・三角形の合同条件を用いた図形の性質を証明することができる。	(16)		○	
数量関係	(1)アイウ一次関数	・一次関数の関係を式で表すことができる。	(9)		○	
		・一次関数の表を用いて、対応する値を求めることができる。	(17)		○	
		・一次関数の関係を式、グラフなどで表現したり、その特徴をよみとったりすることができる。	(10)		○	
		・具体的な事象を一次関数を用いて考察することができる。	(19)	○		
	(2)アイ確率	・物の並べ方など、起こり得る場合を、順序よく整理して考察することができる。	(20)	○		
	・確率は事象の起こる程度を表すのに用いられることを理解している。	(11)			○	

通し 番号	出題内容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	
(1)	多項式の計算	89.1%	90.0%	
(2)	単項式の計算	79.4%	80.0%	
(3)	二元一次方程式の解	51.7%	60.0%	
(4)	連立方程式の計算	82.6%	80.0%	
(5)	同位角の位置関係	77.3%	70.0%	
(6)	基本的な図形の性質	84.8%	80.0%	
(7)	三角形の合同条件	61.7%	80.0%	
(8)	円周角と中心角の関係	43.5%	70.0%	
(9)	一次関数の関係と式	42.6%	60.0%	
(10)	一次関数のグラフと式	64.9%	70.0%	
(11)	確率の意味	79.0%	70.0%	
(12)	文字式の利用	46.1%	60.0%	
(13)	等式の変形	58.6%	60.0%	
(14)	連立方程式の立式	68.1%	70.0%	
(15)	図形の性質の証明	25.2%	60.0%	
(16)	図形の性質の証明	35.1%	60.0%	
(17)	一次関数の表	73.0%	80.0%	
(18)	多角形の内角の和	49.1%	60.0%	
(19)	一次関数の応用	58.3%	60.0%	
(20)	樹形図の作成	85.3%	80.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

中学校3年 数学

3 小問別反応率

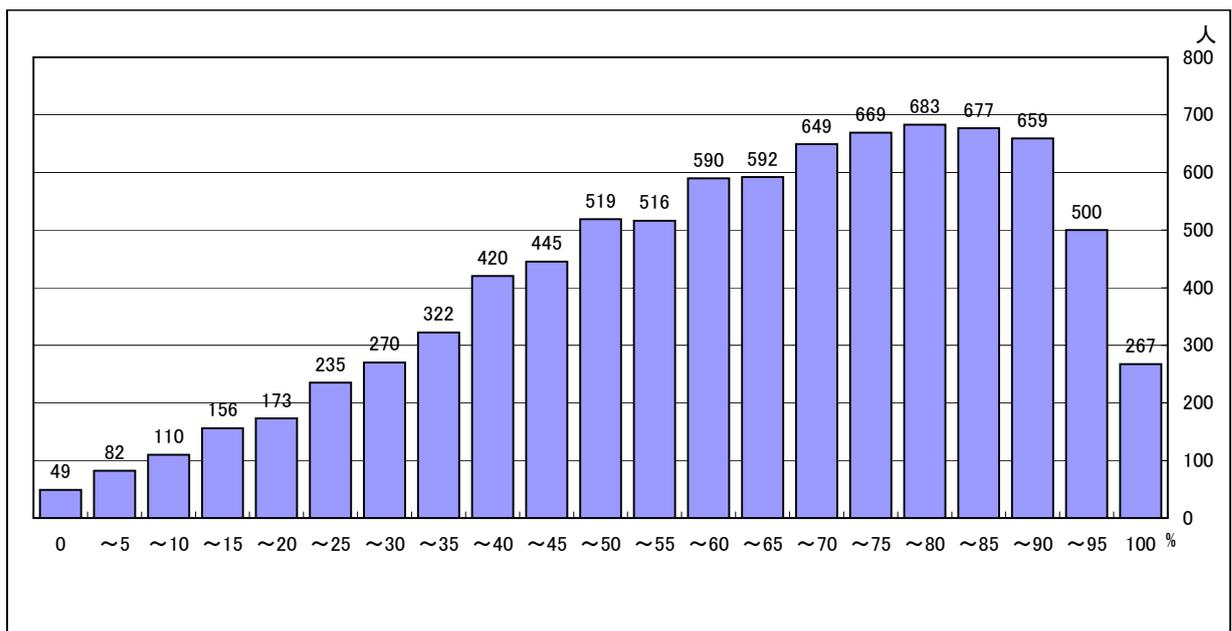
通し番号	1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
(1)	89.1%	10.0%	0.9%	0.0%
(2)	79.4%	18.4%	2.2%	0.0%
(3)	51.7%	47.0%	1.2%	0.0%
(4)	82.6%	12.0%	5.4%	0.0%
(5)	77.3%	21.8%	0.9%	0.0%
(6)	84.8%	12.6%	2.6%	0.0%
(7)	61.7%	31.0%	7.3%	0.0%
(8)	43.5%	51.4%	5.1%	0.0%
(9)	42.6%	41.1%	16.3%	0.0%
(10)	64.9%	27.5%	7.6%	0.0%
(11)	79.0%	19.9%	1.1%	0.0%
(12)	46.1%	41.0%	12.9%	0.0%
(13)	58.6%	29.7%	11.7%	0.0%
(14)	68.1%	19.4%	12.4%	0.0%
(15)	25.2%	72.2%	2.6%	0.0%
(16)	35.1%	41.2%	23.7%	0.0%
(17)	73.0%	24.7%	2.4%	0.0%
(18)	49.1%	42.7%	8.2%	0.0%
(19)	58.3%	28.7%	13.0%	0.0%
(20)	85.3%	9.3%	5.4%	0.0%

4 平均通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	267	267
~95	0	0	500	767
~90	0	0	659	1426
~85	1	1	677	2103
~80	0	1	683	2786
~75	3	4	669	3455
~70	15	19	649	4104
~65	32	51	592	4696
~60	40	91	590	5286
~55	33	124	516	5802
~50	8	132	519	6321
~45	1	133	445	6766
~40	0	133	420	7186
~35	0	133	322	7508
~30	0	133	270	7778
~25	0	133	235	8013
~20	0	133	173	8186
~15	0	133	156	8342
~10	0	133	110	8452
~5	0	133	82	8534
0	0	133	49	8583

※4 (未履修) を除いた解答類型1～3の合計を分母として通過率を算出

5 平均通過率度数分布グラフ



6 中学校3年 数学科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

① 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			領 域 別		
		見方・考え方	表現・処理	知識・理解	数と式	図形	数量関係
問題数	20	5	10	5	7	7	6
+10%以上	0	0	0	0	0	0	0
±10%内	13	3	7	3	6	2	5
-10%以下	7	2	3	2	1	5	1

- ・設定通過率と同程度であるものが20問中13問である。
- ・観点別に設定通過率と通過率を比較すると、「数学的な見方や考え方」では5問中3問、「表現・処理」では10問中7問、「知識・理解」では5問中3問が同程度である。
- ・領域別に設定通過率と通過率を比較すると、「数と式」では7問中6問、「数量関係」では6問中5問が同程度であるが、「図形」では7問中5問が下回っている。
- ・未記入率が10%を越えている問題は、高い順に16) 9) 19) 12) 14) 13) の6問である。16) は、証明の一部分を記述する問題であり、その未記入率はおよそ4人に1人の23.7%であった。
- ・過去に実施した本県の学習状況調査および国の教育課程実施状況調査の類似問題との通過率の比較では10問中8問が上回るか同程度である。

② 小問別通過率度数分布

中学校3年生数学	小問別通過率度数分布表(校)																				※1学年20人以上データを提出した学校
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率
100%	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
95~100%	17	2	0	4	1	4	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	1	0	0	9	0
90~95%	47	17	0	13	12	20	1	0	0	4	0	1	0	0	0	2	0	1	24	0	
85~90%	37	18	1	33	19	44	4	1	0	2	21	3	2	8	0	1	2	1	1	35	1
80~85%	17	23	2	37	25	35	4	1	0	12	32	6	4	10	0	0	17	1	2	27	0
75~80%	5	31	3	23	21	16	9	3	2	10	39	4	9	12	0	0	28	2	4	19	4
70~75%	1	15	3	10	18	6	15	3	1	19	16	5	14	21	0	1	27	4	6	9	12
65~70%	0	12	13	5	11	0	21	5	2	29	5	3	9	24	0	2	30	7	15	0	27
60~65%	0	4	15	0	11	0	15	10	2	13	6	7	19	26	0	4	13	7	25	0	40
55~60%	0	2	14	0	6	0	23	7	7	17	0	8	12	10	0	1	4	17	31	0	32
50~55%	0	1	20	0	0	0	15	10	16	12	0	13	26	10	1	7	1	21	24	0	8
45~50%	0	0	18	0	1	0	10	18	14	4	0	17	10	1	3	17	0	21	10	0	1
40~45%	0	0	14	0	0	0	5	14	34	5	0	14	15	1	3	13	0	26	3	0	0
35~40%	0	0	12	0	0	0	1	12	24	1	0	9	1	0	6	15	0	9	2	0	0
30~35%	0	0	8	0	0	0	1	20	14	0	0	12	3	0	12	18	0	7	1	0	0
25~30%	0	0	2	0	0	0	1	9	6	1	0	16	0	1	39	20	0	1	0	0	0
20~25%	0	0	0	0	0	0	0	5	2	0	0	2	0	0	32	15	0	0	0	0	0
15~20%	0	0	0	0	0	0	0	6	1	0	0	2	0	0	20	7	0	1	0	0	0
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	0	0	8	4	0	0	0	0	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、7) 8) 9) 12) 15) 16) 18) の7問である。
- ・各校における通過率の差が大きかった問題は、7) 8) 12) 14) 16) 18) である。
- ・15) は、設定通過率を上回った学校がなく、全県の通過率が25.2%と最低であった。

③ 教科の好き嫌い（学習への意欲等に関する質問紙調査項目）の傾向

- ・「大好き」「好き」の割合は、46.8%であり、昨年度の2年次の47.7%および3年生の48.4%とほぼ同じ状況と考えられるが、数値的には若干低下している。
- ・好きな理由の「得意」が8.3%、嫌いな理由の「不得意」が17.9%である。それぞれ昨年度の2年次は9.5%、15.0%、3年生は8.6%、16.6%であり、不得意と答える生徒が増加傾向にある。

(2) 考察

① 全体について

ア 全体的な学習の実現状況はおおむね昨年並みである。

- ・過去に実施した本県の学習状況調査及び国の教育課程実施状況調査の類似問題との比較では、通過率が過去の通過率より高いものが6問、低いものが4問となっている。
- ・設定通過率と同程度であるものが20問中13問であり、また、全体の通過率も設定通過率と同程度である。

イ より一層、基礎・基本の確実な定着を目指すことが必要である。

- ・設定通過率を10ポイント以上下回る問題が7問あり、これらの内容については多くの学校で一層の基礎・基本の定着を図る必要がある。

② 成果

ア 「数と式」領域における実現状況は良好である。

- ・「数と式」から出題した7問中6問が設定通過率と同程度である。また、その6問のうち5問は、過去の本県の学習状況調査及び国の教育課程状況調査の類似問題であり、4問が過去の通過率より高い。

イ 一次関数のグラフの式を求めることに対して、指導の改善が図られてきている。

- ・10)の通過率が64.9%であり、設定通過率と同程度であった。一次関数のグラフの式を求める問題については、平成15年度が34.8%、平成16年度が45.6%であり、改善の兆しがうかがえる。しかしながら、今年度の出題の仕方をより生徒にわかりやすく工夫したことも、通過率向上の一つの要因と考えられる。各校においては、3年間の自校の調査結果の分析をしっかりと行った上で、より一層の指導改善を図って欲しい。

ウ 国際調査との関連で出題した問題の実現状況が良好である。

- ・国際調査(TIMSS2003およびPISA2003)との関連で出題した6)11)の通過率が、国の結果より高い。特に、11)は10ポイント以上上回っており、日常事象に結び付いた確率の意味理解がなされている。

③ 課題

ア 図形指導の意義をふまえた学習指導に努める必要がある。

- ・設定通過率を10ポイント以上下回っている7問のうち5問が図形の領域である。また、過去の本県の学習状況調査及び国の教育課程状況調査の類似問題で、通過率が過去の通過率より低い4問のうち2問が図形の問題である。

イ 文字および文字式のよさを味わう指導が必要である。

- ・実現状況が良好である「数と式」領域における問題の中で、文字式を用いるよさを記述する問題12)が設定通過率を10ポイント以上下回る結果である。

ウ 表を用いて事象を考察する力の育成に一層努める必要がある。

- ・対応表の対応する値を求める問題の17)の通過率に対して、表中の2組の値を用いて問題の解決を図る問題19)の通過率が15ポイント弱下回った。

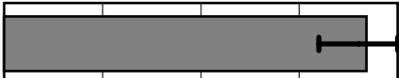
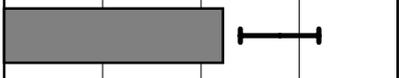
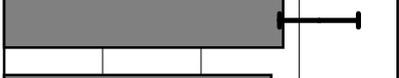
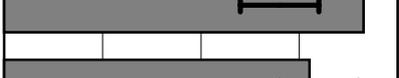
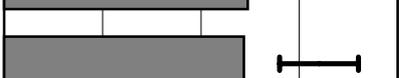
(3) 今後の指導

- ・図形についての知識や技能を身に付けることにとどまらず、それらを活用できることを目指して指導に当たることが大切である。また、直観力や見通す力、筋道立てて表現する力の育成を目指し、単なる問題解決に終始しない、資質・能力を高める授業に努めることが求められる。
- ・中学校で導入される文字及び文字式の学習においては、数学的活動を通じてそのよさの理解を深め、その上で文字式の処理の指導をすることが大切である。
- ・関数を探り理解することとともに、関数を活用する力を伸ばすことを大切にしたい。指導においては、事象に潜む関係を数理的にとらえ、変化の面から、対応の面から伴って変わる二つの数量を考察していく態度を養うとともに、その能力を伸ばしたい。

小 学 校 第 4 学 年
理 科

1 小学校第4学年 理科 評価規準と評価の観点

領域	内容	評価規準	通し 番号	観 点		
				思考	技能 表現	知識 理解
A 生物 と その 環 境	(1)イ	・身近に見られる植物同士を比較して、差異点や共通点を見いだすことができる。	(1)	○		
		・身近に見られる植物を探したり育てたりして、虫眼鏡などの器具を適切に使って特徴を観察することができる。	(2)		○	
	(1)ウ	・昆虫には植物を食べたり、それをすみかにして生きているものがあることを理解している。	(3)			○
B 物質 と エ ネ ル ギ ー	(1)ア	・光を働かせたときとそうでないときの現象を比較して、光の進み方について考えることができる。	(4)	○		
	(1)イ	・光を集めたり重ね合わせたりすると、物の明るさや暖かさが変わると考えることができる。	(5)	○		
	(2)イ	・回路の一部にいろいろな物を入れて、電気を通す物と通さない物に分類することができる。	(6)	○		
	(3)ア	・磁石に引きつけられる物には、磁石に付けると磁石になる物があることを理解している。	(7)			○
	(3)イ	・磁石の異極は引き合い、同極は退け合うことを理解している。	(8)			○
C 地球 と 宇 宙	(1)ア	・日陰は太陽の光を遮るときでき、日陰の位置は太陽の動きによって変わると理解している。	(9)			○
	(1)イ	・温度計を適切に使って日なたと日陰の地面の温度の様子を調べ、記録することができる。	(10)		○	

通し番号	出題内容	通過率 (%)	設定通過率 (%)	0	100
(1)	植物のからだのつくり	92.1%	90.0%		
(2)	虫めがねの使い方	55.6%	70.0%		
(3)	こん虫の食べ物とすみか	89.0%	70.0%		
(4)	光の性質	70.9%	80.0%		
(5)	はね返し光の性質と日光の明るさの違い	67.9%	60.0%		
(6)	電気を通すものと通さないもの	91.3%	70.0%		
(7)	磁力を帯びた鉄の性質	77.6%	80.0%		
(8)	磁石の性質	69.1%	70.0%		
(9)	太陽の位置と日陰の位置	61.9%	60.0%		
(10)	地面の温度のはかり方	60.9%	80.0%		

※  は設定通過率±10%を示している。

小学校4年 理科

3 小問別反応率

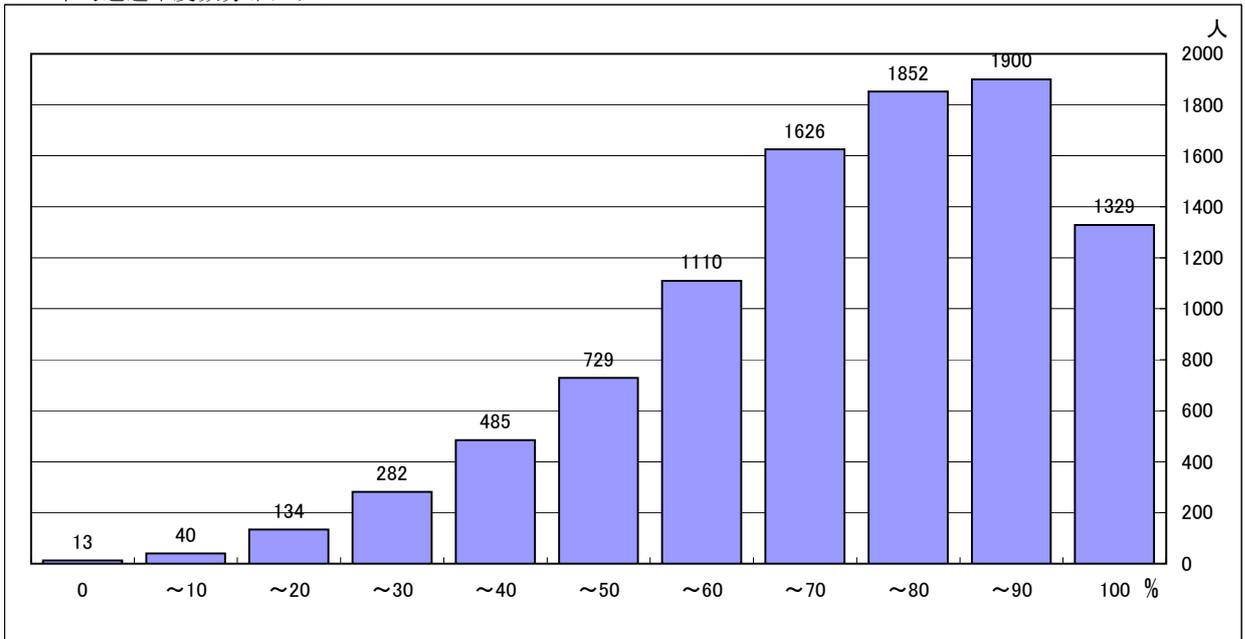
通し番号	1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
(1)	92.1%	7.7%	0.3%	0.0%
(2)	55.6%	44.1%	0.2%	0.0%
(3)	89.0%	10.8%	0.3%	0.1%
(4)	70.9%	24.9%	4.2%	0.2%
(5)	67.9%	30.8%	1.3%	0.1%
(6)	91.3%	8.5%	0.3%	0.1%
(7)	77.6%	20.0%	2.5%	0.1%
(8)	69.1%	30.4%	0.6%	0.1%
(9)	61.9%	37.8%	0.3%	0.1%
(10)	60.9%	38.7%	0.4%	0.1%

4 平均通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	1329	1329
~90	22	22	1900	3229
~80	71	93	1852	5081
~70	120	213	1626	6707
~60	63	276	1110	7817
~50	10	286	729	8546
~40	3	289	485	9031
~30	0	289	282	9313
~20	0	289	134	9447
~10	0	289	40	9487
0	0	289	13	9500

※4 (未履修) を除いた解答類型1～3の合計を分母として通過率を算出

5 平均通過率度数分布グラフ



6 小学校4年 理科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

① 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			領域別（分野別）		
		科学的な思考	技能・表現	知識・理解	生物と環境	物質とエネルギー	地球と宇宙
問題数	10	4	2	4	3	5	2
+10%以上	2	1	0	1	1	1	0
±10%内	6	3	0	3	1	4	1
-10%以下	2	0	2	0	1	0	1

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度のものの合計が、10問中8問である。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「科学的な思考」と「知識・理解」では4問すべてが上回っているか同程度であるが、「技能・表現」では2問とも下回っている。
- ・領域別で通過率と設定通過率を比較した場合、「生物と環境」では3問中2問が上回っているか同程度、「物質とエネルギー」では5問すべてが上回っているか同程度、「地球と宇宙」では設問の半数が同程度という結果である。
- ・未記入率が高い問題は、4) 7) であり、それぞれが4.2%、2.5%である。
- ・過去に実施した本県学習状況調査と類似する問題での通過率の比較では、5問すべてが上回っている。

② 小問別通過率度数分布

以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	平均通過率
100%	23	1	10	7	0	18	3	0	2	1	0
95~100%	42	0	32	9	0	33	2	0	4	0	0
90~95%	53	6	50	13	6	56	24	1	4	5	5
85~90%	27	6	37	12	7	28	20	10	6	8	11
80~85%	15	10	20	17	23	18	25	14	8	9	23
75~80%	3	6	8	17	19	5	28	19	11	11	31
70~75%	1	14	0	23	25	5	26	28	13	12	39
65~70%	0	22	4	12	22	1	8	31	18	23	38
60~65%	0	16	1	12	17	0	12	29	29	25	12
55~60%	0	13	0	13	19	0	9	13	17	22	5
50~55%	0	15	2	11	10	0	4	11	15	15	0
45~50%	0	12	0	8	8	0	2	5	20	9	0
40~45%	0	10	0	5	2	0	1	3	7	4	0
35~40%	0	7	0	2	3	0	0	0	8	7	0
30~35%	0	4	0	1	2	0	0	0	2	4	0
25~30%	0	10	0	2	1	0	0	0	0	4	0
20~25%	0	6	0	0	0	0	0	0	0	3	0
15~20%	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	0
10~15%	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0
5~10%	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	164	164	164	164	164	164	164	164	164	164	164

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、3) 6) の2問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、2) 10) の2問である。
- ・各校における通過率の開きが大きい問題は、2) 10) の2問である。

③ 教科の好き嫌いの傾向

- ・「大好き」と「好き」を合わせると86.9%である。
- ・好きな理由としては、「楽しい」の割合が43%と最も大きく、「わかりやすい」の13.9%、「考えるのが好き」の9.8%がこれに続く。逆に嫌いな理由としては、「わかりにくい」が3.7%、「不得意」が2.8%、「楽しくない」が2.3%である。

(2) 考察

① 全体について

ア 小学校4年生の学習状況はおおむね良好といえる。

- ・小問別設定通過率を10%以上下回った問題は2問あるものの、平均通過率は設定通過率を0.6%上回っている。
- ・平均通過率の度数分布では、70～75%がピークであり、75～85%、60～70%がこれに次いでいる。

イ 子どもの学習意欲を高めるような学習指導が、継続して行われていると考えられる。

- ・理科を「大好き」「好き」と答える割合が86.9%を示し、昨年度より1.2ポイント高くなっている。また、56.9%の子どもが、その理由を「楽しい」「わかりやすい」としている。

② 成果

ア 「物質とエネルギー」領域における実現状況が良好である。

- ・6) は設定通過率を21.3%上回っており、4問が設定通過率と同程度の実現状況となっている。

イ 植物の体のつくりについて、「知識・理解」の改善が図られている。

- ・1) は昨年度の類似問題であるが、通過率が78.6%から92.1%に上昇しており、指導の改善が図られていることがうかがえる。

ウ 太陽の動きと、日陰の位置について、「知識・理解」の改善が図られている。

- ・9) は昨年度の類似問題であるが、通過率が48.2%から61.9%に上昇しており、指導の改善が図られていることがうかがえる。

③ 課題

ア 観察・実験器具の適切な操作について、指導の徹底を図る必要がある。

- ・2) は虫めがねの正しい使い方に関する問題であり、継続課題にもなっている。通過率を比較すると、昨年度の34.4%に対し今年度は55.6%と改善が図られている。しかし、設定通過率を14.4%下回っており、およそ二人に一人は、虫めがねの正しい使い方が定着していないという結果である。
- ・10) は地面の温度の計測方法に関する問題である。設定通過率を19.1%下回る結果となっている。上記2)と同様、各校における通過率の開きも大きく、操作について指導が徹底されていないと考えられる。

イ 光の進み方の理解について課題がある。

- ・4) は光の直進性を記述により問う問題である。設定通過率を9.1%下回る結果となっている。また、未記入率も4.2%と最も高い結果となっている。

(3) 今後の指導

- ・小学校3年生では、身近な自然事象を比較という操作を通して調べ、整理していくことにより、科学的な見方や考え方を養っていくことに重点が置かれている。比較する資質・能力を育成するためには比較する場面を計画的に設定するとともに、日常生活と関連付けて理解を図る活動や、野外観察等の具体的な活動を充実させ、実感を伴った理解を図る指導の一層の充実が求められる。
- ・観察・実験器具の操作においては、単にマニュアル的に指導するのではなく、その操作の意味付けも含めて指導することが重要である。また、器具を使った方が観察等において有効であるという必要感をもたせるような学習展開の工夫も大切である。
- ・観察や実験を通して決まりを見つけていくという、科学的な見方や考え方を構築できる子どもを育成するには、結果や考察を自分であるいは自分たちでまとめていくという活動を大切にすることが必要である。そのためには、一人一人の解決過程において、グループ等で相互にかかわらせながら結論を導き出す時間を設定するなど、指導の一層の充実が必要である。

小 学 校 第 5 学 年
理 科

1 小学校第5学年 理科 評価規準と評価の観点

領域	内容	評 価 規 準	通し 番号	観 点		
				思考	技能 表現	知識 理解
A 生 物 と そ の 環 境	(1) アイ	・植物の成長を調べ、それらの変化と気温の変化を関係付けて考えることができる。	(5)	○		
		・動物の活動は、暖かい季節、寒い季節などによって違いがあることを理解している。	(6)			○
		・動物の活動の様子や植物の成長について定期的に観察し、記録することができる。	(4)		○	
B 物 質 と エ ネ ル ギ ー	(1) アイ	・閉じこめた空気は押し縮められるが水は押し縮められないことを理解している。	(2)			○
		・加熱器（アルコールランプ、ガスバーナー）を安全に操作することができる。	(9)		○	
		・金属は熱せられた部分から順に温まることを理解している。	(10)			○
	(3) ア	・乾電池の数やつなぎ方を変えて、回路を流れる電流の強さとその働きの違いを関係付けて考えることができる。	(1)	○		
C 地 球 と 宇 宙	(1) ウ	・星の集まりは、時間の経過に伴って、並び方は変わらないが位置が変化することを理解して。	(3)			○
		・水蒸気や氷に姿を変える水の状態変化と、温度を関係付けて考えることができる。	(7)	○		
		・水の状態変化を調べ、記録したり、グラフなどに表したりすることができる。	(8)		○	

通し 番号	出題内容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0 % 100
(1)	電流の強さとはたらき	68.7%	60.0%	
(2)	空気と水の力	80.2%	70.0%	
(3)	天体の動き	88.5%	80.0%	
(4)	動植物の定期的記録法	97.3%	90.0%	
(5)	季節と動物の活動	75.8%	80.0%	
(6)	気温の変化と植物の成長	88.1%	70.0%	
(7)	温度と水の状態変化	77.5%	65.0%	
(8)	温度計の使い方	67.2%	80.0%	
(9 A)	加熱器の使い方	81.0%	70.0%	
(9 B)	加熱器の使い方	61.5%	70.0%	
(10)	金属のあたためり方	78.1%	80.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

小学校5年 理科

3 小問別反応率

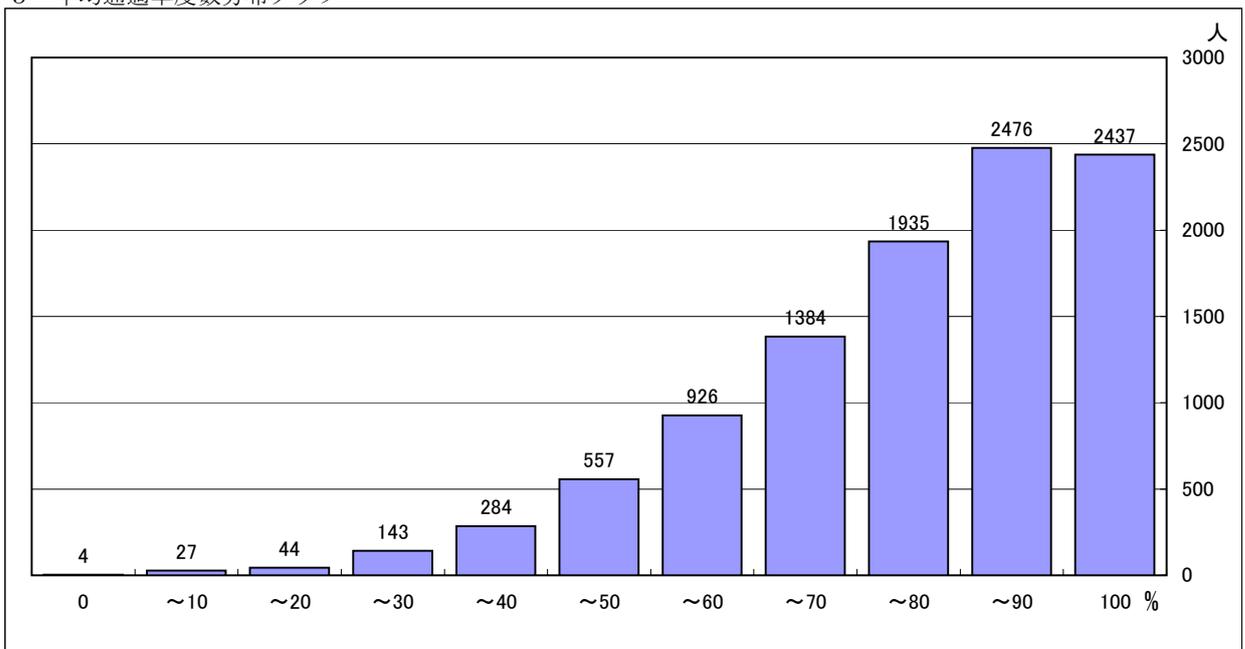
通し番号	1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
(1)	68.7%	31.2%	0.0%	0.0%
(2)	80.2%	19.7%	0.1%	0.0%
(3)	88.5%	11.2%	0.3%	0.0%
(4)	97.3%	2.6%	0.1%	0.0%
(5)	75.8%	23.7%	0.5%	0.0%
(6)	88.1%	11.7%	0.2%	0.0%
(7)	77.5%	22.2%	0.3%	0.0%
(8)	67.2%	32.4%	0.4%	0.0%
A (9)	81.0%	18.6%	0.3%	0.0%
B (9)	61.5%	38.2%	0.3%	0.0%
(10)	78.1%	21.7%	0.2%	0.0%

4 平均通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	1	1	2437	2437
~90	33	34	2476	4913
~80	133	167	1935	6848
~70	101	268	1384	8232
~60	22	290	926	9158
~50	1	291	557	9715
~40	0	291	284	9999
~30	0	291	143	10142
~20	0	291	44	10186
~10	0	291	27	10213
0	0	291	4	10217

※4 (未履修) を除いた解答類型1～3の合計を分母として通過率を算出

5 平均通過率度数分布グラフ



6 小学校5年 理科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

① 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			領域別（分野別）		
		科学的な思考	技能・表現	知識・理解	生物と環境	物質とエネルギー	地球と宇宙
問題数	10	3	3	4	3	4	3
+10%以上	3	1	0	2	1	1	1
±10%内	6	2	2	2	2	3	1
-10%以下	1	0	1	0	0	0	1

- ・設定通過率を上回るものまたは同程度のものであるものの合計が、10問中9問である。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「科学的な思考」及び「知識・理解」では、すべてが上回っているか同程度である。「技能・表現」では3問中2問が同程度で、1問が下回っている。
- ・領域別で通過率と設定通過率を比較した場合、「生物と環境」及び「物質とエネルギー」では、すべてが上回っているか同程度である。「地球と宇宙」では3問中1問が下回っている。
- ・過去に実施した本県学習状況調査と類似する問題での通過率の比較では、すべてが上回っている。

② 小問別通過率度数分布

以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	9)	10)	平均通過率
100%	2	4	6	56	10	4	2	1	6	14	2	0
95~100%	2	7	32	89	10	16	4	0	15	0	2	1
90~95%	11	22	52	28	15	51	12	6	31	4	16	11
85~90%	15	34	43	3	20	55	25	7	19	0	27	31
80~85%	12	32	22	0	24	32	33	15	33	1	32	46
75~80%	19	29	12	0	24	12	31	26	26	2	40	47
70~75%	21	15	6	0	19	4	25	20	6	3	26	23
65~70%	22	14	1	0	18	1	22	27	13	9	13	11
60~65%	23	9	2	0	9	0	8	24	10	2	9	6
55~60%	19	4	0	0	5	0	8	19	5	1	5	0
50~55%	12	2	0	0	6	0	3	14	6	6	1	0
45~50%	11	1	0	0	7	0	2	6	0	0	1	0
40~45%	2	1	0	0	5	1	0	4	0	1	0	0
35~40%	2	2	0	0	3	0	1	5	4	0	0	0
30~35%	2	0	0	0	1	0	0	2	1	6	2	0
25~30%	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
20~25%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15~20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	1	124	0	0
	176	176	176	176	176	176	176	176	176	176	176	176

選択問題

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、2) 6) 7) である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、8) である。
- ・各校における通過率の開きが大きい問題は、1) 5) 7) 8) 9) である。

③ 教科の好き嫌いの傾向

- ・「大好き」と「好き」を合わせると81.7%であるが、昨年度（4年生のとき）と比べて4.0%減少している。
- ・好きな理由としては、「楽しい」の割合が40.4%と最も大きく、「わかりやすい」の13.2%、「考えるのが好き」の10.7%がこれに続く。逆に嫌いな理由としては、「不得意」が4.5%、「わかりにくい」が4.1%、「楽しくない」が3.9%である。

(2) 考察

① 全体について

ア 調査結果から、小学校5年生の学習状況はおおむね良好といえる。

- ・9割の問題で設定通過率を上回っているか同程度である。度数分布表からわかるように、3) 4) 6) についてはほとんどの学校が通過率80~100%の範囲に位置している。

イ 過去の調査結果との比較から、各校の指導状況のよさがうかがえる。

- ・過去に実施した本県学習状況調査問題の類似問題1) 2) 3) 6) 9) の通過率を比較すると、すべての小問で上回っていることから、各校の指導状況のよさがうかがえる。

② 成果

ア 知識・理解の定着が図られてきている。

- ・昨年度の調査では、「空気と水の力」や「天体の動き」についての小問が設定通過率を大きく下回った。今年度は、この内容の類似問題の通過率が設定通過率を上回り、知識・理解の定着が図られている。

イ 「生物と環境」及び「物質とエネルギー」領域における実現状況が良好である。

- ・どちらの領域でも、通過率は設定通過率を上回っているか同程度の範囲内であり、設定通過率を下回る小問はない。特に、4) の「動植物の定期的記録法」については、97.3%と高い通過率を示している。

③ 課題

ア 観察・実験器具の操作についての指導が十分ではない。

- ・8) の「氷点下の温度測定」についての通過率が、設定通過率を大きく下回っている。また、8) とともに9) の「加熱器の使い方」については、度数分布表でも学校間のばらつきが大きく、指導の充実している学校とそうでない学校があると考えられる。

イ 理科が「生活の中で役立つ」と思っている子どもの割合が少ない。

- ・理科が生活に役立つと思っている子どもは6.5%で、他教科に比べると最も少ない割合である。また、理科が「不得意」と回答している子どもの割合は4.5%と、昨年より若干多くなっている。

(3) 今後の指導

- ・理科で学習したことが生活の中で役立つと思っている子どもが少ないことは、日常生活と結び付いた学習が十分には行われていないためと考えられる。子どもの生活経験に基づいた課題の設定や身近な材料を活用した観察・実験等により、日常生活との関連を意識させながら実感を伴った理解を図る必要がある。
- ・温度計や加熱器具等の観察・実験器具の操作については、単元計画の中に操作を学習する場を設定するとともに、観察・実験の場面においても、そのつど繰り返し指導する必要がある。
- ・「地球と宇宙」の学習では、授業時間内に実際に月や星の観察を行うことは容易ではない。宿泊を伴う学習の中に月や星の観察を組み込んだり、プラネタリウムなどの社会教育施設を積極的に活用するなどして、天体に関する興味・関心を高めながら実感を伴った理解を図る必要がある。

小 学 校 第 6 学 年
理 科

1 小学校第6学年 理科 評価規準と評価の観点

領域	内容	評価規準	通し番号	観 点		
				思考	技能表現	知識理解
A 生物とその環境	(2) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 生まれた卵は、日がたつにつれて中の様子に変化してかえることを理解している。(選択) 人は母体内で成長して生まれることを理解している。(選択) 	(1)			○
	(2) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 魚の卵の内部の変化か、人の発生や成長の変化にかかわる条件を見いだすことができる。(選択) 	(2)	○		
	(1) ア	<ul style="list-style-type: none"> 植物は、種子の中の養分を基にして発芽することを理解している。 	(3)			○
	(1) ウ	<ul style="list-style-type: none"> 植物の成長について、条件に着目して実験の計画を考えることができる。 	(4)		○	
	(1) エ	<ul style="list-style-type: none"> 植物の結実にかかわる条件を見いだすことができる。 	(5)	○		
	(1) エ	<ul style="list-style-type: none"> 顕微鏡などを適切に操作することができる。 	(6)		○	
	(1) エ	<ul style="list-style-type: none"> 花のつくりや花粉などを、顕微鏡を適切に操作して観察することができる。 	(7)		○	
B 物質とエネルギー	(1) イ	<ul style="list-style-type: none"> 物の溶け方の違いを調べる工夫をし、溶け方の規則性を計画的に調べることができる。 	(8)		○	
	(1) イ	<ul style="list-style-type: none"> 物の溶け方とその要因との関係について、条件に着目して結果を考察することができる。 	(9)	○		
	(1) ウ	<ul style="list-style-type: none"> 物が水に溶けても、水と物を合わせた重さは変わらないことを理解している。 	(10)			○
	(2) イ	<ul style="list-style-type: none"> てこがつり合うときのおもりの重さや支点からの距離を関係付けて考えることができる。 	(14)	○		
	(2) イ	<ul style="list-style-type: none"> てこの実験装置などを使って、てこがつり合うときのおもりの重さや支点からの距離を関係付けて考えることができる。 	(15)	○		
	(3) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 調べる条件に着目して、ふりこか衝突の規則性を調べる工夫をすることができる。(選択) 	(16)		○	
	(3) アイ	<ul style="list-style-type: none"> 糸につるしたおもりが1往復する時間は、おもりの重さなどによっては変わらないが、糸の長さによって変わることを理解している。(選択) おもりが他の物を動かす働きは、おもりの重さや動く速さによって変わることを理解している。(選択) 	(17)			○
C 地球と宇宙	(2) ア	<ul style="list-style-type: none"> モデル実験で見いだしたきまりを実際の川に当てはめて考えることができる。 	(13)	○		
	(2) ア	<ul style="list-style-type: none"> 流れる水の速さや量の変化を調べる工夫をし、計画的に調べることができる。 	(11)		○	
	(2) ア	<ul style="list-style-type: none"> 流れる水には、土地を削ったり、石や土などを流したり積もらせたりする働きがあることを理解している。 	(12)			○
	(1) ア	<ul style="list-style-type: none"> 1日の気温の変化する様子を適切に測り、記録することができる。 	(18)		○	
	(1) イ	<ul style="list-style-type: none"> 気象情報を活用して天気の変化を予想することができる。 	(19)	○		
	(1) ア	<ul style="list-style-type: none"> 天気によって1日の気温の変化の仕方に違いがあることを理解している。 	(20)			○

通し番号	出題内容	通過率 (%)	設定通過率 (%)	
(1 A)	メダカの卵の変化または人の発生の仕方	94.2%	70.0%	
(2 B)	子メダカまたは母体内での人の養分の取り方	96.5%	85.0%	
(1 A)	メダカの卵の変化または人の発生の仕方	98.3%	70.0%	
(2 B)	子メダカまたは母体内での人の養分の取り方	97.3%	85.0%	
(3)	インゲンマメの発芽と養分の関係	85.7%	85.0%	
(4)	インゲンマメの成長の条件	87.6%	80.0%	
(5)	アサガオの死亡の変化の要因	89.3%	85.0%	
(6)	顕微鏡の操作手順	71.5%	70.0%	
(7)	顕微鏡の視野	83.4%	80.0%	
(8)	物の溶け方の違いを調べる方法	66.5%	60.0%	
(9)	水の温度とホウ酸、食塩が溶ける量	58.3%	60.0%	
(10)	ホウ酸が水に溶けたときの重さ	78.7%	70.0%	
(11)	モデル実験と実際の川の比較	82.0%	70.0%	
(12)	流れる水の働きを調べる実験方法	89.5%	65.0%	
(13)	流れる水の働き	90.5%	75.0%	
(14)	てこの働きを利用した道具の使い方	68.1%	70.0%	
(15)	実験用てこを釣り合わせる方法	78.5%	60.0%	
(16 A)	物の運動を調べる変数の固定	53.2%	60.0%	
(17 A)	物の運動に関する要因	72.8%	60.0%	
(16 B)	物の運動を調べる変数の固定	39.4%	60.0%	
(17 B)	物の運動に関する要因	68.3%	60.0%	
(18)	気温のはかり方	89.2%	85.0%	
(19)	気象情報の活用の仕方	58.4%	70.0%	
(20)	天気と1日の気温の変化	82.5%	70.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

小学校6年 理科

3 小問別反応率

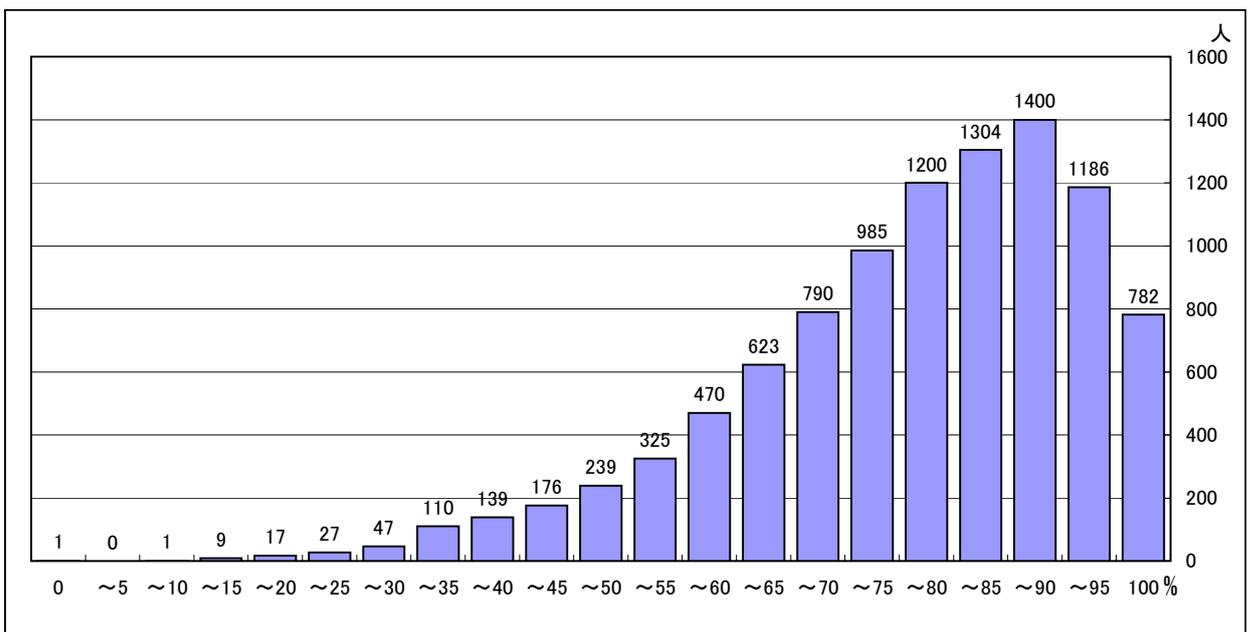
通し番号	1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
A (1)	94.2%	5.7%	0.0%	0.2%
A (2)	96.5%	3.5%	0.0%	0.4%
B (1)	98.3%	1.6%	0.1%	0.3%
B (2)	97.3%	2.6%	0.0%	0.1%
(3)	85.7%	14.2%	0.1%	0.1%
(4)	87.6%	12.2%	0.2%	0.2%
(5)	89.3%	10.5%	0.2%	0.2%
(6)	71.5%	28.1%	0.4%	0.2%
(7)	83.4%	16.3%	0.2%	0.2%
(8)	66.5%	33.4%	0.1%	0.3%
(9)	58.3%	41.4%	0.3%	0.3%
(10)	78.7%	20.9%	0.4%	0.3%
(11)	82.0%	16.0%	2.0%	0.2%
(12)	89.5%	10.2%	0.3%	0.2%
(13)	90.5%	9.3%	0.2%	0.2%
(14)	68.1%	31.7%	0.1%	0.3%
(15)	78.5%	21.4%	0.1%	0.3%
A (16)	53.2%	43.3%	3.5%	0.3%
A (17)	72.8%	26.6%	0.6%	0.4%
B (16)	39.4%	56.9%	3.7%	0.1%
B (17)	68.3%	31.3%	0.4%	0.3%
(18)	89.2%	10.5%	0.3%	0.1%
(19)	58.4%	41.2%	0.4%	0.1%
(20)	82.5%	17.2%	0.3%	0.1%

4 平均通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	782	782
~95	5	5	1186	1968
~90	19	24	1400	3368
~85	36	60	1304	4672
~80	84	144	1200	5872
~75	80	224	985	6857
~70	45	269	790	7647
~65	14	283	623	8270
~60	2	285	470	8740
~55	0	285	325	9065
~50	1	286	239	9304
~45	0	286	176	9480
~40	0	286	139	9619
~35	1	287	110	9729
~30	0	287	47	9776
~25	0	287	27	9803
~20	0	287	17	9820
~15	0	287	9	9829
~10	0	287	1	9830
~5	0	287	0	9830
0	0	287	1	9831

※4 (未履修) を除いた解答類型1～3の合計を分母として通過率を算出

5 平均通過率度数分布グラフ



6 小学校6年 理科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

① 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			領域別（分野別）		
		科学的な思考	技能・表現	知識・理解	生物と環境	物質とエネルギー	地球と宇宙
問題数	20	7	7	6	7	7	6
+10%以上	8	3	1	4	2	2	4
±10%内	10	3	5	2	5	4	1
-10%以下	2	1	1	0	0	1	1

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度であるものの合計が、20問中18問である。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「科学的な思考」では7問中3問が大きく上回り、3問が同程度である。「技能・表現」では7問中1問が大きく上回り、5問が同程度である。「知識・理解」では、6問中4問が大きく上回り、2問が同程度である。
- ・領域別で通過率と設定通過率を比較した場合、「生物と環境」では7問すべてが上回っているか同程度である。「物質とエネルギー」及び「地球と宇宙」ではそれぞれ1問ずつが下回り、それ以外はすべて上回っているか同程度である。
- ・未記入率が高い問題は、11) 16) であり、それぞれ2.0%、3.7%である。
- ・過去に実施した本県学習状況調査と類似する問題での通過率の比較では、10問中8問が上回っているか同程度である。

② 小問別通過率度数分布

以上 未満	1)	2)	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率		
100%	56	76	122	100	10	5	10	2	1	0	0	1	13	7	18	0	1	3	3	0	12	2	7	0	
95~100%	38	38	23	28	12	18	33	1	5	4	0	6	18	40	39	2	3	1	2	1	0	32	1	19	0
90~95%	43	43	12	23	43	51	54	7	36	2	1	20	34	43	55	6	11	3	7	6	4	45	3	30	4
85~90%	19	13	3	7	42	42	44	15	37	6	4	28	27	49	32	1	27	2	14	5	16	50	2	32	16
80~85%	13	4	4	2	31	42	23	31	39	8	2	35	24	23	19	20	34	12	27	8	54	18	11	31	54
75~80%	2	0	0	2	18	12	7	16	32	19	8	30	18	13	9	19	47	7	36	7	60	13	4	20	61
70~75%	1	0	0	0	10	5	4	27	15	28	12	24	15	2	4	29	28	9	19	6	30	3	6	18	30
65~70%	0	0	0	0	8	3	1	25	8	29	24	14	8	1	0	27	13	13	19	7	12	3	17	11	12
60~65%	0	0	0	1	2	0	2	25	3	32	27	9	9	0	2	32	9	16	25	7	2	2	29	3	1
55~60%	1	0	0	0	1	0	0	9	1	21	30	5	2	0	0	19	0	15	12	8	0	0	26	4	0
50~55%	0	0	1	0	1	0	0	11	1	17	27	4	6	0	0	15	5	28	4	12	0	0	30	3	0
45~50%	0	0	0	0	0	0	0	4	0	7	24	1	3	0	0	3	0	14	3	8	0	0	19	0	0
40~45%	0	0	0	0	0	0	0	2	0	4	12	1	0	0	0	5	0	15	2	4	0	0	18	0	0
35~40%	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	6	0	0	0	0	0	0	3	0	5	0	0	4	0	0
30~35%	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	4	0	0	4	0	0
25~30%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	11	0	8	0	0	2	0	0
20~25%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	6	0	6	0	0	0	0	0
15~20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	8	0	0	0	0	0	0
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	11	0	0	0	0	0	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	12	0	0	0	0	0	0
0~5%	5	4	13	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	4	42	0	0	0	0	0	0
	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178	178

- ・設定通過率を10%以上上回った問題は、1) 2) 11) 12) 13) 15) 17) のA 20) の7問である。
- ・設定通過率を10%以上下回った問題は、16) 19) の2問である。
- ・各校における通過率の開きが大きかった問題は、6) 9) 16) のB 19) の4問である。
- ・通過率が50%を下回った問題は、16) のBの39.4%である。

③ 教科の好き嫌いの傾向

- ・「大好き」と「好き」を合わせると78.7%であり、これは昨年度（5年生のとき）と同じ結果である。しかし、「大好き」の割合は3.1%減少している。
- ・好きな理由としては、「楽しい」の割合が41.7%と最も大きく、「わかりやすい」の13.6%、「考えるのが好き」の9.7%がこれに続く。逆に嫌いな理由としては、「不得意」が4.9%、「楽しくない」「わかりにくい」がそれぞれ4.1%である。

(2) 考察

① 全体について

ア 小学校6年生の学習状況はおおむね良好といえる。

- ・9割の問題が設定通過率を上回っているか同程度であり、観点別に見た場合も特に落ち込んでいる状況は見られない。

イ 各校で本県の課題を意識した指導がなされている。

- ・過去に実施した本県学習状況調査及び国の教育課程実施状況調査と類似する問題の結果を見ると、10問中8問の通過率がそれぞれの通過率を上回っており、そのうちの3問は15%以上上回っている。

② 成果

ア 「知識・理解」についての指導状況が良好であることがうかがえる。

- ・「知識・理解」を問う問題で、設定通過率を10%以上上回った問題はない。昨年度は設定通過率を10%以上上回った問題はなかったが、今年度は6問中4問が10%以上上回っている。特に、「課題選択」の単元の問題では設定通過率を上回る割合が高く、各校で適切な指導がなされていると思われる。

イ 「地球と宇宙」の領域についての指導状況は良好である。

- ・6問中4問が設定通過率を10%以上上回っている。昨年度の類似問題である11)は、昨年度の通過率が63.5%であったが、今年度は82.0%に上がっている。同様に20)についても、通過率が昨年度よりも26.4%上がっている。

③ 課題

ア 「科学的な思考」について、二つの条件を組み合わせて考える力が不足している。

- ・9)の食塩とホウ酸を比較して考える問題、14)の支点からの作用点と力点の距離をそれぞれ考える問題、19)の雲の動き方と天気を考える問題が、設定通過率を下回っている。設定通過率を下回った問題が全体の中で4問あるが、そのうち3問が二つの条件を組み合わせて考える内容である。

イ 「技能・表現」について、「実験用具の扱い」や「追究の過程や結果の表現」の指導を一層充実させる必要がある。

- ・「技能・表現」を問う問題で設定通過率を10%以上上回った問題は、7問中1問だけである。この観点の他の問題の通過率は昨年度とほぼ同じであるが、国の教育課程実施状況調査の類似問題である6)は、国の通過率よりも8.7%下回っている。

(3) 今後の指導

- ・3年生と4年生で培った「比較する資質・能力」、「関係する要因を抽出する資質・能力」を基盤に、制御すべき要因と制御しない要因とを区別しながら、観察・実験などを計画的に行っていく資質・能力を育成する必要がある。
- ・顕微鏡などの観察・実験器具の操作方法については、観察・実験を通して一人一人に確実に習得させる必要がある。授業の中で一人一人が観察・実験器具を操作できる場を保障するためにも、グループ実験のみの実施ではなく、二人一組や個人で行う実験をできるだけ取り入れることも大事である。
- ・一人一人の既有的概念や先行経験等に基づく予想、予想に基づいた観察・実験、結果の記録やまとめ等の各場面を大切にしながら、ねらいを明確にした追究活動により科学的な見方・考え方を深めていくが必要である。特に、結果のまとめにおいては、一人一人が自分の言葉で表現し、それをもとに学級全体で意見を交換し合いながら規則性等を発見していく授業の構築が求められる。

中 学 校 第 1 学 年
理 科

1 中学校第1学年 理科 評価規準と評価の観点

領域	内容	評価規準	通し番号	観点		
				思考判断	技表現	知識理解
A 生物とその環境	(1)ウ	・人の体のつくりと消化の働きを調べ、記録することができる。	(1)		○	
		・人の体のつくりと血液循環の働きとのかかわりについて推論することができる。	(2)	○		
	(2)ア	・日光とでんぷんのでき方の比較対照実験の方法を考え、計画することができる。	(3)		○	
		・ヨウ素液などを適切に使って、日光とでんぷんのでき方の比較対照実験を行うことができる。	(4)		○	
	(2)イ	・生きている植物体や枯れた植物体は、動物によって食べられることを理解している。	(5)			○
	(2)ウ	・生き物が食べ物、水及び空気を通して周囲の環境とかかわって生きていることを理解している。	(6)			○
		・生物と食べ物、水及び空気とのかかわりを総合的に考えることができる。	(7)	○		
B 物質とエネルギー	(1)ウ	・水溶液の性質を調べそれらを適切に取り扱い、変化の様子を記録することができる。	(8)		○	
		・水溶液の性質を調べる工夫をし、リトマス紙や加熱器具などを適切に使って安全に実験をすることができる。	(9)		○	
		・水溶液には、金属を変化させるものがあることを理解している。	(10)			○
	(2)ア	・植物体の燃焼の様子や空気の性質の変化について調べる方法を考えることができる。	(11)		○	
		・植物体が燃えるときには、空気中の酸素が使われて二酸化炭素ができることを理解している。	(12)			○
		・物の燃焼と空気の変化を関係付けながら、物の燃焼の仕組みを多面的に考えることができる。	(13)	○		
	(3)イ	・電磁石の強さと、電流の強さや導線の巻き数を関係付けて考えることができる。	(14)	○		
・電磁石の強さを調べる方法を工夫して考え、導線などを適切に使って計画的に実験をすることができる。		(15)		○		
C 地球と宇宙	(1)ア	・崖の地層とボーリング資料を比較して関係付け、地層の重なり方を推論することができる。	(16)	○		
		・地層には、流れる水の働きや火山の噴火によってできたものがあることを理解している。	(17)			○
	(1)イ	・崖の地層とボーリング資料を比較して関係付け、地層の広がり方を推論することができる。	(18)	○		
	(1)ウエ	・土地は、火山の噴火によって変化することを理解している。(選択)	(19)			○
		・土地は、地震によって変化することを理解している。(選択)				
	・火山の噴火によって引き起こされる災害について理解している。(選択)	(20)			○	
	・地震によって引き起こされる災害について理解している。(選択)					

通し 番号	出題内容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	
(1)	だ液のはたらき	56.3%	80.0%	
(2)	血液のはたらき	36.6%	70.0%	
(3)	光合成と日光の関係	94.4%	70.0%	
(4)	光合成のはたらき	54.2%	70.0%	
(5)	生き物の食性	60.1%	70.0%	
(6)	生き物と酸素や二酸化炭素の関係	79.6%	80.0%	
(7)	生き物の水や食べ物を通したかかわり	87.2%	80.0%	
(8)	アンモニア水と金属との反応	47.6%	60.0%	
(9)	液体を蒸発させて固体を取り出す方法	69.2%	70.0%	
(10)	金属を変化させる水溶液	55.6%	60.0%	
(11)	物の燃焼	55.2%	70.0%	
(12)	物の燃焼と酸素と二酸化炭素	77.8%	70.0%	
(13)	物の燃焼の仕組み	87.5%	60.0%	
(14)	電磁石を強くする方法	77.3%	80.0%	
(15)	強い電磁石にする乾電池のつなぎ方	59.0%	70.0%	
(16)	地層のでき方	93.6%	80.0%	
(17)	火山噴火と流水による地層のでき方	60.8%	60.0%	
(18)	地層の広がり	92.8%	70.0%	
(19 A)	火山の噴火・断層	96.1%	90.0%	
(20 A)	火山の噴火または地震による災害	96.2%	80.0%	
(19 B)	火山の噴火・断層	89.6%	90.0%	
(20 B)	火山の噴火または地震による災害	93.9%	80.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

中学校1年 理科

3 小問別反応率

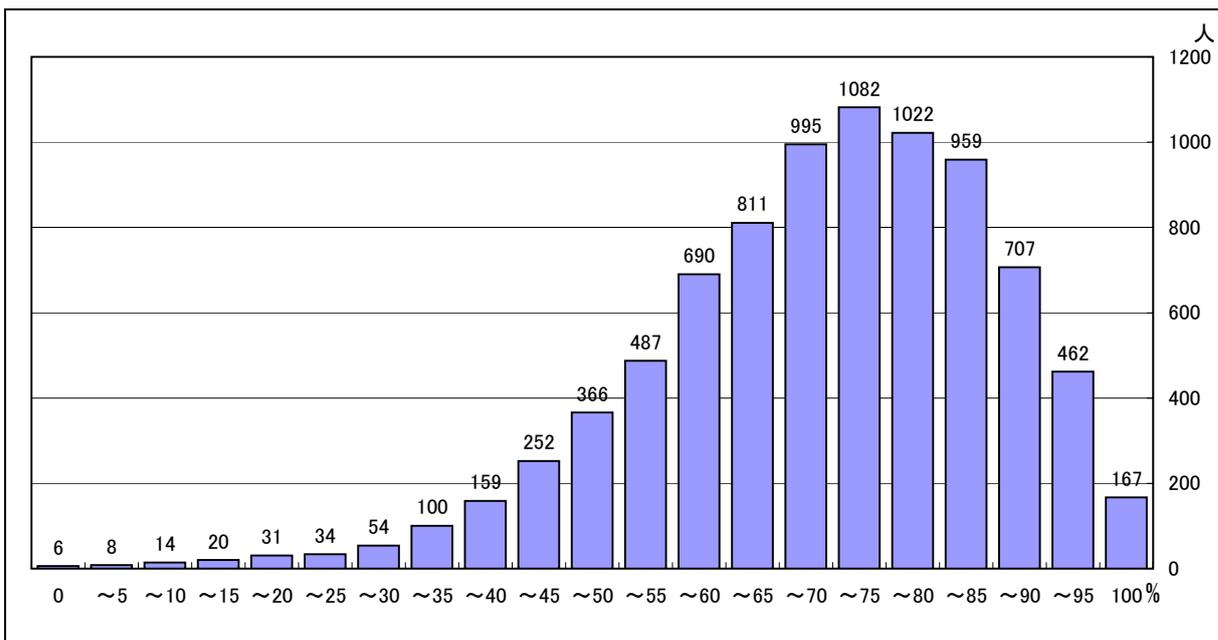
通し番号	1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
(1)	56.3%	43.4%	0.2%	0.0%
(2)	36.6%	63.1%	0.3%	0.0%
(3)	94.4%	4.4%	1.1%	0.0%
(4)	54.2%	45.6%	0.2%	0.0%
(5)	60.1%	39.4%	0.5%	0.0%
(6)	79.6%	20.2%	0.3%	0.0%
(7)	87.2%	12.7%	0.2%	0.0%
(8)	47.6%	52.0%	0.4%	0.0%
(9)	69.2%	30.4%	0.4%	0.0%
(10)	55.6%	39.0%	5.4%	0.0%
(11)	55.2%	43.7%	1.2%	0.0%
(12)	77.8%	21.4%	0.8%	0.0%
(13)	87.5%	11.5%	1.0%	0.0%
(14)	77.3%	19.8%	2.9%	0.0%
(15)	59.0%	40.3%	0.7%	0.0%
(16)	93.6%	6.2%	0.2%	0.0%
(17)	60.8%	38.9%	0.3%	0.0%
(18)	92.8%	6.5%	0.7%	0.0%
A (19)	96.1%	3.2%	0.8%	0.0%
A (20)	96.2%	3.5%	0.3%	0.0%
B (19)	89.6%	8.3%	2.1%	0.0%
B (20)	93.9%	6.1%	0.1%	0.0%

4

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	167	167
~95	0	0	462	629
~90	0	0	707	1336
~85	2	2	959	2295
~80	5	7	1022	3317
~75	28	35	1082	4399
~70	49	84	995	5394
~65	40	124	811	6205
~60	9	133	690	6895
~55	1	134	487	7382
~50	0	134	366	7748
~45	0	134	252	8000
~40	0	134	159	8159
~35	0	134	100	8259
~30	0	134	54	8313
~25	0	134	34	8347
~20	0	134	31	8378
~15	0	134	20	8398
~10	0	134	14	8412
~5	0	134	8	8420
0	0	134	6	8426

※4 (未履修) を除いた解答類型1～3の合計を分母として通過率を算出

5 平均通過率度数分布グラフ



6 中学校1年 理科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

① 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			領域別（分野別）		
		科学的な思考	技能・表現	知識・理解	生物と環境	物質とエネルギー	地球と宇宙
問 題 数	20	6	7	7	7	8	5
+10%以上	5	3	1	1	1	1	3
±10%内	9	2	1	6	3	4	2
-10%以下	6	1	5	0	3	3	0

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度であるものの合計が、20問中14問である。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「科学的な思考」では6問中5問が大きく上回るか同程度である。「技能・表現」では7問中5問が下回っている。「知識・理解」では7問すべてが同程度か上回っている。
- ・領域別で通過率と設定通過率を比較した場合、「生物と環境」及び「物質とエネルギー」では3問ずつ下回っており、上回っているのは1問ずつである。一方、「地球と宇宙」では5問すべてが上回っているか同程度である。
- ・未記入率が高い問題は10) 14) であり、それぞれ5.4%、2.9%である。
- ・過去に実施した本県学習状況調査と類似する問題での通過率の比較では、9問中すべてが上回っているか同程度であり、2問は大きく上回っている。

② 小問別通過率度数分布

以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率				
100%	0	0	19	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	4	5	0	6	0	10	35	23	0	62	0	
95~100%	0	0	49	0	0	0	7	0	2	0	1	1	8	13	0	40	0	27	49	67	0	6	0	0	
90~95%	0	0	36	0	0	5	39	0	3	1	3	6	38	21	3	58	2	57	29	28	0	23	0	0	
85~90%	3	0	9	0	0	26	26	1	10	1	4	11	35	15	5	15	1	23	6	1	2	11	1	1	
80~85%	2	0	6	1	2	36	34	0	17	5	5	30	23	17	4	2	2	3	3	2	3	6	3	3	
75~80%	3	0	0	6	6	19	10	2	18	8	7	33	11	14	4	0	5	2	0	0	25	3	25	0	
70~75%	4	0	1	9	3	21	1	0	13	8	5	25	2	7	17	0	11	0	0	0	50	1	50	0	
65~70%	10	0	1	11	23	7	1	5	10	19	7	12	1	7	8	0	13	0	0	0	35	0	36	0	
60~65%	21	1	1	19	24	5	1	11	17	13	12	3	0	4	21	0	26	0	0	0	7	0	7	0	
55~60%	20	3	0	20	31	2	1	12	16	16	8	1	0	3	16	1	30	0	0	0	0	0	0	0	
50~55%	21	8	0	16	24	0	0	14	9	8	23	0	0	1	11	0	22	0	0	0	0	0	2	0	
45~50%	18	6	0	12	8	0	0	25	4	10	12	0	0	2	5	0	7	0	0	0	0	0	0	0	
40~45%	13	28	0	10	0	0	0	26	3	10	13	0	0	4	10	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
35~40%	5	27	0	8	1	0	0	13	0	15	9	0	0	6	5	0	2	0	0	0	0	0	0	0	
30~35%	2	18	0	5	0	0	0	7	0	5	3	0	0	1	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
25~30%	0	15	0	3	0	0	0	5	0	3	7	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
20~25%	0	10	0	2	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
15~20%	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	7	0	
	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122	122
	選択問題																								

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、3) 13) 16) 18) 20) の5問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、1) 2) 4) 8) 11) 15) の6問である。
- ・各校における通過率の開きが大きかった問題は、1) 4) 8) 9) 10) 11) 14) 15) 17) の9問である。9) 10) は分布のピークが二つある。
- ・通過率が50%を下回った問題は、2) の36.6%と8) の47.6%である。

③ 教科の好き嫌いの傾向

- ・「大好き」と「好き」を合わせると66.6%であり、これは昨年度（6年生のとき）と比べて3.0%増加している。
- ・好きな理由としては、「楽しい」の割合が35.7%と最も大きく、「わかりやすい」の12.7%、「考えるのが好き」の8.0%がこれに続く。逆に嫌いな理由としては、「不得意」が8.5%、「わかりにくい」が7.9%、「楽しくない」が4.3%である。

(2) 考察

① 全体について

ア 中学校 1 年生の実現状況はおおむね良好といえる。

- ・ 設定通過率の平均72.0%に対して、平均通過率は71.8%となっており、設定通過率を上回るあるいは同程度である問題数は、全体の70%である。

イ 「技能・表現」の観点における実現状況が低い傾向にある。

- ・ 7問中6問が設定通過率を下回り、そのうち5問は大きく下回っている。

② 成果

ア 「地球と宇宙」の実現状況がおおむね良好である。

- ・ 5問すべてが設定通過率を上回るか同程度であり、選択問題を含め、5問の平均通過率も89.0%と高い実現状況にある。
- ・ 16) 18) の結果から、ボーリング資料を比較して関係付け、地層の重なり方や広がり方を推論する問題では、ほとんどの学校が通過率85~100%の範囲に位置している。

イ 「知識・理解」の観点については、全問が設定通過率を上回るか同程度である。

- ・ 各領域について偏りなく指導がなされていることがうかがえる。10) は設定通過率と同程度であるが、昨年度の18%を大きく上回っている。

③ 課題

ア 「技能・表現」の実現状況が十分とはいえない。

- ・ 3) の関係する要因を導き出す対照実験の方法を考えることについての実現状況は良好であるが、それ以外については設定通過率を大きく下回っている。
- ・ 11) の植物体の燃焼する様子を調べる方法や、15) の電磁石の強さを調べる方法を考えることの実現状況が思わしくない。全員一律に同じ方法で調べさせるのではなく、予想や仮説を立ててそれを検証していく学習を繰り返すことにより、多面的な視点から観察・実験を行って結論を導き出す資質・能力の育成を図っていく必要がある。

イ 学校間のばらつきが拡大した傾向が見られる。

- ・ 各校の通過率に大きな開きが生じた問題は9問であり、これは全体の半数近くにのぼる。特に、14) は設定通過率と同程度ではあるものの、通過率は15~100%と幅広く分布している。各学校ごとに自校の小問ごとの通過率を把握し、授業改善に生かす具体的な手立てを講じる必要がある。

(3) 今後の指導

- ・ 知的好奇心を触発する事象や日常生活と関連する内容を単元に組み込んだり、野外観察等で自然に直接働きかける場を工夫したりして、生徒の興味・関心を持続させながら自然事象に対する問題意識を高める指導の充実が求められる。
- ・ 3~5年生で培った問題解決の資質・能力を基盤に、多面的な視点から観察・実験などを行って結論を導く資質・能力を一人一人に育成する必要がある。子どもが自分なりの予想や仮説をもち、それに基づいた観察・実験を通して自らの考えを検証していく学習を保障するなどして、問題解決の能力を高めていけるような指導の一層の充実が求められる。

中 学 校 第 2 学 年
理 科

1 中学校第2学年 理科 評価規準と評価の観点

領域	内容	評価規準	通し番号	観 点		
				思考判断	技能表現	知識理解
物 理 分 野	(1) ア(イ)	・凸レンズの働きについて調べる実験を行い、凸レンズを通してできる像を記録することができる。	(1)		○	
		・凸レンズの働きについて調べる実験を行い、物体の位置と像の位置及び大きさの関係を見いだすことができる。	(2)	○		
	(1) ア(ウ)	・音の発生や伝わり方、音の高さや大きさについて理解し、知識を身に付けている。	(7)			○
	(1) イ(ア)	・重力とは物体を地球の中心に向かって引く力であることを理解し、知識を身に付けている。	(3)			○
	(1) イ(イ)	・圧力は力の大きさと面積に関係することを見いだすことができる。	(4)	○		
化 学 分 野	(2) ア(ア)	・加熱器具の使い方について基本操作を習得している。	(5)		○	
	(2) イ(イ)	・温度変化のグラフから、蒸留によって取り出した液体の性質を推定することができる。	(6)	○		
	(2) ア(イ)	・物質の状態変化によって、物質の質量の大きさは変化しないことを理解し、知識を身に付けている。	(8)			○
	(2) イ(イ)	・酸、アルカリにはそれぞれに共通の性質があることを理解し、知識を身に付けている。	(9)			○
	(2) ア(ウ)	・気体を発生させる方法や、捕集法などの技能を習得している。	(12)		○	
生 物 分 野	(1) ア(ア)	・顕微鏡やルーペなどの観察器具の基本操作を習得している。	(15)		○	
	(1) イ(イ)	・植物の体のつくりと光合成の働きを関連付けて調べるための観察、実験を計画することができる。	(13)	○		
		・植物が光合成を行う条件について理解し、知識を身に付けている。	(14)			○
	(1) ウ(ア)	・いろいろな植物の花のつくりにおける共通点や相違点を理解している。	(10)			○
	・植物の葉や茎、根のつくりの特徴に基づいて、植物の分類の観点を見いだすことができる。	(11)	○			
地 学 分 野	(2) ア(ア)	・地層の重なり方の規則性を見だし、地層の広がりやを推定できる。	(16)	○		
		・地層の堆積環境について理解し、知識を身に付けている。	(17)			○
	(2) イ(ア)	・実験によって堆積岩や火成岩を区別することができる。	(18)		○	
	(2) イ(イ)	・地震の揺れの大きさ(震度)から、地震の規模(マグニチュード)を推定することができる。	(19)	○		
	・地震計の記録から、初期微動継続時間が震源からの距離に関係していることを推定することができる。	(20)	○			

通し番号	出題内容	通過率 (%)	設定通過率 (%)	
(1)	凸レンズでできる像	47.6%	60.0%	
(2)	凸レンズでできる像と距離の関係	31.9%	65.0%	
(3)	重力の向き	90.2%	90.0%	
(4)	底面積と圧力の関係	69.7%	75.0%	
(5)	ガスバーナーの使い方	41.5%	60.0%	
(6)	蒸留による混合物の分離	44.6%	65.0%	
(7)	音の高さや大きさ	41.0%	60.0%	
(8)	物体の状態変化と質量・体積	52.4%	65.0%	
(9)	酸やアルカリの性質	49.3%	60.0%	
(10)	被子植物と裸子植物の花のつくり	76.7%	75.0%	
(11)	葉・茎・根による植物の分類	66.0%	65.0%	
(12)	気体の捕集方法	61.9%	70.0%	
(13)	光合成と葉緑体	39.2%	60.0%	
(14)	デンプンができる条件と場所	81.3%	80.0%	
(15)	顕微鏡の操作	31.8%	60.0%	
(16)	地層の広がり	82.9%	80.0%	
(17)	地層の堆積環境	79.6%	90.0%	
(18)	堆積岩の特徴	66.3%	80.0%	
(19)	マグニチュードと震度	73.6%	70.0%	
(20)	初期微動継続時間と震源距離	69.8%	70.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

中学校2年 理科

3 小問別反応率

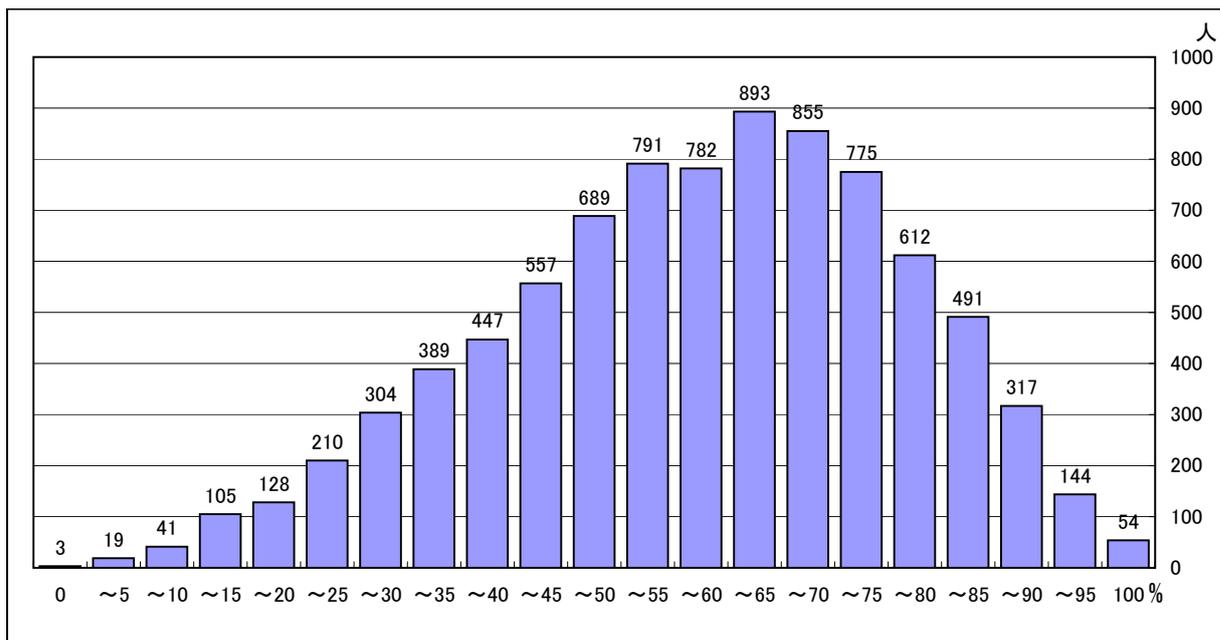
通し番号	1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
(1)	47.6%	52.1%	0.3%	0.0%
(2)	31.9%	67.6%	0.4%	0.0%
(3)	90.2%	9.6%	0.2%	0.0%
(4)	69.7%	29.6%	0.7%	0.0%
(5)	41.5%	58.4%	0.1%	0.0%
(6)	44.6%	39.3%	16.0%	0.0%
(7)	41.0%	58.1%	1.0%	0.0%
(8)	52.4%	47.2%	0.4%	0.0%
(9)	49.3%	49.8%	0.8%	0.0%
(10)	76.7%	22.8%	0.6%	0.0%
(11)	66.0%	33.1%	1.0%	0.0%
(12)	61.9%	28.8%	9.3%	0.0%
(13)	39.2%	60.4%	0.4%	0.0%
(14)	81.3%	18.3%	0.4%	0.0%
(15)	31.8%	67.7%	0.5%	0.0%
(16)	82.9%	11.6%	5.5%	0.0%
(17)	79.6%	19.8%	0.6%	0.0%
(18)	66.3%	32.8%	0.9%	0.0%
(19)	73.6%	23.5%	3.0%	0.0%
(20)	69.8%	28.7%	1.5%	0.0%

4 平均通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	54	54
~95	0	0	144	198
~90	0	0	317	515
~85	0	0	491	1006
~80	0	0	612	1618
~75	3	3	775	2393
~70	4	7	855	3248
~65	24	31	893	4141
~60	37	68	782	4923
~55	40	108	791	5714
~50	23	131	689	6403
~45	3	134	557	6960
~40	0	134	447	7407
~35	0	134	389	7796
~30	0	134	304	8100
~25	0	134	210	8310
~20	0	134	128	8438
~15	0	134	105	8543
~10	0	134	41	8584
~5	0	134	19	8603
0	0	134	3	8606

※4 (未履修) を除いた解答類型1～3の合計を分母として通過率を算出

6 平均通過率度数分布グラフ



6 中学校2年 理科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

① 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			分 野 別			
		科学的な思考	技能・表現	知識・理解	物理分野	化学分野	生物分野	地学分野
問 題 数	20	8	5	7	5	5	5	5
+10%以上	0	0	0	0	0	0	0	0
±10%内	9	5	1	3	2	1	3	3
-10%以下	11	3	4	4	3	4	2	2

- ・設定通過率と同程度であるものが20問中9問、下回るものが11問であり、設定通過率を上回るものはない。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「科学的な思考」では設定通過率と同程度である問題が下回る問題よりも多いが、他の2観点は下回る問題の方が多い。
- ・領域別で通過率と設定通過率を比較した場合、「生物分野」と「地学分野」では設定通過率と同程度である問題が下回る問題よりも多い。しかし、「化学分野」では設定通過率と同程度である問題は1問のみである。
- ・未記入率が高い問題は6) 12) 16) であり、それぞれ16.0%、9.3%、5.5%である。
- ・過去に実施した本県学習状況調査と類似する問題での通過率の比較では、10問中2問が上回り、4問が同程度、4問が下回っている。

② 小問別通過率度数分布

以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率
100%	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	1	0	0
95~100%	0	0	14	0	0	1	0	0	0	2	1	0	0	0	0	7	11	0	1	0	0
90~95%	0	0	50	3	0	1	0	0	1	3	3	1	0	12	0	14	16	0	3	1	0
85~90%	0	0	41	2	0	2	0	0	2	13	4	5	0	31	0	33	22	5	17	7	0
80~85%	2	0	16	23	1	0	0	1	3	24	6	5	0	38	1	39	24	17	15	8	0
75~80%	0	0	3	19	1	5	0	3	7	40	12	12	0	25	0	23	16	14	26	18	2
70~75%	7	0	0	20	1	5	1	3	7	23	24	14	6	6	1	7	10	23	23	29	5
65~70%	9	0	0	24	1	5	1	9	12	15	22	21	2	9	0	2	6	19	15	34	22
60~65%	4	0	0	15	7	10	5	22	8	5	22	19	8	4	4	3	8	19	16	20	36
55~60%	10	0	0	12	12	12	4	16	8	3	13	15	5	1	2	0	9	11	9	8	40
50~55%	18	4	0	8	26	14	14	20	15	0	15	19	15	0	5	0	5	9	2	3	19
45~50%	24	5	0	2	12	13	18	26	17	0	1	5	12	0	8	0	0	7	0	0	3
40~45%	19	10	0	0	18	14	26	18	8	0	4	9	15	0	10	0	0	3	0	0	0
35~40%	20	25	0	0	10	6	24	5	20	0	1	2	16	0	12	0	0	1	0	0	0
30~35%	11	35	0	0	12	16	21	3	13	0	0	0	13	0	28	0	0	0	0	0	0
25~30%	4	27	0	0	12	10	11	1	4	0	0	1	17	0	19	0	0	0	0	0	0
20~25%	0	16	0	0	8	6	2	1	2	0	0	0	11	0	16	0	0	0	0	0	0
15~20%	0	6	0	0	5	4	1	0	1	0	0	0	7	0	16	0	0	0	0	0	0
10~15%	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0
5~10%	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0
0~5%	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題はない。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、1) 2) 5) 6) 7) 8) 9) 13) 15) 17) 18) の11問である。
- ・各校における通過率の開きが大きかった問題は、5) 6) 9) の3問である。

③ 教科の好き嫌いの傾向

- ・「大好き」と「好き」を合わせると63.5%であり、これは昨年度（1年生のとき）と比べてほぼ同じである。
- ・好きな理由としては、「楽しい」の割合が36.6%と最も大きく、「わかりやすい」の11.2%、「得意」の8.8%がこれに続く。逆に嫌いな理由としては、「わかりにくい」が8.2%、「不得意」が7.0%、「楽しくない」が4.8%である。

(2) 考察

① 全体について

ア 中学校2年生の実現状況は十分とはいえず、改善を要する内容が多い。

- ・設定通過率の平均70.0%に対して平均通過率は59.9%と低く、設定通過率を下回る問題も11問と他の学年に比べて多い状況にある。また、平均通過率累計から、平均通過率が60%を上回る人数の割合は48.1%であり、設定通過率の平均を上回るか同程度である割合は二人に一人という結果である。

イ 類似問題の6割は、は昨年度よりも低い通過率を示している。

- ・類似問題10問中、昨年度の通過率を上回ったのは4問であり、6問は昨年度よりも1.8~23.4ポイント低い結果を示している。2) 6) 13) の「科学的な思考」を問う問題の通過率が特に低く、2) については通過率が55%を超える学校がないという状況である。

② 成果

ア 植物のつくりと分類、地震に関する基礎的な内容についての実現状況は、おおむね満足できる状況にある。

- ・植物のつくりと分類の内容の10) 11) は、ともに設定通過率を若干上回っており、適切な指導がなされていることがうかがえる。また、マグニチュードと震度に関する内容の19) は設定通過率を3.6ポイント上回り、20) も設定通過率とほぼ同じ結果を示していることから、この内容の習得状況はおおむね良好であると判断できる。

③ 課題

ア 観察・実験器具の適切な操作の仕方や結果の記録が十分とはいえない。

- ・5) ガスバーナーの使い方と15) 顕微鏡の操作は、基本的な器具でありながら、その通過率はそれぞれ41.5%、31.8%とかなり低い結果を示している。この2問は学校間における通過率の差も大きいことから、操作する時間が一人一人に十分に保障されていないことがうかがえる。

イ 化学分野の実現状況が十分とはいえない。

- ・6) 蒸留による混合物の分離、8) 物質の状態変化、9) 酸やアルカリの性質では、すべてが設定通過率を大きく下回っている。化学分野は昨年度も4問すべてが設定通過率を大きく下回っており、この分野の授業改善が効果的になされていないことがうかがえる。

ウ TIMSS2003の問題は、日本の平均通過率よりも若干低い通過率となっている。

- ・3) はTIMSS2003の問題であり、本県の通過率は日本の平均通過率92%よりも若干下回っている。

(3) 今後の指導

- ・中学校1年生の学習内容は、小学校6年生の内容と関連する部分も多い。小学校での学習内容や学習方法を十分に把握し、子どもがスムーズに中学校の学習に入ることができるようなきめ細かな指導が求められる。例年、実現状況が十分とはいえない物理分野や化学分野の学習においては、予想や仮説に基づいた観察・実験を通して生徒が問題解決の力を高めていけるよう、学習形態等を工夫しながら個に応じた指導を進めていく必要がある。
- ・観察・実験器具の操作方法の習得については、一人一人に操作する回数や観察する時間を十分に保障するなどして、正しい操作方法を確実に習得させる必要がある。
- ・学校の授業だけで理科の学習が収束してしまわないよう、身近な材料を使ったり生活と関連する課題を設定したりして、興味・関心を高める工夫が求められる。

中 学 校 第 3 学 年
理 科

中学校第3学年 理科 評価規準と評価の観点

領域	内容	評価規準	設問番号	観 点		
				思考	技能表現	知識理解
物理分野	(3)ア(イ)	・簡単な直列回路や並列回路における電流や電圧の規則性、金属線の電気抵抗などを調べる観察や実験を行い、結果を記録することができる。	(4)		○	
	(3)ア(ウ)	・簡単な直列回路や並列回路における電流や電圧の規則性や金属線の電気抵抗などについて基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	(5)			○
	(3)イ(ア)	・磁石や電流による磁界、磁界から電流が受ける力などの観察、実験を行い、結果を記録することができる。	(1)		○	
	(3)イ(ア)	・磁石や電流による磁界、磁界から電流が受ける力などを調べる方法を考えたり、規則性を見いだしたりすることができる。	(2)	○		
	(3)イ(イ)	・磁石や電流による磁界や磁界から電流が受ける力などの関係を理解し、知識を身に付けている。	(3)			○
化学分野	(4)ア(ア)	・分解して生成した物質の性質を調べるための実験器具を適切に選択し、それらの基本操作ができる。	(6)		○	
	(4)ア(ア)	・分解して生成した物質を調べる方法を考えるなどして実験を行い、元の物質の成分を推定することができる。	(7)	○		
	(4)イ(ア)	・化合物の組成は化学式で、化学反応は化学反応式で表せることを理解し、知識を身に付けている。	(8)			○
	(4)イ(イ)	・安全に注意して化合の実験を行ったり、化学変化の質量を注意深く測定したりする方法を習得している。	(9)		○	
	(4)イ(イ)	・化学変化に関する物質の質量を測定する実験の結果を分析的に考察し、化学変化における物質の質量の関係を見いだすことができる。	(10)	○		
生物分野	(3)ア(ウ)	・消化などで適切な条件を設定して実験を行うことができる。	(11)		○	
	(3)ア(ウ)	・消化などについての観察、実験を行い、運搬や排出の仕組みを関連付けて考察することができる。	(12)	○		
	(3)ア(ウ)	・動物の体のつくりと働き、消化・呼吸・血液循環などの仕組みなどについて理解し、知識を身に付けている。	(13)			○
	(3)ア(イ)	・動物が外界の刺激に反応している仕組みを感覚器官、神経系、運動器官のつくりと関連付けて考察することができる。	(14)	○		
	(3)ア(イ)	・動物の運動器官や感覚器官、神経系などのつくりと働きなどについて理解し、知識を身に付けている。	(15)			○
地理分野	(4)ア(ア)	・気温、湿度などの観測器具の取り扱い方や観測の方法などを習得している。	(19)		○	
	(4)イ(ア)	・水蒸気の凝結現象や断熱膨張、雲や霧の発生の要因などを理解し、知識を身に付けている。	(20)			○
	(4)ア(ア)	・気温、気圧、風向、風力などの気象要素について理解し、知識を身に付けている。	(16)			○
	(4)ア(ア)	・気温、湿度、気圧、風向、天候などの観測結果をもとに、天気の状態、気温と湿度の日較差と天候との関係、気温と湿度の変化との関係、気圧の変化と雲の様子との関係などの規則性を見いだすことができる。	(17)	○		
	(4)イ(イ)	・気温、湿度、気圧、風向、風力、天候などの変化から、前線が通過するときの天気の変化の規則性を見いだすことができる。	(18)	○		

通し 番号	出題内容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0	100
(1)	コイルのまわりの磁界	17.4%	60.0%		
(2)	磁界中で電流が受ける力	41.9%	60.0%		
(3)	電流のはたらきの利用	45.6%	70.0%		
(4)	電流計の使い方	64.0%	70.0%		
(5)	直列回路の電流と電圧	34.9%	60.0%		
(6)	加熱分解の実験技能	55.9%	60.0%		
(7)	分解でできた物質の区別	90.2%	80.0%		
(8)	化学変化のモデル	37.8%	60.0%		
(9)	銅粉を熱するときの実験技能	59.3%	70.0%		
(10)	銅と酸素の化合する割合	30.8%	60.0%		
(11)	だ液のはたらきを調べる実験	71.7%	70.0%		
(12)	ベネジクト液による糖の検出	73.8%	70.0%		
(13)	血液循環のしくみとはたらき	45.3%	60.0%		
(14)	動物が刺激に反応するしくみ	64.5%	70.0%		
(15)	動物の反射	91.6%	80.0%		
(16)	風向, 風力, 天気の見取り	48.9%	70.0%		
(17)	湿度と気圧のグラフ	44.2%	60.0%		
(18)	寒冷前線が通過した日時	52.7%	60.0%		
(19)	乾湿計による湿度測定	67.3%	70.0%		
(20)	雲ができる条件	46.7%	60.0%		

※  は設定通過率±10%を示している。

中学校3年 理科

小問別反応率

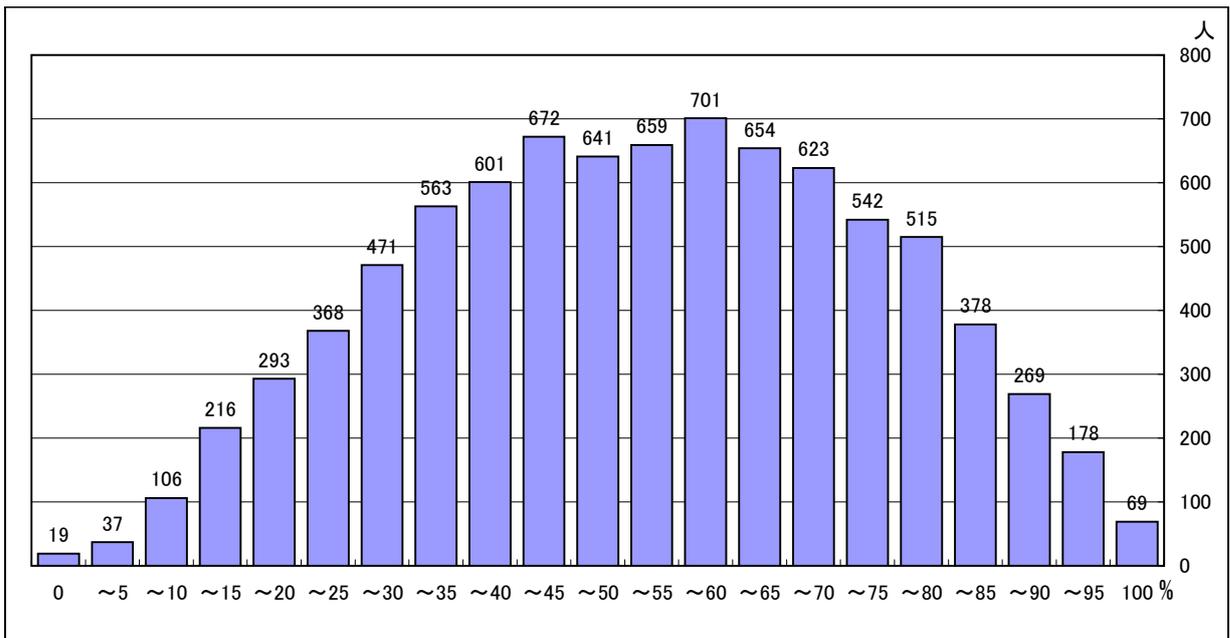
通し番号	1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
(1)	17.4%	82.4%	0.2%	0.0%
(2)	41.9%	57.8%	0.3%	0.0%
(3)	45.6%	54.1%	0.3%	0.0%
(4)	64.0%	35.8%	0.2%	0.0%
(5)	34.9%	56.2%	8.9%	0.0%
(6)	55.9%	38.1%	6.0%	0.0%
(7)	90.2%	9.4%	0.4%	0.0%
(8)	37.8%	61.5%	0.7%	0.0%
(9)	59.3%	31.3%	9.4%	0.0%
(10)	30.8%	62.2%	6.9%	0.0%
(11)	71.7%	18.4%	9.9%	0.0%
(12)	73.8%	25.2%	1.0%	0.0%
(13)	45.3%	53.7%	1.0%	0.0%
(14)	64.5%	34.9%	0.5%	0.0%
(15)	91.6%	8.0%	0.4%	0.0%
(16)	48.9%	50.1%	1.0%	0.0%
(17)	44.2%	53.5%	2.3%	0.0%
(18)	52.7%	41.7%	5.6%	0.0%
(19)	67.3%	26.6%	6.1%	0.0%
(20)	46.7%	51.5%	1.8%	0.0%

4 平均通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	69	69
~95	0	0	178	247
~90	0	0	269	516
~85	0	0	378	894
~80	0	0	515	1409
~75	1	1	542	1951
~70	2	3	623	2574
~65	6	9	654	3228
~60	19	28	701	3929
~55	37	65	659	4588
~50	32	97	641	5229
~45	28	125	672	5901
~40	6	131	601	6502
~35	2	133	563	7065
~30	0	133	471	7536
~25	0	133	368	7904
~20	0	133	293	8197
~15	0	133	216	8413
~10	0	133	106	8519
~5	0	133	37	8556
0	0	133	19	8575

※4 (未履修) を除いた解答類型1～3の合計を分母として通過率を算出

5 平均通過率度数分布グラフ



6 中学校3年 理科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

① 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			分 野 別			
		科学的な思考	技能・表現	知識・理解	物理分野	化学分野	生物分野	地学分野
問 題 数	20	7	6	7	5	5	5	5
+10%以上	2	1	0	1	0	1	1	0
±10%内	7	3	4	0	1	1	3	2
-10%以下	11	3	2	6	4	3	1	3

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度であるものの合計が、20問中9問である。
- ・観点別で通過率と設定通過率を比較した場合、「科学的な思考」と「技能・表現」では、設定通過率を上回るもの、または同程度である問題が、下回る問題よりも多いが、「知識・理解」では下回る問題の方が多い。
- ・分野別で通過率と設定通過率を比較した場合、「生物分野」では設定通過率を上回るもの、または同程度である問題が、下回る問題よりも多いが、他の3分野では下回る問題の方が多い。
- ・未記入率が高い問題は、5) 9) 11) であり、それぞれ8.9%、が9.4%、が9.9%である。
- ・過去に実施した本県学習状況調査と類似する問題での通過率の比較では、10問中6問が上回り、4問が下回っている。

② 小問別通過率度数分布

中学校3年理科 小問別通過率度数分布表(校)	※1学年20人以上データを提出した学校																				
以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率
100%	0	0	0	0	0	0	4	0	2	0	0	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0
95~100%	0	0	0	1	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	36	0	0	0	0	0	0
90~95%	0	0	0	0	0	2	52	0	10	0	10	7	0	3	50	1	0	0	0	0	0
85~90%	0	0	0	0	0	1	26	0	8	0	6	5	0	1	26	4	1	1	9	0	0
80~85%	0	0	0	9	0	6	18	0	7	1	22	21	0	4	7	0	1	4	13	1	0
75~80%	0	0	0	17	0	9	3	1	9	1	21	22	0	6	1	5	0	3	14	2	0
70~75%	0	0	0	13	0	9	1	0	12	3	15	24	0	19	1	11	1	10	20	3	2
65~70%	0	2	2	16	1	12	0	2	9	2	16	27	3	27	1	7	2	11	22	8	7
60~65%	0	4	7	22	2	20	0	3	11	8	15	9	5	23	0	17	5	17	15	2	16
55~60%	0	7	12	21	4	15	1	1	10	3	8	3	11	16	0	7	8	14	11	12	33
50~55%	0	13	27	14	7	8	0	11	11	3	6	6	27	13	0	8	17	20	11	27	31
45~50%	0	15	22	8	9	9	0	9	6	6	4	1	16	8	0	7	16	15	4	15	27
40~45%	2	27	18	2	21	10	0	20	7	8	1	0	25	3	0	17	31	10	3	18	6
35~40%	7	29	20	2	12	7	0	18	8	10	0	0	17	2	0	11	24	10	0	15	2
30~35%	7	13	10	0	24	6	0	24	5	10	1	0	10	0	0	8	9	6	1	13	0
25~30%	13	7	5	0	23	7	0	15	3	16	0	0	6	0	0	11	9	3	1	7	0
20~25%	14	4	2	0	11	2	0	16	2	10	0	0	2	0	0	8	1	1	0	2	0
15~20%	21	3	0	0	5	0	0	5	4	14	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0
10~15%	25	0	0	0	6	2	0	0	0	13	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
5~10%	30	1	0	0	0	0	0	0	1	9	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
0~5%	6	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、7) 15) の2問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、1) 2) 3) 4) 8) 9) 10) 13) 16) 17) 20) の11問である。
- ・各校における通過率の開きが大きい問題は、9) 10) 16) の3問である。
- ・1) は通過率が45%を上回った学校がない問題である。

③ 教科の好き嫌い

- ・「大好き」と「好き」を合わせると59.6%であり、これは昨年度（2年生のとき）と比べてほぼ同じである。
- ・好きな理由としては、「楽しい」の割合が31.9%と最も大きく、「わかりやすい」の12.3%、「得意」の10.2%がこれに続く。逆に嫌いな理由としては、「わかりにくい」が9.1%、「不得意」が約8.4%、「楽しくない」が4.7%である。

(2) 考察

① 全体について

ア 中学校3年生の学習状況は、「生物分野」と「地学分野」においておおむね満足できる状況にあるといえる。

・「生物分野」と「地学分野」を合わせた問題10問中で、設定通過率を上回るか同程度である問題が6問である。

イ 中学校3年生の学習状況は、「物理分野」において改善を要する部分があるといえる。

・「物理分野」の問題5問中、設定通過率を約20%以上下回る問題が4問である。

② 成果

ア 実験結果を基に推論する力や現象を関連付ける力、規則性を見いだす力などの思考力が身に付いてきている。

・7) はもとの物質を推定する問題、12) は体の働きと関連付ける問題、18) は天気の変化の規則性を見いだす問題であり、過去の類似問題による通過率を15%程度上回っている。

イ 実験を行う際の適切な条件設定の仕方や観察・実験器具等の基本操作が身に付いている。

・4) は電流計の接続の問題、6) は安全に配慮した加熱実験の問題、11) は条件設定による実験の問題、19) は湿度測定の問題であり、いずれも通過率が設定通過率と同程度である。

ウ 動物の体の仕組みを体のつくりと関連付けて考察する力が身に付き、また、動物の体のつくりと働きについて日常生活と関連付けた理解が図られている。

・14) は動物の行動を体のつくりと関連付けて考察する問題、15) は動物の体の仕組みの日常生活と関連付けた理解に関する問題であり、いずれも通過率が設定通過率を上回るか同程度となっている。

③ 課題

ア 電流の向きと磁界の向きの関係を方位磁針で調べる力が十分ではない。

・1) は電流と磁界の関係を調べる実験の問題であるが、通過率が20%を下回る。

イ 実験や観測の結果を分析し、化学変化にかかわる物質の質量の関係や気温と湿度の変化の規則性を見いだす力が十分ではない。

・10) は化学変化にかかわる物質の質量の関係を見いだす問題であるが、通過率が30%程度である。17) は気温と湿度などの変化の規則性を見いだす問題であるが、通過率が50%を下回っている。

ウ 電流と電圧、磁界から電流が受ける力、化学変化とモデル、気象要素について関係性や規則性などの理解が十分ではない。

・3) は磁界から電流が受ける力に関する問題、5) は電流と電圧の規則性に関する問題、10) は化学変化をモデルで説明する問題、気象要素の知識に関する問題であり、いずれも通過率が設定通過率を20%以上下回っている。

(3) 今後の指導

- ・観察や実験について予想をもつ場を大切にし、生徒自身が何のために観察や実験を行うのかなど、観察や実験の目的意識を一層高めていく必要がある。
- ・自然事象について定量的な関係性や規則性を見いだすために、実験結果や観測結果をグラフ化したり平均化したりするなど考察の方法を身に付けさせる必要がある。
- ・電流や原子・分子などの目に見えない事象については、モデルを用いて説明したり、生活と関連させた現象を扱うなどして、知識・理解を一層深める工夫が必要である。
- ・日常生活で見られる事象を活用したり、理科の学習と身の回りの自然事象を関連付けるなどして、理科は身近なものという意識を生徒にもたせる工夫が必要である。

中 学 校 第 2 学 年
英 語

1 中学校2年 英語 評価規準と評価の観点

領域	内容	評価規準	通し番号	観 点		
				表 現	理 解	知識 ・ 理解
聞くこと	ア(イ)	[正確な聞き取り] ・聞いた内容について正しく内容を聞き取ることができる。	(1)		○	
	ア(イ)	[適切な聞き取り] ・聞いた内容について大切な部分を聞き取ることができる。	(2 (3 4 (5		○	
	ア(ウ)	[適切な聞き取り] ・質問や依頼などに対して、適切に応じることができる。	(6 (7		○	
読むこと	ウ(ウ)	[正確な読み取り] ・書かれた内容について正しく読み取ることができる。	(8		○	
	ウ(ウ)	[適切な読み取り] ・書かれた情報について大切な部分を読み取ることができる。	(9 (11		○	
	ウ(エ)	[適切な読み取り] ・伝言や手紙などに対して、適切に応じることができる。	(10		○	
	ウ(ウ)	[言語についての知識] ・場面や状況にふさわしい表現を知っている。	(12 (13			○
書くこと	エ(ウ)	[正確な筆記] ・書こうとすることを読み手に正確に伝えることができる。	(14 (15 16	○		
	エ(ウ)	[適切な筆記] ・内容を整理し、必要な分量を書くことができる。	(17	○		
	エ(ウ)	[言語についての知識・理解] ・文構造についての知識がある。	(18 (19 20			○

通し 番号	出題内容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	0	100
(1)	(聞) 月日に関する聞き取り	97.0%	90.0%		
(2)	(聞) 自己紹介の聞き取り	99.6%	90.0%		
(3)	(聞) 自己紹介の聞き取り	93.3%	90.0%		
(4)	(聞) 写真を見てのやりとり	95.4%	80.0%		
(5)	(聞) プレゼントをするときの対話	96.4%	80.0%		
(6)	(聞) 困っている人への対応	61.0%	60.0%		
(7)	(聞) 相手の指示に対する反応	66.7%	60.0%		
(8)	(読) 対話文の読み取り	90.3%	80.0%		
(9)	(読) 人物関係の描写	84.7%	80.0%		
(10)	(読) 手紙文の読み取り	81.4%	70.0%		
(11)	(読) 情報の取捨選択・整理	82.4%	60.0%		
(12)	(読) 場面に対する適切な応答	62.2%	60.0%		
(13)	(読) 場面に対する適切な応答	70.6%	70.0%		
(14)	(書) 人物の行動の描写	20.5%	60.0%		
(15)	(書) 交通手段を尋ねる表現	11.8%	60.0%		
(16)	(書) 指定された内容を英語で書く	50.9%	60.0%		
(17)	(書) 自己表現	74.2%	70.0%		
(18)	(書) 相手を誘う表現	83.9%	80.0%		
(19)	(書) 電話による対応の場面	45.3%	60.0%		
(20)	(書) 居住を尋ねる表現	55.2%	60.0%		

※  は設定通過率±10%を示している。

中学校 2 年 英語

3 小問別反応率

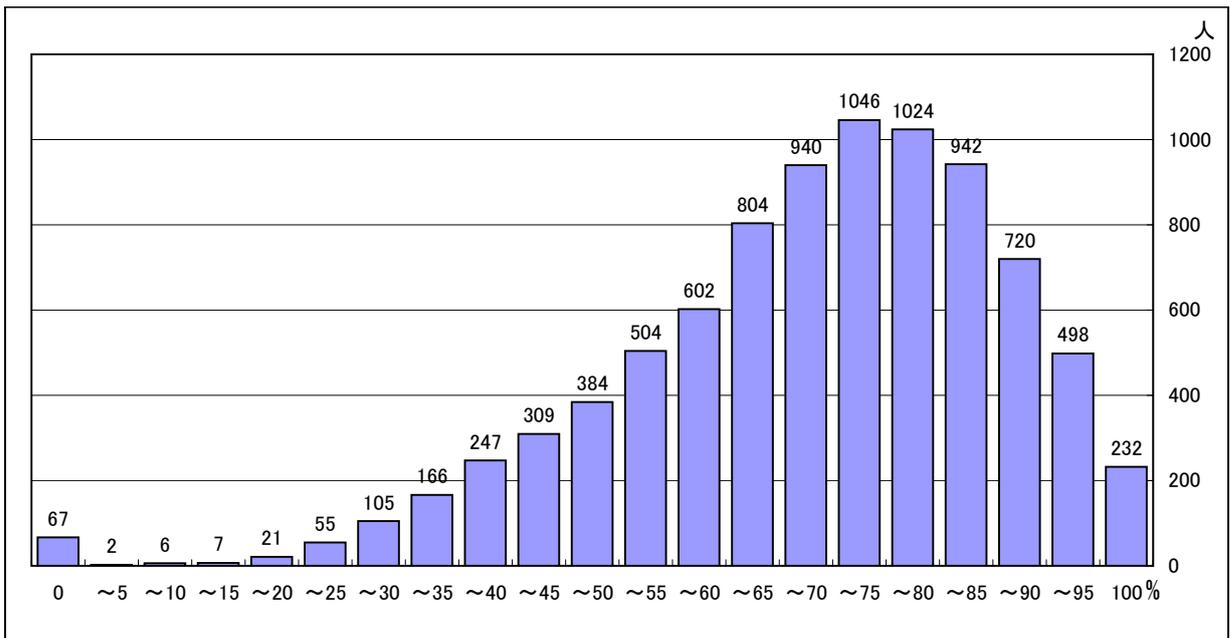
通し番号	1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
(1)	97.0%	2.8%	0.2%	0.0%
(2)	99.6%	0.3%	0.1%	0.0%
(3)	93.3%	6.7%	0.0%	0.0%
(4)	95.4%	4.6%	0.0%	0.0%
(5)	96.4%	3.5%	0.1%	0.0%
(6)	61.0%	38.9%	0.2%	0.0%
(7)	66.7%	32.9%	0.4%	0.0%
(8)	90.3%	9.5%	0.2%	0.0%
(9)	84.7%	15.1%	0.1%	0.0%
(10)	81.4%	18.2%	0.4%	0.0%
(11)	82.4%	17.3%	0.3%	0.0%
(12)	62.2%	37.2%	0.6%	0.0%
(13)	70.6%	28.6%	0.8%	0.0%
(14)	20.5%	73.7%	5.8%	0.0%
(15)	11.8%	69.2%	19.0%	0.0%
(16)	50.9%	39.5%	9.6%	0.0%
(17)	74.2%	19.1%	6.7%	0.0%
(18)	83.9%	14.2%	1.9%	0.0%
(19)	45.3%	52.7%	2.0%	0.0%
(20)	55.2%	42.4%	2.4%	0.0%

4 平均通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	232	232
~95	0	0	498	730
~90	0	0	720	1450
~85	4	4	942	2392
~80	5	9	1024	3416
~75	23	32	1046	4462
~70	41	73	940	5402
~65	45	118	804	6206
~60	13	131	602	6808
~55	2	133	504	7312
~50	0	133	384	7696
~45	0	133	309	8005
~40	0	133	247	8252
~35	1	134	166	8418
~30	0	134	105	8523
~25	0	134	55	8578
~20	0	134	21	8599
~15	0	134	7	8606
~10	0	134	6	8612
~5	0	134	2	8614
0	0	134	67	8681

※4 (未履修) を除いた解答類型 1～3 の合計を分母として通過率を算出

5 平均通過率度数分布グラフ



6 中学校2年 英語科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

① 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			領域別（分野別） ※教科で適切に		
		表現の能力	理解の能力	知識・理解	聞くこと	読むこと	書くこと
問題数	20	4	11	5	7	6	7
+10%以上	5	0	5	0	2	3	0
±10%内	12	2	6	4	5	3	4
-10%以下	3	2	0	1	0	0	3

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度であるものの合計が、20問中17問である。
- ・観点別に通過率と設定通過率を比較した場合、「理解の能力」では11問中すべてが上回っているか同程度である。「表現の能力」では4問中2問がかなり下回っている。「言語や文化についての知識・理解」では5問中4問が同程度で、1問だけが下回っている。
- ・領域別に同様の比較をした場合、「聞くこと」では7問中すべて、「読むこと」では6問中すべてが上回っているか同程度である。一方、「書くこと」では7問中3問が下回っている。
- ・設定通過率と比較して正答率が特に高かった問題は、4) 5) 11)であり、それぞれ+15.4%、+16.4%、+22.4%である。
- ・過去の類似問題との通過率の比較では、10問中9問が上回っているか同程度である。

② 小問別通過率度数分布

以上 未滿	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率	
100%	31	11	32	17	23	0	0	4	3	1	2	1	1	0	0	0	3	5	0	0	0	
95~100%	72	16	48	57	75	1	1	17	10	6	4	0	0	0	0	1	1	10	1	3	0	
90~95%	22	0	16	49	24	3	3	58	21	10	9	0	2	0	0	1	18	32	0	5	0	
85~90%	2	0	9	5	5	2	3	34	37	27	31	2	3	1	0	1	16	28	2	0	3	
80~85%	0	0	10	0	1	4	11	10	29	31	38	2	10	1	0	2	20	17	0	5	5	
75~80%	0	0	6	0	0	7	15	3	14	34	27	2	21	0	1	3	20	15	2	8	25	
70~75%	0	0	1	0	0	15	23	1	9	12	12	14	37	0	0	10	8	3	1	6	38	
65~70%	1	0	1	0	0	13	21	0	5	5	4	27	26	0	0	9	12	4	6	9	46	
60~65%	0	0	2	0	0	23	19	0	0	1	1	39	15	1	0	13	11	6	6	17	10	
55~60%	0	0	2	0	0	22	12	0	0	0	0	21	9	5	0	16	4	2	14	12	1	
50~55%	0	1	0	0	0	22	10	0	0	0	0	14	4	1	0	11	8	3	15	11	0	
45~50%	0	0	1	0	0	9	9	1	0	0	0	5	0	1	1	17	3	0	17	17	0	
40~45%	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	1	2	11	2	1	19	12	0	
35~40%	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	3	2	8	0	2	14	12	0	
30~35%	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	8	5	7	0	0	13	4	0	
25~30%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	9	6	10	1	0	10	2	0	
20~25%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	10	3	1	0	3	3	0	
15~20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	10	5	0	0	3	1	0	
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31	28	0	0	0	1	1	0	
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	28	0	0	0	0	0	0	
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	35	0	0	0	1	0	0	
	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128	128

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、4) 5) 8) 10) 11)の5問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、14) 15) 19)の3問である。
- ・各校における通過率の開きが大きかった問題は、16) 19) 20)の3問である。
- ・14) 15)の2問は、それぞれ通過率が20.5%、11.8%と著しく低い。

③ 教科の好き嫌い（学習への意欲等に関する質問紙調査項目）の傾向

- ・「大好き」「好き」の割合は49%である。昨年度、1年生のときには64.8%であった割合が大幅に減少している。この傾向は数年変わっていない。
- ・好き嫌いの理由を1年生のときと比較した場合、「楽しい」の割合が半減している。また、逆に「わかりにくい」と「不得意」が約5割増となっている。

(2) 考察

① 全体について

ア 2年生の全般的な学習の実現状況では「聞くこと」「読むこと」についてはおおむね良好といえる。

- ・前ページの調査結果に示したとおり、問題のすべてが設定通過率を上回っているか同程度である。

イ 「書くこと」については依然として良好であるとはいえない。

- ・「疑問詞で始まる疑問文」及び「三人称単数現在形の文」に関する問題が、ここ数年設定通過率を大幅に下回っている。

② 成果

ア 各校における「大切な部分を聞き取らせる」指導状況が大変良好であることがうかがわれる。

- ・7問中すべてが設定通過率を上回り、そのうち10ポイント以上上回った問題は、前述したとおり4) 5) の2問であった。また、度数分布表からも85～100%の範囲にある学校がほとんどである。

③ 課題

ア 過去2年間の考察でも「授業中のインタラクションにおいて生徒が教師や他の生徒に英語で質問するという場面設定が少ないことが考えられる。」と指摘され、改善を求める取り組みをしてきた。しかしながら、依然として改善されていないと思われる。

- ・14)は「三人称単数現在形の文」についての問題である。「話す」段階ではクリアしている生徒でも、「書く」段階になると綴りの誤りが多くなる。しかも今回の場合、「studies」であったため、さらに綴りの誤りが多かったと言える。
- ・15)は「疑問詞で始まる疑問文」についての問題である。しかも、過去形だったということもあり、予想以上に結果が悪かった。各学校の分析によると、現在形(How do you)で解答した生徒がかなり多かったということである。

イ 「文のつながり」についての指導も継続する必要がある。

- ・昨年度は「文のつながりをもたせて書く」というポイントを重視したが、今年度は「文のつながり」を問わず、「英文を書く」ことに主眼をおいた。いわゆる「採点基準」を緩和したわけである。その結果通過率は上がったが、英語科の本来の目標からすれば、「文のつながり」ということは大事なことであり、各学校においては、文章構成について、今後とも計画的に指導する必要があることを確認したい。

(3) 今後の指導

- ・教科の好き嫌いに関して、毎年1年生から2年生になる段階でポイントが落ちることが指摘される。しかしながら、本調査が毎年7月に行われてるということを考えると、1年生は30時間程度しか授業を受けていないことになる。その段階での「大好き・好き」の割合が64.8%ということは問題ではないだろうか。つまり、1年の1学期の段階での指導が話す活動に偏っている傾向があり、そのために定着させなければならない語彙や文構造等を曖昧にしていると考えられる。この点を克服することで、1年生から2年生にかけての数値の落ち込みを食い止めることができるものと思われる。
- ・「能力判定テスト」との相関関係を分析し、生徒一人一人の補強すべき点を明確にし、それらを基に授業を構築することが望まれる。
- ・1年の最初の段階から4領域をバランスよく指導することが強く求められる。そのためには各題材の指導計画を見直すとともに、1単位時間のねらいを明確にし、それを確実に達成させる授業を生徒に提供できる教師側の意識改革が必要と考える。

中 学 校 第 3 学 年
英 語

1 中学校3年 英語 評価規準と評価の観点

領域	内容	評価規準		通し番号	観点		
					表現	理解	知識・理解
聞くこと	ア(イ)	[正確な聞き取り]	・聞いた内容について正しく内容を聞き取ることができる。	(1		○	
	ア(イ)	[適切な聞き取り]	・聞いた内容について大切な部分を聞き取ることができる。	(2 (3 (4 (5		○	
	ア(ウ)	[適切な聞き取り]	・質問や依頼などに対して、適切に応じることができる。	(6 (7		○	
読むこと	ウ(ウ)	[正確な読み取り]	・書かれた内容について正しく読み取ることができる。	(8		○	
	ウ(ウ)	[適切な読み取り]	・書かれた情報について大切な部分を読み取ることができる。	(9 (11		○	
	ウ(エ)	[適切な読み取り]	・伝言や手紙などに対して、適切に応じることができる。	(10		○	
	ウ(ウ)	[言語についての知識]	・場面や状況にふさわしい表現を知っている。	(12 (13			○
書くこと	エ(ウ)	[正確な筆記]	・書こうとすることを読み手に正確に伝えることができる。	(14 (15 (16	○		
	エ(ウ)	[適切な筆記]	・文のつながりや構成を考えた文章を書くことができる。	(17	○		
	エ(ウ)	[言語についての知識]	・文構造についての知識がある。	(18 (19 (20			○

通し 番号	出題内容	通過率 (%)	設 定 通過率 (%)	
(1)	(聞) 室内にある物の描写	89.6%	90.0%	
(2)	(聞) 自己紹介文の聞き取り	90.3%	80.0%	
(3)	(聞) 自己紹介文の聞き取り	92.4%	80.0%	
(4)	(聞) 出迎える場面の対話	61.6%	80.0%	
(5)	(聞) 公衆電話の前での対話	91.0%	80.0%	
(6)	(聞) 発話への適切な対応	89.1%	70.0%	
(7)	(聞) 提案を断られた場面	79.6%	80.0%	
(8)	(読) 人物の行動の描写	81.9%	80.0%	
(9)	(読) 手紙文の大意把握	81.7%	70.0%	
(10)	(読) 招待状の大意把握	79.4%	70.0%	
(11)	(読) 課題解決的な英文の読み取り	37.5%	60.0%	
(12)	(読) 自然な対話の組み立て	77.4%	60.0%	
(13)	(読) 自然な対話の組み立て	89.4%	70.0%	
(14)	(書) 助動詞 have to ~	36.3%	60.0%	
(15)	(書) 最上級の疑問文	41.3%	60.0%	
(16)	(書) これからすること	37.4%	60.0%	
(17)	(書) 先週日曜日にしたこと	53.4%	60.0%	
(18)	(書) 道の尋ね方(並べ換え)	78.4%	70.0%	
(19)	(書) SVOOの文(並べ換え)	78.0%	70.0%	
(20)	(書) 理由を尋ねる(並べ換え)	82.3%	70.0%	

※ は設定通過率±10%を示している。

中学校 3 年 英語

3 小問別反応率

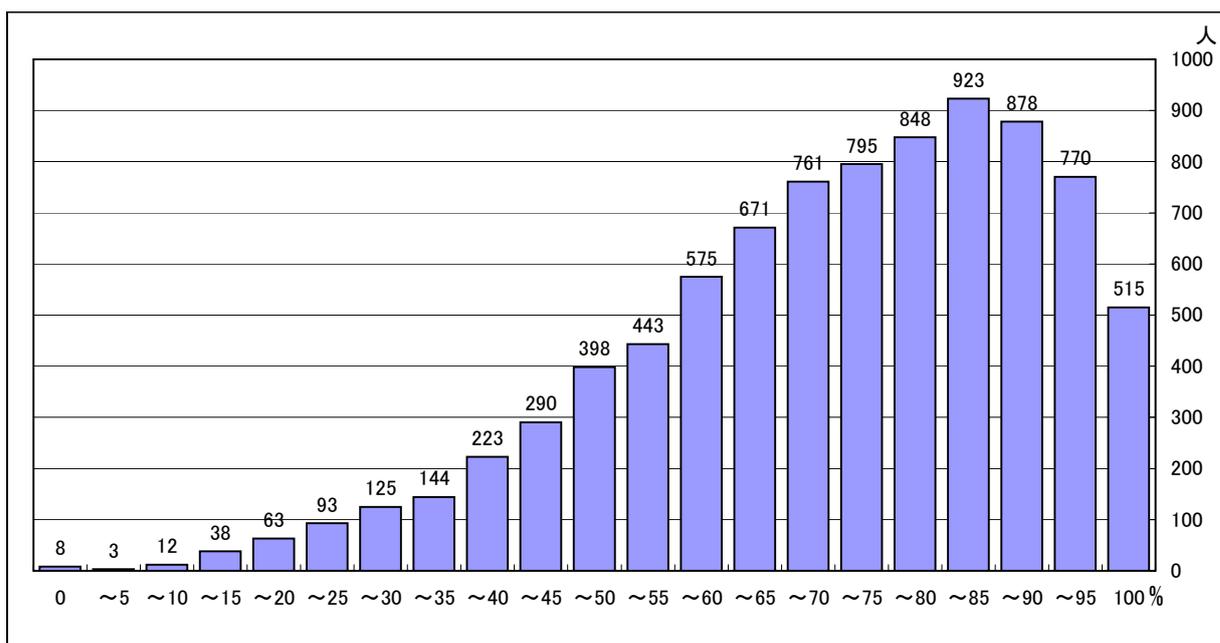
通し番号	1 (通過率)	2 (誤答)	3 (未記入)	4 (未履修)
(1)	89.6%	10.3%	0.1%	0.0%
(2)	90.3%	9.6%	0.1%	0.0%
(3)	92.4%	7.5%	0.1%	0.0%
(4)	61.6%	38.3%	0.1%	0.0%
(5)	91.0%	8.9%	0.1%	0.0%
(6)	89.1%	10.8%	0.1%	0.0%
(7)	79.6%	20.3%	0.2%	0.0%
(8)	81.9%	18.0%	0.1%	0.0%
(9)	81.7%	18.2%	0.1%	0.0%
(10)	79.4%	20.5%	0.1%	0.0%
(11)	37.5%	62.2%	0.3%	0.0%
(12)	77.4%	22.2%	0.4%	0.0%
(13)	89.4%	10.2%	0.4%	0.0%
(14)	36.3%	44.7%	19.0%	0.0%
(15)	41.3%	45.4%	13.2%	0.0%
(16)	37.4%	49.6%	13.1%	0.0%
(17)	53.4%	32.9%	13.7%	0.0%
(18)	78.4%	19.3%	2.4%	0.0%
(19)	78.0%	19.9%	2.1%	0.0%
(20)	82.3%	15.9%	1.9%	0.0%

4 平均通過率累計

%	学校数	累計	人数	累計
100	0	0	515	515
~95	0	0	770	1285
~90	1	1	878	2163
~85	2	3	923	3086
~80	5	8	848	3934
~75	34	42	795	4729
~70	49	91	761	5490
~65	32	123	671	6161
~60	7	130	575	6736
~55	2	132	443	7179
~50	1	133	398	7577
~45	0	133	290	7867
~40	0	133	223	8090
~35	0	133	144	8234
~30	0	133	125	8359
~25	0	133	93	8452
~20	0	133	63	8515
~15	0	133	38	8553
~10	0	133	12	8565
~5	0	133	3	8568
0	0	133	8	8576

※4 (未履修) を除いた解答類型 1～3 の合計を分母として通過率を算出

5 平均通過率度数分布グラフ



6 中学校3年 英語科 調査結果及び考察

(1) 調査結果

① 設定通過率との比較

比較表	全体	観 点 別			領域別（分野別）※教科で適切に		
		表現の能力	理解の能力	知識・理解	聞くこと	読むこと	書くこと
問題数	20	4	11	5	7	6	7
+10%以上	8	0	5	3	4	3	1
±10%内	7	1	4	2	2	2	3
-10%以下	5	3	2	0	1	1	3

- ・設定通過率を上回るもの、または同程度であるものの合計が、20問中15問である。
- ・観点別に通過率と設定通過率を比較した場合、「理解の能力」では11問9問が上回っているか同程度である。「表現の能力」では4問中3問が下回っている。「言語や文化についての知識・理解」では5問中すべてが上回っているか同程度である。
- ・領域別に同様の比較をした場合、「聞くこと」では7問中6問、「読むこと」では6問中5問が上回っているか同程度である。「書くこと」では7問中3問が下回っている。
- ・設定通過率と比べて正答率が特に高かった問題は、6) 12) 13)であり、それぞれ+19.1% +17.4% +19.4% である。
- ・過去の類似問題との通過率比較では、10問中すべてが上回っているか同程度である。

②小問別通過率度数分布

以上 未満	1)	2)	3)	4)	5)	6)	7)	8)	9)	10)	11)	12)	13)	14)	15)	16)	17)	18)	19)	20)	平均通過率
100%	5	4	8	0	9	4	0	0	1	0	0	1	4	0	0	0	0	4	0	1	0
95~100%	22	16	31	2	31	14	4	3	1	1	0	2	16	0	0	0	1	3	3	6	0
90~95%	43	59	60	0	39	45	18	9	7	14	0	5	44	0	0	0	0	19	13	19	1
85~90%	30	26	21	2	27	40	17	27	27	21	0	11	42	0	0	0	3	18	21	27	2
80~85%	19	17	3	5	16	16	35	40	44	25	0	32	14	0	1	0	6	21	27	26	6
75~80%	2	3	2	5	2	5	16	32	30	34	0	29	4	1	1	0	3	17	21	22	28
70~75%	2	0	0	15	1	1	20	11	11	20	0	27	0	0	0	1	10	13	13	13	50
65~70%	1	0	0	20	0	0	9	2	3	7	0	12	0	2	4	5	10	12	10	6	31
60~65%	0	0	0	24	0	0	3	0	0	2	1	4	0	3	8	0	13	7	6	4	5
55~60%	1	0	0	21	0	0	2	1	1	0	2	0	1	4	7	4	13	3	3	0	1
50~55%	0	0	0	17	0	0	1	0	0	1	8	2	0	4	10	11	9	3	2	1	1
45~50%	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	16	0	0	14	13	10	13	3	2	0	0
40~45%	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	25	0	0	20	20	17	14	1	3	0	0
35~40%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19	0	0	17	16	23	14	0	1	0	0
30~35%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26	0	0	25	14	20	5	0	0	0	0
25~30%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	0	0	10	18	11	6	1	0	0	0
20~25%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	15	8	17	5	0	0	0	0
15~20%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	4	4	5	0	0	0	0	0
10~15%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	1	1	0	0	0	0	0
5~10%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0~5%	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125	125

- ・設定通過率を10ポイント以上上回った問題は、2) 3) 5) 6) 9) 12) 13) 20)の8問である。
- ・設定通過率を10ポイント以上下回った問題は、4) 11) 14) 15) 16)の5問である。
- ・各校における通過率の開きが大きかった問題は、14) 15) 17) 18) の4問である。
- ・11) 14) 15) 16) の4問は、それぞれ通過率が 37.5%、36.3%、41.3%、37.4%と著しく低い。

③教科の好き嫌い（学習への意欲等に関する質問紙調査項目）の傾向

- ・「大好き」「好き」の割合は42.9%である。2年生のとき（昨年度）の45.4%からやや減っているものの、大きくは変化していない。
- ・好き嫌いの理由を2年生のときと比較した場合、全体的に大きな変化はないが、「嫌いな理由」の中で「不得意」の割合が17.3%から20.6%とやや増えている。

(2) 考察

① 全体について

ア 3年生の全般的な学習の実現状況では「聞くこと」「読むこと」についてはおおむね良好といえる。

- ・前ページの調査結果に示したとおり、それぞれ7問中6問、6問中5問と、ほとんどの問題が設定通過率を上回っているか同程度である。

イ 「書くこと」については良好であるとはいえない。

- ・7問中3問が設定通過率を下回っている。

② 成果

ア 各校における「聞くこと」「読むこと」の指導状況が大変良好であることがうかがわれる。

- ・設定通過率を上回った問題は13問中9問であり、そのうち10ポイント以上上回った問題は、前述したとおり2) 3) 5) 6) 9) 12) 13) の7問であった。

イ まとまった英文を書く問題において、改善傾向が見られる。

- ・17) は先週の日曜日にしたことを3文以上で書く問題だが、通過率が53.4%とここ数年の通過率と比較して上昇している。実際、各学校では「まとまった英文」を書く指導を意識して行っており、その成果が現れたものとする。

③ 課題

ア 基本的な文構造の定着のうち、特に「書くこと」の定着が不十分である。

- ・14) 15) は、助動詞、最上級を用いて文脈にふさわしい英文を書く問題であるが、それぞれ36.3%、41.3%と設定通過率を下回っている。基本的な文構造の定着のうち、特に「書くこと」の分野が不十分であるという課題が依然改善されていない。基本的な文構造に関しては、話せること、そして正確かつ適切に書けることを目指して、各校で意識的に取り組んでいきたい。

イ 「まとまった英文」を書く指導を今後も継続する必要がある。

- ・17) は昨年度の類似問題と比較すると、通過率が48.5%から53.4%に上昇しており、これは各学校での指導の成果の表れであるとする。しかし、「まとまった英文を書く力を高める指導」は、昨年度の報告書の中で「英語科の課題と指導改善のポイント」として取り上げた内容でもあり、今後も意識して指導を継続することが重要である。

(3) 今後の指導

- ・「書くこと」の指導については、「話せる程度の内容は正確かつ適切に書けるようにする」ことを基本に、「話すこと」と「書くこと」のバランスのとれた指導を行う。授業の中で、「話す活動」だけに終わらず、「書く活動」も取り入れる必要がある。「書くこと」に限らず、基本的な文構造の確実な定着は本県英語科の改善すべき重要な課題でもあるので、この課題を強く意識して日々の指導に当たりたい。

- ・16) の通過率37.4%の低さは、場面に合った適切な英文を思い浮かべることができないことが原因の一つと思われる。場面設定や実際のコミュニケーションを意識し、表現する内容を自分で考え、話したり書いたりする活動を取り入れる必要がある。

- ・これまでの成果を生かし、「まとまった英文」を書く活動を今後もより発展的に継続したい。(昨年度の報告書中の「英語科の課題と指導改善のポイント」が参考になる。)

- ・学習状況調査や英語能力判定テストの結果を分析し、改善のための具体的方策を立て、今後の指導に生かすことが大切である。

平成17年度

学 習 状 況 調 査 報 告 書

発 行 日：平成18年 1月

編集・発行：秋田県教育委員会

住 所：秋田市山王三丁目一番一号

TEL：018-860-5147

FAX：018-860-5862